

基本計画書

基本計画										
事項		記入欄						備考		
計画の区分		学部の学科の設置								
フリガナ設置者		がっくおがじん セイガクイン 学校法人 聖学院								
フリガナ大学の名称		セイガクインががく 聖学院大学 (Seigakuin University)								
大学本部の位置		埼玉県上尾市戸崎1番1号								
大学の目的		プロテスタント・キリスト教の精神に基づき、自由と敬虔の学風によって真理を探究し、豊かな教養と深い専門の学術を教授し、精神(霊)的、知的、実践的に成熟した全体的な人間形成に努め、民主的社会人としての良識と国際化した現代社会に対する見識とをもった有為の人間を育成し、文化の発展と人類世界の福祉及び平和に寄与することを目的とする。								
新設学部等の目的		これまでの実績の上に、児童英語をはじめとする言葉の技能を身につけ、倫理観ある専門性を備えた幼稚園教諭、小学校教諭、特別支援学校教諭、保育士の養成を主たる目的とする。								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地		
	人文学部 [Faculty of Humanities]	年	人	年次人	人		年 月 第 年次	埼玉県上尾市戸崎 1番1号		
	児童学科 [Child Studies Department]	4	100	—	400	学士 (児童学)	平成30年4月 第1年次			
	計		100	—	400					
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)		心理福祉学部 心理福祉学科 (120) (3年次編入学定員) (20) (平成29年4月届出予定) 人間福祉学部(廃止) 児童学科 (△100) こども心理学科 (△ 80) 人間福祉学科 (△ 80) ※平成30年4月学生募集停止								
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数					卒業要件単位数			
		講義	演習	実験・実習	計					
	人文学部 児童学科	151 科目	130 科目	31 科目	312 科目	124 単位				
教員組織の概要	学部等の名称			専任教員等					兼任教員等	
				教授	准教授	講師	助教	計	助手	
	新設分	人文学部 児童学科		7人 (7)	4人 (3)	6人 (6)	2人 (2)	19人 (18)	0人 (0)	44人 (13)
		心理福祉学部 心理福祉学科		9 (9)	3 (3)	1 (1)	3 (3)	16 (16)	0 (0)	28 (5)
		計		16 (16)	7 (6)	7 (7)	5 (5)	35 (34)	0 (0)	— (—)
	既設分	政治経済学部 政治経済学科		11 (11)	4 (4)	0 (1)	2 (2)	17 (18)	0 (0)	52 (52)
		人文学部 欧米文化学科		5 (5)	2 (2)	1 (1)	1 (1)	9 (9)	0 (0)	28 (28)
		人文学部 日本文化学科		5 (6)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	9 (10)	0 (0)	49 (49)
		基礎総合教育部		1 (2)	3 (3)	3 (5)	0 (0)	7 (10)	1 (1)	138 (138)
		計		22 (24)	13 (13)	4 (7)	3 (3)	42 (47)	1 (1)	— (—)
	合 計			38 (40)	20 (19)	11 (14)	8 (8)	77 (81)	1 (1)	— (—)
	教員以外の職員の概要	職 種		専 任		兼 任		計		
事務職員		54人 (57)		34人 (35)		88人 (92)				
技術職員		0 (0)		0 (0)		0 (0)				
図書館専門職員		5 (5)		6 (6)		11 (11)				
その他の職員		0 (0)		0 (0)		0 (0)				
計			59 (62)		40 (41)		99 (103)			

校 地 等	区 分		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用		計		借用面積： 7,042㎡ 借用期間：20年		
	校 舎 敷 地		34,076 ㎡	— ㎡	— ㎡		34,076 ㎡				
	運 動 場 用 地		26,241 ㎡	— ㎡	— ㎡		26,241 ㎡				
	小 計		60,317 ㎡	— ㎡	— ㎡		60,317 ㎡				
	そ の 他		1,996 ㎡	— ㎡	— ㎡		1,996 ㎡				
	合 計		62,313 ㎡	— ㎡	— ㎡		62,313 ㎡				
校 舎			専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用		計				
			20,385 ㎡ (20,385 ㎡)	— ㎡ (— ㎡)	— ㎡ (— ㎡)		20,385 ㎡ (20,385 ㎡)				
教室等		講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設		大学全体			
		28 室	31 室	12 室	4 室 (補助職員 0 人)	0 室 (補助職員 0 人)					
専 任 教 員 研 究 室			新設学部等の名称			室 数					
			人文学部 児童学科			20 室					
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称		図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種		電子ジャーナル 〔うち外国書〕 点	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	学部単位での特 定不能なため、 大学全体の数	
	人文学部 児童学科		321,197 [65,761] (310,237 [65,489])	2,845 [2,450] (2,840 [2,448])		2,400 [2,400] (2,395 [2,395])	3,318 (3,222)	123 (123)	10 (10)		
	計		321,197 [65,761] (310,237 [65,489])	2,845 [2,450] (2,840 [2,448])		2,400 [2,400] (2,395 [2,395])	3,318 (3,222)	123 (123)	10 (10)		
図書館			面積		閲覧座席数		収 納 可 能 冊 数			大学全体	
			2,420 ㎡		318		224,000				
体育館			面積		体育館以外のスポーツ施設の概要						
			1,578 ㎡		—		—				
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	経費 の見 積り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	図書購入費には 電子ジャーナル・デー タベースの整備費 等を含む。	
		教員1人当り研究費等		500千円	500千円	500千円	500千円	— 千円	— 千円		
		共 同 研 究 費 等		— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円		
		図 書 購 入 費	2,110千円	1,850千円	1,870千円	1,880千円	1,910千円	— 千円	— 千円		
		設 備 購 入 費	4,220千円	3,680千円	3,710千円	3,730千円	3,790千円	— 千円	— 千円		
	学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次				
		1,310千円	1,030千円	1,050千円	1,070千円	— 千円	— 千円				
学生納付金以外の維持方法の概要			私立大学等経常費補助金、雑収入他								
既 設 大 学 等 の 状 況	大 学 の 名 称			聖学院大学							※平成25年度より学生募集停止
	学部等の名称		修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	定 員 超過率	開設 年度	所 在 地	
	政治経済学部		年	人	年次 人	人		倍		埼玉県上尾市戸崎 1番1号	
	政治経済学科		4	160	—	640	学士(政治経済学)	0.97	昭和63年度		
	コミュニティ政策学科		4	—	—	—	学士(コミュニティ政策学)	—	平成12年度		
	人文学部							0.80			
	欧米文化学科		4	80	—	320	学士(欧米文化学)	0.65	平成4年度		
	日本文化学科		4	80	—	320	学士(日本文化学)	0.96	平成10年度		
	人間福祉学部							0.71			
	児童学科		4	100	—	400	学士(児童学)	0.80	平成16年度		
	こども心理学科		4	80	—	320	学士(心理・健康保健学)	0.56	平成24年度		
	人間福祉学科		4	80	—	320	学士(人間福祉学)	0.74	平成16年度		
	政治政策学研究科										
	政治政策学専攻		2	10	—	20	修士(政治学)	0.95	平成8年度		
	アメリカ・ヨーロッパ文化学研究科										
	アメリカ・ヨーロッパ文化学専攻(博士前期課程)		2	5	—	10	修士(アメリカ・ヨーロッパ文化学)	0.30	平成11年度		
	アメリカ・ヨーロッパ文化学専攻(博士後期課程)		3	5	—	15	博士(学術)	0.33	平成13年度		
	人間福祉学研究科										
	人間福祉学専攻		2	10	—	20	修士(人間福祉学)	0.20	平成18年度		
附属施設の概要			該当なし								

(注)

- 1 共同学科等の認可の申請及び届出の場合、「計画の区分」，「新設学部等の目的」，「新設学部等の概要」，「教育課程」及び「教員組織の概要」の「新設分」の欄に記入せず，斜線を引くこと。
- 2 「教員組織の概要」の「既設分」については，共同学科等に係る数を除いたものとする。
- 3 私立の大学又は高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は，「教育課程」，「教室等」，「専任教員研究室」，「図書・設備」，「図書館」及び「体育館」の欄に記入せず，斜線を引くこと。
- 4 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は，「教育課程」，「校地等」，「校舎」，「教室等」，「専任教員研究室」，「図書・設備」，「図書館」，「体育館」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず，斜線を引くこと。
- 5 「教育課程」の欄の「実験・実習」には，実技も含むこと。
- 6 空欄には，「－」又は「該当なし」と記入すること。

学校法人聖学院 設置認可等に関わる組織の移行表

平成29年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	平成30年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
聖学院大学				聖学院大学				
政治経済学部				政治経済学部				
政治経済学科	160	-	640	政治経済学科	160	-	640	
人文学部				人文学部				
欧米文化学科	80	-	320	欧米文化学科	80	-	320	
日本文化学科	80	-	320	日本文化学科	80	-	320	
				児童学科	100	-	400	学科の設置(届出)
人間福祉学部					0	-	0	平成30年4月学生募集停止
児童学科	100	-	400		0	-	0	平成30年4月学生募集停止
こども心理学科	80	-	320		0	-	0	平成30年4月学生募集停止
人間福祉学科	80	-	320					
				心理福祉学部				学部の設置(届出)
				心理福祉学科	120	^{3年次} 20	520	
計	580	-	2320	計	540	^{3年次} 20	2200	

別記様式第2号（その2の1）

教育課程等の概要																
(人文学部児童学科)																
科目 区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
基礎科目群	基礎科目	キリスト教概論A	1前	2			○									兼2
		キリスト教概論B	1後	2			○									兼2
		情報基礎	1前・後	2			○									兼2
		小計 (3科目)	—	6	0	0	—			0	0	0	0	0	兼6	
	英語科目	ECA(Speaking) I	1前・後	2				○								兼4
		ECA(英語基礎表現)	1前・後	1				○								兼4
		ECA(Reading) I	1前・後	1				○								兼4
		ECA(Speaking) II	1後		2			○								兼1
		ECA(Reading) II	1後		1			○								兼1
		ECA(Cinema) I	1前・後		1			○								兼2
		ECA(Cinema) II	1前・後		1			○								兼2
		ECA(Cinema) III	2前		1			○								兼1
		ECA(Culture)	2前・後		1			○								兼2
		ECA(English through Songs)A	1前		1			○								兼1
		ECA(English through Songs)B	1後		1			○								兼2
		ECA(Pleasure Reading)A	1前		1			○								兼1
		ECA(Pleasure Reading)B	1後		1			○								兼1
		ECA(Business)	2前・後		1			○								兼2
		ECA(English for <i>Omotenashi</i>)	1前・後		1			○								兼1
		ECA(Travel English)	1前・後		1			○								兼3
		ECA(Basic TOEIC)A	1前		1			○								兼1
		ECA(Basic TOEIC)B	1後		1			○								兼1
		ECA(Basic Grammar)	1前		1			○								兼1
		ECA(やり直しの発音)	1前・後		1			○								兼1
	ECA(Global Understanding)	1前・後		1			○								兼1	
	小計 (21科目)	—	4	19	0	—			0	0	0	0	0	兼7		
	第二外国語Ⅰ	ドイツ語Ⅰ	1前・後		2			○								兼2
		ドイツ語Ⅱ	1後		2			○								兼1
		フランス語Ⅰ	1前・後		2			○								兼3
		フランス語Ⅱ	1後		2			○								兼1
		スペイン語Ⅰ	1前・後		2			○								兼2
		スペイン語Ⅱ	1前・後		2			○								兼1
		イタリア語Ⅰ	1前・後		2			○								兼1
		イタリア語Ⅱ	1後		2			○								兼1
中国語Ⅰ		1前・後		2			○								兼3	
中国語Ⅱ		1前・後		2			○								兼2	
韓国語Ⅰ		1前・後		2			○								兼2	
韓国語Ⅱ		1前・後		2			○								兼1	
小計 (12科目)		—	0	24	0	—			0	0	0	0	0	兼13		
スポーツ科目	健康・体力づくり実習A	1前		1				○							兼5	
	健康・体力づくり実習B	1後		1				○							兼5	
	生涯スポーツ実習A	1前		1				○							兼7	
	生涯スポーツ実習B	1後		1				○							兼7	
	体育 (講義)	1後		1		○									兼1	
	小計 (5科目)	—	0	5	0	—			0	0	0	0	0	兼8		

科目 区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
基礎科目群	キリスト教関連科目	聖書の世界A	2前		2		○								兼1
		聖書の世界B	2後		2		○								兼1
		イングリッシュ・バイブルA	2前		2		○								兼1
		イングリッシュ・バイブルB	2後		2		○								兼1
		キリスト教と歴史形成A	2前		2		○								兼1
		キリスト教と歴史形成B	2後		2		○								兼1
		キリスト教思想史A	2前		2		○								兼1
		キリスト教思想史B	2後		2		○								兼1
		キリスト教と国際社会A	2前		2		○								兼1
		キリスト教と国際社会B	2後		2		○								兼1
		キリスト教と日本社会A	2前		2		○								兼1
		キリスト教と日本社会B	2後		2		○								兼1
		キリスト教とアジア文化A	2前		2		○								兼1
		キリスト教とアジア文化B	2後		2		○								兼1
		キリスト教と自然科学A	2前		2		○								兼1
		キリスト教と自然科学B	2後		2		○								兼1
		キリスト教と音楽A	2前		2		○								兼1
		キリスト教と音楽B	2後		2		○								兼1
		キリスト教音楽史A	2前		2		○								兼1
		キリスト教音楽史B	2後		2		○								兼1
		キリスト教と美術A	2前		2		○								兼1
		キリスト教と美術B	2後		2		○								兼1
		キリスト教と福祉活動の実際A	2前		2		○								兼1
		キリスト教と福祉活動の実際B	2後		2		○								兼1
		キリスト教カウンセリング論	2後		2		○								兼1
		キリスト教と心のケア	2前		2		○								兼1
小計（26科目）		—	0	52	0	—			0	0	0	0	0	兼13	
	キャリア教育科目	時事問題演習	1前		1			○							兼2
		図表理解	1後		1			○							兼2
		キャリアデザインA	2前		1			○							兼1
		キャリアデザインB	2後		1			○							兼1
		ビジネス・ライティング	2後		1			○							兼1
		ビジネス・コミュニケーション	2後		1			○							兼1
		ビジネス・プレゼンテーション	2後		1			○							兼1
		業界・企業研究	3前・後		1			○							兼2
		インターンシップⅠ（事前学習）	2後・3前		2		○								兼2
		インターンシップⅡ（実習）	3休		2				○						兼2
		海外インターンシップA	1休		4				○						兼1
		海外インターンシップB	1休		4				○						兼1
		海外インターンシップC	1休		2				○						兼1
		海外インターンシップD	1休		1				○						兼1
小計（14科目）		—	0	23	0	—			0	0	0	0	0	兼9	

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
基礎科目群	その他	日本国憲法	1前・後		2		○									兼3	集中 集中 集中 集中 集中 集中
		Special Lecture Series	2後		2		○									兼1	
		地元学	1前		2		○									兼2	
		宮原地域学	1前		2		○									兼1	
		釜石学	1前		2		○									兼2	
		コミュニティサービスラーニングⅠ	2前		2		○									兼1	
		コミュニティサービスラーニングⅡ	2後		2		○									兼1	
		被災地支援・インターンシップA	1休		4					○						兼1	
		被災地支援・インターンシップB	1休		2					○						兼1	
		被災地支援・インターンシップC	1休		1					○						兼1	
		アメリカ文化演習A	1休		4				○							兼1	
		アメリカ文化演習B	1休		2				○							兼1	
		オーストラリア文化演習	1休		4				○							兼1	
		カナダ文化演習	1休		4				○							兼1	
小計（14科目）		—	0	35	0	—			0	0	0	0	0	兼9			
教養科目群	人間理解への基盤を学ぶ	哲学	1前・後		4		○									兼1	
		欧米文学	1前・後		4		○									兼1	
		言語学	1前・後		4		○									兼1	
		文学	1前・後		4		○									兼2	
		文化学	1前		4		○									兼1	
		西洋史	1前・後		4		○									兼3	
		日本史	1後		4		○									兼1	
		異文化間コミュニケーション	1前		4		○									兼1	
		小計（8科目）	—	0	28	0	—			0	0	0	0	0	兼10		
	社会理解への基盤を学ぶ	政治学	1前・後		4		○									兼3	
		経済学	1前・後		4		○									兼3	
		法学	1前・後		4		○									兼2	
		社会学	1前・後		4		○									兼1	
		障害児（者）の理解と社会	1前・後		4		○				1						
福祉環境学		1後		4		○									兼1		
自然理解への基盤を学ぶ	社会福祉概論	1前		4		○									兼1		
	情報と社会	1後		4		○									兼1		
	小計（8科目）	—	0	28	0	—			1	0	0	0	0	兼12			
	環境学	1前		4		○									兼1		
	民俗環境論	1前・後		4		○									兼1		
	職業人生と健康	1前		4		○									兼1		
	教養としての数学	1前		4		○									兼1		
	小計（4科目）	—	0	16	0	—			0	0	0	0	0	兼4			

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門科目群	共通基本科目	キリスト教文化論A	3前	2		○				1				集中
		キリスト教文化論B	3後	2		○				1				
		児童学概論	1前	2		○			1					
		言葉の基礎	1前	2		○			2					
		教職演習A	2前		1		○				1			
		教職演習B	2後		1		○				1			
		教職演習C	3前		1		○				1			
		教職演習D	3前		1		○		1					
		教職演習E	3前		1		○				1			
		教職演習F	3後		1		○				1			
		教職演習G	4前		1		○				1			
		教職演習(小学校英語A)	2後		1		○				1			
		教職演習(小学校英語B)	2後		1		○				1			
		児童学海外研修	1休		4		○			1				
		小計(14科目)	—	8	13	0	—		4	2	5	0	0	
	児童文化系統	児童文化論	1後	2		○			1	1				兼1 オムニバス
		絵本文化論	1前		2	○								
		児童文学	1前・後		2	○			1					兼1
		英米児童文学	1前		4	○			1					
		ファンタジー論	1後		4	○			1					
		おもちゃ論	2前		2	○								
		異文化間教育	2後		2	○				1				兼1
		小計(7科目)	—	2	16	0	—		2	2	0	0	0	兼2
	心理学系統	教育心理学	2前	1			○		1					兼1
		発達心理学	1後	2		○								
		教育相談(カウンセリングを含む。)	2後	2		○			1					
		小計(3科目)	—	5	0	0	—		1	0	0	0	0	兼1
	教育学系統	教育原理	1前	2		○				1				兼1 兼1 兼1 隔年 隔年 隔年 隔年
		キリスト教保育論	1後		2	○								
		教育社会学	2前	2		○								
		学校と教育の歴史	2前		2	○								
		社会教育論A	2前		2	○			1					
		社会教育論B	2後		2	○			1					
		現代社会と社会教育A	2前		2	○			1					
		現代社会と社会教育B	2後		2	○			1					
		小計(8科目)	—	4	12	0	—		1	1	0	0	0	兼3
	福祉・教育関連系統	社会福祉	1後		2	○								兼1 兼2
		相談援助	2前・後		1		○							
		児童家庭福祉	2前・後		2	○			1					兼2 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1
		保育原理	1前・後		2	○				1				
		社会的養護	2前・後		2		○							
		乳児保育A	2前・後		1		○							
		乳児保育B	2前・後		1		○							
		社会的養護内容	2前・後		1		○							
		保育相談支援	2前・後		1		○							
		障害児保育A	2前・後		1		○				1			
		障害児保育B	2前・後		1		○							
		子どもの保健A	2前		2	○								
		子どもの保健B	2前・後		2	○								
		子どもの保健演習	2後		1		○							
		家庭支援論	3前		2	○				1				
		子どもの食と栄養A	2前		1		○					1		
		子どもの食と栄養B	2後		1		○					1		
		小計(17科目)	—	0	24	0	—		1	2	0	2	0	兼10

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門科目群	国語	1後		2		○					1			兼1 兼1
	社会	1後		2		○					1			
	算数	1後		2		○					1			
	理科	1前		2		○					1			
	生活	1前		2		○					1			兼1 兼1
	家庭	1後		2		○						1		
	外国語	2前		2		○								
	図画工作A	1前		1				○	1					
	図画工作B	1後		1				○	1					兼1 兼1 兼4
	体育A	1前		1				○						
	体育B	1後		1				○						
	音楽A	1前		1				○		1				
	音楽B	1後		1				○		1				兼5 兼5 兼1
	音楽・器楽A	2前		1				○		1				
	音楽・器楽B	1後		1				○		1				
	音楽・合奏指導	1前		1				○						
	教師論	1前	2			○				1	1			オムニバス
	保育実践演習A	2前・後		1			○		1					
	保育実践演習B	2前・後		1			○				1			
	教職実践演習(幼・小)	4後		2			○		4	2	4	1		
	教育・保育課程論	2後	2			○				1				兼1 兼1 兼1 兼1
	保育内容総論	1後		2		○			1					
	保育内容の研究・健康	3後		2		○								
	保育内容の研究・人間関係	3後		2		○								
	保育内容の研究・環境	3前		2		○					1			兼1 兼1 兼1 兼1
	保育内容の研究・言葉	3前		2		○								
	保育内容の研究・表現A	3前		2		○			1					
	保育内容の研究・表現B	3前		2		○								
	幼児理解の理論と方法	3前		2		○			1					兼1 兼1 兼1 兼1
	教育課程論	2後		2		○					1			
	初等国語科教育法	2前		2		○					1			
	初等社会科教育法	2前		2		○					1			
	算数科教育法	2前		2		○					1			兼1 兼1 兼1 兼1
	理科教育法	2後		2		○					1			
	生活科教育法	2後		2		○					1			
	音楽科教育法	3前		2		○								
	図画工作科教育法	2前		2		○			1					兼1 兼1 兼1 兼1
	家庭科教育法	2後		2		○								
	体育科教育法	2前		2		○								
	外国語活動指導法	3前		2		○					1			
	道德教育指導法	2後		2		○					1			兼1 兼1 兼1 兼1
	特別活動指導法	2前		2		○					1			
	教育方法論	2前	2			○					1			
	生徒指導論(進路指導を含む。)	2前		2		○					1			
	学校インターンシップ(基礎)	2前・後	1				○		1		2			集中
	学校インターンシップ	2前・後		2			○				2			
	幼稚園教育実習	4前		5				○	1					
	幼稚園教育実習(副)	4後		3				○		1				
	保育実習	3通		4				○				1		兼1 兼1 兼1 兼1
	保育実習指導	3通		2				○				1		
	保育実習A	4前		2				○		1				
	保育実習B	4前		2				○						

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門 科目群	保育実習指導A	4前		1				○		1				兼1 集中
	保育実習指導B	4前		1				○						
	小学校教育実習	3後		5				○			3			
	介護等体験及び事前事後指導	2通		2			○		1					兼1 オムニバス
	障害児教育総論	2前		2		○			1					
	知的障害児の心理・生理・病理A	2前		2		○						1		兼2 オムニバス
	知的障害児の心理・生理・病理B	2後		2		○						1		兼2 オムニバス
	肢体不自由児の心理・生理・病理	2前		2		○								兼1
	病弱児の心理・生理・病理	3前		2		○								兼2 オムニバス
	情緒障害児の心理	3後		2		○								兼1
	知的障害児指導法	2後		2		○			1					兼1
	病弱児指導法	3後		2		○								
	障害幼児指導法	2後		2		○								兼1
	肢体不自由児指導法	2後		2		○					1			兼1
	視覚障害児の教育総論	3前		2		○								
	聴覚障害児の教育総論	3前		2		○								兼1
	重複障害児の教育総論	3前		2		○								兼1
	発達障害児の教育総論	2後		2		○								兼2 オムニバス
	特別支援教育実習	4後		3				○	1		1	1		兼1 兼1 兼1 兼1 兼1
	学校経営と学校図書館	2前		2		○								
	学校図書館メディアの構成	2後		2		○								
	学習指導と学校図書館	2後		2		○								
	読書と豊かな人間性	2前		2		○								
	情報メディアの活用	2後		2		○								
	小計（76科目）	—	7	141	0	—			6	3	6	2	0	兼31
	専門演習（児童学Ⅰ）	2後		1			○		1					
	専門演習（児童学Ⅱ）	3前		1			○		1					
	専門演習（キリスト教幼児教育Ⅰ）	2後		1			○			1				
	専門演習（キリスト教幼児教育Ⅱ）	3前		1			○			1				
	専門演習（造形教育論Ⅰ）	2後		1			○		1					
	専門演習（造形教育論Ⅱ）	3前		1			○		1					
	専門演習（音楽創造論Ⅰ）	2後		1			○			1				
	専門演習（音楽創造論Ⅱ）	3前		1			○			1				
	専門演習（保育実践論Ⅰ）	2後		1			○		1					
	専門演習（保育実践論Ⅱ）	3前		1			○		1					
	専門演習（異文化間教育Ⅰ）	2後		1			○			1				
	専門演習（異文化間教育Ⅱ）	3前		1			○			1				
	専門演習（教育文化論Ⅰ）	2後		1			○			1				
	専門演習（教育文化論Ⅱ）	3前		1			○			1				
	専門演習（生涯学習Ⅰ）	2後		1			○		1					
	専門演習（生涯学習Ⅱ）	3前		1			○		1					
	専門演習（教育心理学Ⅰ）	2後		1			○		1					
	専門演習（教育心理学Ⅱ）	3前		1			○		1					
	専門演習（児童文学Ⅰ）	2後		1			○		1					
	専門演習（児童文学Ⅱ）	3前		1			○		1					
	専門演習（社会科Ⅰ）	2後		1			○				1			
	専門演習（社会科Ⅱ）	3前		1			○				1			
	専門演習（栄養教育Ⅰ）	2後		1			○					1		
	専門演習（栄養教育Ⅱ）	3前		1			○					1		
	専門演習（特別支援教育論Ⅰ）	2後		1			○		1					
	専門演習（特別支援教育論Ⅱ）	3前		1			○		1					
	専門演習（障害児心理学Ⅰ）	2後		1			○					1		
	専門演習（障害児心理学Ⅱ）	3前		1			○					1		

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門科目群	演習科目	卒業研究(児童学Ⅰ)	3後		1			○		1							
		卒業研究(児童学Ⅱ)	4前		1			○		1							
		卒業研究(キリスト教幼児教育Ⅰ)	3後		1			○			1						
		卒業研究(キリスト教幼児教育Ⅱ)	4前		1			○			1						
		卒業研究(造形教育論Ⅰ)	3後		1			○		1							
		卒業研究(造形教育論Ⅱ)	4前		1			○		1							
		卒業研究(音楽創造論Ⅰ)	3後		1			○			1						
		卒業研究(音楽創造論Ⅱ)	4前		1			○			1						
		卒業研究(保育実践論Ⅰ)	3後		1			○		1							
		卒業研究(保育実践論Ⅱ)	4前		1			○		1							
		卒業研究(異文化間教育Ⅰ)	3後		1			○			1						
		卒業研究(異文化間教育Ⅱ)	4前		1			○			1						
		卒業研究(教育文化論Ⅰ)	3後		1			○			1						
		卒業研究(教育文化論Ⅱ)	4前		1			○			1						
		卒業研究(生涯学習Ⅰ)	3後		1			○		1							
		卒業研究(生涯学習Ⅱ)	4前		1			○		1							
		卒業研究(教育心理学Ⅰ)	3後		1			○		1							
		卒業研究(教育心理学Ⅱ)	4前		1			○		1							
		卒業研究(児童文学Ⅰ)	3後		1			○		1							
		卒業研究(児童文学Ⅱ)	4前		1			○		1							
		卒業研究(社会科Ⅰ)	3後		1			○				1					
		卒業研究(社会科Ⅱ)	4前		1			○				1					
		卒業研究(栄養教育Ⅰ)	3後		1			○					1				
		卒業研究(栄養教育Ⅱ)	4前		1			○					1				
		卒業研究(特別支援教育論Ⅰ)	3後		1			○		1							
		卒業研究(特別支援教育論Ⅱ)	4前		1			○		1							
		卒業研究(障害児心理学Ⅰ)	3後		1			○					1				
		卒業研究(障害児心理学Ⅱ)	4前		1			○					1				
				卒業論文	4後		6			○		7	4	1	2	0	
				小計 (57科目)	—	0	62	0	—			7	4	1	2	0	
総合科目群	総合科目	経済学研究	3前		2		○								兼1		
		企業財務論研究	3後		2		○								兼3		
		まちづくり論研究	3前		2		○								兼1		
		地域文化論	3前		2		○								兼1		
		欧米文化学特論	4前		2		○								兼1		
		日本思想特論	4後		2		○								兼1		
		日本文化学研究	4前		4		○								兼1		
		アメリカ文化学研究A	4前		4		○								兼1		
		ヨーロッパ文化学研究B	4後		4		○								兼2		
		キリスト教文化学研究A	4前		4		○								兼1		
		児童教育学特論	4前		4		○				1						
		児童学特論	4後		4		○										
		高齢者福祉特論	4前		4		○								兼1		
		児童福祉特論	4後		4		○								兼1		
発達心理学特論	4前		4		○								兼1				
		小計 (15科目)	—	0	48	0	—			1	1	0	0	0	兼15		
合計 (312科目)			—	36	546	0	—			7	4	6	2	0	兼114		
学位又は称号		学士 (児童学)		学位又は学科の分野				文学、教育学・保育学									
卒業要件及び履修方法								授業期間等									
基礎科目群14単位(基礎科目6単位, 英語科目4単位, キリスト教関連科目4単位), 教養科目群8単位, 専門科目群76単位(共通基本科目8単位, 児童文化系統2単位, 心理学系統5単位, 教育学系統4単位, 教育関連科目7単位, 演習科目4単位)のほか, 自由選択にて26単位以上修得し, 124単位以上修得すること。 〔履修登録科目の上限: 50単位 (年間) 〕								1 学年の学期区分				2 期					
								1 学期の授業期間				15週					
								1 時限の授業時間				90分					

(注)

- 1 学部等，研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には，授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等，研究科等若しくは高等専門学校（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合，大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は，この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて，適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には，実技も含むこと。

授 業 科 目 の 概 要				
(人文学部児童学科)				
科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
基礎	基	キリスト教概論 A	キリスト教についての基本的な知識を紹介し、聖書の内容を概説する。まずプロテスタント・キリスト教主義の大学で学ぶ意義からはじめ、キリスト教の礼拝、行事などをとりあげ、おもに旧約聖書を紹介する。 聖書は、文学、芸術、音楽、思想など文化のあらゆる面で大きな影響を与えてきた。キリスト教主義の大学で学ぶ特権を生かして、キリスト教に触れる機会を持ってもらい、キリスト教についての基礎知識を知る機会とする。	
	礎	キリスト教概論 B	前半に新約聖書の内容を学ぶ。イエス・キリストの教えと働き、その生涯と死、復活の意味、そして教会の誕生までを概観する。後半では、キリスト教思想に基づく人間観、歴史観、倫理観などについて、なるべく具体的な話を交えながら、紹介する。	
	目	情報基礎	コンピュータやネットワークに関する基本的な知識や情報モラル等を理解し、ワープロソフト・表計算ソフト・プレゼンテーションソフトの基本的な操作スキルを身につけることは、教育を行ううえでも重要である。 本講義では、教職課程履修者が、パソコンの基本知識・技術を習得し、大学生活及び卒業後に必要な文書作成や正しい情報の取扱ができるようにする。	
英語	目	ECA(Speaking) I	「コミュニケーション・アプローチ」を用いながら、既習の英文法を復習すると共に、Speaking & Listeningの練習を行い、自然な英会話ができるようにすることを主眼におく。様々な実践的なテーマの中で必要な英語表現や語彙を学んでいく。	
		ECA(英語基礎表現)	教科書の英会話を聞き、内容理解を行う。また基礎的な文法や英語表現を学習する。英語コミュニケーションに必要とされる基礎的な文法の理解と英語表現の習得を目指す。また学習した内容を実際の会話で使えるようにする。授業では、文法、語彙運用能力の向上を目指す。	
		ECA(Reading) I	様々な英文を読み、読解に必要な文法、語彙表現、リーディングスキルを習得する。また授業で学習する話題や時事問題に関してグループで簡単なリサーチを行い、意見や考えをまとめ発表する。	
	群	ECA(Speaking) II	「コミュニケーション・アプローチ」に基づき、学習した文法を活用しながら流暢に会話ができることを主眼におく。会話（聞くこと、話すこと）に必要なスキルの学習に重点をおき、実践的なテーマにおける様々な口語表現や正しい発音を学習しながら会話の練習を行う。様々な場面において実際に使える英語コミュニケーション能力の向上を目指す。	
		ECA(Reading) II	英文を読み、読解に必要な文法、語彙表現、リーディングスキルを学習する。また、リーディングのテーマに対する自分の意見を正しい英文で書けるようにする。正確な発音で音読出来るよう指導を行う。	

授 業 科 目 の 概 要				
(人文学部児童学科)				
科目	授業科目の名称	講義等の内容		備考
基 礎 科 目 群	英 語 科 目	ECA(Cinema) I	映画を授業に取り入れることで、アメリカの日常生活で使われている自然な英語表現やアメリカ文化を学習する。映画を鑑賞しながら、リスニング力の向上を目指すとともに、英語表現や文法の解説、ロールプレイなどのアクティビティを通して、コミュニケーション能力の向上を目指す。	
		ECA(Cinema) II	イギリスの映画を用い、英語のコミュニケーション能力を養う。映画に出てくるさまざまな英語表現を学ぶ。文化背景についても学ぶ。LL機能を聞き取り、発音練習も行う。大学生としての基礎英語コミュニケーション能力を養成する。	
		ECA(Cinema) III	この授業では、語彙や文法といった言語的側面だけを学ぶのではなく、映画を鑑賞しながらアメリカの文化や歴史、社会情勢といった文化的側面についても学んでいく。また新聞やインターネットを利用し、映画のテーマに関するリサーチも行う。授業内では、ディスカッションやプレゼンテーションを通して自分の意見や考えを発表してもらう。映画の内容を理解するために、リスニング演習や読解練習も行う。	
		ECA(Culture)	学習した文化のテーマを活用しながら流暢に話し、ノートを書き、学習活動に参加し、プレゼンテーションをすることができることを主眼におく。	
		ECA(English through Songs)A	スタンダードとして歌い継がれている英語のジャズやポップスを題材にして英語を学ぶ。歌詞の内容理解を通して語彙・文法を身につけ、歌を聴き、歌うことによってリスニング・スピーキングの練習を行う。また、歌の背景に関する短いエッセイを読み、読解練習を行うとともに歌への理解を深める。	
		ECA(English through Songs)B	英語のポップスやロックを通して、英語のリスニング力、発音、読解などの力を高めることを目指す。歌詞の内容を理解し歌の理解を深め、また、韻などの技法も学んでいく。歌詞の聞き取りを行い、英語の発音や音声変化を学んでいく。また、歌詞付きの YouTubeを利用して授業の中で歌をうたい発音の向上を目指す。さらに、それぞれの歌手についての英文や映像を通して、アーティストや曲の作られた背景などを学ぶことで曲への理解を深める。	
		ECA(Pleasure Reading)A	自分の英語力に合った本を、楽しみながら多読（文章を分析しないで大意を把握する読書法）を行う。Graded Readersというレベル別に分かれた本の中から、興味や好みに基づいて本を選び、授業の内外で本を読み進めていき、授業中にクラスメートと本の情報・感想の共有をしたり、アクティビティを行なう、学生主導の授業である。	
		ECA(Pleasure Reading)B	自分の英語力に合った本を、楽しみながら多読（文章を分析しないで大意を把握する読書法）を行う。Graded Readersというレベル別に分かれた本の中から、興味や好みに基づいて本を選び、授業の内外で本を読み進めていき、授業中にクラスメートと本の情報・感想の共有をしたり、アクティビティを行なう、学生主導の授業である。	
		ECA(Business)	ビジネスシーンにおける英会話や電話でのやりとり、電子メールや手紙の読み書きなどのアクティビティを通して、実践的なビジネス英語を学んでいく。	

授 業 科 目 の 概 要				
(人文学部児童学科)				
科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
基 礎 科 目	英 語	ECA(English for <i>Omotenashi</i>)	日本の文化・習慣についての会話文を主な教材とし、リスニング・スピーキングを行う。質問や説明に必要な語句を学習し、ペアやグループで会話活動を行う。日本の文化・習慣について調べ、英語で発表を行う。	
		ECA(Travel English)	英語圏への旅行で遭遇する様々な場面での実践的な英会話を学ぶ。旅行先や滞在先の国の文化についての理解を深め、国際人としての心得やマナーも学ぶ。また、メニューの見方や注文の仕方、症状の説明の仕方、道の聞き方、値段の聞き方や買い物の仕方など、さまざまな状況でサバイバルすることができる語学力を養う。	
		ECA(Basic TOEIC)A	初級者対象のTOEICリーディングセクションに特化した、TOEIC受験対策授業である。必要な語彙、基本の英文法、読解のテクニック習得に努める。	
		ECA(Basic TOEIC)B	聞き取り問題、語彙表現力をつける問題に取り組み、TOEICのListening Sectionのスコアアップを図る。	
	科 目	ECA(Basic Grammar)	英語学習の基礎となる英文法を Step by Stepで学び、習得する。英語文法の基本である品詞の意味や基本文型から完了形、仮定法などの文法項目まで幅広く学習する。Step by Stepで丁寧に文法を学び、様々な演習を行い基本文法の習得を目指す。	
		ECA(やり直しの発音)	英語の発音が苦手な学生や、今以上に発音を上達させたい学生を対象に、発音の基礎を徹底的に指導する。まずは英語と日本語の音の違いを学び、英語らしい発音の特徴を学習する。聞き取りや発音練習をとおり、発音の上達に努める。	
		ECA(Global Understanding)	global・glocalのテーマを話題にしながら流暢に会話ができることを主眼におく。会話（聞くこと、話すこと）と研究に必要なスキルの学習に重点をおき、現在テーマに練習、プレゼンテーションを行う。	
群	第 二 外 国 語 科 目	ドイツ語 I	本講義はドイツ語の学習未経験者を対象とする。アルファベットの読み方から始め単語・文章への読み、そして文法を一つずつ丁寧に学習し、ドイツ語の文章を理解する力を身に付ける。	
		ドイツ語 II	ドイツ語Iで学んだ内容を受け、文法事項の学習を続ける。文字だけではなく、音や映像も交えドイツ語圏の情報も取り入れながら授業を進める。辞書の使い方（記述の約束事・必要な情報の取り出し方）・略語の理解の仕方等）を確認し、さらに使い込みができるよう練習する。基本的な文法事項の理解や基本的な文の読解に磨きをかける。	

授 業 科 目 の 概 要				
(人文学部児童学科)				
科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
基 群	第	フランス語Ⅰ	本講義はフランス語の学習未経験者を対象とする。ABCから始めてじっくりと、なんども繰返して会話表現、基礎的な文法を教科書にそって学ぶ。DVD付きの教材で、フランスの町や生活スケッチを見、時間の許すかぎり、フランスの音楽コンサートやミュージカルのDVDを用いることで生きたフランス語に接し、フランスのさまざまな文化にも触れる。	
		フランス語Ⅱ	「フランス語Ⅰ」に引き続き、簡単な会話表現を学ぶ。発音の規則を身につけてゆくと同時に、様々な動詞活用や文法項目を学ぶ。文法や動詞活用も口頭で発音することによって、音から覚える。フランス語だけでなく、フランス文化や慣習についても随時紹介する。	
	二	スペイン語Ⅰ	この授業では、簡単な日常会話、初歩文法事項の習得をめざす。文法事項は必要最小限におさえ、授業はゆっくり進める。また、ビデオ等の視覚教材を通し、生きたスペイン語に接しながら、スペイン語やスペイン語圏の文化、社会等に触れる。	
		スペイン語Ⅱ	「スペイン語Ⅰ」で学んだ基礎をベースに、さらに新しい表現を身に付け、初級文法の取得を目指す。また、映画などに出てくる生き生きとした表現を学び、スペイン語を使って自己表現ができる能力を習得する。	
	科	イタリア語Ⅰ	イタリア語の初級文法を学び、簡単な日常会話と作文の練習を行う。教科書に加えてCDやDVDなどの視聴覚教材も活用し、文法・会話・聴解・読解の能力をバランスよく習得することを目指す。	
		イタリア語Ⅱ	「イタリア語Ⅰ」に引き続き、イタリア語の初級文法を学び、会話・作文・読解の練習を行う。CDやDVDなどの視聴覚教材を活用することによって、聴解力の強化を目指す。	
	目	中国語Ⅰ	日本語を母国語とする学生に「音声言語としての中国語」の基礎を作る。中国語の知識としてでなく技能として学ぶため、むやみに先を急がず、必ず今習っていることが確実に身に付くまで、繰り返し練習し、更に誤りを恐れず積極的に声を出す。	
		中国語Ⅱ	「中国語Ⅰ」に引き続き、日本語を母国語とする学生に「音声言語としての中国語」の基礎を作る。中国語の知識としてでなく技能として学ぶため、むやみに先を急がず、必ず今習っていることが確実に身に付くまで、繰り返し練習し、更に誤りを恐れず積極的に声を出す。	
	目	韓国語Ⅰ	韓国語の正しい発音を指導し、ハングル文字の読み方、書き方を教え、文法については「助詞」に重点を置く。また、韓国の歌を歌う、韓国映画の視聴をするなど、韓国文化に触れる機会を作る。講義形式ではなく、対話を中心とした全員参加型で行う。	

授 業 科 目 の 概 要				
(人文学部児童学科)				
科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
基 礎 科 目 群	第二外国語科 韓国語Ⅱ	正確な発音に基づく反復指導をする。特に語彙を増やすことに重点を置く。文法については「語尾変化」に力を入れ、韓国文化の紹介も行う。授業は講義形式ではなく、対話を中心とした全員参加型で行う。		
	健康・体力づくり実習 A	【テニス】本講義では、体力を高め健康な体をつくるためのトレーニング及びテニスを主教材として学習を進める。体力づくりでは、ラダーやボールを用いたトレーニング、あるいは自体重やパートナーの体重を負荷としたトレーニングを学習する。またテニスにおいては主に初心者を対象とした基本的な練習や試合を学習内容として進めていく。授業後半では大会を通して運営の方法も学習する。		
	健康・体力づくり実習 A	【ボールスポーツ】スポーツ、ニュースポーツと呼ばれるゲーム型の運動は約1000種類あるが、教育においてすべて取り扱うことは不可能であるため、日本における初等・中等教育の学校教育では8つの領域から教育が展開されている。その中の一つが球技であり、さらにそこで扱われる球技は①ゴール型、②ネット型、③ベースボール型であり、本授業ではこの三つの型のスポーツを学習内容として授業を進めます。また授業では、練習の方法や大会運営の方法も学習する。		
	健康・体力づくり実習 A	【フィットネス】「健康」について、実技と理論の両面から学習する。エアロビックダンス・ステップ台を使ったステップエアロ・筋力コンディショニング運動（自重を使ったトレーニング）・バランスボール・パワーヨガ・ストレッチなどの身体作りや調整の方法をわかりやすく学習していく。 エアロビックダンスは、日常にはない動作を沢山盛り込み、思わず身体が動きだるような音楽に合わせて運動する楽しさや爽快感を体感でき、ストレス解消など「心への効き目」も実感できる。また、自分の目的や体調に応じて、運動強度・難易度を選択できるよう複数の動作を提供するので、運動の得意不得意、男女を問わず自分のペースで楽しむことができる。		
	健康・体力づくり実習 A	【サッカー】毎回、異なる鬼ごっこなどのウォーミングアップからスタートし、授業ごとのテーマに沿った練習を2種目ほど行う。テーマ習得が自然と行えるような練習を行なっていく。授業後半は必ずゲームを行い、テーマの確認をしてもらう。		
	健康・体力づくり実習 A	【ニュースポーツ】球技や競技スポーツの苦手な人、基礎体力をつけたい人、シェイプアップしたい人などを対象にストレッチ運動、各種体力づくり運動、ボール運動等誰でも気軽に出来る運動を行う。スポーツを楽しむにはまず基礎体力。次に球技や競技スポーツに移るのが自然の流れである。		
	健康・体力づくり実習 A	【ソフトボール】ソフトボールは個人スポーツではなく集団スポーツである。チーム全員で話し合い、チームの目標を決めて計画を立てる。集団技能の学習を通して、個人技能を高められるようにする。毎時間の学習、特にゲームには個人、並びにチームとして課題を持って臨ようにする。		
	健康・体力づくり実習 A	【複合スポーツ】生涯スポーツとして親しまれているテニス及びゴルフを中心に授業を行う。それぞれの種目の特徴を捉え、健康づくりとしてのスポーツ参加の動機付けの機会と位置付ける		

授 業 科 目 の 概 要				
(人文学部児童学科)				
科目		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基 礎 科 目 群	ス	健康・体力づくり実習 B	【テニス】本講義では、テニスを主教材としつつ、生涯をアクティブに生きていくことを可能にする強い体をつくりためのトレーニングも実施しながら学習を進める。トレーニングでは、ラダーやボールを用いたり、あるいは自体重やパートナーの体重を負荷としたりしたトレーニングを学習する。またテニスにおいては主に中級・上級レベル程度の経験者を対象とした基本的な練習や試合を学習内容として進めていく。授業後半では大会を通して運営の方法も学習する。	
		健康・体力づくり実習 B	【バレーボール】バレーボールの技術・戦術をドリルゲームを用い、さまざまなスモールステップを踏んで段階的・系統的に学習していく。毎回、個人的技能練習～チーム練習～ゲームという流れで学習を進める。ラリーを楽しむために、触球数、サービスエリアなどのルールを変更したゲームを実践する。	
		健康・体力づくり実習 B	【サロンフットボール】毎回、異なる鬼ごっこなどのウォーミングアップからスタートし、授業ごとのテーマに沿った練習を2種目ほど行う。テーマ習得が自然と行えるような練習を行なっていく。授業後半は必ずゲームを行い、テーマの確認する。	
		健康・体力づくり実習 B	【バドミントン】バドミントン競技は、トップ選手では初速が時速400kmを越えるハードなスポーツである一方、地域レベルでは競技人口も増え老若男女楽しめる生涯スポーツとなっている。バドミントン競技を通じて健康と運動の関わり合いを理解し、生涯スポーツへの動機づけの機会と位置付ける。	
	ポ	健康・体力づくり実習 B	【ニュースポーツ】球技や競技スポーツの苦手な人、基礎体力をつけたい人、シェイプアップしたい人などを対象にストレッチ運動、各種体力づくり運動、ボール運動等誰でも気軽に出来る運動を行う。スポーツを楽しむにはまず基礎体力。次に球技や競技スポーツに移るのが自然の流れである。	
		健康・体力づくり実習 B	【ソフトボール】ソフトボールは個人スポーツではなく集団スポーツである。チーム全員で話し合い、チームの目標を決めて計画を立てる。集団技能の学習を通して、個人技能を高められるようにする。毎時間の学習、特にゲームには個人、並びにチームとして課題を持って臨ようにする。	
		健康・体力づくり実習 B	【ボールスポーツ】バスケットボールを中心にしてゴール型のゲームについて学ぶ。生涯にわたって運動に親しむ資質と能力を「運動とのかかわり（運動への参加）」とし、技能レベルや性別に関係なく、ゲームの特性に触れてプレイすることのできる力を育むことを目標とする。	
		生涯スポーツ実習 A	【テニス】本講義では、テニスを主教材としつつ体力を高め健康な体をつくるためのトレーニングも実施しながら学習を進める。体力づくりでは、ラダーやボールを用いたトレーニングあるいは自体重やパートナーの体重を負荷としたトレーニングを学習する。またテニスにおいては主に初心者及び中級レベル程度の経験者を対象とした基本的な練習や試合を学習内容として進めていきます。授業後半では大会を通して運営の方法も学習する。	
	目	生涯スポーツ実習 A	【ボールスポーツ】ゲーム中心の指導アプローチにより、「ゲームを通してゲームでゲームがうまくなる」ようにしていく。また、技能の違い、ゲームの状況判断能力の違いを超え、様々な集団でゲームを楽しむことができるように工夫していく。さらに、授業内で学んだことがいろいろなスポーツ種目に使える力になっていくことができるように配慮していく。	

授 業 科 目 の 概 要			
(人文学部児童学科)			
科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基 礎 科 目 群	ス ポ	生涯スポーツ実習 A	【フィットネスエクササイズ】「健康」について、実技と理論の両面から学習する。エアロビックダンス・ステップ台を使ったステップエアロ・筋力コンディショニング運動（自重を使ったトレーニング）・バランスボール・パワーヨガ・ストレッチなどの身体作りや調整の方法をわかりやすく学習していく。エアロビックダンスは、日常にはない動作を沢山盛り込み、思わず身体が動きだすような音楽に合わせて運動する楽しさや爽快感を体感でき、ストレス解消など「心への効き目」も実感できる。また、自分の目的や体調に応じて、運動強度・難易度を選択できるよう複数の動作を提供するので、運動の得意不得意、男女を問わず自分のペースで楽しむことができる。
		生涯スポーツ実習 A	【サッカー】毎回、異なる鬼ごっこなどのウォーミングアップからスタートし、授業ごとのテーマに沿った練習を2種目ほど行う。テーマ習得が自然と行えるような練習を行なっていく。授業後半は必ずゲームを行い、テーマの確認をしてもらう。
	1 ツ	生涯スポーツ実習 A	【コンバインドスポーツ】ニュースポーツ（チャレンジ ザ ゲーム、ディスクゴルフ、アルティメット、ラージボール卓球）の実践を通して、①基本的技術・戦術の習得、②ルール、マナーの理解、③コミュニケーションスキルの向上、④ニュースポーツの意義と実践方法の理解を目指す。身体の直接的経験を基盤としながら、取り扱う各種目の成り立ち、楽しむための工夫等を学習しながら実践を行う。毎回、個人的技能練習～（集団的技能練習（チーム練習））～ゲームという流れで学習を進める。また、運動実践を行う際、コミュニケーションスキルの習得・向上を重視して（学習集団の中の人間関係を適切に構築し、主体的に学習に取り組むためのシステム作りと相互作用を多用した授業フォーマットを使用）授業を展開する。
		生涯スポーツ実習 A	【複合スポーツ】生涯スポーツとして親しまれているテニス及びゴルフを中心に授業を行う。それぞれの種目の特徴を捉え、健康づくりとしてのスポーツ参加の動機付けの機会と位置付ける。
		生涯スポーツ実習 A	【ゴルフ】生涯スポーツとしてのゴルフを、身体活動という視点から学ぶ授業である。通常の授業形態とは異なり、集中授業として3泊4日の日程で構成されている。ゴルフの基礎技術（グリップ、スタンス、スイング）を習得した後、練習場で実際にボールを打ち、その後ゴルフコースをラウンドする。そこでは、実際のプレーを技術という観点からだけではなく、ルールを尊び、ゴルフ特有の厳格なマナーなどの学習も含まれる。
		生涯スポーツ実習 B	【テニス】本講義では、テニスを主教材としつつ、生涯をアクティブに生きていくことを可能にする強い体づくりのトレーニングも実施しながら学習を進める。トレーニングでは、ラダーやボールを用いたり、あるいは自体重やパートナーの体重を負荷としたりしたトレーニングを学習する。またテニスにおいては主に中級・上級レベル程度の経験者を対象とした基本的な練習や試合を学習内容として進めていく。授業後半では大会を通して運営の方法も学習する。
	生涯スポーツ実習 B	【バレーボール】バレーボールの技術・戦術をドリルゲームを用い、さまざまなスモールステップを踏んで段階的・系統的に学習していく。毎回、個人的技能練習～チーム練習～ゲームという流れで学習を進める。ラリーを楽しむために、触球数、サービスエリアなどのルールを変更したゲームを実践する。	

授 業 科 目 の 概 要				
(人文学部児童学科)				
科目	授業科目の名称	講義等の内容		備考
基 礎 科 目 群	ス ポ ー ツ 科	生涯スポーツ実習 B	【フィットネスエクササイズ】「健康」について実践と理論の両方から同時進行で学習する。エアロビックダンス・ステップ台を使ったステップエアロ・筋コンディショニング運動（自重を使ったトレーニング）・バランスボール・パワーヨガ・ストレッチなどの身体作りや調整の方法をわかりやすく学習していく。	
		生涯スポーツ実習 B	【サロンフットボール】毎回、異なる鬼ごっこなどのウォーミングアップからスタートし、授業ごとのテーマに沿った練習を2種目ほど行う。テーマ習得が自然と行えるような練習を行なっていく。授業後半は必ずゲームを行い、テーマの確認をしてもらう。	
		生涯スポーツ実習 B	【バスケットボール】バスケットボールは走る、跳ぶ、投げるといった運動を含み、瞬発力、持久力を必要とするスポーツである。スポーツの基本的な動作を多く含んだバスケットボールを通じて、様々な身体活動を行い、生涯スポーツに取り組む動機付けと位置付ける。個人的な技術の向上だけでなく、チームスポーツを通して協調性の向上や戦術を理解することで相手の行動を先読みする精神的な充実を目標とする。	
		生涯スポーツ実習 B	【バドミントン】バドミントン競技は、トップ選手では初速が時速400kmを越えるハードなスポーツである一方、地域レベルでは競技人口も増え老若男女楽しめる生涯スポーツとなっている。バドミントン競技を通じて健康と運動の関わり合いを理解し、生涯スポーツへの動機づけの機会と位置付ける。ラケットの握り方から基本ストローク及びルールを習得し、ゲーム形式の実践を繰り返し、各種目の競技形態や競技特性を理解する。	
		生涯スポーツ実習 B	【ボウリング】ゲーム中心の指導アプローチにより、「ゲームを通してゲームでゲームがうまくなる」ようにしていく。また、技能の違い、ゲームの状況判断能力の違いを超え、様々な集団でゲームを楽しむことができるように工夫していく。さらに、授業内で学んだことがいろいろなスポーツ種目に使える力になっていくことができるように配慮していく。 生涯にわたって運動に親しむための「運動とかかわる力」を育成していくことを目指す。授業を通しながら、性別、年齢、体力の違いを超えて運動実践を楽しく行うことができるようになっていくことが目標である。	
		体育(講義)	高等学校までの保健体育の学習を基礎として、生涯を健康に生きるために必要な人間の身体特性について、様々な角度から学習する。健康の柱である運動・休養・栄養や身体の特長について科学的理論に基づいた幅広い教養を身につけることで、自身の健康だけでなく、まわり（社会）の健康についても、積極的に働きかけるような人になることを期待する。	
	キリスト教関連科目	聖書の世界 A	毎回、聖書の中から特に興味深く重要なテーマを、具体的な人物や出来事に即して考えていく。それらの人物の生きざまから、そこに込められている教え（とくに、人間の価値について）を学ぶ。また、それらの出来事が私たちとかかわりない遠い昔の話ではなく、今日的意義を持つことを考える。 これらと並行して、聖書の、地理的な・歴史的な・文化的な背景を説明する。主に旧約聖書の人物と出来事を学ぶ。	

授 業 科 目 の 概 要			
(人文学部児童学科)			
科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎 			

授 業 科 目 の 概 要				
(人文学部児童学科)				
科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
基 礎 科 目 群	キ リ ス ト 教	キリスト教と国際社会 A	国際社会と民主主義のあり方を多面的に規定してきたキリスト教思想のダイナミックな相貌について学ぶ。テキストおよび映像資料をもとに、キリスト教が植民地主義、民族解放運動、公民権運動、反差別運動とかかわってきた歴史について学習し、現代文化におけるキリスト教の意味について考えていく。	
		キリスト教と国際社会 B	現代の国際社会と民主主義のあり方を多面的に規定してきたキリスト教思想のダイナミックな相貌について学ぶ。テキストおよび映像資料をもとに、キリスト教が植民地主義、民族解放運動、公民権運動、反差別運動とかかわってきた歴史について学習し、現代文化におけるキリスト教の意味について考えていく。	
	ス ト 教	キリスト教と日本社会 A	1年次でのキリスト教概論の内容をふまえ、キリスト教の日本社会に対する影響や貢献について、時代背景も鑑みながら具体的な人物・事項に即して学ぶ。キリスト教の日本社会に対する影響や貢献について理解を深めるとともに、この学びを手がかりとして広く宗教と社会との関連についても自ら考えることを目指す。	
		キリスト教と日本社会 B	1年次でのキリスト教概論の内容をふまえ、キリスト教の日本社会に対する影響や貢献について、時代背景も鑑みながら具体的な人物・事項に即して学ぶ。キリスト教の日本社会に対する影響や貢献について理解を深めるとともに、この学びを手がかりとして広く宗教と社会との関連についても自ら考えることを目指す。	
	関 連 科 目	キリスト教とアジア文化 A	本講義では欧米文化を歴史的背景とするキリスト教が、アジアの地に伝来してどのような展開をしたか、共に確認していきたい。世界中の往来が活発化する現代においては、文化的背景を異にする隣人への理解と共生が重要な課題となっている。「キリスト教とアジア文化」を切り口としてこの現代的課題を考え、取り組む力を養う。	
		キリスト教とアジア文化 B	本講義では、東アジアの近現代史と関連させながら、キリスト教会から社会への影響、また社会からキリスト教会への影響を考える。世界中の往来が活発化する現代においては、文化的背景を異にする隣人への理解と共生が重要な課題となっている。「キリスト教とアジア文化」を切り口としてこの現代的課題を考え、取り組む力を養う。	
	目	キリスト教と自然科学 A	自然のさまざまな法則を探究しようとする科学は、そもそも自然世界をどのように眺め、理解し、その法則性を見つけ出そうとしているのか。その一方で「キリスト教」は自然世界をどのように眺め、理解しているのか。「科学」と「キリスト教」との間に、自然理解に違いはあるのか。このような問題を考えるために、本講義では自然科学とキリスト教それぞれの「自然観」を明らかにし、両者の歴史的な関係も見えていく。そこから科学とはそもそもどのような知的な営為なのか、またそれに対してキリスト教はどのような関係にあるかを考えていく。	

授 業 科 目 の 概 要				
(人文学部児童学科)				
科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
基 礎 科 教 育 目 群	キ リ ス ト 教	キリスト教と自然科学B	キリスト教と自然科学はしばしば対立するものと考えられている。キリスト教信仰の「誤り」を否定し、教会の権威に「勝利」することによって、自然科学は成立したと言われている。また、16・17世紀の「科学者」ガリレオ・ガリレイは、「それでも地球は回っている」と言って、地動説を認めないキリスト教会と対立したと考えられている。 このようなキリスト教と科学の対立という見方は、ガリレオより数世紀後の19世紀後半に生まれたものである。このことを自然科学の歴史を振り返ることによって学ぶ。特に近代科学が生まれたとされる「科学革命」の時代、キリスト教の信仰と、自然にかんする学問（自然科学）は調和的な関係にあったこと、ガリレオら当時の自然哲学者（自然科学者）は、信仰と学問の一致を追求していたことを学ぶ。後半では、現代の自然科学（医学）の考え方と、キリスト教の信仰の関係を学ぶ。	
		キリスト教と音楽A	聖書の言葉が音楽でどのように表現されているかを多面的な視点で学び、聖書の言葉を受け継いできた教会の信仰について理解を深める。本講義では、旧約聖書に基づいて作曲されたキリスト教合唱曲を中心として、聖書の言葉の解釈・作曲家の信仰・各作品の時代背景の3つの視点から論じつつ、CDによって作品に耳を傾ける。	
	キ リ ス ト 教	キリスト教と音楽B	聖書の言葉が音楽でどのように表現されているかを多面的な視点で学び、聖書の言葉を受け継いできた教会の信仰について理解を深める。本講義では、新約聖書に基づいて作曲されたキリスト教合唱曲を中心として、聖書の言葉の解釈・作曲家の信仰・各作品の時代背景の3つの視点から論じつつ、CDによって作品に耳を傾ける。	
		キリスト教音楽史A	キリスト教音楽の歴史を、背景の文化も含めて広い視点で学び、聖書の言葉を受け継いできた教会の信仰について理解を深める。本講義では、キリスト教音楽のルーツであるユダヤ教音楽から宗教改革時代までの教会音楽について、聖書解釈と作品の時代背景から論じつつ作品に耳を傾ける。聖書と音楽史との関わりをふまえて音楽を理解することを目的とする。	
	関 連 科 目	キリスト教音楽史B	キリスト教音楽の歴史を、背景の文化も含めて広い視点で学び、聖書の言葉を受け継いできた教会の信仰について理解を深める。本講義では、宗教改革から現代までのキリスト教合唱作品を中心に、教会の歴史・作曲家の信仰・各作品の時代背景の3つの視点から論じつつ、CDによって作品に耳を傾ける。	
		キリスト教と美術A	民族と宗教と美術の関係を通し、美術の何たるかを考える。イタリア、トルコ等で収集した資料を加え、聖書の世界を旅する。本講義は、教養としてのキリスト教美術に関する知識を広く修得することを目指す。	
	群 目	キリスト教と美術B	「キリスト教と美術A」に引き続き、欧州中世から北方ルネサンスまでのキリスト教造形芸術の図像と歴史を学ぶ。本講義では、キリスト教関連科目のひとつであり、教養としてのキリスト教美術に関する知識を広く修得することを目指す。	
		キリスト教と福祉活動の実 際A	キリスト教は「神を愛すること」と「隣人を自分のように愛すること」を最も大切にしてきた。キリスト教会が隣人援助的に社会とかかわってきた歴史を学ぶことによって、今日の社会福祉やボランティア活動の基礎が築かれてきたことを学ぶ。	

授 業 科 目 の 概 要				
(人文学部児童学科)				
科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
基 礎 目	キ リ ス ト 教 関 連 科 目	キリスト教と福祉活動の実 際B	「他者のこころを聞く」ための基本的方法を学び、それぞれのケースにおける基本的な関わり方を学ぶ。 キリスト教会が継承してきた「他者援助」の中で、「聞く」という援助の方法の大切さを知り、それを社会生活の中で活かせるように基本的な方法を身に着ける。	
		キリスト教カウンセリング 論	現代社会の病理や、心理療法的な考え方を学び、そうした心理カウンセリングの営みとキリスト教の人間観がどのようにつながるのかを理解する。	
		キリスト教と心のケア	本講義では、「心のケア」とは何か、それとキリスト教はどう関係し、どう取り扱っていくべきなのかを見ていく。社会的にも「カウンセリング」「心のケア」の重要性が取り上げられることが多いが、その中には間違った情報や歪曲された考え方も多いのが現状である。この授業はカウンセラーになることを目的としたものではなく、心のケアに関して正しい基礎知識を持つことを目標とする。また、キリスト教的視点から「心のケア」をどう考え、実践していけばいいのかを検証していく。	
科 目 群	キ ヤ リ ア 教 育 科 目	時事問題演習	新聞やテレビなどで報道されるニュースを読み解くための「時事力」を、ニュース時事能力検定（ニュース検定）の公式教材を主に用いながら身につけていく。 検定試験の問題の出題形式には、「政治」「経済」「暮らし」「社会・環境」「国際」の5つの類型が存在する。それぞれの分野に応じた教材の読解と公式問題集の演習を行い、解説を付していくことで総合的な現代社会への理解力を高めていく。	
		図表理解	本演習は、就職活動の際に、そして専門科目を理解する際にも必要となる基本的な数学的な力を習得することを目的としている。 そのため、①まずは高校までの数学をしっかり復習し、②その都度、それを就職試験の問題（SPIや公務員試験など）の解き方につなげていく。③そして、それらを踏まえて、他の授業の理解や卒業研究にとっても有効なツールとなる統計的図表の取り扱い方の基本を、実際の社会統計に触れながら学ぶ。	
		キャリアデザインA	学生が、自分の生き方、働き方などを設計できるように、自分のキャリアをデザインする際に必要となる考え方と思考方法について学ぶ。 この科目で扱う自己の興味関心や適性、日本の社会構造や職業、社会が求める能力や技能に対する理解などのテーマは、大学卒業後に社会で活躍するため基礎的な事柄である。	
		キャリアデザインB	「キャリアデザインA」で学んだ自己理解・職業理解・ビジネスシーンに必要な基礎的能力などの理解を踏まえながら、内容を一步深めていく。さらに、大学（教育）から職場（社会）へのキャリアチェンジに向けた準備活動というキャリア教育の観点も加味し、より実践的な内容を学んでいく。社会で行われていることと大学で学んでいることを関連づけて考えるための方策を示し、社会を視る目を養成する。	
		ビジネス・ライティング	大学のレポート、卒論等とは異なるルールや用語も多い、ビジネスの現場で作成される文書に特化した『書き方』を磨くことを目的とする。この科目の修了後には、ビジネス文書検定2級（or 文章検定2級）の合格レベルに達することを目指す。	

授 業 科 目 の 概 要				
(人文学部児童学科)				
科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
基 礎 科 目 群	キ ヤ	ビジネス・コミュニケーション	就職活動や就職後のビジネス現場を想定して、それぞれの場が持つ特性を理解し、特性に即したコミュニケーション・スキルのトレーニングを行う。この科目の修了後には、就職活動や就職後に遭遇するさまざまな対人コミュニケーションの現場に自信を持って臨めるようになることを目指す。	
		ビジネス・プレゼンテーション	社会人となりビジネスの現場に入ったときに必要とされるプレゼンテーション能力を身につけるための、実践的なトレーニングを行う。ビジネス世界で必須のパワーポイントなど視覚的資料を用いたプレゼンテーション方法も学ぶ。	
	リ ア	業界・企業研究	本講義では、自分自身の卒業後の進路を考えること、また、就職活動において望む結果を得ること、そのために役立つ業界・企業研究の方法を学んでいく。 現在、日本国内だけでも多くの企業が存在しており、そのすべてを詳細に理解することは実質的に不可能である。ただ、業界・企業を理解するためのポイントはある。そうしたポイントをひとつひとつ学んでいく。事業内容の理解、職種の理解から、より踏み込んだ企業の特徴までをワークを通して学んでいく。また、社会人へのインタビューや実際に業界・企業研究を行うことを通して、自分自身で業界・企業研究ができることを目指す。	
		インターンシップⅠ(事前学習)	本講義はインターンシップ実習の事前学習の講座である。インターンシップに参加することで何が得られるのか、また、就職活動とインターンシップの関係など、インターンシップに参加することの意義をまず確認する。そのうえで、インターンシップを充実したものにするために必要な準備を行なっていく。実習先を決めるための準備として必要な、自己理解と業界・企業理解。これらは自分自身の将来設計にも直結する。また、実習にのぞむにあたって必要なビジネスマナーやコミュニケーションについても学ぶ。	
	育 科	インターンシップⅡ(実習)	本授業は民間企業、NPO、自治体等において10日以上の実務実習を行うプログラムである。この授業を選択する場合は、「インターンシップⅠ(事前学習)」の単位修得が前提となる。	
		海外インターンシップA	本科目は、海外企業における実務研修、現地家庭でのホームステイを通じて、国際ビジネス・企業活動に対する理解を深め、異文化適応力を高めるプログラムである。実務研修に必要な英語研修を含むプログラムもある。研修企業、国・地域、実習期間、費用の異なる複数プログラムのなかから、学生のニーズに合ったものを選択できる。 120時間以上（事前・事後指導を含む）の研修を行った場合、学科の審査により、4単位が認定される。	
	目	海外インターンシップB	本科目は、海外企業における実務研修、現地家庭でのホームステイを通じて、国際ビジネス・企業活動に対する理解を深め、異文化適応力を高めるプログラムである。実務研修に必要な英語研修を含むプログラムもある。研修企業、国・地域、実習期間、費用の異なる複数プログラムのなかから、学生のニーズに合ったものを選択できる。 120時間以上（事前・事後指導を含む）の研修を行った場合、学科の審査により、4単位が認定される。	

授 業 科 目 の 概 要				
(人文学部児童学科)				
科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
基	キャリア教育科目	海外インターンシップC	本科目は、海外企業における実務研修、現地家庭でのホームステイを通じて、国際ビジネス・企業活動に対する理解を深め、異文化適応力を高めるプログラムである。実務研修に必要な英語研修を含むプログラムもある。研修企業、国・地域、実習期間、費用の異なる複数プログラムのなかから、学生のニーズに合ったものを選択できる。60時間以上（事前・事後指導を含む）の研修を行った場合、学科の審査により、2単位が認定される。	
		海外インターンシップD	本科目は、海外企業における実務研修、現地家庭でのホームステイを通じて、国際ビジネス・企業活動に対する理解を深め、異文化適応力を高めるプログラムである。実務研修に必要な英語研修を含むプログラムもある。研修企業、国・地域、実習期間、費用の異なる複数プログラムのなかから、学生のニーズに合ったものを選択できる。30時間以上（事前・事後指導を含む）の研修を行った場合、学科の審査により、1単位が認定される。	
科	の	日本国憲法	教養科目・教職科目としての役割に鑑み、日本国憲法全体を総花的に取り上げるのではなく、「人権総論」と「平和主義」（条文でいえば前文および9～14条）に重点を置いて講義を行う。また、条文の細かい解釈にこだわるのではなく、現代日本（と世界）を考える手がかりとしての憲法にこだわりたい。 憲法の条文は、他の法律の条文と比べるとはるかに読みやすいが、それだけに一読しただけでは具体的に何が言いたいのかわかりにくいものである。本講義では、こういった憲法のわかりにくさに配慮して、できるだけ最近の具体的な事例を挙げつつ、その内容について平易に解説する。	
		Special Lecture Series	This is a flexible course, with a variety of topics related to Japan and Japanese culture being taught. The course is primarily a survey of key aspects of Japanese history, anthropology, religion, and culture. The course is designed specifically for exchange students, but it is also available as an elective to regular students whose English level is adequate. 本講義は、日本と日本文化に関する様々な話題について学ぶ選択科目である。主に日本の歴史、人類学、宗教、文化の重要項目について概説を行う。 本講義は交換留学生用の科目であるが、十分な英語能力のある正規生も履修可能である。	
	群	地元学	「地元学」は、地域とは何か、地域に住むとはどのような関係性の中で暮らすことなのか、そこには大学の学びの専門性とどのようなかわりがあるのか、といった基礎知識と理解をすることを目的とする。そのため、講義及び実際にこの周辺を歩いて学ぶ。実際にフィールドワークを行い、その成果をまとめ、発表するといった流れで、アクティブラーニングを主体とする。	
		宮原地域学	地域社会には、幅広い年齢層の人々が多様な考え方をもち、それぞれの暮らし方を営んでいる。地域での暮らしをより良くするには、居住者ばかりではなく、地域で働き、学ぶ人たちも協力する必要がある。本学に接する宮原地域では、約20年間にわたり、イベント開催や地域調査などを、地域の方々と学生がともに取り組んできた。本講義では、地元のさいたま北商工協同組合の協力を得て、宮原地区の概要を学ぶとともに宮原地域をより良くするための方策を考える。	
		釜石学	2011年の東日本大震災で、東北は大きな被害を受けた。東北は、歴史的にも数度の地震やそれに伴う津波による被害を受けながらも、そのたびに立ち上がり、今日を迎えている。それには、東北の持つ風土的な特性があり、そこに暮らす人々の精神性が深く関係していると言われる。そうした東北の中でも、本学と関係を深めてきている釜石市とその周辺を取り上げる。釜石市は、他方ではラグビーの町としてグローバル的な地域でもある。本学の掲げる「グローカル」な場としてのモデルとして考えていく。「東北に生きる」ということを通じて「地域で生きる」ということはどういうことかを、考えてみたい。	

授 業 科 目 の 概 要				
(人文学部児童学科)				
科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
基 礎 科 目 の 他 群	そ の	コミュニティサービスラーニングⅠ	本講義は、別に開講するコミュニティサービスラーニングⅡ（CSLⅡ）の準備を目的としている。CSLⅡは、学生一人ひとりが社会 貢献活動に参加し、事前学習、ふりかえり、レポート作成、発表などを通じて、学びとしていく科目であり、本講義では、そのための準備として、講義・実習を行う。	
		コミュニティサービスラーニングⅡ	受講者一人ひとりが自らの関心と適性に応じた地域での活動に参加し、そこで得た学びと気づきをふりかえり、社会と自分との新たな関係を築く第一歩とする。 ・活動への参加。日々の活動の記録を提出する ・活動中、専任の教員が、必要に応じて実際の活動のサポートを行うと共に必要に応じて「個別面接（中間ふりかえり）」を行う ・活動終了後に「リフレクション（ふりかえり）」を行う（面接） ・リフレクションをもとに、レポート作成と報告会で発表をする。	
		被災地支援・インターンシップA	この科目の履修を希望する学生は、ボランティア活動支援センターに申請書を提出し、事前指導を受けた上で、被災地におけるボランティア活動または自治体・企業・NPO等におけるインターンシップを行う。事後指導を受けた上で、担当教員に活動報告を提出する。120時間以上（事前・事後指導を含む）の活動を行った場合、学科の審査により、4単位が認定される。	
		被災地支援・インターンシップB	この科目の履修を希望する学生は、ボランティア活動支援センターに申請書を提出し、事前指導を受けた上で、被災地におけるボランティア活動または自治体・企業・NPO等におけるインターンシップを行う。事後指導を受けた上で、担当教員に活動報告を提出する。60時間以上（事前・事後指導を含む）の活動を行った場合、学科の審査により、2単位が認定される。	
		被災地支援・インターンシップC	この科目の履修を希望する学生は、ボランティア活動支援センターに申請書を提出し、事前指導を受けた上で、被災地におけるボランティア活動または自治体・企業・NPO等におけるインターンシップを行う。事後指導を受けた上で、担当教員に活動報告を提出する。30時間以上（事前・事後指導を含む）の活動を行った場合、学科の審査により、1単位が認定される。	
		アメリカ文化演習A	カリキュラムは、授業と課外活動を選択して参加しアメリカ文化・歴史を学ぶよう編成されている。 この科目は実際に海外に赴き、授業及び生活をとおして異文化交流を体験し、英語でその国の文化、歴史を学び、異文化対応力をつけることを目的とする。	
		アメリカ文化演習B	カリキュラムは、授業と課外活動を選択して参加しアメリカ文化・歴史を学ぶよう編成されている。 この科目は実際に海外に赴き、授業及び生活をとおして異文化交流を体験し、英語でその国の文化、歴史を学び、異文化対応力をつけることを目的とする。	
		オーストラリア文化演習	Deakin University（認定校） ビクトリア州メルボルンを中心に5つのキャンパスを擁するディーキン大学の附置機関Deakin University English Language Instituteの協力によって英語を集中して学ぶカリキュラムを編成している。この科目は実際に海外に赴き、授業及び生活をとおして異文化交流を体験する英語特別トレーニング研修である。	

授 業 科 目 の 概 要				
(人文学部児童学科)				
科目	授業科目の名称		講義等の内容	備考
基礎 科 目 群	そ の 他	カナダ文化演習	University of Victoria (認定校) ブリティッシュ・コロンビア州の首都であるビクトリア市に広大な キャンパスを擁するビクトリア大学の附置機関University of Victoria English Language Centreの協力によってカナダの社会と文 化をテーマにしたカリキュラムを編成している。この科目は実際に海 外に赴き、授業及び生活をとおりて異文化交流を体験し、英語でカナ ダ文化・歴史について学ぶ。	
教 養 科 目 群	人 間 理 解 へ の 基 盤	哲学	哲学は、考えることの大切さを教えてくれる学問である。しかし、受 身の姿勢で接していても哲学は何も教えてくれない。自分の頭で考 え、主体的に哲学することなくして、豊かな学びは得られない。本講 義では、近代以降の哲学史の流れを、実際に哲学者が語ったテキスト を通じて丹念にたどり、ともに考えながら、なるべくわかりやすく解 説していく。	
		欧米文学	主にヨーロッパの作家とその作品を紹介していく。本講義では、映画 化や舞台化されている文学作品を選び、その作者の考えや時代背景、 また映画との違いなどを見ながら、文学に慣れ親しんでいく。	
		言語学	英語は、多くの日本人にとってもっとも身近な外国語である。しか し、英語はもともとブリテン島にやってきたゲルマン系部族の弱小な 方言に過ぎず、世界語に発展するまでの過程には、歴史的変遷に伴う 多くの変化が起きた。16Cに現代英語 (PDE) に近い初期近代英語 (EModE) が成立し、現代でも普通に用いられる最も古い英語訳聖書で ある欽定訳聖書は、初期近代英語による傑出した作品である。本講義 では、BBC製作の日本語版DVDを楽しみながら、やさしい英語に書き直 された教科書を読み進めていく。英国の風景をパワーポイントで楽し みながら、楽しく英語の歴史を紹介したい。	
	文 学 の 基 盤	文学	文学作品とは、人間の普遍的な精神活動を基盤として、政治のあり方 や人々の暮らしなどの、社会的背景が深く関わって成り立つものでは ある。とすれば、日本の古典文学に触れることを通して、日本の社会の あり方によって今とは異なるもの、反対に、何百年経っても変わらない ものがわかるだろう。日本を知るために、文学作品を系統的に辿っ てみたい。原文そのものに触れて、当時の人々の思想や暮らしに思い を馳せてみよう。現在の日本や日本人を考える時、日本の古典文学を 知ることは、様々な価値観を相対化するための一つの物差しとなるは ずである。	
		文化学	2011年の東日本大震災で、秩序を保ち忍耐を持ってみんなのために尽 くす日本人の人々の姿は海外で絶賛された。私たちは長いこと忘れてい た日本人らしさを再認識したように思う。本講義では、当たり前のよう にまわりにある日本のよき文化について、言葉・文字という観点から 考える。後半は「和本」といわれる昔の書物を実際に手にとってみ たり、出版の仕組みについてもふれてみたい。	
		西洋史	本講義は、欧米文化を学ぶ上で基礎となる西洋史の基本的な事象をそ れに関連する芸術、文学、文化等の分野にも言及しつつ学習する。授 業で扱った事項について、自分で分析し、必要な評価を下せるよう に、授業ごとに考えたことや疑問点を書いてもらう。	
	学 ぶ	日本史	本講義では、幕末から敗戦までの約100年間の歴史を、できるだけ 面白くわかりやすく解説する。政治史を中心に、中国・朝鮮との関係 や思想家の言説についても詳しく触れる。	

授 業 科 目 の 概 要				
(人文学部児童学科)				
科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
教 養 科 目 群 学 ぶ	人間理解への基盤を学ぶ	異文化コミュニケーション	わたしたちの日常には異質なもの（＝他者）との出会いであふれている。本講義では、多様な映像資料やテキストをもとに、異質性などのような関係を築いていくかという視点から現代文化のダイナミズムについて学習する。	
	社	政治学	政治学の入門として政治学の基礎を学ぶ。本講義では、政治学の中心となっている制度論によって、各政治分野について実際にどのようなことが行われているのかを解説していく。教科書と参考書にそって、授業を進めていくが、国際政治学の分野における極めて基礎的な部分も含めて解説する。	
	会	経済学	経済学とは、個人、企業、政府などさまざまな組織が、どのように選択を行い、その選択によって社会の資源がどのように使われるかを研究する学問のことである。経済学について学ぶ前に、トレードオフ、インセンティブ、交換、情報、分配、といった概念を知っておく必要があり、まずは経済学で使われる概念と経済学的な思考をきちんと身に付け、経済学の基礎を学んでゆく。	
	理	法学	人は一生の間に、家庭や職場でいろいろな役割を担う。それぞれの場面で、様々な法律が特徴のある仕方で、かかわってくる。前半は、こうして次々と遭遇する法律を素材として、法のいろいろな働きを見ていき、後半は、基本六法のそれぞれのまとまりの中に位置づけて、前半で取り扱ったテーマを振り返る。最後のまとめは「答え」ではなく、法とは何かという「問い」をもってしめくくる。	
	解	社会学	社会問題を解釈するための方法論ないし理論枠組みとしての社会学の内容を概観していく。授業では、教科書の内容を、雑誌記事や、テレビドラマ、映画、ニュース番組などの映像を補助資料として用い、日常生活における身近な現象がいかに社会学のテーマとして取り上げられ、どのように社会学の対象領域として説明されるかについて解説していく。	
	の	障害児(者)の理解と社会	今日、共生社会の形成が求められており、その実現に向けて、障害者の権利条約の批准について障害者の諸制度改革が行われている。今後の共生社会の形成を目指して、一層の視野を拓げるために、障害者の社会生活を直視し、その諸問題を明らかにしながら、共生社会のあるべき姿を考える。	
	基	福祉環境学	私たちは、それぞれに趣味や生きがいを持ち、様々な製品やサービス、情報、建物や交通機関などを利用しながら毎日を過ごしている。しかし、それらを利用した時に不便に感じた経験も少なくない。その悩みは、障がいを持つ人や高齢の人も全く同じである。本講義では、高齢者や障がいを持つ人に限らず、誰にでも便利で快適な環境を実現するための具体的な改善手法に関して考察を重ねてゆく。	
	盤	社会福祉概論	本授業では、「社会福祉」を全般的に学ぶ。一口に「社会福祉」といっても、その範囲は非常に広い。授業においては、まず一般的な社会福祉を理解する視点を学び、理念、歴史、思想、制度といった基礎的な内容を学ぶ。その後に、対象者や社会問題ごとのテーマを取り上げ、支援の現状について具体的な理解を深める。	

授 業 科 目 の 概 要				
(人文学部児童学科)				
科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
教 養 科 目 群	社会理解への基盤を学ぶ 情報と社会	本講義ではマス・メディアと社会変容について学習する。文献、記事、映像など多様な資料をとおして、社会と情報のあり方についての歴史的な知識を習得し、社会変容にダイナミックに関わるマス・メディアの諸側面について考えていく。		
	自然環境学	大学生が生まれた頃から現在まで、つまり大学生の平均年齢に相当する約20年間の間に私たちの地球の生命圏の環境は、急速に悪化し、この間日本列島の約6倍の面積の熱帯の森林が失われ、中国の耕地面積に相当する陸地が砂漠化した。 今日、世界的規模での最大の問題は、環境の急激な悪化による生命圏(生態圏)の全的壊滅の危険、すなわち地球環境問題である。かつては環境問題の問題意識の中心は産業公害だったが、現在ではこの問題は国境を突破した生命圏全体の存続を懸けた「地球環境問題」であり、いわゆる汚染・公害問題はその一部として意識されている。この科目では「ヒトと環境」が相互に影響し呼応し合うシステム〔人間－環境〕系を理解し、主に「ヒトと森林の関係」を例にとりて考える。		
	民俗環境論	わたしたちの生活は、昔から環境に影響されながらも、同時に環境を利用しながら営まれている。長らく日本人の生活は、自然の恵みを、海山里の各環境から得て、それを活かす方向で営まれてきた。民俗ではそれらは「生活の知恵」として伝承されている。 本講義では、環境というものを、そうした人々の生活の面からとらえ直す。それは、当たり前のように思われている環境の価値の再発見をすることが目標である。そうして、なぜ環境は守られねばならないか、といった問題意識まで深めたい。		
	基盤を学ぶ 職業人生と健康	「自分で自分の健康の面倒をみていく」考え方や方法を学ぶ科目である。 大学卒業後、ほとんどの人が「職業人生(働く)」をスタートさせる。大学院やその他学習機関に進んだとしても、その先では「職業人生」が始まる。 「職業人生」を歩んでいくと、うれしいこともあれば困ることもあり、様々なことに遭遇し刺激を受ける。どんなにハードな仕事の日々でも、健康を害することなどまったくなくイキイキと楽しく働いているときには、「自分が変化し、成長している」と実感することがある。その一方で、学生時代と異なり、これまで経験してきた人間関係や環境からより大きく広がった「働く社会」には正解はなく、初めて体験することばかりで戸惑いが続き、疲れて心身のバランスを崩すこともあるだろう。そんなとき、自分を労わることを忘れてはならない。 「職業人生」に費やす時間は長いからこそ、健康で過ごしたいものである。「自分なりの元気」で居続けるための方法を修得する。		
	教養としての数学	本講義は公務員試験やSPI試験の前提となる基礎学力を身に付けることを目標とする。 講義の中で大学教養数学の基本を学び、実際に問題を解きながら理解を深めていく。 問題を数多くこなすだけではなく、確実にできる問題を増やしていく。		

授 業 科 目 の 概 要				
(人文学部児童学科)				
科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専 門 科 目	共 通	キリスト教文化論 A	宗教一般についての基本的な知識を身に付け、特に、キリスト教と文化との関連について学ぶ。具体的には、世界の様々な地域・領域で、キリスト教が文化形成に貢献してきた歴史上の事実を知り、キリスト教の世界観が政治体制と市民の生活や文化にどのように影響を及ぼしたかについて理解する。	
		キリスト教文化論 B	キリスト教神学は、欧米文化のみならず日本文化の深層からの理解にも資するものである。このことを踏まえ、キリスト教神学思想についての基礎的理解を得ることによって、神学や哲学についての文献や議論にある程度対応できるようになる力を身に付け、抽象的な問題にも自ら積極的に挑む姿勢を醸成する。特に、人格・人権思想へのキリスト教の貢献について学ぶ。	
		児童学概論	児童学の様々な領域の成果に直接学ぶことを通して、子どもに学問的なまなざしを向け、子どもを研究の対象として捉えることの意義を理解し、その具体的な視点と方法を学ぶ。子どもをめぐる様々な場面での子どもと大人の関わりについて考察し、大学の教育課程における様々な授業での児童学の学びにつながる関心と学修意欲を養う。	
	基 本	言葉の基礎	子どもに関わる専門職に就くための言語活動の基礎力を身に付ける。「学校インターンシップ（基礎）」等を念頭におき、実践練習を行うことで、実習生調書や実習日誌を書くために求められる基本的な語彙力・文章力と、幅広く知識を獲得するために必要な調査能力と情報リテラシー、自分自身の持ち味を肯定的に自覚しそれを表現する力とともに、他者とながり他者に伝えるコミュニケーション力を身につけることを目指して、様々な実践練習を行う。「子どものよき理解者」となり、また「良き社会人」となるために必要な教養、表現力を磨く。	
		教職演習 A	教職課程の学修の上に、小学校の教員になるために必要な力を積み上げる。社会科の専門的研究及び傾向対策研究を行うことを通して、教職に就くための基本的な知識を確立し、応用的な思考力を磨く。将来、教員になる上で、社会科指導における基礎・基本を確実に身に付け、社会科の現代的な課題に向き合える実践的な指導力の向上を図る。	
		教職演習 B	教職課程の学修の上に、小学校の教員になるために必要な力を積み上げる。算数・数学の演習課題に取り組み小学校教員として必要な算数・数学の専門知識を確立することを通して、条件整理の上で筋道を立てた数学的な思考力の醸成を図る。	
	群 目	教職演習 C	教職課程の学修の上に、小学校の教員になるために必要な力を積み上げる。小学校教員として必要な国語科の学力向上と、「授業づくり」について応用的・実践的に学び、授業力向上を目指す。将来、教員になる上で、国語科指導における基礎・基本を確実に身に付け、国語科の現代的な課題に向き合える実践的な指導力の向上を図るとともに、教員の資質や適性を高めることを目標とする。	
		教職演習 D	教職課程の学修の上に、小学校の教員になるために必要な力を積み上げる。小学校教員として必要な教職教養としての教育心理学の知識を整理し、教育心理学的知見の体系的に理解する。将来、教員になる上で応用できる教育心理学の基礎・基本を確実に身に付け、現代の学校現場における教育心理学的な課題に向き合える実践的な指導力の向上を図る。	
		教職演習 E	教職課程の学修の上に、小学校の教員になるために必要な力を積み上げる。小学校教員として必要な算数・数学の専門知識を確認するとともに、教育実習に向けた指導案の作成・教材解釈や教具の工夫、授業展開の方法等を実践的に学ぶことで、授業力向上を目指す。将来、教員になる上で、算数科指導における基礎・基本を確実に身に付け、算数科の現代的な課題に向き合える実践的な指導力の向上を図る。	

授 業 科 目 の 概 要				
(人文学部児童学科)				
科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専 門 科 目	共通	教職演習 F	教職課程の学修の上に、小学校の教員になるために必要な力を積み上げる。小学校教員として必要な理科の専門知識・技能並びに資質・能力をいかに学び、修得してきたかを点検・確認する。将来、教員になる上で、理科指導における基礎・基本を確実に身に付け、理科の現代的な課題に向き合える実践的な指導力の向上を図る。	
	共通	教職演習 G	教職課程の学修の上に、小学校の教員になるために必要な力を積み上げる。面接、論文・課題作文、模擬授業といった教員採用試験の課題に取り組むことを通して、小学校教員として必要な所作や言葉遣い、マナーを身に付け、教員としての姿勢や誠実な自己表現力を磨く。	
	基本	教職演習(小学校英語 A)	教職課程の学修の上に、小学校の教員になるために必要な力を積み上げる。小学校教員として必要な英語の基礎力向上と、「授業づくり」について応用的・実践的に学び、指導力向上を目指す。将来、教員になる上で、小学校英語の指導における基礎・基本を確実に身に付け、小学校英語の現代的な課題に向き合える実践的な指導力の向上を図るとともに、教員の資質や適性を高めることを目標とする。	
	科目	教職演習(小学校英語 B)	教職課程の学修の上に、小学校の教員になるために必要な力を積み上げる。小学校英語の理論を深め実践を学びながら、コミュニケーション能力の素地を磨く。児童のための英語教育のあり方を考えながら、歌、チャンツ、絵本の指導法を体得し、現場で率先して実践できる力を身につける。	
	科目	児童学海外研修	オーストラリア、アデレードのフリンダース大学において、児童学科のための独自のプログラムで研修を行うことを通して、保育所・幼稚園から小学校までのオーストラリアの保育・教育を体験的に学ぶ。あわせて、幼い子どもを持つ家庭にホームステイをし、オーストラリアの子どもたちの育ちと子どものいる家庭の暮らしや文化を、生活を共にする中で実践的に学ぶ。	
	児童文化系統	児童文化論	子どもを取り巻く文化的環境を様々な観点から学ぶ。子どもにとっての遊びや遊び空間の意味と役割を知り、じゃんけん・つながり遊び・おいかけっこ等を体験しながら遊びこみを学ぶ。絵本・紙芝居・折り紙・人形等の児童文化財にふれ、子どもとモノの関わり、子どもと物語の出会い、環境の変化による子ども文化の変化等を探ることで、子どもと社会の関わりを考える視点を養う。 (オムニバス方式/全15回) (6. 田澤薫/8回) 子どもの世界をのぞく視点、子どもとモノと遊び(1) おもちゃ/ (2) 人形、伝承文化と子ども～年中行事と生育儀礼、子どもとことば(1) わらべうた、子どもとことば(2) 紙芝居、子どもとことば(3) 絵本とおはなし、総括 遊びの伝承性について (11. 寺崎恵子/8回) 伝承遊びの特質、遊びと子どもの権利、遊び研究(1) ジャンケン、遊び研究(2) 呼びかける・つながる、遊び研究(3) とばす・まわる、遊び研究(4) はじく・ころがる・囲む、遊び研究(5) 追いかける・触れる・渡す、総括 遊びの伝承性について	
目		オムニバス方式		

授 業 科 目 の 概 要				
(人文学部児童学科)				
科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専 門 科 目 群	児童文化論	絵本文化を通して、子どもの感じ方の特性や大人と子どもの関係の原基を探り、子どもの世界を理解する手掛りを得る。物語世界の入口に位置する絵本の特性と意味を知り、多くの絵本作品に触れることで形成される絵本理解を軸に、子どもにとっての絵本体験の意義を理解する。この学びを通して、優れた絵本から子どもの世界を大人が汲み取るための手掛りとして、絵本を読み解く方法を身に付ける。		
	児童文学	近代の産物である児童文学の学校教育制度との関連における意味を知り、児童文学の成立と興隆を支えてきた社会的装置について理解するとともに、今日の社会の変化に伴う児童文学の位置の変容について考察する。今日なお、幼稚園・保育所・家庭で幼児に向けてよく読まれている絵本・幼年童話に多く触れ、幼児が物語世界に入りやすい読み方等を工夫する力を身に付ける。絵本・幼年童話から児童文学につながる物語世界の魅力について理解し、あわせて、幼児期における豊かな児童文学・幼年童話の経験が、保育内容の領域「言葉」「人間関係」「表現」等の育ちを直接的に支え、幼児自身の体験を超えて領域「環境」への興味関心を育むことを学ぶ。		
	英米児童文学	昔話からイギリス児童文学の始まりに至るまでの流れを知った上で、以後の児童文学に決定的な影響を与えた古典的作品の意味について学び、ファンタジーとリアリズムの果たす役割を理解する。さらには現代の児童文学の抱える諸問題に関する知識を整理しながら、英米児童文学の歴史と概要を学ぶ。		
	ファンタジー論	神話・伝説・昔話作品と通してにファンタジーの源流をたどり、魔法の生き物、ファンタジーの空間、ファンタジーの時間、異形のものたち（ヴァンパイア、人造人間、不老不死）、魔法使いと魔女など、様々な項目ごとにファンタジー作品を分析する。また、おとぎ話や児童文学を下敷きとして制作されたディズニー映画を題材に、その原作との比較を行い、ディズニー映画の人気の理由とその功罪について学ぶ。		
	おもちゃ論	子どもの遊びと深いかわりを持つおもちゃについて、その歴史を知り、自分自身の体験を振り返ることを通して、子どもの遊びにおけるおもちゃの特性・役割について学ぶ。次に、子どもたちのおもちゃ遊びの種類や変遷を知り、日本のおもちゃの歩みのみならず保育や教育に影響を及ぼした海外のおもちゃについて学ぶ。また、現代社会におけるおもちゃの特徴や課題について学び、時代が反映するおもちゃの特性を理解し、おもちゃのあり方について考える素養を身に付ける。		

授 業 科 目 の 概 要				
(人文学部児童学科)				
科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専 門 科 目 群	児童文化系統	異文化間教育	日本の保育所・幼稚園・小学校等において外国人の子どもや国際結婚家庭の子ども、海外で生まれ育った日本人の子ども等が増加している現状を知り、異文化間教育・異文化適応・異文化間コミュニケーション・多文化共生保育の意義と必要性を理解し、その理論と実践について学ぶ。さらに、外国人の子どもたち・家族とコミュニケーションをとる上で必要となる、世界の保育・教育に関する課題に取り組むことを通して、英語や多言語を用いて他者とつながる力、海外の遊びや歌を活用して子どもたちの異文化理解を広げる方法を身に付ける。	
		教育心理学	子どもの学習と発達に関する教育心理学の基礎的な知識を身に付けたいうえで、特に学ぶ主体としての子どもの視点から教育心理学的知見を整理する。簡単なデモンストレーションや調査等を含む演習を通して、保育所・幼稚園・小学校等の教育・保育の現場における課題と結び付けて考える力も身に付ける。	
		発達心理学	乳幼児・児童期を中心に、人間の生涯発達の過程とその原則についての基礎知識を習得する。運動、認知、言語、情緒、社会性等の各領域の発達機序を縦断的に理解するとともに、各年代の様相を横断的にイメージできるようにする。また、子どもの豊かで健やかな発達に関わる経験と環境、人との関係性等の要因を理解し、子どもの成長発達を促し、初期の社会生活を支える役割に必要な視点・人間観を身に付ける。	
		教育相談(カウンセリングを含む。)	教育相談及びカウンセリング(心理療法)や精神保健について基礎的な知識を身に付けるとともに、適応上の諸問題について理解する。簡単な実習や調査等を含む演習を通して、幼稚園や小学校の教育現場での活用方法について具体的にイメージできる力を身に付ける。	
	教育系統	教育原理	教育の意義と目的を理解し、人間形成や家庭・地域・社会等との関連性を理解する。教育の思想と歴史的変遷を知る。教育の制度について、教育法規やきょうく行政の基礎を理解する。教育実践事例にふれることを通して、人として生きるには教育は不可欠であることを実感し、学力や学習意欲に関する課題・子どもの生活に関する教育的ケアの必要性、あるいは、異校種間連携の課題等を理解するとともに、「教育とは何か」の問いへ向き合う姿勢と基礎知識を身に付ける。	
		キリスト教保育論	キリスト教が日本の幼児教育・保育にもたらした影響を確認した上で、キリスト教保育の基盤である聖書における人間観・イエス・キリストの生涯とその意味を知り、キリスト教保育指針(キリスト教保育連盟)についてその策定の経緯と意味内容を理解する。また、キリスト教への理解を深める過程において、保育の現場と聖書のメッセージとが、どのように関連付くのかを、実際の保育事例をもとに学ぶ。	
		教育社会学	教育に関する諸現象を、質問紙調査・聞き取り調査・統計等により、その背景にあるものを解明しようとする姿勢を身に付ける。教育に関わる課題を社会的に理解する手法を知り、研究事例等を通して自分なりに分析・考察する力を体得する。	
		学校と教育の歴史	学校と教育の歴史について、ヨーロッパの古典思想から近代の教育思想までを学び、近代の学校、とくに義務教育の成り立ちについての理解を深める。また、日本における教育思想と学校制度について学び、教育のありようがそれぞれの地域の政治・経済・文化など社会的環境に深く根ざしていることを理解することで、社会的背景を視野に入れ、教育について多様な観点から考えていく力を養う。	

授 業 科 目 の 概 要				
(人文学部児童学科)				
科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専 門 科 目	教 育 学	社会教育論 A	本講義では、まず社会教育とは何かを考える。学校が出現する以前の社会集団における人間の教育、また社会の持っている教育的感化力など人の教育が家庭や学校だけにとどまるものではないことに視野を開き、社会の中に存在してきたそして今日も存在している教育力とは何かを考える。また生涯教育の理念が提出された後の、社会教育の現代的意義について考えていく。そのために今日公的社会教育行政がその重点的施策として着手している学校と社会教育の連携、子育て支援、青少年の居場所づくりなどを取り上げそれらについての意義と課題を検討する。	隔年
		社会教育論 B	人間が学校や幼稚園を作る前から、人間よって人間を育て教育する営みは形作られてきた。それを社会の中にある教育という意味で社会のもつ教育力教育といえるのかもしれない。本講義では、社会の中で営まれてきたことも或いは青少年を対象として行なわれてきた教育活動を日本およびイギリスの社会教育の歴史を紹介しその意義について考察することとしたい。	隔年
	系	現代社会と社会教育 A	子どもの学習を支援する教育原理に対して、1970年代から提唱され始めてきた成人教育学なかんずく高齢者の教育学（gerogogy）理論について学び、生涯発達の見点から高齢者の特性を知り、それを踏まえた高齢者対象の学習支援の方策を理解する。	隔年
	統	現代社会と社会教育 B	青少年の自立と社会性の育成を巡って展開されている「奉仕活動」の学校教育・社会教育政策における奨励の意義と課題について学び、人間がよりよく生きていくために、生にまつわる否定的側面の課題（死・病、対象喪失などをめぐる課題）を主題とする「生と死の準備教育」の理念・教育目的・教育内容を知り、生涯教育としての「いのち」を考える教育の可能性について理解する。また、人間の生をよきものとするための教育の本質について考える力を養う。	隔年
	福 祉	社会福祉	保育士として必要な、現代社会における社会福祉の基礎的知識と援助技術について理解する。現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷を知り、その関連で児童の人権や家庭支援の意味を理解し、社会福祉の制度や実施体系等と社会福祉相談援助や利用者の保護にかかる仕組みを踏まえて、今日の社会福祉の動向と課題について学ぶ。その上で、保育士として、社会福祉のクライアント（養護児童、障害者、要介護高齢者、貧困者、保育所などを利用する児童や保護者等）を「社会的弱者」と捉えるのではなく、そこにある生活課題を社会における問題として認識できる力を身に付ける。	
	教 育	相談援助	課題を抱え解決のための援助を求めて来た人と、一定の訓練と経験を経た専門職である援助者との間の心理的コミュニケーションを通じて行われる相談援助について理解し、様々な相談援助場面の事例分析を通してその具体的な方法と技術について学ぶ。単に課題の解決ではなく、来談者の自己実現や個人の生き方にもかかわる相談援助のあり方について理解を深め、将来、保育士としての職務のなかで応用できる援助技術を習得する。	
	関 連	児童家庭福祉	現代社会の子どもの育ちや子育てをめぐる状況と、それに対する日本の児童家庭福祉の制度や実施体系等について学ぶ。児童家庭福祉を形づくっている法制度を知り、児童家庭福祉の機関や施設の現場での運用を理解する。児童をとりまく諸課題について社会の動きに関心を持ち、保育士として求められる児童家庭福祉の考え方を身に付ける。	
	系 統	保育原理	保育の意義について理解し、また、保育所保育指針における保育の基本について理解する。保育の思想と歴史の変遷を押さえ、制度が揺れ動いている今日の保育の現状と課題について理解し、あわせて今日の保育の内容と方法の基本について学ぶ。	

授 業 科 目 の 概 要				
(人文学部児童学科)				
科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専 門 科 育 目 系 統	福	社会的養護	現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷を踏まえ、社会的養護と児童福祉の関連性及び児童の権利擁護について理解する。社会的養護の制度や実施体系について学び、社会的養護における児童の人権擁護及び自立支援等について認識した上で、社会的養護の現状と課題について理解する。こうした学修を通して、児童の問題は社会状況との関係で生じてくることを知り、多くの事例において児童と親の双方が支援対象であることを認識する。	
	祉	乳児保育A	乳児保育の理念と歴史の変遷及び役割等について学び、保育所・認定こども園・乳児院等における乳児保育の現状と課題について理解する。ICTを活用し、具体的に乳児の姿を理解する。健やかな成長を支える3歳未満児の生活と遊びについて理解し、ふさわしい手作り玩具を作成する力を養う。	
	・	乳児保育B	人生の土台をつくる3歳未満児の心と体の発育と発達及びその援助について学び、乳児保育の計画を策定し、保育の内容や方法、環境構成や観察・記録等について学ぶ。月齢に応じてその育ちを支える保育者として乳児保育の実践にあたるための保育計画と記録のポイントを押さえ、保護者・保育者・地域とが連携することの意味を考える。	
	教	社会的養護内容	現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷について理解し、社会的養護の制度や実施体系等について知った上で、児童の権利擁護・自立支援等とその仕組、児童の生存発達の保障、保育士の倫理と責務について学ぶ。各種児童福祉施設における暮らし、保育士の専門性に関わる知識と援助技術、それにソーシャルワーク技術の活用等について「利用児や現場から学ぶ」という一貫した姿勢をもって学修し、さらに社会的養護内容の課題と展望についても考える力を養う。	
	関	保育相談支援	保育相談支援の意義と原則を押さえ、保護者支援の基本を理解する。また、保育相談支援の実際を学び、内容や方法を身に付けるとともに、それが保育所等児童福祉施設において実践されている実際を理解する。保護者の思いを受けとめながら、安定した親子関係や養育力の向上を目指して子どもの養育（保育）に関する相談・助言・行動見本の提示・その他の援助業務を行うことのできる基礎力を養う。	
	連	障害児保育A	障害のある子どもの保育についての歴史の変遷や様々な障害理解等について広く体系的に学び、子どもの理解や援助の方法、環境構成等について理解する。養育者は子どもの障害に気付く過程を知り、その時の子どもと養育者の支援とその現状についても学ぶ。上記の学習過程によって、日本の障害児保育の現状と課題について体系的に把握できるようにします。	
	系	障害児保育B	特別な支援を必要とする乳幼児・学齢児について理解し、保育・教育の現場での支援の在り方について様々な面から学ぶ。障害のある子どもの保育の計画を作成し、個別支援及び他児との関わりのなかで育ちあう保育実践について理解を深める。障害の発見から療育のシステム、統合保育や就学に至る流れなど、保健・医療・福祉・教育等の関係機関との連携も含む現状と課題について学ぶ。	
	統	子どもの保健A	保育における子どもの心身の健康の意味を認識し、健康増進を図る保健活動の意義を知る。また、子どもの心身の健康問題の原因が、養育環境や養育方法にあることを認識し、それらの問題に適切に対処し、保健活動を通して子どもやその家族を支援できるようになる基礎を習得する。さらに、子どもの心身の発達や生理機能・運動機能の発達と生活の中での発育・発達支援、子どもの病気や事故の特徴とその予防方法等の基礎を理解する。	

授 業 科 目 の 概 要				
(人文学部児童学科)				
科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専 門 科 統 系 目 群	福祉・教育関係	子どもの保健B	保育における子どもの健康の維持・増進の意味を認識するとともに、健康な子どもの心身の発達や生理機能・運動機能の発達、生活のなかでの発育・発達支援について理解する。また、子どもの病気の特徴やその予防、病気や障がいを持った子どもの理解とその支援、医療現場での保育の重要性や医療と保育の連携について学ぶ。	
		子どもの保健演習	成長発達が著しい乳幼児期は、抵抗力も免疫力も未熟で未発達な時期であり、感染症など病気・怪我等健康を阻害しやすい時期でもあることを認識し、保育者として、子どもの健康と生命の保持・安全を保障するための基本的な知識を身に付け、実技演習を通して技術を習得する。また、子ども自身が基本的な生活習慣を身に付け、自らの健康を意識するための健康教育について学び、保育現場で指導できる力を身に付ける。	
		家庭支援論	家庭の意義とその機能、子育て家庭を取り巻く社会的状況等について理解し、子育て家庭の支援体制や子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と関係機関との連携について、その現状と課題を学ぶ。	
		子どもの食と栄養A	児童の健全な発育・発達には適切な栄養摂取や食習慣の形成が必要不可欠であることを理解し、栄養学の基礎的な知識を身につけた上で児童の特徴を踏まえ、児童の日常生活における食の場面での支援を実践できる力を身に付ける。また、食育とは何かを学び、得た知識を児童やその保護者に伝える方法を考え、実践できる力も養う。	
		子どもの食と栄養B	児童の健全な発育・発達には適切な栄養摂取や食習慣の形成が必要不可欠であると共に、次世代を育成するためにどの児童も良好な食文化の伝達が保障される必要があることを理解し、各々のライフステージに応じた栄養や食生活についての理解を深め、調理実習体験を通してその知識を食育実践で活かし児童の生涯にわたる健康づくりをサポートできる力を身に付ける。	
	教育関係	国語	小学校学習指導要領をもとに、国語科の目標や各学年の学習内容を学ぶ。また、各学年の教材を研究し、国語科が言語活動の中核としての役割を担うことについて理解する。さらに、指導事例研究を行う。あわせて、幼稚園教育要領・保育所保育指針等に目を向け、就学前の幼児の言語活動の育ちについて理解し、小学校の国語科につながる言葉の力の育ちとその指導方法について学ぶ。	
		社会	小学校学習指導要領をもとに、社会科の目標や各学年の学習内容を学ぶ。また、各学年の指導事例研究を行う。そのほか、社会科教育の歩み、小・中学校社会科の関連、社会科指導の基礎と課題等についても理解する。	
		算数	小学校学習指導要領をもとに、算数の学習内容を、子どもの概念形成を踏まえて理解できるようにする。算数教材を研究することを通して、算数の学習内容の教授方法を理解する。あわせて、幼稚園教育要領・保育所保育指針等に目を向け、就学前の幼児における数の概念と数量認識・形の把握に関する育ちについて学び、算数的な概念形成への道筋を理解する。	
		理科	小学校学習指導要領をもとに、理科教育の目標、内容についての基本的な理解を図る。自然の対象の特性や児童の構築する見方や考え方に基づく「A物質・エネルギー」「B生命・地球」の違いを認識した上で、児童の興味・関心や新たな知的探求心をどのように高めるべきか、理科が配当されている学年の観察・実験を体験する。また、実験器具の基本操作を正しく習得し、安心・安全な理科指導を身に付け事故防止を図る。	

授 業 科 目 の 概 要				
(人文学部児童学科)				
科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専 門 科 目 群	教 育 関 連 目 的	生活	小学校学習指導要領をもとに、生活科新設の経緯や趣旨、生活科の目標及び内容構成等についての概要を学ぶ。また、授業の構想の仕方や教材の開発等について、具体的な活動や体験、実践事例等を通して学ぶ。あわせて、幼稚園教育要領・保育所保育指針等に目を向け、就学前の幼児の生活と集団保育の実際を知り、保幼小連携の移行期支援の考え方とその方法についても理解する。	
		家庭	小学校学習指導要領をもとに、家庭科の目標や各学年の学習内容を学ぶ。生活を見つめ直す視点を学び、生活者としての自覚と判断力、主体的な実践力を育む。持続可能な地球環境の視点を取り入れた「サステイナブルクッキング」等の授業実践に学ぶ。かしこい消費者として「選ぶ目」と「作る手」を育てるため、炊飯実習と針刺し製作を行う。	
		外国語	小学校における外国語活動での実践に必要な英語力を身に付けるため、英語コミュニケーションと英語運用に必要な知識を習得する。小学校教員として、児童と英語でのやり取りができる英語力を4技能バランスよく身に付ける。また、指導者として知っておきたい知識を備えることで専門性の高い指導の基盤を築く。	
		図画工作A	小学校学習指導要領・幼稚園教育要領・保育所保育指針等をもとに、図画工作の目標や学年・年齢ごとの学習内容を学ぶ。また、教材を研究するとともに、指導事例研究を行う。あわせて、就学前の幼児の描画・造形活動に見られる表現の方法とその意味について理解し、小学校の図画工作にむかう表現する力の育ちとその指導方法について学ぶ。	
	目 的	図画工作B	小学校学習指導要領・幼稚園教育要領・保育所保育指針等をもとに、図画工作の目標や学年・年齢ごとの学習内容を学ぶ。また、教材を研究するとともに、指導事例研究を行う。あわせて、就学前の幼児期から学童期にかけての鑑賞活動についてその意義と方法を学び、そのことを踏まえた指導法を身に付ける。	
		体育A	小学校学習指導要領・幼稚園教育要領・保育所保育指針等をもとに、子どもの心身の発育を踏まえた上で、幼児・児童期の運動あそび・身体運動の重要性を理解し、それらへの取り組み方をさぐる。内容としては走・跳・投の基本的な運動、身近なものを利用したゲーム遊び、ごっこ遊び、劇遊び、ボール遊び、力くらべ、表現、リズム遊びなどを実践しながら学ぶ。さらに、既述した運動や遊びに必要な遊具や用具についての造詣を深めるとともに、その活用の仕方についても指導実践の中で理解を進める。	
		体育B	小学校学習指導要領・幼稚園教育要領・保育所保育指針等をもとに、子どもの心身の発育を踏まえた上で、幼児・児童期の運動あそび・身体運動の重要性を理解し、それらへの取り組み方を探る。ゲーム性のある運動、器械や器具を用いた運動などについて実践しながら学ぶ。指導実践の方法について学び、実践できる力を養成する。実践後は、指導を振り返り、授業評価やモニタリングの重要性の理解を深める。	
		音楽A	小学校学習指導要領・幼稚園教育要領・保育所保育指針等をもとに、子どもの音楽表現活動に不可欠な基本的な音楽理論を学び、楽器演奏に必要な読譜力を身に付ける。また、ピアノの基本的な演奏技能を学ぶ。1クラスを半分に分け、理論の講義とピアノの技能指導を平行して行い、ピアノはさらに少人数のグループに分け個人指導を行う。教材には、小学校音楽の共通教材を含め、受講者のレベルに適したものを取り上げる。	

授 業 科 目 の 概 要				
(人文学部児童学科)				
科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専 門 科 目 群	教 育	音楽B	小学校学習指導要領・幼稚園教育要領・保育所保育指針等をもとに、音楽指導に必要な基礎技能と知識を身に付ける。音階や音程、コードネームの基礎を実際の音による表現と共に理解し、楽曲演奏を通して実践する。また、わらべうたの音階理論や創造的音楽表現の体験を行う。カール・オルフの指導理念と独特な楽器の使用を体験し、仲間との音楽作りの実際を試みることで、子どもが音楽の楽しさ面白さ美しさを体験できる活動や指導の方法について学ぶ。	
		音楽・器楽A	小学校、幼稚園、保育所等の教育・保育の現場に必要なピアノの技能を習得する。個人レッスンと相互のレッスン参観を通して、一人一人の受講生の習熟度に即した課題に取り組みながら、読譜、演奏技術、表現法、コード活用法、音楽の一般知識などを身に付ける。	
	関 連 科 目	音楽・器楽B	小学校、幼稚園、保育所等の教育・保育の現場に必要なピアノの技能を習得する。個人レッスンと相互のレッスン参観を通して、ピアノ演奏の技能習得とともに、音楽に関する基礎知識を深め、教育・保育の現場で役に立つコードによる歌唱伴奏法などを学び、音楽活動を通じ感性豊かな表現活動を子どもたちと楽しく行える音楽的基礎技能を習熟する。	
		音楽・合奏指導	小学校・幼稚園等の教育の現場に必要な管楽器の基本奏法と合奏の指導法を習得する。吹奏楽・金管バンドで使用するリコーダー、ピアノカのほか、トランペットやトロンボーン等の金管楽器の基本奏法を身に付け、児童に対する指導法も学ぶ。自分の体（唇）を発音体にする管楽器の特性を知り、音の出るしくみを理解した上で正しい奏法と練習法を習得し、楽器が組合わさった時の響きを体験し、指導者になった時に実践できる力を身に付ける。	
	目 群	教師論	教師・保育者の役割と倫理、小学校教諭・幼稚園教諭、保育士、保育教諭の制度的な位置付けと各々の専門性、専門職同士の協働、各々の専門職的な成長について理解する。あわせて、教師としての望ましい資質能力とは何かを知り、人権を尊重した教師の言動を理解する。	
		保育実践演習A	子どもとその保護者を取り巻く社会の現状について知り、社会の一員として課題意識を持ち、積極的に社会生活に参加していくための視点を獲得する。身近な問題を調査する課題に取り組むことを通して、正しい情報を収集し保育士にふさわしい説得力のある言葉で発表し、互いに建設的な意見交換を行う力を身に付ける。また、素話の実践を通して、乳幼児の言葉を育てる魅力的な話術などの表現力を磨く。	
		保育実践演習B	現代的課題の中から子どもの育ちをめぐる社会問題を選び、グループ活動と発表を通して、仲間と協働しながら課題に関する情報収取、事実の整理と現状分析、論理立てた考察、保育士としての支援方法の検討、説得力のある説明、自己表現とコミュニケーションを行う力等を身に付ける。将来、保育士として様々な課題や困難にぶつかった時に、問題解決を図る視点と能動的に活動できる力を養う。	

授 業 科 目 の 概 要			
(人文学部児童学科)			
科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 連 目 群	教 育 関 連 科 目	教職課程の履修を始めてから現在に至るまでに作成してきた「履修カルテ」をもとに自己内省を行い、教員としての最小限必要な資質能力の向上を目指す統括的学修を行う。実技指導、補完的な個別指導、グループ討論、模擬授業、役割演技（ロールプレイング）等を取り入れ、内容によって幼稚園課程・小学校課程で分かれたり、幼小課程を混合したグループを形成したり学び合いの環境設定に工夫する。全学年の学修内容を新たに4事項の視座から捉えなおす、学びの集大成として位置付ける。 （オムニバス方式/全15回） (1. 鎌原雅彦/4回) イントロダクション：これまでの学修の振り返り、教師のメンタルヘルス（使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項3）、教育相談を活かした実践（社会性や対人関係能力に関する事項1）、履修カルテを踏まえた資質能力の確認 (14. 川瀬敏行/4回) イントロダクション：これまでの学修の振り返り、教職課程に関わる改正法令等の理解、履修カルテを踏まえた資質能力の確認 (9. 佐藤千瀬/3回) 教師の一日（使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項1）、異文化理解を踏まえた指導法（教科・保育内容等の指導力に関する事項2）、教職課程に関わる改正法令等の理解 (2. 相川徳孝/2回) 教育実践の方法と展開（教科・保育内容等の指導力に関する事項1）、実践に向けた教材の研究と作成（教科・保育内容等の指導力に関する事項3） (15. 齋藤範雄/2回) 教育実践の方法と展開（教科・保育内容等の指導力に関する事項1）、実践に向けた教材の研究と作成（教科・保育内容等の指導力に関する事項3） (13. 小川隆夫/1回) 教師の一日（使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項1） (17. 丸山綱男/1回) 幼児児童を守る危機管理（使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項2） (6. 田澤薫/1回) 児童虐待を受けた幼児児童の理解と要保護児童対策地域協議会（使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項3） (10. 寺崎恵子/1回) 異校種間の連携の可能性（社会性や対人関係能力に関する事項2） (4. 齋藤一雄/1回) 特別な支援を必要とする幼児児童の理解と支援（幼児児童理解や学級経営等に関する事項2） (19. 広瀬歩美/1回) 食からの幼児児童理解と食育（幼児児童理解や学級経営等に関する事項3）	オムニバス方式
	教育・保育課程論	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領をもとに、保育における計画の史的変遷から保育の基本と計画の関係性を理解し、指導計画の種類と役割、教育・保育の課程の編成及び、長期・短期等各段階の具体的な指導計画の立案方法を身に付ける。	
	保育内容総論	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領をもとに、保育内容・教育課程の意義を理解するとともに、カリキュラム編成の基本を学び、それぞれの領域の保育内容を総合的に理解する。建学の精神に則り、多様な保育の一類型として、キリスト教保育への造詣を深め、キリスト教保育指針（キリスト教保育連盟）について知る。	

授 業 科 目 の 概 要				
(人文学部児童学科)				
科目	授業科目の名称	講義等の内容		備考
専 門 科 連 目 群	教 育	保育内容の研究・健康	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領をもとに、領域「健康」について学ぶ。健康な幼児を育てるということで、特に幼児教育での健康の領域の指導のため、基礎となる理論と、それを踏まえた実践のあり方について学ぶ。 心身の健康に関する領域として、健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活を作り出す力を養うこととする。	
		保育内容の研究・人間関係	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領をもとに、領域「人間関係」について学ぶ。領域「人間関係」では、他の人々と親しみ、支え合って生活するために、自立心を育て、人とのかかわる力を養うことが目指されることを理解し、乳幼児期の人間関係の発達や特性を知ると同時に、人とのかかわる力の育ちを支える保育者の役割について実践的に身に付ける。	
		保育内容の研究・環境	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領をもとに、領域「環境」について学ぶ。保育は「環境を通して行う」ものであるとの認識を踏まえ、領域「環境」が身近な自然環境や社会環境とかかわる力や心情・意欲・態度の高まりをめざそうとするものであることを実践的に理解し、環境構成を行う力を身に付ける。を通して学ぶ。また、実践を通して、幼児のはたらきかけによって多様な変化をみせる可塑性に富み、応答性の要素を持つ保育教材について研究する。	
	関 連 目	保育内容の研究・言葉	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領をもとに、領域「言葉」について学ぶ。領域「言葉」では「経験したこと考えたことを自分なりの言葉で表現し、相手の話す言葉を聞こうとする意欲や態度を育て、言葉に対する感覚や言葉で表現すること」がねらいであることを踏まえ、言葉の発達過程を学び、人にとつての言葉とその機能に関する理解を深める。また、言葉の発達と関わる保育教材についての知識と保育技術を学び、絵本、手遊び歌、言葉遊び、コミュニケーションを促進する玩具遊び等の保育実践を通して、乳幼児の言葉の発達に寄与するような保育教材・保育指導案の作成を行う。	
		保育内容の研究・表現A	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領をもとに、領域「表現」の中でも特に音楽表現・身体表現について学ぶ。保育現場における表現活動の内容を理解すると同時に、共に生活する乳幼児と保育者が共に「表現者として育つ」ことを自覚し、実践を通し、積極的に自己を他者に向けて拓き表現していく姿勢と技能を養う。	
		保育内容の研究・表現B	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領をもとに、領域「表現」の中でも特に描画表現・造形表現について学ぶ。「いろいろな物の美しさなどに対する豊かな感性を持つ」「感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ」「生活の中でイメージを豊かにし、様々な表現を楽しむ」保育のねらいを実現するために、造形的発達の特性と描画・造形活動の方法を知り、実践を通して幼児の描画・造形表現についての理論的視点と実践的能力を養う。描画・造形表現の楽しさを実践の中から体得する。	
		幼児理解の理論と方法	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領をもとに、乳幼児の各年齢・月齢ごとの一般的な発達の姿を理解したうえで、特性をふまえた一人一人の幼児の姿を理解し、人々として幼児と向き合える理解基盤を身に着ける。幼児理解を踏まえて、保育の場での保育実践や幼児指導の手法を理解し、具体的な関わり、言葉かけや振る舞いを行う力を身に付ける。乳幼児に対する保育者の関わりを記録化し、省察し、保育内容を振り返り、その作業を通して保育内容を高めていく方法を身に付ける。	

授 業 科 目 の 概 要				
(人文学部児童学科)				
科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門科目	教育課程論	小学校学習指導要領の史的変遷を知り、教育課程の基本及び編成と実施について理解したうえで、各教科等に共通する指導計画・指導案の作成方法を身に付ける。また、教育課程の内容と教師の資質・役割との関連性を理解し、学級経営の基本的な方法を体得する。		
	初等国語科教育法	「国語」で学修した内容を土台とし、小学校学習指導要領に照らしながら、国語科の授業について事例研究を行い、いくつかの教材を基に、教材研究の手順や教材分析の仕方を知り、学習指導案の作成や模擬授業等を通して授業の進め方を学ぶ。		
	初等社会科教育法	「社会」で学修した内容を土台とし、小学校学習指導要領に照らしながら、社会科の授業について事例研究を行い、いくつかの教材を基に、教材研究の手順や教材分析の仕方を知り、学習指導案の作成や模擬授業等を通して授業の進め方を学ぶ。		
	算数科教育法	「算数」で学修した内容を土台とし、小学校学習指導要領に照らしながら、算数科の授業について事例研究を行い、いくつかの教材を基に、教材研究の手順や教材分析の仕方を知り、学習指導案の作成や模擬授業等を通して授業の進め方を学ぶ。		
	理科教育法	「理科」で学修した内容を土台とし、小学校学習指導要領に照らしながら、理科の授業について事例研究を行い、いくつかの教材を基に、教材研究の手順や教材分析の仕方を知り、学習指導案の作成や模擬授業等を通して授業の進め方を学ぶ。児童が自然の事物・現象に感動し、好奇心や興味を持って理科の面白さが実感できる授業はどうあるべきか、事例を通して実験する。授業を支える安全面に配慮した理科の教科経営についても学ぶ。		
	生活科教育法	「生活」で学修した内容を土台とし、小学校学習指導要領に照らしながら、生活科の授業について事例研究を行い、いくつかの教材を基に、教材研究の手順や教材分析の仕方を知り、学習指導案の作成や模擬授業等を通して授業の進め方を学ぶ。		
	音楽科教育法	「音楽A」「音楽B」で学修した内容を土台とし、小学校学習指導要領に照らしながら、音楽科の授業について事例研究を行い、いくつかの教材を基に、教材研究の手順や教材分析の仕方を知り、学習指導案の作成や模擬授業等を通して授業の進め方を学ぶ。基本的な音楽理論、共通教材を中心として歌唱、器楽、鑑賞の指導法を身に付ける。		
	図画工作科教育法	「図画工作A」「図画工作B」で学修した内容を土台とし、小学校学習指導要領に照らしながら、図画工作科の授業について事例研究を行い、いくつかの教材を基に、教材研究の手順や教材分析の仕方を知り、学習指導案の作成や模擬授業等を通して授業の進め方を学ぶ。児童にとってなぜ造形的な表現活動が大切かを考え、図画工作科の歴史・目標を踏まえた授業づくりの力を養う。		
	家庭科教育法	「家庭」で学修した内容を土台とし、小学校学習指導要領に照らしながら、家庭科の授業について事例研究を行い、いくつかの教材を基に、教材研究の手順や教材分析の仕方を知り、学習指導案の作成や模擬授業等を通して授業の進め方を学ぶ。A家庭生活と家族、B日常の食事と調理の基礎、C快適な衣服と住まい、D身近な消費生活と環境の内容項目を相互に関連させて、持続可能な地球環境に配慮しながら生活を楽しく豊かにする知恵と技を育てるための題材開発も行う。		

授 業 科 目 の 概 要			
(人文学部児童学科)			
科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目 群	教 育 科 教 育 法	「体育A」「体育B」で学修した内容を土台とし、小学校学習指導要領に照らしながら、体育科の授業について事例研究を行い、いくつかの教材を基に、教材研究の手順や教材分析の仕方を知り、学習指導案の作成や模擬授業等を通して授業の進め方を学ぶ。授業づくりをする上での基盤を踏まえ、実技により各運動領域の特性を理解し、実践上の視点を体得する。また、常に授業改善しながらよりよい授業づくりに向けて努力ができる資質を養うために、模擬授業の分析を演習し、いわゆる「授業の省察力」を身に付ける。	
	外国語活動指導法	小学校学習指導要領に照らしながら、外国語活動の英語の理論と実践を学ぶ。コミュニケーション能力の素地、国際理解教育と外国語活動の関係などを踏まえ、実践事例を研究し、教材研究の手順や教材分析の仕方を知り、指導案の作成や模擬指導等を通して活動の進め方を学ぶ。歌、チャンツ、絵本の指導法から、教室英語、アクティビティーの作り方、評価方法までを体得し、模擬授業を英語だけで行う力を身に付ける。	
	道徳教育指導法	小学校における「特別の教科 道徳」改訂の経緯や基本方針、道徳科の目標及び内容等についての概要を学ぶ。また、資料分析の仕方や学習指導の展開の仕方を知り、学習指導案の作成、模擬授業等を通して授業の進め方を学ぶ。	
	特別活動指導法	「なすことによって学ぶ」特別活動の特性を踏まえ、児童同士・教師との信頼関係、自主的・実践的に取り組む態度を育むために、特別活動の教育的意義を体験活動としてどう具体化していくかの具体的な方法を学ぶ。実践事例を研究し、教材研究の手順や教材分析の仕方を知り、指導案の作成や模擬指導等を通して活動の進め方を身に付ける。	
	教育方法論	小学校学習指導要領、幼稚園教育要領等の内容を踏まえた上で、教育の方法及び情報機器や教材の活用を含んだ教育技術について理解し、授業づくり・保育実践を行うために必要な知識と技能を習得する。また、教育メディアについて学び、演習を通して実践的な活用方法を身に付ける。	
	生徒指導論(進路指導を含む。)	生徒指導は、児童が自分自身を見つめ、将来の進路選択への夢をいただき、よりよく成長していくことを援助する大切な役割を果たすことを理解する。また、生徒指導は授業や諸活動・特別活動などのすべての学校生活場面で実施される特性を知り、様々な場面事例を通して、援助や指導方法、教師の立場や適切な言動を身に付ける。また、進路指導が児童の将来にわたる自己実現につながる重要な意義を持つことを理解し、職業選択にとどまらない適切な指導方法を身に付ける。	
	学校インターンシップ(基礎)	幼稚園や小学校、特別支援学校、児童福祉施設等の概要や役割について学び、実際の保育・教育現場で子どもがどのように生活し、学んでいるのかを観察し、子ども理解を深める。また、観察を通してありのままの子どもの姿を理解し、観察した子どもの活動を客観的に記録し、読み手が子どもの活動のイメージができるような文章表現を習得する。さらに、ともに観察した学生同士と教員との小グループでディスカッションすることを通して、観察した子どもの言動の意味を考える力を養う。	

授 業 科 目 の 概 要				
(人文学部児童学科)				
科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専 門 科 目 群	教 育 関 連 科 目	学校インターンシップ	学校、幼稚園、児童福祉施設など、子どもの学習や生活の場に自主的に参加し、生活を共にすることを通して体験したことをレポートや討議等の方法を通して整理、理論化し、子どもに対する理解や現場環境の理解を深める。学生の自主的なインターンシップの体験を実践レポートとしてまとめ、対象理解や子どもとかわる大人として求められる役割、現場環境について理解する。あわせて、教育・保育の現場において教師・保育者ら専門職のはたらきに接し、職業としての教師・保育者を捉え、自らを見つめながら将来の職業選択につながる省察を行う。	
		幼稚園教育実習	幼稚園教育実習は、4週間の幼稚園における実習ならびに事前事後指導から構成される。事前指導で幼稚園における教育の意義と内容を理解したうえで、本実習では、主に保育の観察参加・指導案作成と保育実践・行事への参加等を通して、幼稚園における幼児教育の実際を体験的に理解する。事後指導においては実習記録をもとに自己評価と自己課題について検討することで、教師としての資質を磨き教職に就くための自己課題に向き合う具体的な方法を見出す。	
		幼稚園教育実習（副）	幼稚園教育実習（副）は、小学校教育実習での学修を深めることを前提とした2週間の幼稚園における実習ならびに事前事後指導から構成される。事前指導で幼稚園における教育の意義と内容を理解したうえで、本実習では、主に保育の観察参加・指導案作成と保育実践・行事への参加等を通して、幼稚園における幼児教育の実際を体験的に理解する。事後指導においては実習記録をもとに自己評価と自己課題について検討することで、教師としての資質を磨き教職に就くための自己課題に向き合う具体的な方法を見出す。	
	目	保育実習	保育士資格取得に必要な必修の実習を、保育所においておおむね90時間、居住型施設においておおむね90時間行い、保育所と居住型施設における日常の生活を共にすることを通して、これまでに保育士課程の各科目で学修してきた保育士の働きを実践を通して体験的に学ぶ。保育士を目指すうえでの自己の課題に向き合い、さらに保育専門職の役割を総合的に理解する。	
		保育実習指導	「保育実習」の事前学習と事後学習を行い、保育所での実習と居住型施設での実習を各々の特性を踏まえて学びの多いものとするためのレディネスを整え、また実習後には実習を通して気付かされた自己の課題に向き合うことを通して自己覚知につなげ、保育士を目指すうえでの自己課題を明確にして次の実習に臨む意欲的な姿勢を醸成する。	
		保育実習 A	「保育実習」で保育士としての役割の基本を実地に学んだ受講生が、再度、保育所におけるおおむね90時間の実習を行い、子どもの姿に即した保育指導計画を立案し、それに基づいて教材を準備したうえで、実際に保育を展開していく経験を通して、発達に合った保育方法や実践力を身に付ける。	
		保育実習 B	「保育実習」で保育士としての役割の基本を実地に学んだ受講生が、通所型の施設におけるおおむね90時間の実習を行い、通所型施設の特性を理解し、子どもの姿に即した保育支援計画を立案し、それに基づいて教材を準備したうえで、実際に支援活動を展開していくことを経験し実践力を養う。また、保護者に対する支援や子どもの生活に即した他機関連携をどのように行っているのかを実地に学ぶ。	

授 業 科 目 の 概 要				
(人文学部児童学科)				
科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専 門 科 目 群	教	保育実習指導A	「保育実習A」の事前学習と事前学習を行い、保育所において保育指導案を立案した上での責任実習を実施するために、1日分の保育指導案を策定するために準備力を身に付ける。さらに保育所について実習生が責任的役割を果たす保育指導案を作成し、それに基づいた保育の実施を準備する力を養う。実習後の事後学習においては、実習での学びを振り返って、保育士の専門性と職業倫理を再度確認する。	
	育	保育実習指導B	「保育実習B」の事前学習と事前学習を行い、通所型施設について理解し、通所型施設の特性を踏まえた支援の方法を学ぶ。1日の流れを踏まえ、その生活・活動の各々の場面に応じて、保育士が関わる意義とねらい、その具体的な方法を実地に学び、実践力を磨く。実習後の事後学習においては、実習での学びを振り返って、保育士の専門性と職業倫理を再度確認する。	
	関	小学校教育実習	小学校教育実習は、4週間の小学校における実習ならびに事前事後指導から構成される。事前指導で小学校教育の意義と内容を理解したうえで、本実習では、主に授業参観・指導案作成と授業実践・学級経営への参加・特別活動への参加等を通して、小学校教育の実態を体験的に理解する。事後指導においては実習記録をもとに自己評価と自己課題について検討することで、教師としての資質を磨き教職に就くための自己課題に向き合う具体的な方法を見出す。	
	連	介護等体験及び事前事後指導	介護等体験特例法の趣旨を理解し、介護等体験における留意点を理論と実践をもって身に付けることを通して、相手の立場を踏まえて物事を考え行動する力を養い、義務教育に従事する教員としての資質を磨く。特に事前事後指導においては、特別支援学校児童生徒や福祉サービス利用者の立場に立った支援・介護の在り方を理解するとともに、人間の尊厳を守るための介護技能を身に付ける。	
	科 目	障害児教育総論	障害のある幼児・児童生徒についての教育に関する歴史的展開を概観するとともに、特別支援学校に関する法律や制度、学校経営、学級経営、指導の実践について講義する。さらに、障害のある幼児・児童生徒への就学支援、個別的教育支援計画、個別の指導計画の作成などの概要を理解し、障害児教育の基礎的理解を図る。 (オムニバス方式/全15回) (4. 齋藤一雄：12回) 特別支援学校に関する法律や制度、障害のある幼児・児童生徒への就学支援、特別支援学校学習指導要領、特別的教育課程の編成、特別支援学校の教育目標の設定、合理的配慮と基礎的環境整備、個別的教育支援計画、個別の指導計画の作成と活用、特別支援学校におけるキャリア教育、特別支援学校における医療・福祉・労働等の諸機関との連携、特別支援学校の学校行事の計画と運営、特別支援学校における交流及び共同学習、障害理解教育と保護者支援 (62. 米田宏樹/3回) 障害児教育の歴史と理念、障害児教育の成果と課題、特別な教育的ニーズと多様な学びの場	

授 業 科 目 の 概 要				
(人文学部児童学科)				
科目	授業科目の名称	講義等の内容		備考
専門科目群	教 育	知的障害児の心理・生理・病理 A	知的障害の概念・定義及び類型に関する基礎的知識を確認した上で、知的障害児の認知・行動・社会性および情動に関する特性と、知的障害の病態生理特性を理解する。 (オムニバス方式/全15回) (18. 井上知洋 7回) 知的障害に関する基礎的事項を確認し、知的障害児の認知的特徴（視覚・聴覚・言語・学習）を理解する。 (41. 勝二博亮 4回) 脳機能を踏まえた知的障害児の行動的特徴、社会性及び情動の特徴、知的障害と二次障害について学ぶ。 (55. 舟橋敬一 4回) 知的障害の病態生理的側面をライフサイクルの観点から学ぶ。	オムニバス方式
	関 連 科 目	知的障害児の心理・生理・病理 B	特別支援学校学習指導要領に学び、求められる教育的支援の内容を理解し、支援に必要な心理アセスメントの概略を学んだ上で、教育的支援の実践を身に付ける。さらに、知的障害に関連する発達障害、てんかんに代表される合併疾患について理解する。 (オムニバス方式/全15回) (18. 井上知洋 7回) 知的障害に対する心理アセスメント（ビネー式知能検査、WISC、K-ABC、DN-CAS、津守稲毛式等）について学び、知的障害児の認知発達に関する支援の方法を身に付ける。 (41. 勝二博亮 4回) 知的障害に関連する合併疾患や発達障害の病態生理について学び、知的障害・発達障害への教育的支援について身に付ける。 (55. 舟橋敬一 4回) 知的障害の病態生理学的特性を理解し、その知識を実際の教育的支援にいかす方法を考える。	オムニバス方式
	目 的	肢体不自由児の心理・生理・病理	運動障害（肢体不自由）が生じる発生機序を生理・病理学的に理解し、また、運動障害を引き起こす疾患について知る。その上で、肢体不自由が発達に及ぼす心理的影響と、中途障害の場合の自己概念の変容がもたらす心理的影響を理解する。また、特別支援学校学習指導要領に学ぶことで求められる教育的支援の内容を理解し、肢体不自由児へのアセスメントの基礎を学び支援を考えることが出来る力を身に付ける。	

授 業 科 目 の 概 要			
(人文学部児童学科)			
科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目 群	教 育 病弱児の心理・生理・病理	病弱に関わる生理、病理機能と病弱に関わる主な疾患について学んだうえで、特別支援学校学習指導要領に学ぶことで求められる教育的支援の内容を理解する。また、入院・治療が及ぼす心理的影響、子どもの発達期から見た心理的影響を踏まえて健康行動理論を理解する。 (オムニバス方式/全15回) (27.小畑文也：10回) 病弱・虚弱児とは 定義、疾患と病気の違い、脳の構造と機能（1）知的障害と脳、脳の構造と機能（2）肢体不自由と脳、てんかん（2）教育的対応の実際、摂食の仕組みとその障害 教育的対応の実際、発達段階からみた病弱児の心理：幼児期、学童期、青年期、：入院・治療が子どもに及ぼす心理的影響(1)、入院・治療が子どもに及ぼす心理的影響(2) 事例でのミニグループ・ワーク、ターミナル期の子どもと家族の心理（担当：小畑）、健康行動理論（心理モデルについて）・健康信念モデル・社会的認知理論（変化のステージモデル）、自己効力感 (57. 本田雅敬：5回) 脳の構造と機能（3）高次脳機能障害、てんかん（1）概要、体温・呼吸・摂食の生理と病理、主要な疾患の理解 アレルギー疾患、糖尿病・肥満、腎疾患、主要な疾患の理解 心疾患、悪性新生物、心身症等	オムニバス方式
	情緒障害児の心理	情緒障害（発達障害を含む）の基本的定義と、発達障害との関連について理解し、特別支援教育における情緒障害に関する今日的課題として、広汎性発達障害とその二次障害（適応障害、選択性緘黙等）の心理的特徴および行動的特徴を知る。さらに、特別支援学校学習指導要領に学ぶことで求められる教育的支援の内容を理解し、情緒障害児（発達障害児を含む）に対する指導の方法を身に付け、実際の介入の事例を通して心理的・行動的特徴を理解する。	
	知的障害児指導法	特別支援学校学習指導要領をもとに、知的障害児教育の歴史および教育制度について知り、知的障害児教育のニーズを把握したうえで、教育課程編成の方法と実際の各教科の指導法・自立活動の支援法を身に付ける。また、個別のニーズに配慮しながら指導計画を立案し、また多職種との連携を視野にいれた教育実践の力も身に付ける。	
	病弱児指導法	特別支援学校学習指導要領をもとに、病弱児教育の歴史および教育制度について知り、加えて病弱とその概念、自立活動での支援等、病弱児教育に関する基礎的内容を押さえたうえで、教育課程編成の方法と実際の指導法を身に付ける。また、個別ニーズに配慮した指導計画の立案と、多職種との連携を視野にいれた教育実践の方法も身に付ける。	
	障害幼児指導法	特別支援学校学習指導要領をもとに、障害幼児教育の歴史および教育制度について知り、障害幼児の療育における教育課程の編成の方法と実際の指導方法を身に付ける。また、インクルーシブ教育の中での障害幼児の生活支援の方法を踏まえ、個別支援計画の立案と、具体的な指導に結びつく教材研究等を行う力も身に付ける。	
	肢体不自由児指導法	特別支援学校学習指導要領をもとに、肢体不自由教育の歴史および教育制度について知り、重度・重複化した今日の肢体不自由児教育のニーズを把握したうえで、教育課程編成の方法と実際の各教科の指導法・自立活動の支援法を身に付ける。また、個別のニーズに配慮しながら指導計画を立案し、また多職種との連携を視野にいれた教育実践の力も身に付ける。	
	視覚障害児の教育総論	特別支援学校学習指導要領をもとに、視覚障害教育の歴史および教育制度について知り、視覚障害とその概念を視機能や視知覚特性等の基本から理解し、視覚障害と関連の深い眼疾患の知識を含めた視覚障害に関する基礎的内容を押さえたうえで、視覚障害児童生徒の認知、言語、コミュニケーションの発達等の個体的側面を理解し、教育課程編成の方法と実際の指導法を身に付ける。	

授 業 科 目 の 概 要				
(人文学部児童学科)				
科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専 門 科 目	教 育	聴覚障害児の教育総論	特別支援学校学習指導要領をもとに、聴覚障害教育の歴史および教育制度について知り、加えて聴覚障害とその概念、聞こえの仕組み、聴覚障害の発見と診断、その後の聴覚補償に至るまでの聴覚障害に関する基礎的内容を押さえたうえで、聴覚障害児童生徒の認知、言語、コミュニケーションの発達等の個体的側面を理解し、教育課程編成の方法と実際の指導法を身に付ける。	
		重複障害児の教育総論	特別支援学校学習指導要領をもとに、重複障害教育の歴史および教育制度について知り、加えて重複障害とその概念、重複障害に関する基礎的内容を心理・生理・病理の側面から押さえたうえで、重複障害児童生徒の認知、言語、コミュニケーションの発達等の個体的側面を理解し、教育課程編成の方法と実際の指導法を身に付ける。さらに、職種間の連携と学校卒業後に至る支援の必要性を理解する。	
	関 連 目 的	発達障害児の教育総論	特別支援学校学習指導要領をもとに、発達障害教育の歴史および教育制度について知り、加えて学習障害、注意欠陥多動性障害、自閉症スペクトラム障害等に代表される発達障害とその概念、発達障害の心理的特性・医学的特性、それらに応じた支援の在り方に関する基礎的内容を押さえたうえで、発達障害児童生徒の認知、言語、コミュニケーションの発達等の個体的側面を理解し、教育課程編成の方法と実際の指導法を身に付ける。また、個別の指導計画を、生活状況全般にあわせてどのように立案実施するかについて、事例検討をもとに理解する。 (オムニバス方式/全15回) (24. 石川由美子/8回) オリエンテーション、特別支援教育のシステム（連携協力について）、発達障害の心理特性：「ことばの遅れ」の背景、軽度知的障害の理解、自閉症スペクトラム障害の理解 (34. 小島道生/8回) 学習障害の理解、注意欠陥多動性障害（ADHD）の理解、発達障害の生理・病理的特性と二次障害について、心理・教育的アセスメントの活用（目的、方法、倫理的配慮、活用の仕方）、個別の指導計画、認知特性をふまえた支援計画立案演習	
		特別支援教育実習	特別支援教育実習は、2週間の特別支援学校における実習ならびに事前事後指導から構成される。事前指導で特別支援学校教育の意義と内容を理解したうえで、本実習では、主に授業参観・指導案作成と授業実践・学級経営への参加・特別活動への参加等を通して、特別支援学校教育の実際を体験的に理解する。事後指導においては実習記録をもとに自己評価と自己課題について検討することで、教師としての資質を磨き教職に就くための自己課題に向き合う具体的な方法を見出す。	
	群 目	学校経営と学校図書館	学校図書館の意義と役割を理解し、司書教諭として学校図書館経営の方針をもち、学校図書館に関する諸計画を策定し、勤務校の学校図書館活用や読書指導の推進役になるための資質を養うために、学校図書館の理念、教育行政と学校図書館、学校図書館経営、司書教諭の任務、学校図書館メディアの構成と管理、学校図書館活動等について理解し、学校図書館経営をする上での課題を考察する力を養う。	
		学校図書館メディアの構成	学校図書館の利用者が必要としている様々な情報メディアの特性とその効果的な収集方法、また、日本十進分類法、件名標目表、日本目録規則、書誌ユーティリティ、オンライン目録などを用いた効率的な資料組織化の理論と方法を学ぶ。	

授 業 科 目 の 概 要				
(人文学部児童学科)				
科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専 門 科 目	教 育 関 連 科 目	学習指導と学校図書館	学習指導と学校図書館とのかかわりを理解し、児童生徒の情報活用能力育成の指導の意義と方法を学び、司書教諭として、児童生徒自らが学習テーマを設定し、学校図書館機能を駆使してテーマに適したメディアを収集、選択して調べ、まとめ、自分の考えを含めて発表までできる能力を育成することができるような指導能力を身に付ける。	
		読書と豊かな人間性	読書の意義と目的、発達段階に応じた読書指導、子どもと本を結ぶための方法、各教科等における読書指導などを学び、様々な読書活動の意義と課題を体験を踏まえて考察することを通して、読書センターとしての学校図書館の役割を理解し、勤務校の読書指導計画を策定し、読書活動推進の要となる司書教諭としての資質を身に付ける。また、さまざまな読書活動を率先垂範できる実践力を養う。	
		情報メディアの活用	社会全般、学校図書館における、さまざまなメディアと資料活用の意義と方法について学ぶ。データベースを利用した情報検索と効果的な資料・情報の提示方法を実習することを通して、効果的なメディア利用について実地に学び合い、現代社会における情報の取り扱いの諸問題についても理解する。	
	演 習 目 的	専門演習(児童学Ⅰ)	児童に関わる中でも近い問題関心を持った仲間と専門領域の教員とで集い、共通課題の理解を深めるとともに、自ら疑問を持ち、これを調べるための研究方法の基礎を身に付ける。子どもをめぐる様々な場面に目を向けながら、子どもを研究の対象として捉えることの意味を理解する。特に絵本・幼年童話を題材とし、子どもの発達や子どもの遊びの場面を考慮した選書の方法や、読み語りの方法を実践的に学ぶことを通した児童研究を行う。	
		専門演習(児童学Ⅱ)	専門演習Ⅰの学修内容を踏まえ、研究方法論の理解を深め、卒業研究を行うための基礎的知識を習得する。子どもが絵本を味わい絵本の世界を楽しむ方法について、具体的な方法を知り、実践的に理解することを通して、子どもを軸として調べたり考えたりする際の基本的な姿勢や手法を身につける。	
		専門演習(キリスト教幼児教育Ⅰ)	児童に関わる中でも近い問題関心を持った仲間と専門領域の教員とで集い、共通課題の理解を深めるとともに、自ら疑問を持ち、これを調べるための研究方法の基礎を身に付ける。キリスト教幼児教育を研究するにあたり、「人間実存の神秘への導入」(inducting)を重視しながら聖書を学び、複雑な現代の諸問題を、キリスト教倫理学の領域で考察する力を身に付ける。	
		専門演習(キリスト教幼児教育Ⅱ)	専門演習Ⅰの学修内容を踏まえ、研究方法論の理解を深め、卒業研究を行うための基礎的知識を習得する。キリスト教幼児教育を研究するにあたり、「人間実存の神秘への導入」(inducting)を重視しつつ聖書を学び、受講生個々の課題意識に沿った諸問題について、キリスト教倫理学の領域における考察手法を使って学ぶ。	
		専門演習(造形教育論Ⅰ)	児童に関わる中でも近い問題関心を持った仲間と専門領域の教員とで集い、共通課題の理解を深めるとともに、自ら疑問を持ち、これを調べるための研究方法の基礎を身に付ける。教育・保育現場での造形活動・造形教育の現状と課題を知り、幼児期・学童期の造形体験・造形教育の実際とその在り方について学ぶ。	
	群 目			

授 業 科 目 の 概 要				
(人文学部児童学科)				
科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専 門 演 習 科 目 群	演 習 科 目	専門演習Ⅰの学修内容を踏まえ、研究方法論の理解を深め、卒業研究を行うための基礎的知識を習得する。造形教育とは何かということについて、学習指導要領等をもとに基礎となる知識を学び、実践体験を通して考える習慣を身につける。題材設定や指導環境の整備、児童の活動の見方・読み取り方の工夫、児童の鑑賞活動と製作表現活動の在り方などについて検討する。		
		児童に関わる中でも近い問題関心を持った仲間と専門領域の教員とで集い、共通課題の理解を深めるとともに、自ら疑問を持ち、これを調べるための研究方法の基礎を身につける。 まず音楽の様々なジャンル（童謡、歌謡曲、ポップス、ジャズ等）や、音楽を構成する様々な要素（メロディ、リズム、ハーモニー等）について理論及び実践を通じて学び、基礎となる力を養う。また音楽実践に用いられる様々な手段（楽譜、楽器、CD、評論、論文等）を知る。		
		専門演習Ⅰの学修内容を踏まえ、研究方法論の理解を深め、卒業研究を行うための基礎的知識を習得する。自分の興味のある題材を選び個人発表を行うことを通じて、音楽を他者に伝え共有するために、どのような方法があるか、またどのような表現手段が効果的か、等を実践的に学んでゆく。		
		児童に関わる中でも近い問題関心を持った仲間と専門領域の教員とで集い、共通課題の理解を深めるとともに、自ら疑問を持ち、これを調べるための研究方法の基礎を身に付ける。乳幼児理解を深めていくと同時に、さまざまな幼稚園・保育所で行われている保育について、多角的に見つめ、保育者として求められている役割や乳幼児に相応しい教材とはどのようなものかについて実践的に学ぶ。あわせて、保育現場で必要とされる基礎的な文章表現を身に付ける。		
		専門演習Ⅰの学修内容を踏まえ、研究方法論の理解を深め、卒業研究を行うための基礎的知識を習得する。取り組んだ教材研究を具体的な保育の内容にどのように取り入れていけばよいのか、そのためにはどのような保育者の働きが必要となるのか等について実践しながら学ぶ。事例をまとめる、発表するといったそれぞれの過程において、保育者として必要な専門用語の理解と読み手に思いが伝わる文章表現とはどのようなものかについても身に付ける。		
		児童に関わる中でも近い問題関心を持った仲間と専門領域の教員とで集い、共通課題の理解を深めるとともに、自ら疑問を持ち、これを調べるための研究方法の基礎を身に付ける。異文化間教育に関する各自の関心のある基礎文献を講読し、発表とディスカッションを行い、また、世界の保育・教育や現状にも目を向け、多様な保育・教育方法や教材、各国の課題を、体験や映像を含めて学ぶ。日本や世界の現状を知ること、自分自身の枠組みに気づき、物事を多角的に考える力を培う。		

授 業 科 目 の 概 要			
(人文学部児童学科)			
科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 演 習 科 目 群	専門演習(異文化間教育Ⅱ)	専門演習Ⅰの学修内容を踏まえ、研究方法論の理解を深め、卒業研究を行うための基礎的知識を習得する。異文化間教育に関する各自の関心のあるテーマを見つけ、文献を講読し、発表とディスカッションを行う力を身に付ける。	
	専門演習(教育文化論Ⅰ)	児童に関わる中でも近い問題関心を持った仲間と専門領域の教員とで集い、共通課題の理解を深めるとともに、自ら疑問を持ち、これを調べるための研究方法の基礎を身に付ける。「人は誕生と同時に学び始める」というルソーの言説を手掛かりとして、子どもと大人とがかかわりあう生活世界に教育文化の可能性を考えて、教育観を再考する。このような問題関心から、とくに、日々の暮らしにおける子どもの表情に注目し、文献の輪読とディスカッションを通じて、仲間と協同することも目標として学ぶ。	
	専門演習(教育文化論Ⅱ)	専門演習Ⅰの学修内容を踏まえ、研究方法論の理解を深め、卒業研究を行うための基礎的知識を習得する。子どもの学びは全身感覚的であることを理解し、子どもに添い立つ大人として、子どもとの交わり・コミュニケーションのなかで子どもの躍動的な学びのありようを感受して、より充実した発展的な活動を子どもとともに創っていく力を身に付ける。とくに遊びに着目することで、子どもの学びのありようを実践的に考え、体得する。	
	専門演習(生涯学習Ⅰ)	児童に関わる中でも近い問題関心を持った仲間と専門領域の教員とで集い、共通課題の理解を深めるとともに、自ら疑問を持ち、これを調べるための研究方法の基礎を身に付ける。「社会の中にある教育力」に注目し、子どもにとって、大人に管理されない遊び空間としての社会や、成長後も人間に感化を与え続ける社会、そのような社会の持つ教育的機能について学び、今日の日本社会における教育をめぐる問題をテキスト購読と討論を通じて考察する。さらに、生涯学習センターや国際子ども図書館等の見学を通して、学校教育の外で子どもや親が参与できる学びの機会について学ぶ。	
	専門演習(生涯学習Ⅱ)	専門演習Ⅰの学修内容を踏まえ、研究方法論の理解を深め、卒業研究を行うための基礎的知識を習得する。とくに、テキストを批判的に読むという学問研究の基礎的技法、レポートの書き方について学び、卒業研究を行う基礎力を養成する。	
	専門演習(教育心理学Ⅰ)	児童に関わる中でも近い問題関心を持った仲間と専門領域の教員とで集い、共通課題の理解を深めるとともに、自ら疑問を持ち、これを調べるための研究方法の基礎を身に付ける。子どもの発達や学習についての心理学的研究の基礎的な資料をグループで講読、討論する。これをもとに、調べたいテーマを決定し、実際に調査を行い、結果をまとめる。	
	専門演習(教育心理学Ⅱ)	専門演習Ⅰの学修内容を踏まえ、研究方法論の理解を深め、卒業研究を行うための基礎的知識を習得する。教育心理学的研究の方法論について学習し、グループでの調査研究を行い、結果をまとめる。	
	専門演習(児童文学Ⅰ)	児童に関わる中でも近い問題関心を持った仲間と専門領域の教員とで集い、共通課題の理解を深めるとともに、自ら疑問を持ち、これを調べるための研究方法の基礎を身に付ける。保育者・小学校教員を目指す受講生が、様々な児童文学作品を通して、母国語である日本語についての理解を深め、また「卒業研究」を経て、最終的に、研究論文を書くことができるようになるための基礎力を養う。	

授 業 科 目 の 概 要				
(人文学部児童学科)				
科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専 門 科 目 群	演 習 科 目	専門演習Ⅰ(児童文学Ⅱ)	専門演習Ⅰの学修内容を踏まえ、研究方法論の理解を深め、卒業研究を行うための基礎的知識を習得する。小学校教科書、文学作品、新聞、インターネットなど、様々なメディアから国語的課題を見つけ出し、分析・考察しながら、母国語である日本語の理解を深める。また、小学校教育実習における授業実践をイメージしながら、実践的な発表力を身に付ける。	
		専門演習(社会科Ⅰ)	児童に関わる中でも近い問題関心を持った仲間と専門領域の教員とで集い、共通課題の理解を深めるとともに、自ら疑問を持ち、これを調べるための研究方法の基礎を身に付ける。社会科の教科指導に必要なと思われる内容について、「社会科とは何か」「社会科はどうあるべきか」といった問題意識の観点に立ち、1 社会科の本質、2 社会科の内容、3 社会科学習指導論、4 社会科の授業実践 などから課題を取り上げ、現地見学による学修を踏まえて学び、小学校の教師を目指す資質を向上させる。	
		専門演習(社会科Ⅱ)	専門演習Ⅰの学修内容を踏まえ、研究方法論の理解を深め、卒業研究を行うための基礎的知識を習得する。社会科の授業の基盤となる学習内容の研究、学習指導案の作成、授業研究等から選択課題に基づく演習・協議をし、社会科の教科教育に関する研究を深める。現地見学・現地学習も取り入れ、小学校教育実習における実践をイメージしながら、具体的に研究協議する力を身に付ける。	
		専門演習(栄養教育Ⅰ)	児童に関わる中でも近い問題関心を持った仲間と専門領域の教員とで集い、共通課題の理解を深めるとともに、自ら疑問を持ち、これを調べるための研究方法の基礎を身に付ける。子どもたちや、子どもたちの家庭をめぐる食の現状および課題について、公的なデータを読み取ることによって学び考える力を養う。子どもたちに食育をおこなう上で必要となる食に関する知識・技術が何かを知る。様々なデータを多面的に見ることで、氾濫する健康情報を正しく読み取る力を身に付けると共に、調べた情報について意見を交換することの楽しさを味わう。また、生きる力の源となる食の大切さを実感する。	
		専門演習(栄養教育Ⅱ)	専門演習Ⅰの学修内容を踏まえ、研究方法論の理解を深め、卒業研究を行うための基礎的知識を習得する。各々が興味関心を持った食についての課題を探究するための、実践的な手法を学ぶ。食育活動に有効な調理や栽培の実践を行う。子どもを取り巻く食の課題について、自身でテーマを設定し深く検討することで、実践的に理解を深める。調べた情報について意見を交換することの楽しさを味わう。調理や栽培の基礎技術を習得する。	
		専門演習(特別支援教育論Ⅰ)	児童に関わる中でも近い問題関心を持った仲間と専門領域の教員とで集い、共通課題の理解を深めるとともに、自ら疑問を持ち、文献収集や購読、学校や学級の見学等を通して、これを調べるための研究方法の基礎を身に付ける。特別支援教育、主に知的障害児の指導や教育課程編成について、学校における基礎的な諸課題を共通して理解し、自らの疑問や課題を明らかにする。	

授 業 科 目 の 概 要			
(人文学部児童学科)			
科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 演 習 科 目 群	専門演習(特別支援教育論Ⅱ)	専門演習Ⅰの学修内容を踏まえ、研究方法論の理解を深め、卒業研究を行うための基礎的知識を習得する。さらに、文献収集や講読、学校や学級の見学等を行い、特別支援教育に関する諸課題の解決の方策を探索する。	
	専門演習(障害児心理学Ⅰ)	児童に関わる中でも近い問題関心を持った仲間と専門領域の教員とで集い、共通課題の理解を深めるとともに、自ら疑問を持ち、これを調べるための研究方法の基礎を身につける。障害のある子どもの心理学に関する基礎的な知識と、その応用分野としての特別支援教育のあり方について学習する。文献の輪読とディスカッションを主な内容とする。	
	専門演習(障害児心理学Ⅱ)	専門演習Ⅰの学修内容を踏まえ、研究方法論の理解を深め、卒業研究を行うための基礎的知識を習得する。障害のある子どもの心理学と特別支援教育について文献の輪読とディスカッションを行う。また、それらに関する調査研究の基本的な方法論を学習する。	
	卒業研究(児童学Ⅰ)	専門演習で学んだことを発展させ、絵本理解の方法として絵本評論・論考に学ぶ手法を学んだ上で、受講者各々の問題意識・興味関心に沿って絵本を選書し分析研究を行い、研究の成果を発表し合う。	
	卒業研究(児童学Ⅱ)	専門演習と卒業研究Ⅰでの学修を踏まえて受講生各々の問題関心に沿った卒業研究に発展させる。子どもと絵本等の児童文化財を研究の対象と捉えた活動の成果を「卒業研究レポート」としてまとめ、発表し学び合う。	
	卒業研究(キリスト教幼児教育Ⅰ)	専門演習で学んだことを発展させ、キリスト教幼児教育の研究手法論により、また「人間実存の神秘への導入」(inducting)を重視しつつ聖書を学びながら、受講生の各々が抱えている課題意識についてキリスト教倫理学の領域で考察し、説得力のあるまとめを行ったうえで発表し合い、話し合う力を身に付ける。	
	卒業研究(キリスト教幼児教育Ⅱ)	専門演習と卒業研究Ⅰでの学修を踏まえて受講生各々の問題関心に沿った卒業研究に発展させる。キリスト教倫理学の領域での考察を重ねながら、キリスト教幼児教育の中のテーマに沿った個々の研究をまとめる。	
	卒業研究(造形教育論Ⅰ)	専門演習で学んだことを発展させ、卒業研究レポートまたは卒業制作を選び、取り組みを開始する。研究、制作の経過報告を行い、相互に意見交換や鑑賞を行うことで自己の課題を明確にし、仲間の意見を生かして考察を深めたり制作方法を再検討して、解決に向けた方策を探る。	

授 業 科 目 の 概 要				
(人文学部児童学科)				
科目	授業科目の名称	講義等の内容		備考
専 門 演 習 科 目 群	演 習 科 目	卒業研究(造形教育論Ⅱ)	専門演習と卒業研究Ⅰでの学修を踏まえて受講生各々の問題関心に沿った卒業研究に発展させる。自らの研究・制作で得られた成果と課題をまとめ、その過程を振り返りながら、求められる教師像と指導の質的改善の方法についても明らかにし、卒業研究レポートまたは卒業制作を完成させる。	
		卒業研究(音楽創造論Ⅰ)	専門演習で学んだことを発展させ、さらに他者と協力して制作することを学ぶ。専門演習で学んだ内容を基礎としつつ、幾つかの研究テーマに沿ってグループに分れ、各グループ毎に研究成果を発表する。自分の知識や経験を深めると同時に、仲間と協力しあうことの重要性を学ぶ。	
		卒業研究(音楽創造論Ⅱ)	専門演習と卒業研究Ⅰでの学修を踏まえて受講生各々の問題関心に沿った卒業研究に発展させる。卒業研究に選んだテーマが、自分や周囲の仲間のみならず社会にとってどのような意義を持つかを考え、研究成果としてより多くの人々に「伝える」ための方法を探る。	
		卒業研究(保育実践論Ⅰ)	専門演習で学んだことを発展させ、これまで積み上げてきた学修内容の成果を基に、各自が自己課題に向き合う研究テーマを決め、製作・実践・分析・調査等の手法を見出して取りかかる。	
		卒業研究(保育実践論Ⅱ)	専門演習と卒業研究Ⅰでの学修を踏まえて受講生各々の問題関心に沿った卒業研究に発展させる。研究を通して多角的な角度から子どもを見つめ、保育者として必要な実践力を養う。	
		卒業研究(異文化間教育Ⅰ)	専門演習で学んだことを発展させ、各自が関心のあるテーマについて研究計画を立て、先行研究をまとめ、身に付けた研究方法に依りながら、情報収集をし、得られた結果をもとに考察した結果をまとめ、発表する方法を学ぶ。また、ディスカッションを重ねながら、相互の意見を受け入れて研究を深める方法も身に付ける。	
		卒業研究(異文化間教育Ⅱ)	専門演習と卒業研究Ⅰでの学修を踏まえて受講生各々の問題関心に沿った卒業研究に発展させる。各自の研究テーマをレポートにまとめることを目標に、身に付けた研究方法論を実行し、得られた成果をまとめて発表する。	
		卒業研究(教育文化論Ⅰ)	専門演習で学んだことを発展させ、各自が関心のある内容を研究にまとめる。また、相互に発表し合うことで、その研究を仲間と共有する方法を身に付ける。研究を進めるために有効な方法や工夫の仕方を、仲間との意見交換の中で深めていくことを学ぶ。	

授 業 科 目 の 概 要				
(人文学部児童学科)				
科目	授業科目の名称	講義等の内容		備考
専 門 演 習 科 目 群	演 習 科 目	卒業研究(教育文化論Ⅱ)	専門演習と卒業研究Ⅰでの学修を踏まえて受講生各々の問題関心に沿った卒業研究に発展させる。受講生それぞれが関心のある内容を研究レポートにまとめる。また、自身のあり方をふりかえりながら学んだことを社会でも活かしていくわざをともに見出しあうことを企図して、研究の経過と成果は仲間と共有しあう。	
		卒業研究(生涯学習Ⅰ)	専門演習で学んだことを発展させ、各受講生が研究テーマを設定して研究を深めることで、テーマ設定の方法、研究方法、研究成果のまとめ方を身に付け、卒業論文作成への力を養成する。また、研究仲間との関わり合いが、独りよがりな考察を防ぎ科学的かつ普遍性のある研究を進める際には不可欠であることを体験的に認識する。	
		卒業研究(生涯学習Ⅱ)	専門演習と卒業研究Ⅰでの学修を踏まえて受講生各々の問題関心に沿った卒業研究に発展させる。それぞれの研究テーマを論文にまとめることを目標とする。テーマ設定と研究の進め方(方法論)について共通の指導の中で学んだあとは、個人指導をうけて学びを深める。	
		卒業研究(教育心理学Ⅰ)	専門演習で学んだことを発展させ、教育心理学的研究について自らテーマを設定し、研究計画を立案し、個別に調査研究を行う。	
		卒業研究(教育心理学Ⅱ)	専門演習と卒業研究Ⅰでの学修を踏まえて受講生各々の問題関心に沿った卒業研究に発展させる。教育心理学的研究について自らテーマを設定し、研究計画を立案し、個別に調査研究を行う。	
		卒業研究(児童文学Ⅰ)	専門演習で学んだことを発展させ、毎回提示したテーマに沿った児童文学作品を持ち寄り、作品分析や評論についてディスカッションを行うことで、日本語の豊かな語彙力・運用力を身に付ける。	
		卒業研究(児童文学Ⅱ)	専門演習と卒業研究Ⅰでの学修を踏まえて受講生各々の問題関心に沿った卒業研究に発展させる。これまでの学修の集大成として、それぞれの研究テーマを論文にまとめる。それぞれの論文作成の経過報告とディスカッションを経て、保育者・教員を目指す社会人として、自分自身の考えを的確な表現力で文章化する力を身に付ける。	
		卒業研究(社会科Ⅰ)	専門演習で学んだことを発展させ、地理的分野、歴史的分野、公民的分野など、広く社会科教育に関係する内容の中から各自が研究題材項目を選択し、調査研究を進め、その報告を全体で協議する方法を通して、教科指導に関する研究を行う力を養う。	
		卒業研究(社会科Ⅱ)	専門演習と卒業研究Ⅰでの学修を踏まえて受講生各々の問題関心に沿った卒業研究に発展させる。研究テーマについて、十分な調査研究と全員で協議を行い、深めた成果を卒業研究レポートにまとめて発表することにより、社会科教育に直結した力を養い、教育者・社会人としての資質の向上に資する。	

授 業 科 目 の 概 要				
(人文学部児童学科)				
科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専 門 科 目 群	演 習 科 目	卒業研究(栄養教育Ⅰ)	専門演習で学んだことを発展させ、各々が興味関心を持った食に関連するテーマを設定し、研究発表を行う。受講生自身が豊かな食生活を送れるよう、振り返りを行う。子どもを取り巻く食の課題について、自身でテーマを設定し深く検討することで、課題解決に必要なことに気付く。また、調べた情報について意見を交換することの楽しさを味わう。食生活改善を目標とするとともに達成の難しさを実践的に学ぶ。	
		卒業研究(栄養教育Ⅱ)	専門演習と卒業研究Ⅰでの学修を踏まえて受講生各々の問題関心に沿った卒業研究に発展させる。食育の実践に向けて学んだことを整理する。子どもを取り巻く食の課題について、研究を深めていきながら自分なりの結論を持つ。また、調べた情報について意見を交換することの楽しさを味わう。保育・教育現場で活用できる食育の知識・技術を再確認する。	
		卒業研究(特別支援教育論Ⅰ)	専門演習で学んだことを発展させ、特別支援教育、主に知的障害児の指導や教育課程編成について、学校における基礎的な諸課題を教育実践と結びつけながら、実践研究や授業研究、調査研究を行い、研究の成果を発表し合う。	
		卒業研究(特別支援教育論Ⅱ)	専門演習と卒業研究Ⅰでの学修を踏まえて受講生各々の問題関心に沿った卒業研究に発展させる。特別支援教育、主に知的障害児の指導や教育課程編成に関する各々の疑問や課題について、学校における教育実践と結びつけながら、実践研究や授業研究、調査研究を行い、卒業研究として成果をまとめる。	
		卒業研究(障害児心理学Ⅰ)	専門演習で学んだことを発展させ、障害のある子どもの心理学と特別支援教育について、各受講者の関心に基づく文献の紹介を通して理解を深める。各回につき担当者を決め、文献をもとにした発表とディスカッションを行う。	
		卒業研究(障害児心理学Ⅱ)	専門演習と卒業研究Ⅰでの学修を踏まえて受講生各々の問題関心に沿った卒業研究に発展させる。各受講者の関心に基づいてテーマを定め、個別に調査研究を行ってその結果をまとめる。また、最終発表会においてその成果を発表し、ディスカッションを通して知識を共有する。	
		卒業論文	「専門演習Ⅰ・Ⅱ」「卒業研究Ⅰ・Ⅱ」の4セメスタにわたる学修で得た自己の研究課題に向き合い、課題の捉え方や方法論に関する担当教員の指導を受けながら、主体的に調査や実践に取り組んで学び、「卒業論文題目発表会」での中間的な報告と協議を経て、自分なりに得た結論を論理構築を行いながら文章にまとめ、卒業論文として仕上げる。その成果は「児童学科卒業論文発表会」で公開する。	

授 業 科 目 の 概 要				
(人文学部児童学科)				
科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
総合科目群	総 合	経済学研究	将来の修士論文作成をも視野に入れた経済学に関する理解力の強化を目標とする。日本経済新聞の「経済教室」をテキストとして、そこで展開されるトピックスから理論的背景を説明し、論文執筆のために必要とされる論旨の読解力と批判的理解力も涵養する。論者の主張をまず正確に理解し、そのうえで論理の矛盾や欠陥を指摘して、内容を的確に評価する知的作業を行う力を身に付ける。	
		企業財務論研究	東芝不正会計を通して、日本企業社会に共通した問題点が理解できる。それは、CEOの選択という企業ガバナンスの問題として理解できる。同時に、法律的な整備はどうなっているのか、金融商品取引法および会社法の仕組みと、それらの改正の経緯を、立法事実に即して理解できる。会計処理は原則と同時に慣例が支配する世界である。バイセル取引という業界特有の会計慣行をどう理解するのがポイントとなっている。そこから、原則と慣行という会計処理の世界が見えてくる。 東芝不正会計問題を取り上げるのは、第三者委員会報告という形式で詳細な資料が公開されているからである。要約版で84頁、全文で303頁あるが、講義受講者には読んで欲しい。この第三者委員会報告にも厳しい批判がある。第三者委員会報告という形式の問題点も理解できる。この講義を通じて、企業のガバナンスの問題、法的な規制の枠組み、会計原則と慣行という諸論点が整理されよう。	
	科 目	まちづくり論研究	まちづくりの概要、まちづくりにとって重要な合意形成、まちづくりの基本的進め方である住民参加・協働について学ぶ。その上で、高齢化・人口減少、中心市街地、コミュニティのキーワードに関連するまちづくりの問題と対応策を幅広く学ぶ。	
		地域文化論	地域社会の固有の資源を活用した経済的な生産性と共同生活の持続性、そこに生きる人々にとっての生活の豊かさと精神的な誇り、暮らしの相互扶助や交流を発展させる地域文化の伝承と現代的創造、子どもが感性豊かに育ち創造性を身につけていくプロセスなどに関わる人間の社会的・共同的な営みについて学ぶ。ナショナル、グローバルな文化との相互作用をもつローカルな文化として都市・農村の市民文化活動の事例をとりあげ、地域文化の発展と文化による地域再生、市民の協同と人の育ち、行政やNPOの役割などについて検討する力を養う。	
	目 群	欧米文化学特論	アメリカ、ヨーロッパ、日本それぞれの文化の基礎をなす思想について、欧米文化のみならず、アメリカ・ヨーロッパから学んだ研究方法のもとで培われた日本文化研究の視点や研究をも入れ、一つの主題を追う形で研究の最前線を学ぶ。広い歴史的視野のなかで大局的に理解することを通して、人文的教養と視野を広げる学問的な視点を知る。	
		日本思想特論	近現代日本の思想・キリスト教を対象とした最新の研究論文や著作を講読することを通して、その分野における先行研究を時代ごとにあとづけ、その根底なる問題意識と対峙することや、その作業を通じて己の関心を問い直し、研究の独自性を練り上げることを体験的に学ぶ。	

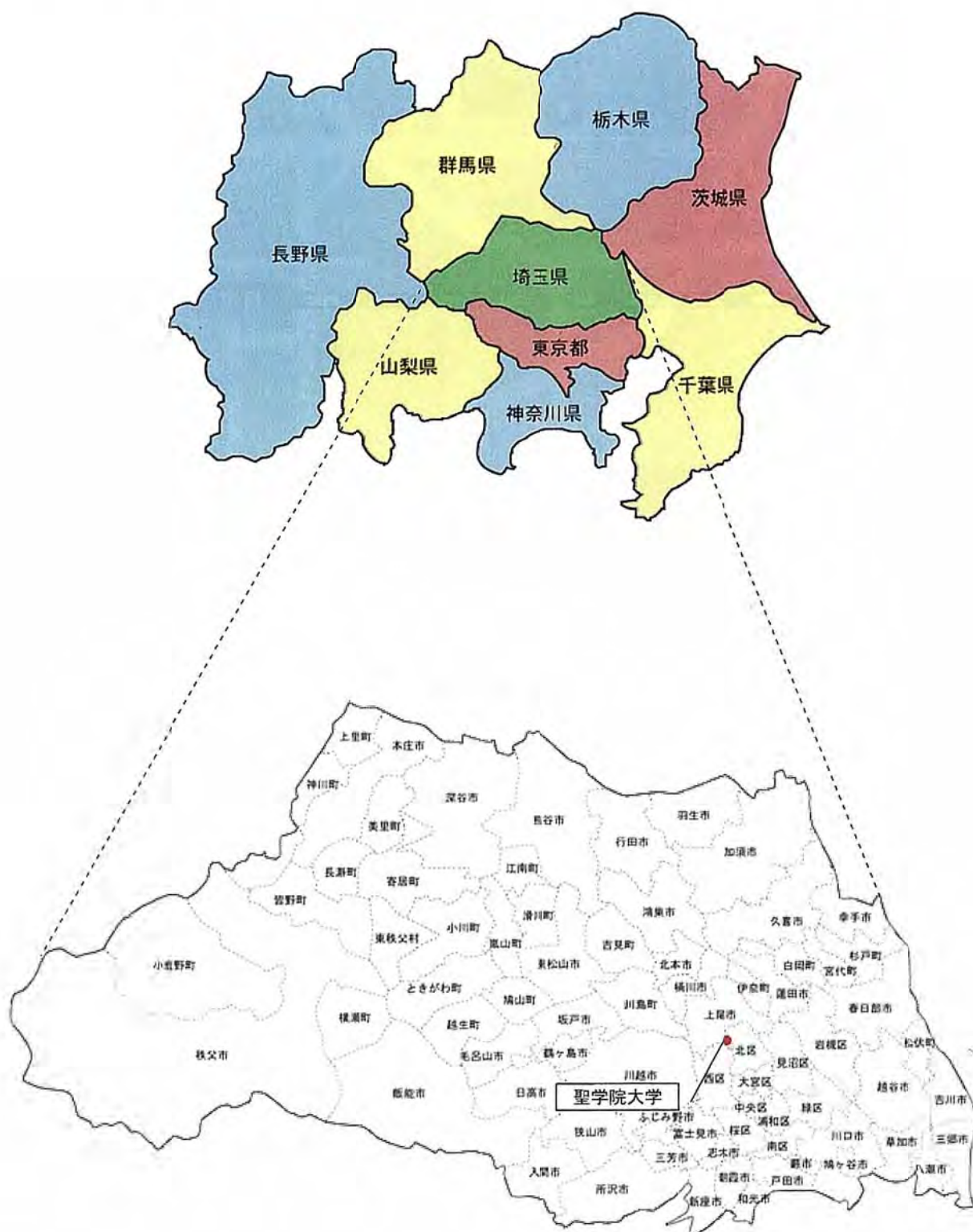
授 業 科 目 の 概 要			
(人文学部児童学科)			
科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合科目目群	日本文学文化研究	キリスト教と日本人の精神性との関連を、主としてキリスト教思想家の著作を通して学ぶ。 倫理思想史の観点から、近代のキリスト教思想史の基本的な知識を得るとともに、時代的な思想家の思想的連関にも着目しながら考え、近代の思想史的連関のなかで対象を考察する中で、自らの宗教性についての理解を一層明らかにし、それぞれの問題意識を深める。	
	アメリカ文化学研究A	20世紀アメリカの代表的な神学者・政治思想家・評論家ラインホルド・ニーバー（Reinhold Niebuhr, 1892-1971）の生涯と思想の全体を概観する。その際、ニーバーの背景としてのアメリカ史、とりわけ20世紀アメリカの歴史を確認しながら進める。	
	ヨーロッパ文化学研究B	20世紀の後半、現代哲学は言語論的転換を果たしたといわれ、言語の問題が哲学の主要な課題として浮上した。そこでも根本の問題は「人間とは何か」ということであった。言語哲学の問題を「人間とは何か」という存在論的問として考えたい。言語とは何か、という問を通して「人間とは何か」を問うことが目標である。そしてこの問題を、「呼びかけと応答」という観点から考えてみたい。	
	キリスト教文化学研究A	「呼びかけと応答」と題して、人間存在の根本にかかわる問題をその根源に遡って、しかも日常生活の経験に照らし合わせながら、考えてみたい。私たちの通常の「呼びかけと応答」は、音を媒介とした言葉、「日本語」や「英語」などを通してなされる。しかし時には、身体の身振り、表情、出会い、出来事、歴史的事件、大災害すらも、一つの呼びかけとなりうる。通常言語を介した「呼びかけ」と、いわば言葉無き「呼びかけ」とは、何処に共通点が存し、どこで相違するのであろうか。これが考察の出発点である。 先取りして言えば、言葉無き事柄が「呼びかけ」となるために必要な要件は、その事柄が、第一に私にとって極めて重要なものであること、さらにその事柄が私を、どちらを選ぶべきかの「選択」の前に立たせること、そして第三に、その選択から自分が逃げ出せないと感じられていることである。 このように「呼びかけと応答」の問題を広い意味で、いわば「存在論的」な問題として捉え、現代における宗教的課題に関わる問題として、共に考えて行きたい。	
	児童教育学特論	児童教育学の中でも「異文化間教育」に焦点を当て、日本の保育所・幼稚園・小学校において、外国人の子どもたちや国際結婚の子どもたち、海外で生まれ育った日本人の子どもたち等が増加している現状を踏まえ、異文化間教育・異文化適応・異文化間コミュニケーション等の理論と実践について理解し、検討する力を養う。	
	児童学特論	児童を研究する意味や目的を根本から問い、福祉的な視座に立った児童研究の基礎を学ぶ。児童福祉は、子ども一人ひとりのしあわせを願い、そのために私たちに出来ることを模索する学問領域である。生まれたときから、あるいは育つ過程で様々な困難にであつても、どの子どもの育ちもしあわせであつてほしいと願う視座に立って研究を進めるために、子どものしあわせを問う方法論を身に付ける。そもそも「子ども」という存在の特性をどれだけ客観的に捉えているかを問い直し、子どもの姿や保育・教育・援助の実践から子どもを研究する方法を習得する。	

授 業 科 目 の 概 要			
(人文学部児童学科)			
科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合科目群	総 高年齢福祉特論	高齢者保健福祉の歴史の変遷を、そのときどきの社会的諸条件と関連づけて取り上げ、現状と変化の方向を明らかにする。そしてその上で、最近の学会誌の論文の講読とあわせて、現在の問題とその解決に向けての方策を考究する。	
	合 児童福祉特論	児童福祉分野のうち、主に子ども虐待、児童養護、子育て支援、権利擁護、家族、スクールソーシャルワークに関連するテーマについて学ぶ。特に、実際の現場に即した具体的な援助方法の参考となる調査結果やヒアリング結果、科目担当者の権利擁護活動から得られた知見に学ぶ。	
	科 発達心理学特論	ヒトが生まれて死に至るまでの発達がどのように進むのかについて、理論だけでなく臨床心理学的視点も加えた心理援助実践の中で学ぶ。ヒトは常に関係性の中で変化し続けていることも念頭に置いて、生涯発達、関係性の中での発達を理解する。	

(注)

- 1 開設する授業科目の数に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。

聖学院大学 さいたま・上尾キャンパス埼玉県内における位置図面



最寄り駅からの距離、交通機関



聖学院大学の最寄り駅は JR 高崎線宮原駅(徒歩 15 分)／JR 埼京線(川越線)西大宮駅。JR 高崎線宮原駅及び、JR 埼京線(川越線)西大宮駅・川越駅よりスクールバスが運行しています。JR 埼京線(川越線)日進駅からは徒歩 15 分です。



JR 川越線川越駅 バス乗り場

聖学院大学 さいたま・上尾キャンパス校地建物配置図

埼玉県上尾市戸崎 1 番 1 号

さいたま・上尾キャンパス 施設一覧

① 本館・図書館	
鉄筋コンクリート造陸屋根 5 階建	延床面積 2,420 m ²
② 1 号館	
鉄筋コンクリート造陸屋根・合金メッキ鋼板ぶき地下 1 階付 3 階建	延床面積 1,992 m ²
③ 2 号館	
鉄筋コンクリート造陸屋根地下 1 階付 4 階建	延床面積 4,135 m ²
④ 3 号館	
鉄骨造陸屋根 2 階建	延床面積 685 m ²
⑤ 4 号館	
鉄筋コンクリート造陸屋根 4 階建	延床面積 2,900 m ²
⑥ デザイン館 (5 号館)	
鉄筋コンクリート造陸屋根 3 階建	延床面積 843 m ²
⑦ シャローム館 (6 号館)	
軽量鉄骨造合金メッキ鋼板ぶき 2 階建	延床面積 274 m ²
⑧ 7 号館	
鉄筋コンクリート造陸屋根 4 階建	延床面積 1,601 m ²
⑨ 8 号館	
鉄筋コンクリート造 7 階建	延床面積 3,350 m ²
⑩ ヴェリタス館・エルピス館	
鉄筋コンクリート造合金メッキ鋼板葺 2 階建	延床面積 1,786 m ²
⑪ 緑聖ホール	
鉄筋コンクリート造合金メッキ鋼板葺地下 1 階付平家建	延床面積 399 m ²
	延床総面積 20,385 m ²

全て全学部共用

(但し、⑨8 号館の各研究室については専用共用関係あり)



聖学院大学学則

第1章 設立及び目的

第1条 聖学院大学（以下「本学」という。）の法的設置者は、「基督教会」（ディサイプルス派）の伝統のもとに設立された学校法人聖学院である。

第2条 本学は、プロテスタント・キリスト教の精神に基づき、自由と敬虔の学風によって真理を探究し、豊かな教養と深い専門の学術を教授し、精神（霊）的、知的、実践的に成熟した全体的な人間形成に努め、民主的社會人としての良識と国際化した現代社会に対する見識とをもった有為の人間を育成し、文化の発展と人類世界の福祉及び平和に寄与することを目的とする。

2 第3条に定める各学部又は学科の教育研究上の目的は別記のとおりとする。

第2条の2 本学は、教育研究水準の向上を図り、前条に示す本学の目的及び社会的使命を達成するため、文部科学大臣の定めるところにより、教育研究活動等の状況について自ら点検及び評価を行い、その結果を公表する。

2 点検及び評価に関する規則は別に定める。

3 点検及び評価の結果について、政令で定める期間ごとに、文部科学大臣の認証を受けた者による評価を受けるものとする。

第2条の3 本学は、教育研究活動等の状況について、刊行物への掲載その他広く周知を図ることができる方法によって、積極的に情報を提供するものとする。

第2章 組織

第3条 本学の学部、学科及び各定員は、次のとおりとする。

（学部名）	（学科名）	（入学定員）	（編入定員）	（収容定員）
政治経済学部	政治経済学科	160名		640名
人文学部	欧米文化学科	80名		320名
	日本文化学科	80名		320名
	児童学科	100名		400名
心理福祉学部	心理福祉学科	120名	3年次20名	520名

2 本学に、基礎科目、教養科目及び総合科目の編成及び教員配置をつかさどる基礎総合教育部を置く。

第3条の2 本学に大学院を置く。

2 大学院に関する学則は別に定める。

第3条の3 本学に聖学院大学総合研究所（以下「研究所」という。）を置く。

2 研究所に関する規則は別に定める。

第4条 本学に聖学院大学総合図書館（以下「図書館」という。）を置く。

2 図書館に関する規則は別に定める。

第3章 教職員組織

第5条 本学に次の教職員を置く。

- (1) 学長、大学チャプレン、学部長、学部チャプレン、基礎総合教育部長及び学科長
 - (2) 教授
 - (3) 准教授、助教、講師、助手その他の教育職員
 - (4) 事務職員
 - (5) 学長が必要と認めたその他の教職員
- 2 学長は、聖学院大学運営委員会（以下「運営委員会」という。）の補佐を受けて全ての校務をつかさどり、所属教職員を統督し、本学を代表する。
 - 3 学長は、全ての校務（大学教授会、学部教授会又は研究科委員会（以下「大学教授会等」という。）の意見を聴くものとして定めた事項及び大学教授会等に委任した事項を含む。）について、本学としての最終的な決定を行う権限を有し、その責任を負う。
 - 4 学長は、大学教授会等の意見を尊重しなければならない。
 - 5 学部長、基礎総合教育部長及び学科長は、それぞれ学部、基礎総合教育部又は学科に関する校務をつかさどる。
 - 6 大学チャプレン及び学部チャプレンは、「聖学院大学の理念」に基づいて、本学の礼拝、式典並びに教職員及び学生の宗教活動を霊的な配慮をもってつかさどる。
 - 7 運営委員会の組織その他の必要な事項については、別に定める。
 - 8 教職員の組織、事務分掌その他の事項は、別に定める。

第4章 教授会

第6条 本学に、大学教授会及び学部教授会を置く。

- 2 大学教授会は、前条第1項第1号に掲げる者及び専任の教授をもって組織する。ただし、学長が必要と認める場合には、その他の教職員を加え、又は陪席させることができる。
- 3 学長は、大学教授会を招集し、その議長となる。
- 4 大学教授会は、学長が次の事項について決定を行うに当たり、これを審議し、意見を述べるものとする。
 - (1) 学生の入学、卒業及び課程の修了
 - (2) 学位の授与
 - (3) 教育研究に関するその他の重要な事項で、大学教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定めるもの
- 5 学長は、前項第3号の事項を定めるに当たっては、大学教授会の意見を参酌し、その定めた事項を書面の交付その他の方法により大学教授会に周知するものとする。
- 6 大学教授会は、第4項に規定するもののほか、学長がつかさどる教育研究に関する事項について審議し、意見を述べることができる。
- 7 大学教授会は、第4項及び前項に定める事項について、審議し、及び意見を述べるほか、学部教授会その他の教育研究上の教員組織が行った審議について報告を受ける。
- 8 学長は、教育研究に関して行うべき判断の一部を、大学教授会に委任することができる。
- 9 大学教授会の運営に関する事項は、別に定める。

第7条 学部教授会は、学部長、学部チャプレン及び学部所属の専任の教授をもって組織する。ただし、学長又は学部長が必要と認める場合には、その他の教職員を加え、又は陪席させることができる。

- 2 学部長は、学部教授会を招集し、その議長となる。
- 3 学長及び大学チャプレンは、学部教授会に出席することができる。
- 4 学部教授会は、学長が、その決定を行うに当たって学部教授会の意見を聴くことを要するものと定める教育研究上の重要な事項について、審議し、大学教授会を通じて意見を述べるものとする。
- 5 学長は、前項の事項を定めるに当たっては、学部長、大学教授会及び学部教授会の意見を参酌するとともに、その定めた事項を、書面の交付その他の方法で学部長、大学教授会及び学部教授会に周知するものとする。
- 6 学部教授会は、第4項に規定するもののほか、学長又は学部長がつかさどる教育研究に関する事項につい

て審議し、意見を述べることができる。

7 学長及び学部長は、教育研究に関して行うべき判断の一部を、学部教授会に委任することができる。

8 学部教授会の運営に関する事項は、別に定める。

第5章 学年、学期及び休業日

第8条 学年は4月1日から始まり、翌年3月31日に終わる。

第8条の2 本学の創立記念日を10月31日（宗教改革記念日）とする。

第9条 学年を次の2学期に分ける。

春学期 4月1日から9月30日まで

秋学期 10月1日から翌年3月31日まで

2 学長は必要がある場合、春学期、秋学期の期間を変更することができる。

第10条 休業日は次のとおりとする。

（1）日曜日

（2）国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日

（3）クリスマス 12月25日

（4）夏期、冬期及び春期休業については、別に定める。

2 前項第4号の休業日は変更することがある。また学長は必要がある場合、休業日若しくは休業期間を変更し、又は臨時に休業日を定めることができる。

3 教育上必要があり、やむを得ない事情があったときは、休業日に授業（集中講義、実習等を含む。）を行うことがある。

第6章 修業年限及び在学年限

第11条 学部の修業年限は4年とする。

第12条 在学年限は休学期間を除き8年とする。

2 再入学者は再入学前の年数を加えて8年を超えることができない。

3 第18条第1項の規定により入学した学生は、同条第2項により定められた在学すべき年数の2倍に相当する年数を超えて在学することができない。

第7章 入 学

第13条 入学の時期は、学年の初めとする。ただし、再入学及び転入学、または教育上適当と認めたときは、大学教授会の議を経て、入学の時期を学期の初めとすることができる。

第14条 本学に入学することのできる者は、次の各号の一に該当する者とする。

（1）高等学校若しくは中等教育学校を卒業した者

（2）通常の課程による12年の学校教育を終了した者（通常の課程以外の課程によりこれに相当する学校教育を修了した者を含む。）

（3）外国において、学校教育における12年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定した者

（4）文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程

を修了した者

(5) 文部科学大臣の定めるところにより、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者

(6) その他本学において、相当の年令に達し、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者

第 15 条 本学への入学志願者は、入学願書に入学検定料及び別に定める書類を添えて指定の期日までに本学に提出しなければならない。

第 16 条 入学志願者については、別に定めるところにより選考を行う。

第 17 条 前条の選考の結果合格の通知を受けた者は、保証人連署の誓約書、住民票抄本、その他本学が必要とする書類とともに、入学金及び所定の学費を添えて、指定の期日までに入学手続きをしなければならない。

2 学長は入学手続きを完了した者に対し、大学教授会の議を経て入学を許可する。

第 18 条 次の各号の一に該当する者で、本学への入学を志願する者があるときは、欠員のある場合に限り、選考のうえ相当年次に入学を許可することがある。

(1) 大学を卒業した者又は退学した者

(2) 短期大学、高等専門学校、旧国立工業教員養成所、又は旧国立養護教諭養成所を卒業した者

(3) 専修学校の専門課程（修業年限が2年以上で、かつ修了に必要な総授業時数が1,700時間以上のものであること）を修了した者

(4) 外国の大学において前各号に準じる課程を修了した者

2 前項の規定により入学を許可された者の既に履修した授業科目及び単位数の取扱い並びに在学すべき年数については、大学教授会の議を経て学長が決定する。

第 18 条の 2 本学を退学した者（除籍を含む。）で、本学に再入学を志願する者があるときは、欠員のある場合に限り、選考のうえ、相当年次に入学を許可することができる。

2 再入学に関する規程は別に定める。

第 19 条 第 17 条に規定する保証人は、満 25 歳以上の独立の生計をたてる者であって、学生在学中にかかる一切の事項につきその責を負うものとする。

2 保証人が本学において不適当と認められたときは、その変更を命ずることができる。

3 保証人が死亡し又はその他の理由で、第 1 項に定める責を負うことができなくなったときは、新たに保証人を定め届け出なければならない。

第 8 章 教育課程及び履修方法等

第 20 条 授業科目を分けて、基礎科目、教養科目、専門科目及び総合科目とする。

第 20 条の 2 授業は、講義、演習、実験、実習及び実技のいずれかにより又はこれらの併用により行うものとする。

2 大学教授会又は学部教授会は、教育上有益と認めたときは、前項の授業を、多様なメディアを高度に利用して当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。

第 20 条の 3 本学は、授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究を実施するものとする。

第 21 条 授業科目、単位数及び履修方法は、別表第 I のとおりとする。

第22条 授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により単位数を計算するものとする。

(1) 講義については、15時間の授業をもって1単位とする。

(2) 演習については、30時間の授業をもって1単位とする。ただし、別に定める授業科目については、15時間の授業をもって1単位とする。

(3) 実験、実習及び実技については、45時間の授業をもって1単位とする。ただし、別に定める授業科目については、30時間の授業をもって1単位とする。

2 前項の規定にかかわらず、卒業論文、卒業研究、卒業制作等にかかわる授業科目については、これらの学修の成果を評価して単位を授与することが適切と認められる場合には、これらに必要な学修を考慮して、単位数を定めることができる。

第22条の2 学生が各年次にわたって適切に授業科目を履修するため、卒業の要件として学生が修得すべき単位数について、学生が1年間又は1学期間に履修科目として登録することができる単位数の上限をさだめることができる。

2 前項の規定にかかわらず、所定の単位を優れた成績をもって修得した学生については、学部教授会の定めるところにより、単位数の上限を超えて履修科目の登録を認めることができる。

第23条 履修した授業科目の成績評価は、原則として、試験（試験に代わるレポートを含む。）により行う。

第24条 授業科目の試験の成績は、S、A、B、C、D、Xの6段階をもって評価し、S、A、B、Cを合格とする。

2 前項の規定にかかわらず、特定の授業科目については、試験の成績をN（合格）又はD（不合格）で評価することができる。

第24条の2 1年間の授業を行う期間は、補講・試験等の期間を含め、35週にわたることを原則とする。

第25条 授業科目を履修し、その試験に合格した者には、所定の単位を与える。

第25条の2 教育上有益と認めたときは、他学部又は他学科との協議に基づき、学生に当該他学部又は他学科の授業科目を履修させることができる。

2 前項の規定により履修した授業科目により修得した単位については、当該学部の教授会の議を経て、卒業要件となる単位として認めることができる。

第26条 教育上有益と認めたときは、他の大学又は短期大学との協議に基づき、学生に当該他大学又は短期大学の授業科目を履修させることができる。

2 前項の規定により履修した授業科目により修得した単位については、大学教授会又は学部教授会の議を経て、30単位を限度として卒業要件となる単位として認めることができる。

第26条の2 教育上有益と認めたときは、学生が本学に入学する前に大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位（科目履修により修得した単位を含む。）を、本学に入学した後の本学における授業科目の履修により修得したものとみなし、学部教授会の議を経て、卒業要件となる単位として認めることができる。

2 教育上有益と認めたときは、学生が本学に入学する前に又は入学後に行う文部科学大臣が別に定める学修を、本学における授業科目の履修とみなし、学部教授会の議を経て、卒業要件となる単位として認めることができる。

3 前2項により修得したものとみなし又は与えることのできる単位数は、編入学、転学等の場合を除き、本学において修得した単位以外のものについては、前条第1項及び第2項により本学において修得したものとみなし、卒業要件となる単位として認める単位数と合わせて30単位を超えないものとする。

第9章 休学、転学、転部、転科、留学及び退学

第27条 疾病その他やむを得ない理由により、引き続き3ヶ月以上修学が困難な者は、その理由を記し、保証人連署のうえ休学を願いでることができる。

2 疾病のため修学することが適当でないと認められる者については、学部長が学部教授会の議を経て休学を命ずることができる。

第28条 休学期間は1年以内とする。ただし、特別の理由がある場合は、1年を限度として休学期間の延長を認めることがある。

2 休学期間は通算して4年を超えることができない。

3 休学期間は第11条並びに第12条に定める修業年限、在学年限に算入しない。

第29条 休学期間中にその理由が消滅したときは、学部長の許可を得て、復学することができる。

第30条 他の大学への入学又は転学を志願しようとする者は、学部長の許可を受けなければならない。

第30条の2 本学の他の学部へ移ろうとする者又は同一学部で所属の学科を変更しようとする者があるときは、欠員のある場合に限り、選考のうえ、当該学部教授会の議を経て相当年次に転部又は転科を許可することがある。

第31条 外国の大学で学修することを志願する者は、学部長の許可を得て留学することができる。

2 前項の許可を得て留学した期間は、第11条並びに第12条に定める修業年限、在学年限に含めることができる。

3 第26条の規定は、外国の大学へ留学する場合に準用する。

第32条 退学しようとする者は、その理由を記し、保証人連署のうえ願い出なければならない。

第33条 次の各号の一に該当する者は、大学教授会の議を経て学長が除籍する。

- (1) 正当な理由がなく所定の期日までに学費の納付を怠り、督促してもなお納付しない者
- (2) 第12条に規定する在学年限を超えた者
- (3) 第28条第2項に定める休学期間を超えてなお修学できない者
- (4) 長期間にわたり行方不明の者
- (5) 死亡した者

第10章 卒業、学位、課程認定及び資格

第34条 本学に4年(第18条第1項により入学した者については、同条第2項に定められた在学すべき年数)以上在学し、別表第Ⅱに定める卒業に必要な授業科目及び単位数を修得した者については、大学教授会の議を経て学長が卒業を認定し卒業証書学位記を授与する。

2 前条に定める卒業に必要な要件を充足し、かつ本学の別に定める他学科の副専攻科目を履修し必要な授業科目および単位数を修得した者については、大学教授会の議を経て学長が副専攻修了証を授与する。

第35条 卒業した者は、次の学士の学位を授与する。

政治経済学部	政治経済学科	学士(政治経済学)
人文学部	欧米文化学科	学士(欧米文化学)

	日本文化学科	学士（日本文化学）
	児童学科	学士（児童学）
心理福祉学部	心理福祉学科	学士（心理福祉学）

第 35 条の 2 政治経済学部政治経済学科、人文学部欧米文化学科、日本文化学科及び児童学科の者が教育職員免許状を取得しようとするときは、教育職員免許法第 5 条の規定に従って、本大学の別に定める教科及び教職に関する専門教育科目を履修し、所要の単位を修得しなければならない。

2 教育職員免許状取得に必要な授業科目及びその単位数は、次のとおりとする。

（1）政治経済学部政治経済学科の授業科目及びその単位数は、別表第 I 政治経済学部政治経済学科専門科目のとおりとする。

（2）人文学部欧米文化学科の授業科目及びその単位数は、別表第 I 人文学部欧米文化学科専門科目のとおりとする。

（3）人文学部日本文化学科の授業科目及びその単位数は、別表第 I 人文学部日本文化学科専門科目のとおりとする。

（4）人文学部児童学科の授業科目及びその単位数は、別表第 I 人文学部児童学科専門科目のとおりとする。

3 教育職員免許状を取得しようとする者は、別表第 I の 2 に定めるところに従い、教育職員免許法及び同法施行規則により必要とされる科目及び単位数を修得しなければならない。

4 第 2 項及び前項に定める科目、単位を修得した者は、次の教育職員免許状を取得することができる。

（1）政治経済学部政治経済学科

中学校教諭一種免許状（社会）

高等学校教諭一種免許状（地理歴史）

高等学校教諭一種免許状（公民）

（2）人文学部欧米文化学科

中学校教諭一種免許状（英語）

高等学校教諭一種免許状（英語）

（3）人文学部日本文化学科

中学校教諭一種免許状（国語）

高等学校教諭一種免許状（国語）

（4）人文学部児童学科

小学校教諭一種免許状

幼稚園教諭一種免許状

特別支援学校教諭一種免許状（知的障害者・肢体不自由者・病弱者）

第 35 条の 3 人文学部児童学科において、保育士の資格を取得しようとする者は、児童福祉法施行令第 13 条の規定に従って、本大学の別に定める科目を履修し、所要の単位を修得しなければならない。

2 保育士資格に関する授業科目及びその単位数は、別表第 I 人文学部児童学科専門科目のとおりとする。

3 保育士資格を取得しようとする者は、別表第 I の 4 保育士資格に関する科目に定めるところに従い、児童福祉法施行令及び児童福祉法施行規則により必要とされる科目及び単位数を修得しなければならない。

第 35 条の 4 図書館司書の資格を取得しようとする者は、別表第 II に定める卒業単位を充足し、かつ図書館法施行規則第 4 条の規定に従って本大学の別に定める科目を履修し、所要の単位を修得しなければならない。

2 図書館司書資格に関する授業科目及びその単位数は、別表第 I の 5 図書館司書に関する科目のとおりとする。

第 35 条の 5 学校図書館司書教諭の資格を取得しようとする者は、別表第 II に定める卒業単位を充足し、かつ学校図書館司書教諭講習規程第 2 条及び第 3 条の規定に従って必要とされる科目、単位を修得しなければならない。

2 学校図書館司書教諭の資格取得を希望する者は、小学校、中学校、高等学校又は特別支援学校の教育職員

免許状を取得した者又は取得見込みの者でなければならない。

- 3 学校図書館司書教諭に関する授業科目及びその単位数は、別表第Ⅰの5 学校図書館司書教諭に関する科目のとおりとする。

第35条の6 社会教育主事の資格を取得しようとする者は、別表第Ⅱに定める卒業単位を充足し、かつ社会教育法第9条の4第3号及び社会教育主事講習等規程第11条に従って必要とされる科目、単位を修得しなければならない。

- 2 社会教育主事資格に関する授業科目及びその単位数は、別表第Ⅰの6 社会教育主事資格に関する科目のとおりとする。

第35条の7 心理福祉学部心理福祉学科において、社会福祉士国家試験の受験資格を得ようとする者は、社会福祉士及び介護福祉士法等に定める規定に従って、本大学の別に定める科目を履修し、所要の単位を修得しなければならない。

- 2 社会福祉士国家試験の受験資格に関する授業科目及びその単位数は、別表第Ⅰの7 社会福祉士国家試験受験資格に係る指定科目のとおりとする。
- 3 社会福祉士国家試験の受験資格を得ようとする者は、社会福祉士及び介護福祉士法第7条第1号に基づく社会福祉に関する科目のうち実習演習科目（社会福祉に関する科目を定める省令（平成20年文部科学省令・厚生労働省令第3号）第4条に規定された実習演習科目をいう。）について、別に定めるところに従い、社会福祉士及び介護福祉士法等により必要とされる科目及び単位数を修得しなければならない。

第35条の8 心理福祉学部心理福祉学科において、精神保健福祉士国家試験の受験資格を得ようとする者は、精神保健福祉士法に定める規定に従って、本大学の別に定める科目を履修し、所要の単位を修得しなければならない。

- 2 精神保健福祉士国家試験の受験資格に関する授業科目及びその単位数は、別表第Ⅰの8 精神保健福祉士国家試験受験資格に係る指定科目のとおりとする。
- 3 精神保健福祉士国家試験の受験資格を得ようとする者は、精神保健福祉士法第7条第1号に基づく精神障害者の保健及び福祉に関する科目のうち実習演習科目（精神障害者の保健及び福祉に関する科目を定める省令（平成23年度文部科学省令・厚生労働省令第3号）第1条に規定された実習演習科目をいう。）について、別に定めるところに従い、精神保健福祉士法により必要とされる科目及び単位数を取得しなければならない。

第11章 賞 罰

第36条 学生として本学の建学の精神にてらし表彰に値する行為があった者は、大学教授会の議を経て、学長が表彰することができる。

第37条 学長は、不正な行為を行った学生に対し、その自覚と反省を促すとともに、学内外の秩序を回復し、維持するため、懲戒処分をすることができる。

- 2 前項の懲戒処分の事由、内容及び手続については、「聖学院大学学生懲戒規程」で定める。

第37条の2 停学期間は、第11条並びに第12条に定める修業年限、在学年限に参入する。

第12章 厚生施設

第38条 本学教職員、学生のために厚生施設を置くことができる。

第13章 研究生、科目等履修生、聴講生、特別聴講生及び外国人留学生

第 39 条 本学において、特定の専門事項について研究することを志願する者があるときは、学部の教育研究に支障がない場合に限り、選考のうえ、研究生として入学を許可することがある。

2 研究生を志願することのできる者は、大学を卒業した者又はこれと同等以上の学力があると認められた者とする。

3 研究期間は、1 年とする。ただし、特別の理由がある場合は、その期間を更新することができる。

第 40 条 本学において特定の授業科目を受講することを志願する者があるときは、学部の教育に支障のない場合に限り、選考のうえ科目等履修生として入学を許可することがある。

第 40 条の 2 本学において特定の授業科目を聴講することを志願する者があるときは、学部の教育に支障のない場合に限り、選考のうえ聴講生として入学を許可することがある。

第 41 条 他の大学の学生で、本学において授業科目を履修することを志願する者があるときは、当該大学との協議に基づき、特別聴講生として入学を許可することができる。

第 42 条 外国人で、大学において教育を受ける目的をもって入国し、本学に入学を志願する者があるときは、選考のうえ、外国人留学生として入学を許可することができる。

2 前項の外国人留学生に対しては、第 21 条に掲げるもののほか、日本語科目及び日本事情に関する科目を置くことができる。

第 43 条 研究生、科目等履修生、聴講生及び特別聴講生に関する規則は、別に定める。

2 外国人留学生については、別に定める。

第 14 章 検定料、入学金及び学費

第 44 条 検定料、入学金及び授業料その他の諸費（以下「学費」という。）は、別表第Ⅲのとおりとする。

2 前項に定める学費以外に必要なその他の費用は、別に徴収する。

第 45 条 学費は、年額の 2 分の 1 ずつ春学期、秋学期の 2 期に分け、本学が指定する期間内に納付しなければならない。

第 46 条 学生に特別の事情がある場合は、審査のうえ月割分納を許可することがある。ただし、最短修業年限超過者は対象としない。

2 前項の月割分納の額は、授業料年額の 12 分の 1 に相当する額とし、大学が指定する日までにこれを納付しなければならない。

3 学費を前項の納期から相当期間を経過して納付しない者は除籍する。ただし、卒業年次生にあつては卒業予定月の前月末までに卒業予定月分と合わせて納付しなければならない。

第 47 条 休学した者の学費は、休学が学期途中からであったときは、当該学期分の全額を納付しなければならない。ただし、休学が全学期にわたったときは、当該学期分の学費を免除とし、別に定める在籍料を納付しなければならない。

2 復学したときは学費の全額を納付しなければならない。

第 48 条 学年の途中で卒業する見込みの者の学費については別に定める。

第 49 条 学期の途中で退学、又は除籍された者は、当該学期分の学費を納付しなければならない。

第 50 条 停学を命じられた者の当該学期分の学費は、全額徴収する。

第 51 条 研究生、科目等履修生及び特別聴講生の検定料、入学金、学費については別に定める。

第 52 条 納付した検定料、入学金、学費は返付しない。

第 15 章 公開講座

第 53 条 社会人の教養を高め、文化の向上に資するため、本学に公開講座を開設することができる。

第 16 章 雑則

(改正手続)

第 54 条 この学則の改正は、大学教授会の議を経て学長が決定し、理事会の承認を得るものとする。

附 則

この学則は、文部省の認可の日（昭和 62 年 12 月 23 日）から施行する。

附 則

この学則は、1989 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この学則は、1990 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この学則は、1991 年 4 月 1 日から施行する。ただし、入学検定料は第 44 条にかかわらず当該年度の入学志願者より適用する。

附 則

この学則は、1992 年 4 月 1 日から施行する。ただし、35 条の規定は 3 月 1 日から施行する。

附 則

この学則は、1993 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この学則は、1994 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この学則は、1995 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

1. この学則は、1996 年 4 月 1 日から施行する。
2. この学則施行の際、現に本学に在学している者に係る教育課程及び卒業の要件は、この学則による改正後の聖学院大学学則第 20 条及び第 34 条に関わる別表第Ⅱの規定にかかわらず、改正前の規定による。

附 則

この学則は、1997 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この学則は、文部大臣の認可の日（平成 9 年 12 月 19 日）から施行し、1998 年 4 月 1 日から適用する。

附 則

この学則は、1999 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この学則は、1999 年 4 月 26 日から施行する。

附 則

この学則は、文部大臣の認可の日（平成 11 年 10 月 22 日）から施行し、2000 年 4 月 1 日から適用する。

附 則

この学則は、2001 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この学則は、2002 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この学則は、2002 年 4 月 22 日から施行する。

附 則

この学則は、2003 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この学則は、2004 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この学則は、2005 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この学則は、2006 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この学則は、2007 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この学則は、2008 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この学則は、2009 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この学則は、2010 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

1. この学則は、2011 年 4 月 1 日から施行する。

2. 前項の規定にかかわらず 2010 年度以前の入学生については、なお従前の例による。

附 則

1. この学則は、2012 年 4 月 1 日から施行する。

2. 前項の規定にかかわらず 2011 年度以前の入学生については、なお従前の例による。

附 則

1. この学則は、2013 年 4 月 1 日から施行する。

2. 前項の規定にかかわらず 2012 年度以前の入学生については、なお従前の例による。

附 則

1. この学則は、2014 年 4 月 1 日から施行する。ただし、2014 年度から 2017 年度においては、政治経済学部政治経済学科、コミュニティ政策学科の収容定員は第 3 条第 1 項の規定にかかわらず、次のとおりとする。

政治経済学部政治経済学科	政治経済学部コミュニティ政策学科
--------------	------------------

2014 年度 460 名	2014 年度 260 名
---------------	---------------

2015 年度 520 名	2015 年度 160 名
---------------	---------------

2016 年度 580 名	2016 年度 80 名
---------------	--------------

2017 年度 640 名	
---------------	--

2. 前項の規定にかかわらず 2013 年度以前の入学生については、なお従前の例による。

附 則

この学則は、2015 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この学則は、2016 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この学則は、2017 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この学則は、2018 年 4 月 1 日から施行する。

別表Ⅰ(第21条関係)

(4)人文学部児童学科

科目 区分	授 業 科 目	単 位 数			卒業要件 単 位 数	備 考
		必修	選択	自由		
基礎科目群						
基礎 科目	キリスト教概論A	2				
	キリスト教概論B	2				
	情報基礎	2				
英 語 科 目	ECA(Speaking) I	2				
	ECA(英語基礎表現)	1				
	ECA(Reading) I	1				
	ECA(Speaking) II		2			
	ECA(Reading) II		1			
	ECA(Cinema) I		1			
	ECA(Cinema) II		1			
	ECA(Cinema)III		1			
	ECA(Culture)		1			
	ECA(English through Songs)A		1			
	ECA(English through Songs)B		1			
	ECA(Pleasure Reading)A		1			
	ECA(Pleasure Reading)B		1			
	ECA(Business)		1			
	ECA(English for <i>Omotenashi</i>)		1			
	ECA(Travel English)		1			
	ECA(Basic TOEIC)A		1			
	ECA(Basic TOEIC)B		1			
	ECA(Basic Grammar)		1			
	ECA(やり直しの発音)		1			
	ECA(Global Understanding)		1		4	
第 二 外 国 語 科 目	ドイツ語Ⅰ		2			
	ドイツ語Ⅱ		2			
	フランス語Ⅰ		2			
	フランス語Ⅱ		2			
	スペイン語Ⅰ		2			
	スペイン語Ⅱ		2			
	イタリア語Ⅰ		2			
	イタリア語Ⅱ		2			
	中国語Ⅰ		2			
	中国語Ⅱ		2			
	韓国語Ⅰ		2			
	韓国語Ⅱ		2			
ス ポ ー ツ 科	健康・体力づくり実習A		1			幼一種免許・小一種免許・保育士資格取得者は2科目2単位以上選択必修。ただし保育士資格取得者は必ず体育(講義)を含むこと。
	健康・体力づくり実習B		1			
	生涯スポーツ実習A		1			
	生涯スポーツ実習B		1			
	体育(講義)		1			
キ リ ス ト 教 関 連 科 目	聖書の世界A		2			
	聖書の世界B		2			
	イングリッシュ・バイブルA		2			
	イングリッシュ・バイブルB		2			
	キリスト教と歴史形成A		2			
	キリスト教と歴史形成B		2			
	キリスト教思想史A		2			
	キリスト教思想史B		2			
	キリスト教と国際社会A		2			
	キリスト教と国際社会B		2			
	キリスト教と日本社会A		2			
	キリスト教と日本社会B		2			
	キリスト教とアジア文化A		2			
	キリスト教とアジア文化B		2			
	キリスト教と自然科学A		2			
	キリスト教と自然科学B		2			
	キリスト教と音楽A		2			
	キリスト教と音楽B		2			
	キリスト教音楽史A		2			
	キリスト教音楽史B		2			
	キリスト教と美術A		2			
	キリスト教と美術B		2			
	キリスト教と福祉活動の実際A		2			
	キリスト教と福祉活動の実際B		2			
	キリスト教カウンセリング論		2			
	キリスト教と心のケア		2		4	

科目 区分	授 業 科 目	単 位 数			卒業要件 単 位 数	備 考
		必修	選択	自由		
キ ャ リ ア 教 育 科 目	時事問題演習		1			
	図表理解		1			
	キャリアデザインA		1			
	キャリアデザインB		1			
	ビジネス・ライティング		1			
	ビジネス・コミュニケーション		1			
	ビジネス・プレゼンテーション		1			
	業界・企業研究		1			
	インターンシップI(事前学習)		2			
	インターンシップII(実習)		2			
	海外インターンシップA		4			
	海外インターンシップB		4			
	海外インターンシップC		2			
	海外インターンシップD		1			
そ の 他	日本国憲法		2			一 幼一種免許・小一種免許取得者は必修
	Special Lecture Series		2			
	地元学		2			
	宮原地域学		2			
	釜石学		2			
	コミュニティサービスラーニング I		2			
	コミュニティサービスラーニング II		2			
	被災地支援・インターンシップA		4			
	被災地支援・インターンシップB		2			
	被災地支援・インターンシップC		1			
	アメリカ文化演習A		4			
	アメリカ文化演習B		2			
	オーストラリア文化演習		4			
	カナダ文化演習		4			
計		10	158	0	8	
教養科目群						
教 養 科 目 群	人間理解への基盤を学ぶ					8単位選択必修
	哲学		4			
	欧米文学		4			
	言語学		4			
	文学		4			
	文化学		4			
	西洋史		4			
	日本史		4			
	異文化間コミュニケーション		4			
	社会理解への基盤を学ぶ					
	政治学		4			
	経済学		4			
	法学		4			
	社会学		4			
	障害児(者)の理解と社会		4			
	福祉環境学		4			
	社会福祉概論		4			
	情報と社会		4			
	自然理解への基盤を学ぶ					
	環境学		4			
	民俗環境学		4			
	職業人生と健康		4			
	教養としての数学		4		8	
計		0	80	0	8	
専門科目群						
共 通 基 本 科 目	キリスト教文化論A	2				
	キリスト教文化論B	2				
	児童学概論	2				
	言葉の基礎	2				
	教職演習A		1			
	教職演習B		1			
	教職演習C		1			
	教職演習D		1			
	教職演習E		1			
	教職演習F		1			
	教職演習G		1			
	教職演習(小学校英語A)		1			
	教職演習(小学校英語B)		1			
	児童学海外研修		4		8	

科目 区分	授 業 科 目	単 位 数			卒業要件 単 位 数	備 考
		必修	選択	自由		
児 童 文 化 系 統	児童文化論	2				
	絵本文化論		2			
	児童文学		2			
	英米児童文学		4			
	ファンタジー論		4			
	おもちゃ論		2			
	異文化間教育		2		2	
心 理 学 系 統	教育心理学	1				
	発達心理学	2				
	教育相談(カウンセリングを含む。)	2			5	
教 育 学 系 統	教育原理	2				
	キリスト教保育論		2			
	教育社会学	2				
	学校と教育の歴史		2			
	社会教育論A		2			
	社会教育論B		2			
	現代社会と社会教育A		2			
	現代社会と社会教育B		2		4	
福 祉 ・ 教 育 関 連 系 統	社会福祉		2			
	相談援助		1			
	児童家庭福祉		2			
	保育原理		2			
	社会的養護		2			
	乳児保育A		1			
	乳児保育B		1			
	社会的養護内容		1			
	保育相談支援		1			
	障害児保育A		1			
	障害児保育B		1			
	子どもの保健A		2			
	子どもの保健B		2			
	子どもの保健演習		1			
	家庭支援論		2			
	子どもの食と栄養A		1			
	子どもの食と栄養B		1			
教 育 関 連 科 目	国語		2			
	社会		2			
	算数		2			
	理科		2			
	生活		2			
	家庭		2			
	図画工作A		1			
	図画工作B		1			
	体育A		1			
	体育B		1			
	音楽A		1			
	音楽B		1			
	外国語		2			
	音楽・器楽A		1			
	音楽・器楽B		1			
	音楽・合奏指導		1			
	教師論	2				
	保育実践演習A		1			
	保育実践演習B		1			
	教職実践演習(幼・小)		2			幼一種免・小一種免取得者は必修
	教育・保育課程論	2				
	保育内容総論		2			
	保育内容の研究・健康		2			
	保育内容の研究・人間関係		2			幼一種免取得者は必修
	保育内容の研究・環境		2			
	保育内容の研究・言葉		2			
	保育内容の研究・表現A		2			
	保育内容の研究・表現B		2			
	幼児理解の理論と方法		2			
	教育課程論		2			
	初等国語科教育法		2			
	初等社会科教育法		2			
	算数科教育法		2			
	理科教育法		2			
	生活科教育法		2			小一種免取得者は必修
	音楽科教育法		2			
	図画工作科教育法		2			
	家庭科教育法		2			

科目 区分	授 業 科 目	単 位 数			卒業要件 単 位 数	備 考
		必修	選択	自由		
教育 関 連 科 目	体育科教育法		2			
	外国語活動指導法		2			小一種免取得者は必修
	道徳教育指導法		2			
	特別活動指導法		2			
	教育方法論	2				
	生徒指導論(進路指導を含む。)		2			小一種免取得者は必修
	学校インターンシップ(基礎)	1				
	学校インターンシップ		2			
	幼稚園教育実習		5			幼一種免取得者は必修
	幼稚園教育実習(副)		3			幼一種免(副)取得者は必修
	保育実習		4			
	保育実習指導		2			
	保育実習A		2			
	保育実習B		2			
	保育実習指導A		1			
	保育実習指導B		1			
	小学校教育実習		5			小一種免取得者は必修
	介護等体験及び事前事後指導		2			
	障害児教育総論		2			
	知的障害児の心理・生理・病理A		2			
	知的障害児の心理・生理・病理B		2			
	肢体不自由児の心理・生理・病理		2			
	病弱児の心理・生理・病理		2			
	情緒障害児の心理		2			
	知的障害児指導法		2			
	病弱児指導法		2			
	障害幼児指導法		2			
	肢体不自由児指導法		2			
	視覚障害児の教育総論		2			
	聴覚障害児の教育総論		2			
	重複障害児の教育総論		2			
	発達障害児の教育総論		2			
	特別支援教育実習		3			
	学校経営と学校図書館		2			
	学校図書館メディアの構成		2			
	学習指導と学校図書館		2			
	読書と豊かな人間性		2			
	情報メディアの活用		2		7	
演 習 科 目	専門演習(児童学Ⅰ)		1			同一名称のⅠ、Ⅱを付した 2科目2単位選択必修
	専門演習(児童学Ⅱ)		1			
	専門演習(キリスト教幼児教育Ⅰ)		1			
	専門演習(キリスト教幼児教育Ⅱ)		1			
	専門演習(造形教育論Ⅰ)		1			
	専門演習(造形教育論Ⅱ)		1			
	専門演習(音楽創造論Ⅰ)		1			
	専門演習(音楽創造論Ⅱ)		1			
	専門演習(保育実践論Ⅰ)		1			
	専門演習(保育実践論Ⅱ)		1			
	専門演習(異文化間教育Ⅰ)		1			
	専門演習(異文化間教育Ⅱ)		1			
	専門演習(教育文化論Ⅰ)		1			
	専門演習(教育文化論Ⅱ)		1			
	専門演習(生涯学習Ⅰ)		1			
	専門演習(生涯学習Ⅱ)		1			
	専門演習(教育心理学Ⅰ)		1			
	専門演習(教育心理学Ⅱ)		1			
	専門演習(児童文学Ⅰ)		1			
	専門演習(児童文学Ⅱ)		1			
	専門演習(社会科Ⅰ)		1			
	専門演習(社会科Ⅱ)		1			
	専門演習(栄養教育Ⅰ)		1			
	専門演習(栄養教育Ⅱ)		1			
	専門演習(特別支援教育論Ⅰ)		1			
	専門演習(特別支援教育論Ⅱ)		1			
	専門演習(障害児心理学Ⅰ)		1			
	専門演習(障害児心理学Ⅱ)		1			
	卒業研究(児童学Ⅰ)		1			
	卒業研究(児童学Ⅱ)		1			
	卒業研究(キリスト教幼児教育Ⅰ)		1			
	卒業研究(キリスト教幼児教育Ⅱ)		1			
	卒業研究(造形教育論Ⅰ)		1			
	卒業研究(造形教育論Ⅱ)		1			
	卒業研究(音楽創造論Ⅰ)		1			

科目 区分	授 業 科 目	単 位 数			卒業要件 単 位 数	備 考
		必修	選択	自由		
演 習 科 目	卒業研究(音楽創造論Ⅱ)		1			
	卒業研究(保育実践論Ⅰ)		1			
	卒業研究(保育実践論Ⅱ)		1			
	卒業研究(異文化間教育Ⅰ)		1			
	卒業研究(異文化間教育Ⅱ)		1			
	卒業研究(教育文化論Ⅰ)		1			
	卒業研究(教育文化論Ⅱ)		1			
	卒業研究(生涯学習Ⅰ)		1			
	卒業研究(生涯学習Ⅱ)		1			
	卒業研究(教育心理学Ⅰ)		1			
	卒業研究(教育心理学Ⅱ)		1			
	卒業研究(児童文学Ⅰ)		1			
	卒業研究(児童文学Ⅱ)		1			
	卒業研究(社会科Ⅰ)		1			
	卒業研究(社会科Ⅱ)		1			
	卒業研究(栄養教育Ⅰ)		1			
	卒業研究(栄養教育Ⅱ)		1			
	卒業研究(特別支援教育論Ⅰ)		1			
	卒業研究(特別支援教育論Ⅱ)		1			
	卒業研究(障害児心理学Ⅰ)		1			
	卒業研究(障害児心理学Ⅱ)		1			
	卒業論文		6			
	計	26	268	0	26	
総合科目群						
総 合 科 目	経済学研究		2			
	企業財務論研究		2			
	まちづくり論研究		2			
	地域文化論		2			
	欧米文化学特論		2			
	日本思想特論		2			
	日本文化学研究		4			
	アメリカ文化学研究A		4			
	ヨーロッパ文化学研究B		4			
	キリスト教文化学研究A		4			
	児童教育学特論		4			
	児童学特論		4			
	高齢者福祉特論		4			
	児童福祉特論		4			
	発達心理学特論		4			
	計	0	48	0	0	

別表第Ⅱ（第34条関係）

（4）人文学部児童学科卒業に必要な授業科目及び単位数

学 科 目 群		卒 業 最 低 必 要 単 位 数						備考
		必修	選択必修	選択	小計	自由選択	合計	
基礎科目群	基礎科目	6			14	26	124	8単位以上選択必修
	英語科目	4						
	第二外国語科目							
	スポーツ科目							
	キリスト教関連科目		4					
	キャリア教育科目							
	その他							
教養科目群	人間理解への基盤を学ぶ		8		8			
	社会理解への基盤を学ぶ							
	自然理解への基盤を学ぶ							
専門科目群	共通基本科目	8		46	76			
	児童文化系統	2						
	心理学系統	5						
	教育学系統	4						
	福祉・教育関連系統							
	教育関連科目	7						
	演習科目		4					
総合科目群								
合計		36	16	46	98	26	124	

別表第Ⅲ(第44条関係)

検定料、入学金及びその他の諸費

	入 学 検定料	入学金	授業料	教育拡充費 (1年)	教育拡充費 (2年～)	施設費	備 考
政治経済学部							
政治経済学科	30,000	280,000	710,000	30,000	10,000	240,000	
コミュニティ政策学科	30,000	280,000	710,000	30,000	10,000	240,000	
人文学部							
欧米文化学科	30,000	280,000	710,000	30,000	10,000	240,000	
日本文化学科	30,000	280,000	710,000	30,000	10,000	240,000	
児童学科	30,000	280,000	760,000	30,000	10,000	240,000	
心理福祉学部							
心理福祉学科	30,000	280,000	760,000	30,000	10,000	240,000	

聖学院大学 学則 新旧対照表

変更後	変更前
(略)	(略)
第2章 組織	第2章 組織
第3条 本学の学部、学科及び各定員は、次のとおりとする。	第3条 本学の学部、学科及び各定員は、次のとおりとする。
(学部名) (学科名) (入学定員) (収容定員)	(学部名) (学科名) (入学定員) (収容定員)
政治経済学部 政治経済学科 160名 640名	政治経済学部 政治経済学科 160名 640名
人文学部 欧米文化学科 80名 320名	人文学部 欧米文化学科 80名 320名
日本文化学科 80名 320名	日本文化学科 80名 320名
児童学科 100名 400名	人間福祉学部 児童学科 100名 400名
心理福祉学部 心理福祉学科 120名	こども心理学科 80名 320名
3年次 20名 520名	人間福祉学科 80名 320名
(略)	(略)
第10章 卒業、学位、課程認定及び資格	第10章 卒業、学位、課程認定及び資格
(略)	(略)
第35条 卒業した者は、次の学士の学位を授与する。	第35条 卒業した者は、次の学士の学位を授与する。
政治経済学部 政治経済学科 学士(政治経済学)	政治経済学部 政治経済学科 学士(政治経済学)
人文学部 欧米文化学科 学士(欧米文化学)	人文学部 欧米文化学科 学士(欧米文化学)
日本文化学科 学士(日本文化学)	日本文化学科 学士(日本文化学)
児童学科 学士(児童学)	人間福祉学部 児童学科 学士(児童学)
心理福祉学部 心理福祉学科 学士(心理福祉学)	こども心理学科 学士(心理・健康保健学)
	人間福祉学科 学士(人間福祉学)
第35条の2 政治経済学部政治経済学科、人文学部欧米文化学科、日本文化学科及び児童学科の者が教育職員免許状を取得しようとするときは、教育職員免許法第5条の規定に従って、本大学の別に定める教科及び教職に関する専門教育科目を履修し、所要の単位を修得しなければならない。	第35条の2 政治経済学部政治経済学科、人文学部欧米文化学科、日本文化学科、並びに人間福祉学部児童学科、こども心理学科及び人間福祉学科の者が教育職員免許状を取得しようとするときは、教育職員免許法第5条の規定に従って、本大学の別に定める教科及び教職に関する専門教育科目を履修し、所要の単位を修得しなければならない。
2 教育職員免許状取得に必要な授業科目及びその単位数は、次のとおりとする。	2 教育職員免許状取得に必要な授業科目及びその単位数は、次のとおりとする。
(1)～(3)略	(1)～(3)略
(4)人文学部児童学科の授業科目及びその単位数は、別表第Ⅰ人文学部児童学科専門科目のとおりとする。	(4)人間福祉学部児童学科の授業科目及びその単位数は、別表第Ⅰ人間福祉学部児童学科専門科目のとおりとする。
	(5)人間福祉学部こども心理学科の授業科目及びその単位数は、別表第Ⅰ人間福祉学部こども心理学科専門科目のとおりとする。

変更後	変更前
3 (略) 4 第2項及び前項に定める科目、単位を修得した者は、次の教育職員免許状を取得することができる。 (1)～(3) (略) (4) <u>人文学部</u>児童学科 小学校教諭一種免許状 幼稚園教諭一種免許状 <u>特別支援学校教諭一種免許状(知的障害者・肢体不自由者・病弱者)</u> 第35条の3 <u>人文学部</u>児童学科において、保育士の資格を取得しようとする者は、児童福祉法施行令第13条の規定に従って、本大学の別に定める科目を履修し、所要の単位を修得しなければならない。 2 保育士資格に関する授業科目及びその単位数は、別表第I <u>人文学部</u>児童学科専門科目のとおりとする。 3 (略) 第35条の4～ 第35条の6 (略) 第35条の7 <u>心理福祉学部心理福祉学科</u>において、社会福祉士国家試験の受験資格を得ようとする者は 社会福祉士及び介護福祉士法等に定める規定に従って、本大学の別に定める科目を履修し、所要の単位を修得しなければならない。 2～3 (略) 第35条の8 <u>心理福祉学部心理福祉学科</u>において、精神保健福祉士国家試験の受験資格を得ようとする者は精神保健福祉士法に定める規定に従って、本大学の別に定める科目を履修し、所要の単位を修得しなければならない。 (略) <u>附 則</u> <u>この学則は、2018年4月1日から施行する。</u>	<u>(6)人間福祉学部人間福祉学科の授業科目及びその単位数は、別表第I人間福祉学部人間福祉学科専門科目のとおりとする。</u> 3 (略) 4 第2項及び前項に定める科目、単位を修得した者は、次の教育職員免許状を取得することができる。 (1)～(3) (略) (4) <u>人間福祉学部</u>児童学科 小学校教諭一種免許状 幼稚園教諭一種免許状 <u>(5)人間福祉学部こども心理学科</u> <u>中学校教諭一種免許状(保健)</u> <u>高等学校教諭一種免許状(保健)</u> <u>特別支援学校教諭一種免許状</u> <u>(知的障害者・肢体不自由者・病弱者)</u> <u>(6)人間福祉学部人間福祉学科</u> <u>高等学校教諭一種免許状(福祉)</u> 第35条の3 <u>人間福祉学部</u>児童学科において、保育士の資格を取得しようとする者は、児童福祉法施行令第13条の規定に従って、本大学の別に定める科目を履修し、所要の単位を修得しなければならない。 2 保育士資格に関する授業科目及びその単位数は、別表第I <u>人間福祉学部</u>児童学科専門科目のとおりとする。 3 (略) 第35条の4～ 第35条の6 (略) 第35条の7 <u>人間福祉学部人間福祉学科</u>において、社会福祉士国家試験の受験資格を得ようとする者は 社会福祉士及び介護福祉士法等に定める規定に従って、本大学の別に定める科目を履修し、所要の単位を修得しなければならない。 2～3 (略) 第35条の8 <u>人間福祉学部人間福祉学科</u>において、精神保健福祉士国家試験の受験資格を得ようとする者は精神保健福祉士法に定める規定に従って、本大学の別に定める科目を履修し、所要の単位を修得しなければならない。 (略)

別表Ⅰ(第21条関係)

(4)人文学部児童学科

(4)人間福祉学部児童学科

変更後						
科目 区分	授 業 科 目	単 位 数			卒業要件 単 位 数	備 考
		必修	選択	自由		
基礎科目群						
英語 科目	キリスト教概論A	2				
	キリスト教概論B	2				
	情報基礎	2				
	ECA(Speaking)Ⅰ	2				
	ECA(英語基礎表現)	1				
	ECA(Reading)Ⅰ	1				
	ECA(Speaking)Ⅱ		2			
	ECA(Reading)Ⅱ		1			
	ECA(Cinema)Ⅰ		1			
	ECA(Cinema)Ⅱ		1			
	ECA(Cinema)Ⅲ		1			
	ECA(Culture)		1			
	ECA(English through Songs)A		1			
	ECA(English through Songs)B		1			
	ECA(Pleasure Reading)A		1			
	ECA(Pleasure Reading)B		1			
	ECA(Business)		1			
	ECA(English for <i>Omotenashi</i>)		1			
	ECA(Travel English)		1			
	ECA(Basic TOEIC)A		1			
ECA(Basic TOEIC)B		1				
ECA(Basic Grammar)		1				
ECA(やり直しの発音)		1				
ECA(Global Understanding)					4	
第二外国語 科目	ドイツ語Ⅰ	2				
	ドイツ語Ⅱ	2				
	フランス語Ⅰ	2				
	フランス語Ⅱ	2				
	スペイン語Ⅰ	2				
	スペイン語Ⅱ	2				
	イタリア語Ⅰ	2				
	イタリア語Ⅱ	2				
	中国語Ⅰ	2				
	中国語Ⅱ	2				
スポーツ 科目	韓国語Ⅰ	2				
	韓国語Ⅱ	2				
	健康・体力づくり実習A	1				幼一種免許・小一種免許・保育士資格取得者は2科目2単位以上選択必修。ただし保育士資格取得者は必ず体育(講義)を含むこと。
	健康・体力づくり実習B	1				
生涯スポーツ実習A	1					
生涯スポーツ実習B	1					
キリスト教 関連科目	体育(講義)	1				
	聖書の世界A	2				
	聖書の世界B	2				
	イングリッシュ・バイブルA	2				
	イングリッシュ・バイブルB	2				
	キリスト教と歴史形成A	2				
	キリスト教と歴史形成B	2				
	キリスト教思想史A	2				
	キリスト教思想史B	2				
	キリスト教と国際社会A	2				
	キリスト教と国際社会B	2				
	キリスト教と日本社会A	2				
	キリスト教と日本社会B	2				
	キリスト教とアジア文化A	2				
	キリスト教とアジア文化B	2				
	キリスト教と自然科学A	2				
	キリスト教と自然科学B	2				
	キリスト教と音楽A	2				
	キリスト教と音楽B	2				
	キリスト教音楽史A	2				
キリスト教音楽史B	2					
キリスト教と美術A	2					
キリスト教と美術B	2					
キリスト教と福祉活動の実際A	2					
キリスト教と福祉活動の実際B	2					
キリスト教カウンセリング論	2					
キリスト教と心のケア	2				4	
キャリア 教育科目	時事問題演習	1				
	図表理解	1				
	キャリアデザインA	1				
	キャリアデザインB	1				
	ビジネス・ライティング	1				
	ビジネス・コミュニケーション	1				
	ビジネス・プレゼンテーション	1				
	業界・企業研究	1				
	インターンシップⅠ(事前学習)	2				
	インターンシップⅡ(実習)	2				
海外インターンシップ	海外インターンシップA	4				
	海外インターンシップB	4				
	海外インターンシップC	2				
	海外インターンシップD	2				
		1				
その他	日本国憲法	2				幼一種免許・小一種免許取得者は必修
	Special Lecture Series	2				
	地元学	2				
	富原地域学	2				
	金石学	2				
	コミュニティサービスラーニングⅠ	2				
	コミュニティサービスラーニングⅡ	2				
	被災地支援・インターンシップA	4				
	被災地支援・インターンシップB	2				
	被災地支援・インターンシップC	1				
	アメリカ文化演習A	4				
	アメリカ文化演習B	2				
	オーストラリア文化演習	4				
	カナダ文化演習	4				
計		10	158	0	8	

科目 区分	授 業 科 目	単 位 数			卒業要件 単 位 数	備 考	
		必修	選択	自由			
教養科目群							
教 養 科 目 群	人間理解への基礎を学ぶ		4			8単位選択必修	
	哲学		4				
	欧米文学		4				
	言語学		4				
	文学		4				
	文化学		4				
	西洋史		4				
	日本史		4				
	異文化間コミュニケーション		4				
	社会理解への基礎を学ぶ		—				
	政治学		4				
	経済学		4				
	法学		4				
	社会学		4				
	障害児(者)の理解と社会		4				
	福祉環境学		4				
	社会福祉概論		4				
	情報と社会		4				
	自然理解への基礎を学ぶ						
	環境学		4				
	民俗環境学		4				
	職業人生と健康		4				
	教養としての数学		4		8		
計		0	80	0	8		
専門科目群							
共 通 基 本 科 目	キリスト教文化論A	2					
	キリスト教文化論B	2					
	児童学概論	2					
	言葉の基礎	2					
	教職演習A		1				
	教職演習B		1				
	教職演習C		1				
	教職演習D		1				
	教職演習E		1				
	教職演習F		1				
	教職演習G		1				
	教職演習(小学校英語A)		1				
	教職演習(小学校英語B)		1				
	児童学海外研修		4		8		
児 童 文 化 系 統	児童文化論	2					
	絵本文化論		2				
	児童文学		2				
	英米児童文学		4				
	ファンタジー論		4				
	おもちゃ論		2		2		
心 理 学 系 統	異文化間教育		2		2		
	教育心理学	1					
	発達心理学	2			5		
教 育 学 系 統	教育相談(カウンセリングを含む。)	2					
	教育原理	2					
	キリスト教保育論		2				
	教育社会学	2					
	学校と教育の歴史		2				
	社会教育論A		2				
	社会教育論B		2				
	現代社会と社会教育A		2				
福 祉 ・ 教 育 関 連 系 統	現代社会と社会教育B		2		4		
	社会福祉		2				
	相談援助		1				
	児童家庭福祉		2				
	保育原理		2				
	社会的養護		2				
	乳児保育A		1				
	乳児保育B		1				
	社会的養護内容		1				
	保育相談支援		1				
	障害児保育A		1				
	障害児保育B		1				
	子どもの保健A		2				
	子どもの保健B		2				
	子どもの保健演習		1				
	家庭支援論		2				
	子どもの食と栄養A		1				
子どもの食と栄養B		1					
教 育 関 連 科 目	国語		2			幼一種免取得者は、社会、理科、 家庭を除く6単位以上選択必修 小一種免取得者はすべて必修	
	社会		2				
	算数		2				
	理科		2				
	生活		2				
	家庭		2				
	図画工作A		1				
	図画工作B		1				
	体育A		1				
	体育B		1				
	音楽A		1				
	音楽B		1				
	外国語		2				
	音楽・器楽A		1				
	音楽・器楽B		1				
	音楽・合奏指導		1				
	教師論	2				幼一種免・小一種免取得者は必修	
	保育実践演習A		1				
	保育実践演習B		1				
	教職実践演習(幼・小)		2				
	教育・保育課程論	2					
	保育内容総論		2				
	保育内容の研究・健康		2				
	保育内容の研究・人間関係		2				
	保育内容の研究・環境		2				
	保育内容の研究・言葉		2				
	保育内容の研究・表現A		2				
	保育内容の研究・表現B		2				
	幼児理解の理論と方法		2				
		2			幼一種免取得者は必修		
		2					
		2					
		2					

科目 区分	授 業 科 目	単 位 数			卒業要件 単 位 数	備 考
		必修	選択	自由		
教育 関連 科目	教育課程論		2			
	初等国語科教育法		2			
	初等社会科教育法		2			
	算数科教育法		2			
	理科教育法		2			
	生活科教育法		2			
	音楽科教育法		2			
	図画工作科教育法		2			
	家庭科教育法		2			
	体育科教育法		2			
	外国語活動指導法		2			
	道徳教育指導法		2			
	特別活動指導法		2			
	教育方法論	2				
	生徒指導論(進路指導を含む。)		2			
	学校インターンシップ(基礎)	1				
	学校インターンシップ		2			
	幼稚園教育実習		5			
	幼稚園教育実習(副)		3			
	保育実習		4			
	保育実習指導		2			
	保育実習A		2			
	保育実習B		2			
	保育実習指導A		1			
	保育実習指導B		1			
	小学校教育実習		5			
	介護等体験及び事前事後指導		2			
	障害児教育総論		2			
	知的障害児の心理・生理・病理A		2			
	知的障害児の心理・生理・病理B		2			
	肢体不自由児の心理・生理・病理		2			
	病弱児の心理・生理・病理		2			
	情緒障害児の心理		2			
	知的障害児指導法		2			
	病弱児指導法		2			
	障害幼児指導法		2			
	肢体不自由児指導法		2			
	視覚障害児の教育総論		2			
	聴覚障害児の教育総論		2			
	重複障害児の教育総論		2			
	発達障害児の教育総論		2			
	特別支援教育実習		3			
	学校経営と学校図書館		2			
	学校図書館メディアの構成		2			
	学習指導と学校図書館		2			
	読書と豊かな人間性		2			
	情報メディアの活用		2		7	
演 習 科 目	専門演習(児童学Ⅰ)		1			
	専門演習(児童学Ⅱ)		1			
	専門演習(キリスト教幼児教育Ⅰ)		1			
	専門演習(キリスト教幼児教育Ⅱ)		1			
	専門演習(造形教育論Ⅰ)		1			
	専門演習(造形教育論Ⅱ)		1			
	専門演習(音楽創造論Ⅰ)		1			
	専門演習(音楽創造論Ⅱ)		1			
	専門演習(保育実践Ⅰ)		1			
	専門演習(保育実践Ⅱ)		1			
	専門演習(異文化間教育Ⅰ)		1			
	専門演習(異文化間教育Ⅱ)		1			
	専門演習(教育文化論Ⅰ)		1			
	専門演習(教育文化論Ⅱ)		1			
	専門演習(生涯学習Ⅰ)		1			
	専門演習(生涯学習Ⅱ)		1			
	専門演習(教育心理学Ⅰ)		1			
	専門演習(教育心理学Ⅱ)		1			
	専門演習(児童文学Ⅰ)		1			
	専門演習(児童文学Ⅱ)		1			
	専門演習(社会科Ⅰ)		1			
	専門演習(社会科Ⅱ)		1			
	専門演習(栄養教育Ⅰ)		1			
	専門演習(栄養教育Ⅱ)		1			
	専門演習(特別支援教育論Ⅰ)		1			
	専門演習(特別支援教育論Ⅱ)		1			
	専門演習(障害児心理学Ⅰ)		1			
	専門演習(障害児心理学Ⅱ)		1			
	卒業研究(児童学Ⅰ)		1			
	卒業研究(児童学Ⅱ)		1			
	卒業研究(キリスト教幼児教育Ⅰ)		1			
	卒業研究(キリスト教幼児教育Ⅱ)		1			
	卒業研究(造形教育論Ⅰ)		1			
	卒業研究(造形教育論Ⅱ)		1			
	卒業研究(音楽創造論Ⅰ)		1			
	卒業研究(音楽創造論Ⅱ)		1			
	卒業研究(保育実践論Ⅰ)		1			
	卒業研究(保育実践論Ⅱ)		1			
	卒業研究(異文化間教育Ⅰ)		1			
	卒業研究(異文化間教育Ⅱ)		1			
	卒業研究(教育文化論Ⅰ)		1			
	卒業研究(教育文化論Ⅱ)		1			
	卒業研究(生涯学習Ⅰ)		1			
	卒業研究(生涯学習Ⅱ)		1			
	卒業研究(教育心理学Ⅰ)		1			
	卒業研究(教育心理学Ⅱ)		1			
	卒業研究(児童文学Ⅰ)		1			
	卒業研究(児童文学Ⅱ)		1			
	卒業研究(社会科Ⅰ)		1			
	卒業研究(社会科Ⅱ)		1			
	卒業研究(栄養教育Ⅰ)		1			
	卒業研究(栄養教育Ⅱ)		1			
	卒業研究(特別支援教育論Ⅰ)		1			
	卒業研究(特別支援教育論Ⅱ)		1			
	卒業研究(障害児心理学Ⅰ)		1			
	卒業研究(障害児心理学Ⅱ)		1			
	卒業論文		6			
計		26	268	0	26	

科目 区分	授 業 科 目	単 位 数			卒業要件 単 位 数	備 考
		必修	選択	自由		
総合科目群						
総 合 科 目	経済学研究		2			
	企業財務論研究		2			
	まちづくり論研究		2			
	地域文化論		2			
	欧米文化学特論		2			
	日本思想特論		2			
	日本文化学研究		4			
	アメリカ文化学研究A		4			
	ヨーロッパ文化学研究B		4			
	キリスト教文化学研究A		4			
	児童教育学特論		4			
	児童学特論		4			
	高齢者福祉特論		4			
	児童福祉特論		4			
	発達心理学特論		4			
計		0	48	0	0	

別表第Ⅱ (第34条関係)

(1) 政治経済学部政治経済学科卒業に必要な授業科目及び単位数

略

(2) 人文学部欧米文化学科卒業に必要な授業科目及び単位数

略

(3)-2 人文学部日本文化学科卒業に必要な授業科目及び単位数

略

(4) 人文学部児童学科卒業に必要な授業科目及び単位数

学 科 目 群		卒 業 最 低 必 要 単 位 数					備考
		必修	選択必修	選択	小計	自由選択	
基礎科目群	基礎科目	6					8単位以上選択必修
	英語科目	4					
	第二外国語科目						
	スポーツ科目				14		
	キリスト教関連科目		4				
	キャリア教育科目						
	その他						
教養科目群	人間理解への基盤を学ぶ		8				
	社会理解への基盤を学ぶ						
	自然理解への基盤を学ぶ						
専門科目群	共通基本科目	8					
	児童文化系統	2					
	心理学系統	5					
	教育学系統	4		46	76		
	福祉・教育関連系統						
	教育関連科目	7					
	演習科目	4					
総合科目群							
合計		36	16	46	98	26	124

(5) 心理福祉学部心理福祉学科卒業に必要な授業科目及び単位数

学 科 目 群		卒 業 最 低 必 要 単 位 数					備考
		必修	選択必修	選択	小計	自由選択	
基礎科目群	基礎科目	4					8単位以上選択必修
	英語科目	4					
	第二外国語科目						
	スポーツ科目				12		
	キリスト教関連科目		4				
	キャリア教育科目						
	その他						
教養科目群	人間理解への基盤を学ぶ		8				
	社会理解への基盤を学ぶ						
	自然理解への基盤を学ぶ						
専門科目群	共通基礎科目	10					
	心理関連科目	6					
	福祉関連科目	6					
	公認心理師						
	社会福祉士			34	80		
	精神保健福祉士						
	応用科目						
演習科目							
	演習科目	4					
総合科目群							
合計		30	36	34	100	24	124

(6) 人間福祉学部人間福祉学科卒業に必要な授業科目及び単位数

削除

別表第Ⅱ (第34条関係)

(1) 政治経済学部政治経済学科卒業に必要な授業科目及び単位数

略

(2) 人文学部欧米文化学科卒業に必要な授業科目及び単位数

略

(3)-2 人文学部日本文化学科卒業に必要な授業科目及び単位数

略

(4) 人間福祉学部児童学科卒業に必要な授業科目及び単位数

略

(5) 人間福祉学部こども心理学科卒業に必要な授業科目及び単位数

略

(6) 人間福祉学部人間福祉学科卒業に必要な授業科目及び単位数

略

別表第Ⅲ(第44条関係)

検定料、入学金及びその他の諸費

変 更 後						
	入 学 検定料	入学金	授業料	教育拡充 費 (1年)	教育拡充 費 (2年～)	備 考
政治経済学部						
政治経済学科	30,000	280,000	710,000	30,000	10,000	240,000
コミュニティ政策学科	30,000	280,000	710,000	30,000	10,000	240,000
人文学部						
欧米文化学科	30,000	280,000	710,000	30,000	10,000	240,000
日本文化学科	30,000	280,000	710,000	30,000	10,000	240,000
児童学科	30,000	280,000	760,000	30,000	10,000	240,000
心理福祉学部						
心理福祉学科	30,000	280,000	760,000	30,000	10,000	240,000

別表第Ⅲ(第44条関係)

検定料、入学金及びその他の諸費

変 更 前						
	入 学 検定料	入学金	授業料	教育拡充 費 (1年)	教育拡充 費 (2年～)	備 考
政治経済学部						
政治経済学科	30,000	280,000	710,000	30,000	10,000	240,000
コミュニティ政策学科	30,000	280,000	710,000	30,000	10,000	240,000
人文学部						
欧米文化学科	30,000	280,000	710,000	30,000	10,000	240,000
日本文化学科	30,000	280,000	710,000	30,000	10,000	240,000
人間福祉学部						
児童学科	30,000	280,000	760,000	30,000	10,000	240,000
こども心理学科	30,000	280,000	760,000	30,000	10,000	240,000
人間福祉学科	30,000	280,000	760,000	30,000	10,000	240,000

聖学院大学 大学教授会規程

(目的)

第1条 この規程は、学校教育法に則り、聖学院大学大学教授会（以下「大学教授会」という。）の運営及び学長の行う校務についての決定を適正かつ円滑に行うことを目的とする。

(大学教授会の組織)

第2条 大学教授会は、「聖学院大学学則」第5条第1項第1号に掲げる者及び専任の教授をもって組織する。ただし、学長が必要と認めたときは、その他の教職員を加え、又は陪席させることができる。

(大学教授会の招集)

第3条 学長は、原則として毎月1回定例の大学教授会を招集する。

2 学長は、必要と認めたとき又は構成員の3分の1以上の請求があったときは、臨時大学教授会を招集することができる。

(大学教授会の成立)

第4条 大学教授会は構成員の3分の2以上の出席をもって成立する。ただし、休職者、特別研究期間適用者及び長期にわたる海外、国内留学者は構成員数から除く。

(大学教授会の議長)

第5条 大学教授会の議長には学長があたる。

(大学教授会の職務)

第6条 大学教授会は、学長が次の事項についての決定を行うに当たり、これを審議し、意見を述べるものとする。

- (1) 学生の入学、卒業及び課程の修了
 - (2) 学位の授与
 - (3) 教育研究に関するその他の重要な事項で、大学教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定めるもの
- 2 学長は、前項第3号の事項を定めるに当たっては、大学教授会の意見を参酌し、その定めた事項を書面の交付その他の方法により大学教授会に周知するものとする。
- 3 大学教授会は、第1項に規定するもののほか、学長がつかさどる教育研究に関する事項について審議し、意見を述べることができる。
- 4 大学教授会は、第1項及び前項に定める事項について、審議し、及び意見を述べるほか、学部教授会その他の教育研究上の教員組織が行った審議について報告を受ける。
- 5 学長は、教育研究に関して行うべき判断の一部を、大学教授会に委任することができる。

(議題の決定)

第7条 大学教授会の議題は、聖学院大学運営委員会の議を経て、学長が決定する。

(大学教授会の議決)

第8条 大学教授会において議決を行うときは、出席者の過半数をもって決する。

(大学教授会の事務、議事録の承認)

第9条 大学教授会の事務（議事録の作成及び保管を含む。）は、学長が指名した者が行う。

2 作成された大学教授会の議事録は、次回の大学教授会において承認を得るものとする。

(規程の改廃)

第 10 条 この規程の改廃は、大学教授会の議を経て学長が決定し、理事会の承認を得るものとする。

附 則

- 1 この規程は、1992 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 聖学院大学教授会規程（1988 年 4 月 1 日施行）は廃止する。

附 則

この規程の一部改正は、1998 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規程の一部改正は、2000 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規程の一部改正は、2003 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規程の一部改正は、2004 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規程の一部改正は、2004 年 7 月 26 日から施行し、2004 年 4 月 1 日から適用する。

附 則

この規程の一部改正は、2006 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規程の一部改正は、2007 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規程の一部改正は、2015 年 4 月 1 日から施行する。

聖学院大学 学部教授会規程

（目的）

第1条 この規程は、学校教育法に則り、聖学院大学学部教授会（以下「学部教授会」という。）の運営並びに学長及び学部長の行う校務についての決定を適正かつ円滑に行うことを目的とする。

（学部教授会の組織）

第2条 学部教授会は、学部長、学部チャプレン並びに学部所属の学科長及び専任の教授をもって組織する。ただし、学部長が必要と認めたときは、その他の教職員を加え、又は陪席させることができる。

2 学長及び大学チャプレンは、学部教授会に出席することができる。

（学部教授会の招集）

第3条 学部長は、原則として毎月1回定例の学部教授会を招集する。

2 学部長は、必要と認めたとき又は構成員の3分の1以上の要求があったときは、臨時学部教授会を招集することができる。

（学部教授会の成立）

第4条 学部教授会は構成員の3分の2以上の出席をもって成立する。ただし、休職者、特別研究期間適用者及び長期にわたる海外、国内留学者は構成員数から除く。

（学部教授会の議長）

第5条 学部教授会の議長には学部長があたる。

2 学部長に事故があるとき、又は欠けたときは、学長が指名した者がその職務を代理し、又はその職務を行う。

（学部教授会の職務）

第6条 学部教授会は、学長がその決定を行うに当たり、学部教授会の意見を聴くことを要するものと定める教育研究上の重要な事項について、審議し、大学教授会を通じて意見を述べるものとする。

2 学長は、前項の事項を定めるに当たっては、学部長、大学教授会及び学部教授会の意見を参酌し、その定めた事項を書面の交付その他の方法により学部長、大学教授会及び学部教授会に周知するものとする。

3 学部教授会は、第1項に規定するもののほか、学長又は学部長がつかさどる教育研究に関する事項について審議し、意見を述べることができる。

4 学長及び学部長は、教育研究に関して行うべき判断の一部を、学部教授会に委任することができる。

（議題の決定）

第7条 学部教授会の議題は、聖学院大学運営委員会の議を経て、学長又は学部長が決定する。

（学部教授会の議決）

第8条 学部教授会において議決を行うときは、出席者の過半数をもって決する。

（学部教授会の事務、議事録の承認）

第9条 学部教授会の事務（議事録の作成及び保管を含む。）は、学長が指名した者が行う。

2 作成された学部教授会の議事録は、次回の学部教授会において承認を得るものとする。

（規程の改正）

第10条 この規程の改正は、大学教授会及び学部教授会の議を経て学長が決定し、理事会の承認を得るものとする。

附 則

この規程は、1992 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規程の一部改正は、1996 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規程の一部改正は、1998 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規程の一部改正は、2000 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規程の一部改正は、2004 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規程の一部改正は、2004 年 7 月 26 日から施行し、2004 年 4 月 1 日から適用する。

附 則

この規程の一部改正は、2007 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規程の一部改正は、2015 年 4 月 1 日から施行する。

人文学部児童学科設置の趣旨等を記載した書類

目次

①	設置の趣旨及び必要性	2
②	学部・学科等の特色	4
③	学部・学科等の名称及び学位の名称	5
④	教育課程の編成の考え方及び特色	5
⑤	教員組織の編成の考え方及び特色	8
⑥	教育方法、履修指導方法及び卒業要件	9
⑦	施設・設備等の整備計画	11
⑧	入学者選抜の概要	14
⑨	取得可能な資格	16
⑩	実習の具体的計画	17
⑪	企業実習等学外実習を実施する場合の具体的な計画	20
⑫	編入学定員を設定する場合の具体的計画	24
⑬	管理運営	25
⑭	自己点検・評価	26
⑮	情報の公表	27
⑯	教育内容等の改善を図るための組織的な研修等	29
⑰	社会的・職業的自立に関する指導等及び体制	30

① 設置の趣旨及び必要性

聖学院大学は、明治 36 年の学校法人創設以来、プロテスタント・キリスト教の精神と文化を継承する教育研究機関として、「神を仰ぎ、人に仕う」を建学の精神とし、自由と敬虔の学風によって真理を探究し、人と社会に奉仕する「オンリーワン・フォー・アザーズ（他者との関係における個性ある個人）」の育成を大学教育の理念としてきた。その理念のもとに、かけがえのない存在である学生を愛し、各分野の専門知識と技能を身につけるだけでなく、対話力、実践力、共感力を高め、直面する現代の社会的課題に主体的に取り組める共生力を醸成することを下記の通り、ディプロマ・ポリシーの骨格に据えてきた。

聖学院大学のディプロマ・ポリシー

聖学院大学は、「理念」に即した精神性と価値観および総合的判断力を備え、かつ幅広い教養と専門的知識を身につけることにより、自由と人権を重んじ、隣人愛と使命感をもって人類の平和と福祉の実現のためにグローバル社会の各分野で貢献できる人の育成を目指し、指定の卒業履修単位を獲得し、以下のような能力を身につけた学生にそれぞれのディプロマを授与する。

- ① 学問の基礎を修得し、主体的な学びをすすめてゆく能力。
- ② 専攻する分野の知識と共に、グローバル及び複眼的に理解する能力。
- ③ 地域社会の一員として必要な、他者を理解し協働して行動する能力。
- ④ 自らの考えを発信し、他者の考えを理解するための基本的な文章の読解と記述能力、コミュニケーション能力。

人文学部は、近代世界の成立と展開に独自の貢献を果たし、現代社会においても固有の責任を負っているプロテスタント・キリスト教の役割を基盤とし、真理の探究と成熟した人間形成を通じて、日本はもとより他国の人々をも含む人類全体の文化の進展に寄与する人材を育成することをディプロマ・ポリシーにも掲げている。

人文学部のディプロマ・ポリシー

本学部では、所定の課程を修めるとともに正課外活動等における総合的学びを通じて、以下のような能力を身につけた者に対し学位を授与することとする。

- ①キリスト教を基盤とした学びを通じて人間理解と社会理解を深め、「他者とともに生きる力」を発揮し得る能力。
- ②学問の基礎と幅広い教養を学ぶのみならず、それらを多彩な表現力によって発現することで社会のために主体的に貢献しうる能力。
- ③ローバリゼーションによって文化の地平が広がる中で、世界全体の文脈の中で持続的に「文化」の意義を問い直し、新たな文化交流と文化創造を切り開く広い視野と行動力。
- ④教職を志望する者については、以上を通じて身につける教養、知識、能力に基づき、「未来を担う者を育てる人材の育成」を目標とする教職に就くにふさわしい人間性と力量を形成する。

人文学部児童学科の前身となる人間福祉学部児童学科は、女子聖学院短期大学児童教育学科を母体に平成4年に聖学院大学に新設された人文学部児童学科を経て、平成16年に設置された。総合的児童学の確立を期した四年制大学への改組転換を果たしたのち、人間福祉学部の新設されて以降は、児童をめぐる現代的諸課題を人間学的基礎のもとに探求し、キリスト教的人間理解を基盤としながら、幼児を一人の人格とする児童理解をふまえた幼児教育研究を軸とした幼稚園教職課程を発展させ、平成11年には指定保育士養成校の認定を受けた。平成18年からはそれに小学校教諭養成課程を加え、幼児期から学童期にかけての育ちを児童一人一人の側に立って支える教師・保育者の養成を学科の目的としてきた。

今回新たに、文化創造の営みである教職課程を、文化継承研究と並ぶ人文学部における教育研究の主軸の一つに据え直すにあたり、児童学科を人文学部に設置することとした。人文学部児童学科は、これまでの実績の上に、以下のディプロマ・ポリシーに基づき、児童英語をはじめとする言葉の技能を身につけ、倫理観ある専門性を備えた幼稚園教諭、小学校教諭、特別支援学校教諭、保育士の養成を主たる目的とする。児童英語、インクルーシブ教育、子ども・子育て支援等の今日的課題を人文学的基礎のもとに探求し、キリスト教的人間理解と児童学を土台としながら人格として児童を理解する器量を備え、多様な教育課題・支援課題に臨み解決に向けた取り組みのできる教員・保育者等を育てる。そして、言葉の力を信頼し、言葉を受け止める力と言葉に拠って思考する力を身に付け、さらに言葉を媒体に他者を理解し他者とつながることのできる真のコミュニケーション能力を生かして一般公務員・一般企業等で奉職する幅広い職業人も養成する。

児童学科のディプロマ・ポリシー

- ①「人間学を基底においた児童学」を通じて培った他者理解の方法論を基にして、言葉・子どもの文化・人間関係に関する素養を身につけた人を育てる。
- ②発達理論や心理学の知識を土台にして子どもの「言葉にならない思い」を汲むことができるとともに、対人援助技術を身につけコミュニケーション力を活かして社会で活躍できる人を育てる。
- ③異文化を背景とした「子どもの育ち」を応援できる、グローバル化に対応できる人を育てる。
- ④資格取得を求める学生に対しては、責任感と倫理観を備えた子どもを育てる専門人として、子どもとその家族の良きパートナーになり、子どもが生きやすい環境づくりと社会全体の福祉に貢献できる小学校教諭、特別支援学校教諭、幼稚園教諭、保育士となるよう育成を図る。

② 学部・学科等の特色

人文学部児童学科は、児童学を学修し、幼稚園教諭と小学校教諭の目的養成を行うと共に、これらの教職課程に関連して保育士資格課程・特別支援教職課程を置き、乳児から学童期までの全ての子どもたちの育ちに添う専門職の育成を目指す学科である。児童学科が対象とする子ども期を、言葉に触れ、言葉を信頼し、言葉を獲得して使う力を習得する時期と捉え、また、建学の精神に即した教職課程において育まれた深い他者理解とコミュニケーション力を生かして、主として人とつながる領域で活躍する職業人も育成する。中央教育審議会答申「我が国の高等教育の将来像」の提言する「高等教育の多様な機能と個性・特色の明確化」でいう「2. 高度専門職業人養成」「3. 幅広い職業人養成」の機能を重点的に担う学科である。加えて、教員免許状の認定講習や「幼児所持者を対象とする保育士資格の特例講座」等、子どもの教育・保育をめぐる社会の要請に応える「6. 地域の生涯学習機会の拠点」の機能を担う学科としても位置付けていく。

人文学部児童学科では、他の文化圏の人とつながる手段としての児童英語に着目し、幼児・児童の英語指導の理論と技能といった付加価値の高い教師を養成する。言葉の力を信頼し、人の言葉を受け止める力と、言葉に拠って思考する力、さらに言葉を媒介として児童・保護者・同僚・地域社会と繋がることのできる人間性と技能を育てる。加えて、言葉にならない思いが心持ちの内に常に残されて在ることを認識し、身体的事情で発語がかなわない場合にも願いは変わらずに在ることを理解し、こうしたことに思いを至らせることのできる人としての姿勢と度量を育む。

児童学科を加えて新たな教職課程を展望する人文学部は、現代文化の諸問題に深く関わる人文学研究を現代社会における固有の責任と捉えている。そうした固有の責任の一つが、未来を担う者を育てる人材の育成である。児童学科を擁することで、障害の無い人ばかり

でなく障害の有る人についても幼児期から青年期までの年齢層に向き合う学校教育そのものが、人文学部が現代社会に対して負う固有の責任に関わる重要な主題となる。幼稚園・小学校・特別支援学校の教職課程を備える児童学科の設置で、人文学部は幼稚園から高等学校までの教職課程を連続的に、かつ特別支援教育を擁することで包括的に備えることとなり、人文学の専門分野を通して人に生きる力を育む教育という文化伝承の主題に取り組むことで共生社会の創設に臨む。

③ 学部・学科等の名称及び学位の名称

この度、人文学部における設置を申請する児童学科は、平成4年に聖学院大学に新設された人文学部児童学科を経て、平成16年に人間福祉学部児童学科として置かれ平成29年度を迎える。平成4年度の新設当初から一貫して総合的児童学の確立を目指し、キリスト教的人間論・文化論を基盤としながら、児童を一人の人格とする児童理解をふまえた教育・保育研究に邁進してきた。その歩む道筋自体は普遍性を持つものである。

したがって、学科名称は「児童学科」（英語名：Child Studies Department）とし、卒業学位名称は「学士（児童学）」（英語名：Bachelor of Child Studies）とする。

④ 教育課程の編成の考え方及び特色

聖学院大学のカリキュラム・ポリシー

- ①聖学院大学は、上記ディプロマを授与されるに相応しい学生の育成のため、礼拝と授業と大学行事をとおして行われるキリスト教人格教育を中心としながら、基礎教育の充実と教養教育を深め、同時に各学部学科の専門教育を行う。
- ②キリスト教人格教育とは、何よりも神によって創造されたかけがえのない存在である学生一人ひとりを愛し、その人格を重んじ、その魂の健全な成長を配慮しつつ、聖学院教育憲章に謳われている「Only one for others」の精神をもって、人間一人ひとりの自由と人権を守り育成する教育である。そのために、少人数教育を重んじ、人と人との人格的な触れ合いを大事にしていく。
- ③またこの人格教育を中心にして、基礎教育の充実とともに幅広い教養を身につけるためのリベラルアーツ教育を行っていく。これは、学生一人ひとりが、自分の置かれた状況を的確に判断し、自分にとっても他者にとってもより良い生き方ができる道を模索し、選び取り、行動できる、そうした主体性を確立する教育である。そして、こうした土台の上に、各学部・学科の専門教育が行われ、そのためのカリキュラム体系が形成される。

【教養教育】

上記のカリキュラム・ポリシーに基づく教養教育は、キリスト教を基盤とした「良き隣人を育てる」という「良き市民」の育成をねらいとするものである。それは、先の「学士

教育課程の構築に向けて（答申）」で示された 21 世紀型市民としての基盤を育成するという方向性とも一致している。複雑化するグローバル社会においては、専門教育のみならず、幅広い視野の育成と、読み書きやコミュニケーション力の育成を主軸とする教養教育が必須として、聖学院大学では教養教育に次の 8 科目群を置いている。

- ① 基礎科目 「キリスト教概論 AB」「情報基礎」といった科目を置く。「キリスト教概論」では、本学の設置理念に関わると同時にグローバルな思考の基盤となるキリスト教についての基礎知識を学修する。「情報基礎」は、現代社会に欠かせないコミュニケーション能力や社会活動の基盤となる能力の育成を目指す。
- ② 語学科目 「英語」「第二外国語（ドイツ語・フランス語・スペイン語・イタリア語・中国語・韓国語）」といった科目を置く。グローバル社会に対応する人材育成に語学教育は欠かせない。特に英語については、「ECA: English Communication Arts」という独自のプログラムを開発し、基礎から語学資格を目指すもの、旅行や留学、就労などの海外での活動に役立つ英語など多彩な英語プログラムを備えている。
- ③ スポーツ科目 「健康・体力づくり実習 A」「同 B」「生涯スポーツ実習 A」「同 B」「体育（講義）」という五つの科目だが、各スポーツの種別にそれぞれ分かれており、7 種類のスポーツやエクササイズが選べるようになっている。特に健康の維持と増進は、現代社会に生きる人の生涯にわたって重要なことであり、科目名も意識して命名している。
- ④ キリスト教関連科目 本学の特徴ともいえる科目群である。キリスト教は、歴史的にも世界の発展と深いかわりがある。また、美術や音楽などの芸術の発展にも大きな支えとなっている。リベラルアーツの要素として芸術があるが、単に芸術を学ぶだけではなく、その背後にある思想的宗教的なものを感じ取ることも重要な教養的要素である。現在は 26 科目を開講している。
- ⑤ キャリア科目 教養は生き方でもある。就労に必要な基本的な能力を身につけ、それに基づき社会で活躍してゆく、その道筋も大事な学びである。「キャリアデザイン」など自身の生き方を考えたあと、「インターンシップ」「海外インターンシップ」などで社会を実体験しながら、自分の生き方を考え、それをまた大学での学びに還元し深めて行く役目を担っている。さらに「ビジネス・ライティング」「ビジネス・コミュニケーション」「ビジネス・プレゼンテーション」というビジネス三科目を置き、社会人としての思考法や表現方法を学ぶ。
- ⑥ その他科目 ここには地域関連の学びの科目を置いている。特に「地元学」「宮原地域学」「釜石学」「コミュニティサービスラーニング」「被災地支援・インターンシップ」といった科目を充実し、地域に根差した大学として、地域を理解する方法を学び、実際に PBL の手法を使い地域の課題解決にも参加する。「釜石学」「被災地支援・インターンシップ」は、2011 年以降、被災地支援を続けている大学として、被災地の歴史と現状と、被災地でのインターンシップを通じて、地域の課題を理解してゆくことを目的としている。

- ⑦ 教養科目 現代社会では、社会に対する幅広い視野が必要とされるため、「人間理解」「社会理解」「自然理解」といった三分野についての基盤を理解するために科目を置いている。
- ⑧ 総合科目 これは大学院との連携を意図したもので、教養を深め、学問の奥深さを体験するものである。

以上のように、本学がキリスト教大学であるということを活かしたグローバル社会への対応、地域に根差した大学であることを活かした対応、その両者の特徴を合わせ、本学の学生育成の目標でもある「良き隣人」ということにも対応したボランティアなどへの対応と、単なる知識にとどまらない、実践的で社会の中で共感することのできる能力の育成を目指して課程を構築している。

人文学部のカリキュラム・ポリシー

- ①キリスト教精神に触れることで世界や社会を眼差す視野を広げ、深い人間理解をなし得る科目を設置する。
- ②初年次導入教育を基盤として少人数教育の利点を生かす中で、文章力、読解力、思考力を伸ばし、プレゼンテーション力を含む自己表現力と言語的コミュニケーション力を養成する科目を設置する。
- ③人文学の基礎的理解と多面的理解をめざし、社会で要請される倫理観とグローバル及びローカルな考察力、行動力を育成する科目を設置する。
- ④学びの主体の意欲を醸成しつつ、歴史・文化・言語についての理解を得、必要な語学力を身につけ、さらには国内外でのインターンシップを行う研修制度などにより、教育分野をはじめ様々な分野で幅広く活躍できる職業人を育成する漸進的プログラムを設置する。

児童学科のカリキュラム・ポリシー

- ①初年次において人間学を基底においた児童学の入門科目、人文学の基礎的理解を目指す科目、社会的に要請される倫理観を育てる科目を設置する。
- ②課題探求力、問題解決力を高め、表現力、コミュニケーション力、記述力を育てるため、少人数で行う演習科目を設置する。
- ③異文化を背景とした子どもの育ちや子育てを支える実践力を養成するために、異文化理解や実践的英語力を身につける科目を設置する。
- ④深い他者理解とコミュニケーション力を生かし、実践的な対人援助技術を身につけた専門的職業人を育成するため、複数の系統的な学修プログラムを設置する。

【専門教育】

人文学部児童学科の教育課程は、上記のカリキュラム・ポリシーに依拠して組まれており、専門科目群には「共通基本科目」のほか「児童文化系統」「心理学系統」「教育学系統

」「福祉・特別支援教育関連系統」「教育関連系統」の5本の柱を、土台として位置付く児童学の上に建てる構造をもっている。本学科では、幼稚園教諭と小学校教諭、特別支援学校教諭、保育士の養成を行う。そこで、教員免許状については教育職員免許法施行規則、保育士資格については児童福祉法施行規則にそれぞれ定められた授業科目が、上記の5本の柱において配置されている。

具体的には、専門教育の共通基本科目として、人文学の基礎をなす「言葉の基礎」と「キリスト教概論」の上に学部のポリシーに沿って建学の精神を深化させる「キリスト教文化論」、児童学への入門として「児童学概論」を置いている。「言葉の基礎」「児童学概論」と併せて、「児童文化論」「発達心理学」「教育原理」「保育内容総論」を専門教育の基礎科目として「学校インターンシップ（基礎）」の前提となる科目とする。

専門基礎科目による初年度基礎学修を終えた上に、「学校インターンシップ（基礎）」を通じて教育現場に触れる一方で、各々の教職課程・資格の必修科目を履修する。教育実習体制は、2年次の「学校インターンシップ（基礎）」、3年次の「小学校教育実習」、4年次の「幼稚園教育実習」「特別支援学校教育実習」と3年間に渡る。保育実習体制も、2年次の「学校インターンシップ（基礎）」、3年次の「保育実習」（保育所と居住型施設）、4年次の「保育実習A・B」（保育所または通所型施設）と3年間に渡る。教育実習以外にも、地域との連携を土台に、「学校インターンシップ」として学校における活動への参加を促す。

これらの履修に加え「専門演習Ⅰ・Ⅱ」「卒業研究Ⅰ・Ⅱ」の履修により、保育・教育の諸領域と児童学における特に興味関心を抱いた領域を深く掘り下げ、各々の得意分野とすることで、子どもの側に立てる子どもの専門職や人に関わる職につく人と関わる力に優れた職業人の育成を目指す。

⑤ 教員組織の編成の考え方及び特色

児童学科の教員組織は、児童学を基盤としながらも、幼稚園教諭と小学校教諭の目的養成の学科であることを踏まえた構成となっている。重ねて、保育士資格課程、特別支援教育課程の設置も踏まえた構成を備えている。

- 児童学 専門科目を担当する博士の学位を有する教員を置いている。
- 幼稚園教職課程 教科専門を担当する博士の学位を有する教員を置き、あわせて、キリスト教幼児教育の現場に経験のある教員を置いている。
- 小学校教職課程 教科専門に関する研究の実績がある教員を置き、あわせて、小学校現場に長い実務家教員を教科と指導法の国語・算数・生活・理科・社会・外国語・図画工作について配置している。特に、小学校英語については、研究・実践の実績が全国的に高く評価されている教員を配置している。
- 保育士資格課程 専門科目を担当する管理栄養士の資格と博士の学位を有する教員を置き、あわせて、障害児保育の現場経験を有する実務家教員を置いている。
- 特別支援教育課程 基礎科目担当と心理・生理・病理担当には共に博士の学位を有する

教員を配置している。指導法には特別支援学校現場に長い実務家教員を配置している。
○建学の精神に関わるキリスト教保育文化の研究領域 博士の学位を有する教員を配置している。

平成 28 年度に、聖学院大学定年規程を改正し、専任教員の定年を 70 歳から 65 歳に引き下げた。この規程改正に伴う措置として、「聖学院大学定年規定」の一部改正に伴う代償措置に関する規定を定め、平成 38 年度末まで、定年退職後に有期労働契約により 70 歳まで勤務することも可能とした。しかし、学科内の教員の年齢が高齢化傾向にあることは非常な課題である。実習科目等における若手・中堅教員との共同担当等、教育・研究の継承がなされるよう工夫を行っている。

児童学研究会

児童学科では、平成 16 年度より、聖学院大学総合研究所において「＜児童＞における『総合人間学』の試み」研究会を企画運営し、多角的アプローチによる学際的な児童学研究を継続的に行い、児童学科教員相互の研究発表と学び合いの場とすると共に、その成果を広く情報発信してきた。児童学とは、既存の諸学問領域の子どもに関する研究が寄せ集まるところから始まった学際研究である。そのため、児童学科を構成する教員の研究領域も多岐にわたり、それらを子どもを軸に絡め合い相互に学問的刺激を受け合う学際研究として総合化するためには研究会活動は不可欠である。

教育現場における即戦力となる倫理感ある専門性を身につけるため、複数領域の実務家教員を配した教職支援センターを学内に置いている。日常的に実務家教員の指導を受けることで、高水準な教材研究や教材開発の技能を習得するばかりでなく、教師としての姿勢、倫理性、価値観等の全人格的な陶冶が期待される。

⑥ 教育方法、履修指導方法及び卒業要件

授業の内容に応じた授業の方法

キャップ制度を設け、年間の履修上限を 50 単位と定めている。ただし、教職・資格課程の履修届出を行い受理された学生に限り、教職・資格課程必修科目だけは 1 学期 30 単位を目途として上限単位を超えた履修登録が認められる。

幼稚園教諭・小学校教諭の目的養成を行っている児童学科では、教職課程における学修は、同時に、教育方法の示範の意味ももつ。そうした課題意識から、特に教職課程の授業においては、指導法に関する内容に限らず、一方向的な教授方法を極力避け、受講生の主体的な取り組みが可能となるよう、アクティブ・ラーニングを取り入れている。

授業方法に適した学生数

少人数教育を主とする大学全体の趣旨を汲みながら、幼稚園・小学校における幼児・児童のクラス編成を意識して 30 人台のクラスを中心としている。併せて、少人数で関心をもった専門を追究するゼミナール形式の授業は 10 名以内で開講し一人一人の学生と教員が個

々の人格として相互に出会っていける学修環境を整えている。一方では、学年全体の相互の気付きやダイナミックな学び合いの体験を保障する目的で、学年全体で1クラスを構成する授業も置いている。

特に演習に区分される保育士資格科目については、所轄省の指導により、50人以下のクラス編成としている。

配当年次

教職課程における学外実習科目を一つの基準とし、その履修までに習得しておきたい知識と技能を、初学者に馴染みやすく、習得しやすい順序性と領域から順に配置している。

卒業要件の考え方等

教員免許状・保育士資格の取得そのものを卒業要件とすることはしていない。建学の精神を踏まえてキリスト教の基礎またはキリスト教と人文学の接点を理解するための基礎科目、児童学を基盤とした幼稚園教諭・小学校教諭の目的養成学科であることを踏まえて児童学の基本的理解のための科目、各教職・資格課程をまたいで共通する科目等を卒業要件としている。

履修モデル

以下の履修モデル・4コースを設け、各々、免許状・資格課程を学修の主軸に据えながら、児童学科内に備わる他の教職課程等のカリキュラムも関連して学ぶことで広い視野と深い理解を共に得られるよう配慮した。

1. 幼稚園教諭コース：(別表1)

○児童学を修め、幼稚園教諭免許状取得を視野にいれながら学ぶコースである。

○児童学関連科目・「学校インターンシップ（基礎）」・幼稚園教職課程の科目を通して、誕生から就学期くらいまでの子ども姿を客観的に捉え、その思いに気付き、気付きを言語化して他者と共有しながら、その子どもの成長したい願いに応える指導の方法を周囲の人や環境に働きかけ社会人としての協働のなかで整える力をつける。

2. 幼稚園教諭・保育士コース：(別表2)

○児童学を修め、幼稚園教諭免許状と保育士資格の取得を目指し、認定こども園の保育教諭や社会的養護関連施設の保育士としても働ける、総合的な保育者を養成するコースである。

○児童学関連科目・「学校インターンシップ（基礎）」・幼稚園教職課程の科目・保育士資格課程の科目を通して、誕生から18歳未満の子ども姿を客観的に捉え、その思いに気付き、気付きを言語化して他者と共有しながら、その子どもの成長したい願いに応える指導や援助の方法を周囲の人や環境に働きかけ社会人としての協働のなかで整える力をつける。

3. 幼稚園教諭・小学校教諭コース：(別表3)

○児童学を修め、幼稚園教諭免許状取得も視野に入れながら、小学校教諭免許状取得

を主軸にすえて学ぶ、小学校教員を養成するコースである。

- 児童学関連科目・「学校インターンシップ（基礎）」・幼稚園教職課程・小学校教職課程の科目を通して、誕生から学童期までの子ども姿を客観的に捉え、その思いに気付き、気付きを言語化して他者と共有しながら、その子どもの成長したい願いに応える指導の方法を周囲の人や環境に働きかけ社会人としての協働のなかで整える力をつける。

4. 小学校教諭・特別支援教諭コース：（別表4）

- 児童学を修め、小学校教諭免許状取得を主軸にすえて学び、さらに特別支援教諭免許状取得に向けた学びを重ねる、特別支援学校の教員を養成するコースである。
- 児童学関連科目・「学校インターンシップ（基礎）」・小学校教職課程・特別支援教育課程の科目を通して、誕生から学童期までの子どもの姿を客観的に捉え、その思いに気付き、気付きを言語化して他者と共有しながら、その子どもがそれぞれの障害の状態や発達段階に応じて主体的に自己の力を可能な限り発揮しよりよく生きていこうとする願いに応える自立活動の指導と支援の方法を、周囲の人や環境に働きかけ社会人としての協働のなかで整える力をつける。

以上4コースに共通する教育課程構成の特徴は、「キリスト教文化論」「児童学概論」「言葉の基礎」（以上、共通基本科目）、「児童文化論」（児童文化系統）、「発達心理学」「教育心理学」（以上、心理学系統）、「教育原理」（教育学系統）等を幼児・児童理解の基軸として卒業要件上の必修とし、また上記の必修科目の初年次配当分の単位を取得した上で学修する「学校インターンシップ（基礎）」を教職・資格課程における必修とし、他に福祉・特別支援教育関連系統、教職関連科目、演習科目等を配置した点にある。学科課程と教職課程は高い関連性が保たれ、相互補完的に交錯する科目配置がなされている。

⑦ 施設・設備等の整備計画

1 校地、運動場の整備計画

人文学部児童学科は、既設の人間福祉学部児童学科からの改組により、本学院のさいたま・上尾キャンパス（校地 61,744 m²、校舎 25,580 m²）に開設される。図書館資料・備品などの購入は行うが、福利厚生施設を含め、原則して人間福祉学部児童学科で使用している既存の施設・設備を利用する。

現在、教室稼働率（平成 28 年度実績）は 44.3%である。収容定員は改組前の 400 名からの変更はなく、カリキュラムも特別支援教諭の科目が増設される予定であるが、既設の人間福祉学部こども心理学科の特別支援教諭 1 種免許取り下げ（予定）により、大学全体として開講科目数は同程度となる予定であり、カリキュラム編成上、支障はない。

本キャンパスには学生の教育・課外活動の施設として、グラウンド（20,494 m²）、体育館（延べ床面積 1,578 m²）、テニスコートを整備している。

厚生施設としては、1 号館 1cafe（435.67 m²）、4 号館学生ホール・4cafe（405.75 m²）、

エルピス館学生ホール (390.00 m²)・エルピスホール (140.00 m²)・インターネットカフェ (130.00 m²) を配置している。

2 校舎等施設の整備計画

1) 研究室・教室

①講義室・小教室 (演習室)

講義室・小教室 (演習室) は、ほとんどが既存の施設をそのまま、あるいは小規模の改修を施した形態で使用する。200-250 名収容可能な講義室 (242.00-246.50 m²) が 2 室、100-120 名収容可能な講義室 (109.20-123.25 m²) が 9 室、50-80 名収容可能な講義室が 15 室、20-40 名収容可能なアクティブ・ラーニング対応演習室 (42.07-84.15 m²) が 27 室ある。キャンパス全体に無線 LAN が敷設されており、いずれの教室においてもスマートフォンやタブレット、ノート PC 等でインターネットに接続することが可能である。

教室稼働率 (平成 28 年度実績) は、200-250 名収容教室が 40.4%、100-120 名収容教室が 45.2%、50-80 名収容教室が 62.8%、20-40 名収容教室 47.9%であり、カリキュラム編成上、支障はない。

②実験・実習室

ア. 自然科学室

2 号館 1 階に 36 名収容可能で、実験・実習に必要な校具・教具を備え、準備室 (42.07 m²) が併設された自然科学室 (162.22 m²) が設置されている。

教室稼働率 (平成 28 年度実績) は、29.2%であり、カリキュラム編成上、支障はない。

イ. 家庭科室

1 号館 1 階に 54 名収容可能で、調理台、包丁・まな板殺菌保管庫、全自動洗濯機、ミシン等、実習に必要な校具・教具を備えた家庭科室 (109.20 m²) が設置されている。

教室稼働率 (平成 28 年度実績) は、6.3%であり、カリキュラム編成上、支障はない。

ウ. 美術室

2 号館 2 階に 50 名収容可能で、実習に必要な図工用作業机や校具・教具を備え、準備室 (42.07 m²) が併設された美術室 (126.22 m²) を設置している。

教室稼働率 (平成 28 年度実績) は、29.2%であり、カリキュラム編成上、支障はない。

③特別教室

- ・ 2 号館 2 階に 36 名収容で、音楽の授業に必要な音響機器や様々な楽器を備え、準備室 (42.07 m²) が併設された 音楽室 (126.22 m²) を設置している。

- ・ 2 号館 3 階に保育士科目に必要な校具・教具を備えた、多目的室 (126.22 m²) を設置している。

- ・ 4 号館 2 階に 5-11 名収容のピアノ室 (11.55-23.10 m²) 4 室を設置している。

教室稼働率 (平成 28 年度実績) は、音楽室が 12.5%、多目的室が 39.6%、ピアノ室 19.2%であり、カリキュラム編成上、支障はない。

④ P C 教室

- ・ 2 号館 1 階に 30 名収容可能な P C 室 (84.15 m²) 2 室、4 号館 2 階に 40 名収容可能な P C 室 2 室 (84.15-123.25 m²) を設置。すべての P C がインターネットに接続され、学生の自習にも利用できる。

教室稼働率（平成 28 年度実績）は、34.6%であり、カリキュラム編成上、支障はない。

⑤ ピアノ練習室

4 号館 2 階ピアノ室の他、体育館棟 1 階に電子ピアノ（クラビノーバ）20 台を備えたピアノ練習室を設置している。

⑥ 礼拝・講堂棟

既存の礼拝講堂棟（1,000 名収容）を使用する。入学式や学位授与式、特別礼拝、各種講演会、ガイダンス等を使用する。

⑦ 研究室

8 号館内に専任教員全員の個人研究室（20.19-21.31 m²）を設ける。非常勤講師には 4 号館 4 階および 8 号館 1 階に P C やプリンタ、コピー機などを備えた教員ラウンジを設置している。

2) 教職支援センター・保育実習室、保健室・学生相談室、ラーニングセンター、自習室、学生控室

① 教職支援センター・保育実習室

- ・ 4 号館 2 階に教員採用試験合格を目指す学生をサポートするための教職支援センター（42.07 m²）を設置している。学生同士での情報交換や、実践経験をもつ教員による指導や助言を受けることができるようにするなど、採用試験に向けてのバックアップを行う。また、学習室（42.07 m²）を設置し、過去問題集や参考書を備え、自由に閲覧ができるようにしている。
- ・ 8 号館 4 階に保育士資格・幼稚園教諭免許取得者のための保育実習室（20.19 m²）を設置し、それぞれの資格取得に向けて各実習を中心としたサポートを行っている。

② 保健室・学生相談室

シャローム館に診療・健康相談・保健指導などを行う保健室、臨床心理士によるカウンセリングなどを行う学生相談室を設置している。

③ ラーニングセンター

1 号館地階にレポートの書き方やノートの取り方など、学修に関する相談・サポートなどを行う指導するラーニングセンターを設置している。

④ 自習室

図書館内アクティブ・ラーニング室、P C 教室、アクティブ・ラーニング教室が自習室として機能する。また、4 号館教職センター併設の学習室が教職課程履修者専用の自習室と

して機能する。

⑤学生控室

学生控室として、1号館 1cafe、4号館学生ホール・4cafe、エルピス館学生ホール・エルピスホール・インターネットカフェを設置している。

3) 図書館等の資料及び図書館の整備計画

①人文学部児童学科設置のための図書・資料整備計画

聖学院大学では、各学科から選出された図書委員より月1回の選書を実施している。その他、教員からの推薦、学生からのリクエストを基本に、本学の学部・学科構成やシラバスの動向を踏まえて選書を行うなど、学生・教職員の希望を取り入れつつ、資料の体系的な収集・整備に努めている。

人文学部児童学科の図書整備計画として、これまで人間福祉学部児童学科で収集されていた幼児教育関係、初等教育関係の図書・資料、人間福祉学部こども心理学科で収集されていた特別支援学校教諭関係の図書・資料のさらなる充実を図るとともに新学科のカリキュラムに対応する図書、学術雑誌、オンラインデータベース等を購入する。

②図書館の整備

図書館は既存の総合図書館を使用する。人文学部児童学科は、人間福祉学部からの改組により設置されるが、学生定員数の変更はなく、原則して既存の施設・設備を利用する。2016年3月末現在で、図書館資料304,757点、雑誌554誌（含む電子ジャーナル）、視聴覚資料6,060点、マイクロ資料18,825点を所蔵し、利用に供している。また、電子資料としては、8件のデータベースについて契約・提供を行っている。

図書館の面積は2074㎡、閲覧席は318席、館内には利用者用デスクトップPC41台と館内貸出用ノートPC30台を整備。利用者の持込みPCに対しても有線LANによる接続環境や、視聴覚コーナーにネットテレビを備えるなど、利用者の情報収集環境も整っている。さらに、図書館内にはグループ学習やディスカッション、プレゼンテーションなど行うことができるアクティブ・ラーニング対応のグループ閲覧室が4室設置されている。

⑧ 入学者選抜の概要

入学者受け入れ方針

児童学科では、以下に掲げる聖学院大学、人文学部、児童学科の各段階のアドミッション・ポリシーに添った入学者を受け入れる方針である。

聖学院大学のアドミッション・ポリシー

聖学院大学は、上記カリキュラムに即した教育を受けるに相応しい学生を選抜、あるいは見出すため、「理念」に共感し、神から与えられた固有の賜物を人間形成的に、学問的に本学で開花させたいと願う志望者を種々の選抜方法により、受け入れ、あるいは見出して行く。

人文学部のアドミッション・ポリシー

- ①キリスト教の文化や考え方を学ぶことを通して、自分を見つめ、「良く生きる」ということをじっくり考え、他者と関わろうとする人を求める。
- ②表現力やコミュニケーション力を強化することで、自身の持つ可能性を再発見、育成し、自立した社会人となることを目標としている人を求める。
- ③文化に対する知識、体験を国内外に紹介、発信することを通じてグローバル及びローカルな場で貢献をしたいと考えている人を求める。
- ④大学という場で自らが文化を学び、体験することを通じて、「文化の継承者」を育成することに熱意を持つ人を求める。

児童学科のアドミッション・ポリシー

- ①子どもの人格とまっすぐに向き合い、個々の子どもを深く理解しようとするとともに、子どもの文化を知ろうとする人を求める。
- ②日頃から身のまわりのことに関心を持ち、仲間と協働して活動し、より良い人間関係を築こうという意欲を持ち、教育や保育に携わることを希望する人を求める。
- ③他者との関わりを大切にし、自己の主張にとらわれず他者の声に耳を傾け、自らの人格を高めようとする人を求める。

入学者選抜方法

選抜方法は以下のとおりとする。

○一般入試：基礎的学力を重視し、学科での専門教育を受けるに足る学力があるかを基準に選抜する。試験問題については適正な範囲から出題されているか等について外部専門機関による評価を実施し、その結果を問題作成に活かしている。

○A0 入試：入学者受け入れ方針に沿って、本学科の教育内容をよく理解し、目的意識が明確で学習に意欲的な学生を確保するため A0 入試を実施している。

選抜方法は、講義を受けた後その内容について他者に伝えることができるようノート作成を課し、さらにノートの内容や入学目的、学習意欲、適性等に関する面接を行った上で総合的に判断して選抜する「講義型」と、ボランティア活動等子どもとの関わりの自らの体

験を踏まえたレポート作成を課し、面談を行った上で総合的に判断して選抜する「レポート型」がある。

- 推薦入試：入学実績及び当該高校からの入学者の入学後の学習状況を勘案した上で高校を指定し、当該高校から推薦のあった者に対し、書類審査及び本学科の教育内容の理解、目的意識、学習意欲等についての面接を行い、総合的に判断して選抜する「指定校推薦入試」と、高校での成績において一定の基準に達している者について、小論文試験と面接を実施し、総合的に判断して選抜する「公募推薦入試」がある。

選抜体制

入学者選抜を公平かつ円滑に実施するため、学長を本部長とし、入試部長、入試委員を主体とする入試本部を設け、入学試験を実施している。合否判定については、学科での審議を経て決定された合否判定案に基づき、学長を長とし運営委員及び入試委員からなる拡大入試委員会が教授会からの付託を受けて全学的見地からその妥当性を判断し合否を決定している。

選抜方法毎の募集定員は、一般入試 30 名、A0 入試 40 名、推薦入試 30 名である。

科目等履修生

科目等履修生の希望がある場合、在校生の学修に支障のない限りにおいて、選考の上、科目等履修生として履修を許可している。

また、幼稚園教諭免許状を取得し保育士資格取得への意志が強固であり保育士として働く意欲がある者を対象として、若干名の枠で、保育士科目等特別履修生制度を設けている。これは、指定保育士養成施設において幼稚園教諭免許状を取得した者は、17 科目 24 単位以内を履修し（1 年コース）、指定保育士養成施設以外の施設で幼稚園教諭免許状を取得した者は 28 科目 44 単位以内を履修する（2 年コース）ものである。

⑨ 取得可能な資格

児童学科の教育課程を履修することで取得可能な資格は以下の通りである。

- 小学校教諭一種免許状・幼稚園教諭一種免許状

ア 国家資格 イ 資格取得可能 ウ 卒業要件単位に含まれる科目の履修のみで取得可能だが資格取得が卒業の必須条件ではない。

- 特別支援教諭一種免許状（知的障害者・肢体不自由者・病弱者）

ア 国家資格 イ 資格取得可能 ウ 卒業要件単位に含まれる科目の履修のみで取得可能だが資格取得が卒業の必須条件ではない。なお、小学校教諭一種免許状を基礎免許とする。

- 保育士資格

ア 国家資格 イ 資格取得可能 ウ 卒業要件単位に含まれる科目の履修のみで取得可能だが資格取得が卒業の必須条件ではない。

- 図書館司書および学校図書館司書教諭

ア 国家資格 イ 資格取得可能 ウ 卒業要件単位に含まれる科目のほか、図書館学関連科目の履修が必要。なお学校図書館司書教諭については教員免許状の取得が必要。

○社会福祉主事任用資格・社会教育主事任用資格

ア 国家資格 イ 資格取得可能 ウ 卒業要件単位に含まれる科目のほか必要な科目の履修が必要。

○児童指導員任用資格

ア 国家資格 イ 資格取得可能 ウ 児童学科の修了要件に同じ

○小学校英語指導者資格

ア 民間資格（小学校英語指導者認定協議会認定資格） イ 資格取得可能 ウ 卒業要件単位に含まれる科目のほか必要な科目の履修が必要。

⑩ 実習の具体的計画

児童学科では、教育実習（小学校、幼稚園、特別支援学校）、保育実習（保育所実習、居住型施設実習、通所型施設実習）、を実施する。

ア 実習先確保の状況

別紙 実習受け入れ園・校・施設一覧

イ 実習先との契約内容

学生から誓約書を添えた実習申込みを受けて、実習の前年度に大学から学長名文書で実習先に実習依頼を行い、実習承諾書を受け取ることによって実習契約を締結する（実習先によっては、その後、実習先から「実習委託契約書」が送られ、互いに理事長名で契約を取り交わす場合もある）。個人情報保護、実習生の抗体価保障の感染症対策については大学から指導状況を説明し、理解を得る。実習先から、大学の指導体制を超えた誓約書等については、児童学科実習委員会で協議のうえ、個別に対応する。

ウ 実習水準の確保の方策

大学から実習先に、実習計画書と共に、大学の事前指導で使用している教材を配付し、目指す実習内容の周知を図る。

学科の専任教員による巡回指導時には実習先の指導担当者と直接に協議し、実習内容とねらいの達成状況を確認する。

エ 実習先との連携体制

教育実習、保育実習の事前の指導の中では、全体授業の形態での実習の内容や心構えに関する指導に加え、実習生が教育実習校を訪問しオリエンテーションを受ける機会を設け、配属クラス・児童の特徴・実習時期に予定されている各教科・領域の単元等に関する情報を得たうえで、学習指導案・保育指導案等の作成や教材研究の準備等について、大学の教育実習担当教員が指導を行う。

特に小学校・特別支援学校における実習の期間は、教育活動の全般と学習指導案の作成や教材研究等の準備について、校長と指導教諭等が指導を行う。また、実習生が日々記載

する実習日誌の記載事項についても、校長と指導教諭が講評を記す等の方法で指導を行う。

なお、実習期間であっても、実習生の健康、意欲等において実習の継続が危ぶまれる状況が生じた場合には、即時に実習校等より大学が連絡を受け、実習先と相談しながら大学の責任において実習生指導にあたり、場合によっては実習を延期または中断する。

実習の事後の指導の中では、全体授業の形態での実習の振り返りに関する指導に加え、実習担当教員が、実習先からの実習評価とともに、実習生の実習日誌を閲読したうえで、個別に面談を行い、実習の成果を確認すると共に個々の実習生の課題認識を明らかにし、今後の学修につなげる指導を行う。

オ 実習前の準備状況

感染症予防：学校健康診断の受診を義務付けると共に、学外実習が配当される前年度から抗体検査について指導を行い、麻疹・風疹・水痘・耳下腺炎についての抗体価確認を義務付けている。特に麻疹・風疹の抗体価については、基準値に満たない場合には重ねてのワクチン接種を行うよう指導している。

賠償保険：全員が、「学研災付帯賠償責任保険：B コースインターンシップ・教職資格活動等賠償責任保険」（公益財団法人日本国際教育支援協会）に加入しており、加えて保育士養成課程の学生は「全国保育士養成協議会実習総合補償制度賠償責任保険（施設賠償責任保険）」（東京海上日動火災保険株式会社）に加入している。

課題：履修年度前の長期休暇中に、実習を楽しみにして学修の軸とすることができるようになり、事前指導の水準向上と直接的な実習準備をねらいとして、学生に提出課題を課す。その内容に対して、事前指導の授業内で担当教員からの指導を受ける体制につなげる。

1. 実習先研究
2. 乳幼児・児童の理解
3. 教育要領・学習指導要領・保育指針の研究
4. 教材研究
5. 教材作成と発表準備

カ 事前・事後における指導計画

事前の指導

1. 実習の目的
2. 実習の特色理解
3. 実習先でのオリエンテーション
4. 実習の内容
 - ＜小学校・特別支援学校における場合＞
 - ・学級活動
 - ・教材研究
 - ・教科指導
 - ・特別活動指導

- ・ 自立活動指導（特別支援学校における実習のみ）
- ・ 研究授業と研究協議会

＜保育所・幼稚園等における場合＞

- ・ 保育観察
 - ・ 教材研究
 - ・ 子育て支援
 - ・ 参加実習
 - ・ 部分実習
 - ・ 責任実習
5. 各学年・年齢ごとの乳幼児・児童の特徴と指導の留意点
(特別支援教育実習の場合は、加えて「障害による特徴と指導の留意点」)
 6. 実習の心構え
 7. 実習日誌の記入
 8. 指導計画の作成
 9. 前年度に実習を行った学生からの報告

事後の指導

1. 「実習報告書」をまとめ、それをもとにした実習報告とディスカッションによる実習の振り返り
2. 実習日誌の閲読からわかった学生全体の課題についての補講
3. 事後学習のレポート課題
4. 評価票、実習日誌、事後学習のレポートをもとにした個別面談
5. 翌年度に実習を行う予定の学生への報告

キ 教員及び助手の配置並びに巡回指導計画

学外実習の授業科目担当は、その免許・資格課程において実習に直結する内容の授業を担当している教員の中から、複数の教員で担当する。児童学科に実習助手はいない。

一方で、実習教育は学科の教職・資格課程の中心に位置付くという認識から、巡回指導は児童学科の全専任教員で分担する。

ク 実習施設における指導者の配置計画

配置していない。

ケ 成績評価体制及び単位認定方法

教育実習校から提出された「聖学院大学教育実習生成績評価票」の記載事項を教育実習科目担当者全員で共通に理解し、その評価内容を踏まえて行う実習生の個別面談において実習生の具体的な振り返りや実習日誌への指導・講評等、実習巡回訪問報告書から教育実習校における評価の妥当性を確認したうえで、協議のうえ評価点①を確定させる。

教育実習の事前と事後の学習に臨む態度、実習への準備の状況、実習日誌、報告書等の提出課題の成果を評価し、授業担当者全員で協議のうえ評価点②を確定させる。

評価点①と評価点②を一定割合で換算し、教育実習としての評価点とする。

保育実習の場合も、保育所または施設から提出された「聖学院大学保育実習生成績評価票」に基づいて同様な方法で行う。

コ その他特記事項

○実習科目の履修は、以下の要件をすべて満たしていることを要する。

- ① 履修の前年度に「教育実習ガイダンス」を受けて教育実習校の確保を行っていること。
(保育実習の場合は、「保育実習ガイダンス」を受けて、実習申請書を提出していること)
- ② 「聖学院大学児童学科教職・資格課程履修細則」で定めた各実習の履修条件を満たしていること。
- ③ 入学以来の学修において相応の成績をおさめていること
- ④ 麻疹・風疹に関する抗体価の確認等が済んでいること。
- ⑤ 実習費を期日までに納入していること。
- ⑥ その他、心身ともに、学外における実習の実施に関して心配な事由がないこと。

なお、実習科目の履修が開始された後であっても、授業の出席状況や学習指導案の作成や模擬授業の実施等の課題への取り組み状況が芳しくない場合は、上記の⑥の要件を準用して実習の開始を見合わせる場合がある。

○下記の通り「児童学科実習委員会」を置く。

児童学科実習委員会（委員長：学科長、統括：児童学科実習室長）は実習の実施と単位認定を行う。

委員：実習科目の担当教員・教務部委員

毎週木曜日の昼休みに開催するほか、必要に応じて臨時に開催する。

⑪ 企業実習等学外実習を実施する場合の具体的な計画

キャリア教育科目のなかで該当すると考えられる 2 科目（インターンシップⅡ（実習）、海外インターンシップ）について記す。

インターンシップⅡ（実習）

単位：選択科目、2 単位

開講期：春集中・秋集中

ア．実習先確保の状況

上尾市役所(2名)、特定非営利活動法人 AGETTO (アゲット) (4名)。また上尾商工会議所、埼玉中小企業家同友会、埼玉北商工協同組合、コープみらいと提携し、商工会議所メンバー企業、同友会メンバー企業を紹介いただき毎年実習先確保を行っている。

平成 28 年度(2016 年度)は 41 企業・団体、合計 74 名のインターンシップを実施した。

イ．実習先との連携体制

①上尾市役所

- 上尾市内唯一の四年制大学として、上尾市役所の「一般公募インターンシップ」

の枠外で、市役所内インターンシップを“2名分”確保

- 上尾市役所が関与する特定非営利活動法人 AGETTO（アゲット）において、PBL 型インターンシップを実施(本年度夏休みに 4 名参加)

②上尾商工会議所

- 商工会議所メンバー企業の紹介

③埼玉中小企業家同友会

- 同友会メンバー企業の紹介

④埼玉北商工協同組合

- 組合事業として本学インターンシップを支援

⑤コープみらい

- 原市団地における高齢居住者の実態調査(PBL 型)。寄付講座の実施

ウ. 成績評価体制及び単位認定方法

- 成績評価体制は、インターンシップ「担当教員」が、キャリアデザイン部委員の教員、インターンシップ「担当職員」と協同で評価。評価責任者は「担当教員」
- 単位認定方法は、a. 実習前事前学習（実習先の事前情報収集）、b. 実習ノート（実習日報）の提出、c. 実習レポート（事後的にまとめる実習成果の報告）の提出、d. 実習報告会での発表、e. 教職員による実習時巡回の評価、に基づき評価。

エ. その他特記事項

- インターンシップ受入企業数（枠）は毎回実習希望を上回る状況
- AGETTO の PBL 型インターンシップは毎年、地元ケーブルテレビ、地元紙、全国紙で取り上げられ、内容を紹介

海外インターンシップ

単位：選択科目、1～4 単位（実習期間の長さによる）

開講期：集中

ア. 実習先確保の状況

①アメリカ企業インターンシップ・コース

- アパレル業界、ファッション系出版社、米国人向け日本語放送局など候補企業から、学生の希望と英語力に応じて選択。実習先の所在地域は、カリフォルニア州の、ロスアンゼルス市、トーランス市を中心とするエリア。各社 1～2 名程度

②アメリカ アシスタント・ティーチャー・インターンシップ・コース

- 補助教員を受け入れる現地の幼稚園・小学校で実習。実習先の所在地域は、カリフォルニア州の、ロスアンゼルス市、トーランス市を中心とするエリア。各校 1～2 名程度

③カナダ ツーリズム・ホスピタリティ研修プログラム

- JTB International Canada 本社および JTB Educational Institute of Canada (カナダ・ブリティッシュ・コロンビア州リッチモンド市) 上限 15 名

イ. 実習先との連携体制

①アメリカ企業インターンシップ・コース

- 米国に現地法人を持つウィッシュ・インターナショナル社が窓口となり、現地実習先とのコーディネーションを行う。旅行実務は、近畿日本ツーリストが引き受ける。

②アメリカ アシスタント・ティーチャー・インターンシップ・コース

- 米国に現地法人を持つライトハウス・キャリアエンカレッジ社窓口となり、現地実習先とのコーディネーションを行う。旅行実務は、近畿日本ツーリストが引き受ける。

③カナダ ツーリズム・ホスピタリティ研修プログラム

- JTB International Canada の日本駐在員が窓口として、現地実習先とのコーディネーションを行う。旅行実務は、JTB 関東が引き受ける。

ウ. 成績評価体制及び単位認定方法

- 成績評価体制は、研修機関と本学が共同で行うが、評価責任者は「担当教員」が担当する。
- 単位認定方法は、a. 事前研修（渡航先情報、安全に関するレクチャー、ホームステイの心得、現地企業に関するレクチャー等）、b. 研修機関が発行する成績証明書・修了証、c. 実習レポート（実習成果の報告）の提出、d. 事後研修（海外研修の振り返り、国際人とは何か（演習問題））、e. 実習報告会での発表、に基づき、認定。

エ. その他特記事項

- ③カナダ ツーリズム・ホスピタリティ研修プログラムについては、聖学院大学と JTB International (Canada) Ltd. が設置する JEIC (JTB Educational Institute of Canada) の間で、共有のキャリア教育理念に基づき、実務研修や国際交流を通して自己実現と社会的貢献を果たす事のできる人材を育成する為、キャリア教育提携に関する協定を締結している。

海外研修の具体的計画

(全学プログラム)

本学の全学的な海外語学研修プログラムにおいて、単位認定を行うプログラムを以下に記載する。

ア. 実習先確保の状況

- カナダ文化演習：カナダビクトリア大学研修

ブリティッシュ・コロンビア州の州都であるビクトリア市に位置するビクトリア大学の

付属機関 University of Victoria English Language Center にて実施する。最少催行人数は5名。研修中は大学寮に滞在する。プレイスメントテストに基づきレベル別に受講し文化体験にも参加する。

- ・オーストラリア文化演習：オーストラリアディーキン大学研修
ビクトリア州メルボルンを中心に5つのキャンパスを擁するディーキン大学の付属機関 Deakin University English Language Institute(DUELI)にて実施する。研修中は現地家庭にホームステイしオーストラリアの生活に触れる体験をする。プレイスメントテストに基づきレベル別に受講し、オプションの課外活動にも参加する。

イ．実習先との連携体制

- ・カナダ文化演習：カナダビクトリア大学研修
旅行実務は株式会社S T Aトラベルが引き受ける。
- ・オーストラリア文化演習：オーストラリアディーキン大学研修
旅行実務は株式会社S T Aトラベルが引き受ける。

ウ．成績評価体制及び単位認定方法

- ・成績評価体制は、どの研修についても基本的に研修機関と大学が共同で行うが、評価責任者は「担当教員」である。
- ・単位認定方法は、基本形として
 - a．事前研修（渡航先情報、安全に関するレクチャー、ホームステイの心得、現地機関・施設に関するレクチャー等）、b．研修機関が発行する成績証明書・修了証、c．実習レポート（実習成果の報告）の提出、d．事後研修（海外研修の振り返り、国際人とは何か（演習問題））、e．実習報告会での発表、に基づき、認定となっている。

（学科プログラム）

ア 実習先確保の状況

平成13年以来、継続して、オーストラリアのフリンダース大学附属英語学校（Intensive English Language Institute on the campus of Flinders University：所在地 Flinders University, Sturt Road, Bedford Park 5042, Adelaide, South Australia, Australia）で、10～30名の児童学科学生を対象とした「児童学海外研修」（2月中旬から3月中旬約28日間）を実施しており、今後も継続実施を計画している。

イ 実習先との連携体制

本海外研修は、児童学科が聖学院大学国際部委員会と共催しており、研修内容はフリンダース大学附属英語学校との共同企画である。聖学院大学と研修先の関係は良好であり、研修先での担当教員は研修の開始当初から変わらず、毎年研修前後に児童学科の担当教員と連絡を取って研修内容の見直し等を行っている。また、研修は、児童学科専任教員が引率する。

ウ 成績評価体制及び単位認定方法

大学における事前学習と研修準備、研修、大学における事後学習のそれぞれで評価を行い、事前・事後指導を担当する教員と引率教員の協議で成績原案が作成され、児童学科会の議を経て児童学科長名で単位認定が行われる。

エ その他の特記事項

聖学院大学児童学科だけのために準備されたプログラムにより、オーストラリアの保育・教育を英語で学ぶ研修である。

具体的内容は、下記の通りである。

- ・英会話
- ・子どもの発達、オーストラリアの保育・教育、オーストラリアの教材に関する講義
- ・幼児教育施設と小学校において数回にわたる観察実習及び部分実習
- ・子どものいる家庭におけるホームステイ

⑫ 編入学定員を設定する場合の具体的計画

ア 既修得単位の認定方法

3年次編入の場合は62単位、2年次編入の場合は31単位を一括で既修得単位として認め、前の在籍校での単位取得状況と当該校の科目シラバスを確認しながら、教養科目の必修科目・選択必修科目を中心に本学の開設科目に読替できるものを個々に検討し、専門科目の学修に専心できる環境が整えられるように配慮している。

イ 履修指導方法

入学式後に編入学年の学生向けの履修ガイダンスの他に、個別の履修指導を含む編入学年向けの履修ガイダンスを重ねて開催する。

<3年次編入の場合>

3年生

- 「キリスト教文化論 AB」 計4単位
- 「児童学概論」「言葉の基礎」「児童文化論」「発達心理学」「教育原理」「保育内容総論」の初年次配当の基本的な科目 計14単位
- 「学校インターンシップ（基礎）」2単位
- 「音楽 AB」「図画工作 AB」「体育 AB」計6単位
- 幼稚園の教職に関する科目 計11単位
- 教科または教職に関する科目 計3単位

4年生

- 「幼児理解の理論と方法」「保育内容の研究・各領域」計14単位
- 「幼稚園教育実習」「教職実践演習（幼小）」計7単位
- 「音楽・器楽」等の選択科目 1単位以上 計62単位以上

ウ 教育上の配慮等

編入学定員は設けていないが、定員の範囲内で編入学を認める場合がある。

児童学科への編入学は、明確な教免・資格取得の意志をもった者がほとんどである。そのため、学修の順序性を守りながらも、個々の編入生の事情に応じた時間割を作成するよう配慮している。一方で、初年次科目を共に履修する1年生、専門科目を共に履修することの多い2年生のそれぞれと親しく仲間関係を結びやすいように、特定のクラスの学生と同じ授業を数多く履修できるように配慮するとともに、1年生のアドバイザーグループ（10人以内に担任が1名付くクラス）に加え、2年生のゼミにも配置する。

⑬ 管理運営

教学面における管理運営は、大学教授会の下部組織の一つである教務部委員会が教学関係事項を審議し、内容に応じて、学部教授会ないし基礎総合教育部会でさらに審議し、最終的に大学教授会において、審議、承認する体制をとっている。

大学教授会は、学長、大学チャプレン、学部長、学部チャプレン、基礎総合教育部長、学科長、教授、准教授、助教、講師、助手その他の教育職員、事務職員、学長が必要と認めたその他の教職員から構成されている。原則として毎月1回定例の大学教授会を開催している。

大学教授会は、（1）学生の入学、卒業及び課程の修了、（2）学位の授与、（3）教育研究に関するその他の重要な事項で、大学教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定めるものについて、学長が決定を行う際に審議し、意見を述べる。また、学長がつかさどる教育研究に関する事項について審議し、意見を述べる。さらには、学部教授会、教務部委員会、基礎総合教育部会などが行った審議について報告を受ける。

上記（3）の内容は、「大学教授会、学部教授会及び研究科委員会の審議事項についての学長決定（2015/4/1）」（以下、「学長決定」）において、1)学生の除籍に関する事項、2)学則、その他重要な学内諸規則等に関する事項、3)全学部にかかわる教員人事及び研究所の教員人事に関する事項、4)全学部にかかわる教育課程その他重要事項、5)その他学長が必要と裁定した事項としている。

学部教授会は、学部長、学部チャプレン及び学部所属の専任の教授をもって組織している。「学長決定」において、学部教授会の審議事項は、1)学部の教員の人事に関する事項、学部の教育課程、2)学部の学生の退学、休学、復学、転学、留学等、3)学部内試験などとしている。

教務部委員会は、教務部長、教授、准教授、助教、講師のうちから学長が大学教授会において指名した者、教務課長から構成されている。教務部委員会は、1)各学科会が作成する教科課程及び授業計画の調整、並びに授業時間割の編成、2)試験、3)学生の入学、進級、卒業、退学、休学、復学、留学及び除籍、4)成績などに関する事項を審議する。

基礎総合教育部会は、基礎総合教育部長、各学科長、教務部長、広報部長、キャリアデザイン部長、教職科目担当専任教員から構成されている。同部会は、基礎科目課程、教養科目課程、総合科目課程、各種資格科目課程の 1)編成、2)担当教員配置、3)予算案などに関する事項を審議する。

⑭ 自己点検・評価

聖学院大学の自己点検・評価は、主として「点検評価委員会」と「点検評価実行委員会」によって担われている。

「点検評価委員会」は、特に内部質保証の体制構築とその実施を目的としたものであり、学長を委員長として、数名の教員および職員より構成されている。外部の大学評価機関（本学の場合は大学基準協会）の主催する点検評価への対応として、7年ごとの自己点検報告書の全学的な作成を主導するとともに、この基礎となる大学全体の点検評価体制を整えている。具体的には、大学基準協会からの改善についての諸勧告について、この改善状況を把握するために年度ごとに全学的な改善報告書を作成している。委員会により独自のフォーマットを作成し、それぞれの年度において、改善を要求されている大学の各組織が改善計画を作成し、年度末に自己点検を行い、その達成状況と次年度のさらなる改善計画を記して委員会に提出している。委員会ではこれらの報告を総括して全学的な改善活動の達成度を知ると同時に、次年度の全学的な改善活動を見通し、改善活動の体制それ自体の適合性を検討している。作成された改善報告書については、改善内容は大学の全教職員によって共有されるべきとの理念により、可能なかぎり大学の HP で内部公開を行っている。また委員会は大学基準協会の総会やシンポジウムへの出席などを通して、点検評価の全国的動向を積極的に受容することに努力している。

以上のように「点検評価委員会」が学内の各組織を主体とする改善活動を総括しているのに対し、「点検評価実行委員会」は各教員を主体とする改善活動を総括している。具体的には、セメスターごとの学生による授業アンケートを主催し、この実施を主導している。各回のアンケート結果については、実施方法自体の適合性や大学全体としての回答傾向を終了後に開催される委員会によって議論・総括されている。また各自教員の活動および業績の報告について、年度ごとに報告書を作成し、大学 HP 上で公表してきた。これについては、全学的な情報システムの導入により、今年度（平成 28 年度）から各教員による大学 HP 上の入力および公表がネット上の研究者データベースであるリサーチ・マップと直結することとなった。これにより各自教員の活動報告の公開性が著しく高められている。「点検評価実行委員会」は学内の他の委員会と同様に、毎月 1 回、第一水曜日に定期的に会合を開き、教員の自発的改善活動に対して時宜に応じた議論を行っている。この会議の内容は毎月の大学教授会で文書および口頭で報告され、学内に共有されている。

⑮ 情報の公表

○情報公開における本学の規程

本学における情報の公表については以下の通り「聖学院大学 教育情報公開規程」に明示されている。

（目的） 第1条 この規程は、学校教育法第113条及び学校教育法施行規則第172条の2の規定に基づき、聖学院大学（聖学院大学大学院を含む。以下「本学」という。）が公的な教育機関として、その教育研究に関する情報を社会に対し継続的に公開することを目的とする。

（公開する教育情報） 第2条 本学は、次に掲げる教育研究に関する情報を公開するものとする。（1）教育研究上の目的（2）教育研究上の基本組織（3）教員組織、教員数、各教員の有する学位及び業績（4）入学者の受入れ方針、入学者数、収容定員、在学生数、卒業者及び修了者の数、進学者及び就職者の数その他進学及び就職等の状況（5）授業科目、授業方法、授業内容、年間の授業計画（6）学修成果の評価基準、卒業又は修了の認定基準（7）施設、設備その他の学生の教育研究環境に関すること（8）授業料、入学料その他の費用（9）修学、進路選択、心身の健康その他の面における学生支援の内容
2 本学は、前項各号に掲げる事項のほか、教育上の目的に応じ、学生が修得すべき知識及び能力に関する情報を積極的に公表するよう努める。

（公開方法） 第3条 本学の教育情報の公開は、次に掲げる媒体の1個又は数個に掲載する方法によって行う。（1）本学のホームページ（より詳細な情報の提示を外部のリンク先に移転して行う措置を含む。）（2）本学のデータブック（3）本学のパンフレット

（情報の更新） 第4条 本学は、公開した教育情報について、定期的に又は随時に更新を行い、公開情報の内容が新のものとなるよう努める。

（担当部署） 第5条 本学の教育情報の公開に関する事務は、事務分掌規程に基づく担当部署が行う。

（改廃手続） 第6条 この規程の改廃は、大学教授会の議を経て学長が決定し、理事会の承認を得るものとする。

附 則 この規程は、2015年6月22日より施行する。ただし、この日以前に教育情報を公開し、又は更新することを妨げない。

-

○本学における学術情報サービスの現状

以下、各項目に従って公開の方法について具体的に記述する。

ア、大学の教育研究上の目的に関すること

ディプロマ・カリキュラム・アドミッションポリシーと各学科と研究科のポリシーが以下に記載されている。

<http://www.seigakuin.jp/about/policy/>

イ、教育研究上の基本組織に関すること

学部学科の情報については以下の URL において公開している。

<http://www.seigakuin.jp/faculty/>

ウ、教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

今年度より本稼働をスタートした UNIPA において研究業績を公開している。

<http://www.seigakuin.jp/about/faculty/>

尚、平成 21 年度より本学に設置されていた情報発信システム「SERVE」は今年度で閉鎖し、新しいクラウドシステムへ「SERVE」が丸ごと移行となった。

<https://serve.repo.nii.ac.jp/>

エ、入学者に関する受入れ方針及び入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数、在学する学生の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

・入学に関するデータ

http://www.seigakuin.jp/contents/univ_data/2016/sd16_00101.pdf

・収容定員や在学生のデータ

http://www.seigakuin.jp/contents/univ_data/2016/sd16_00103.pdf

・卒業生に関するデータ。

http://www.seigakuin.jp/contents/univ_data/2016/sd16_00104.pdf

オ、授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

・「UNIPA」においてシラバスを公開している。

<https://unipa.seigakuin-univ.ac.jp/up/faces/login/Com00504A.jsp>

カ、学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

・学修成果に係る評価は（オ）同様のシラバスがそれに当たる。

・卒業・修了の基準は以下の URL が該当する。

http://seigl6.seigakuin-univ.ac.jp/kyomu/yoran/yoran_menu.html

キ、校地・校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

・キャンパス全体図

<http://www.seigakuin.jp/about/campus/>

詳細：http://www.seigakuin.jp/contents/univ_data/2016/sd16_00103.pdf

ク、授業料、入学料その他大学が徴収する費用に関すること

<http://www.seigakuin.jp/life/gakuhi/>

尚、学費に関する情報として、「学費シミュレータ」があり、どの学科に入学するといくら費用が掛かるかなどが視覚的に分かりやすくシミュレーションできる仕組みになっている。

ケ、大学が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

・学生生活全般を紹介している。

<http://www.seigakuin.jp/life/>

コ、その他（教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報、学則等各種規程、設置認可申請書、設置届出書、設置計画履行状況等報告書、自己点検・評価報告書、認定評価の結果等）

・上記に挙げている URL の基盤となるものとして次の URL を設置している。

http://www.seigakuin.jp/about/data/data_2016/

⑩ 教育内容等の改善を図るための組織的な研修等

各学科から選出された教員と事務職員によって構成される FD・SD（ファカルティ・ディベロップメントとスタッフ・ディベロップメント）委員会が、聖学院大学の各学部・学科等の教育力向上をはじめとする教育研究活動等の適切かつ効果的な運営のための教育手法の開発、学生の学力向上支援の方法、事務手法の開発等の諸施策に関して提言を行っている。毎年、次年度の全ての授業シラバスを、形式・内容の双方にわたって確認することで全学の教育力を担保しようとする取り組みを行っているほか、ニューズレターを発行してモデルとなる授業法や事務プロジェクト等に関する情報共有を図り、全学的な教育・大学運営全般にわたる質的向上を推進している。シラバスのチェックなど、教育内容等の向上に直結する作業に教員のみならず職員が正規メンバーとして加わることで、授業担当者の論理を離れた新たな視点からの指摘が集まり、教育内容等の検討を複層的視点から行うことが可能となった。このことに象徴されるように、教員と職員の互いの視点の相違に気付く他者理解の契機となっている。

また、新年教職員研修会を開催し、大学全体として抱える当該年度の教育内容等の改善を図るための主題を取り上げ、全教職員で、建学の精神に照らした検討を行っている。研修会内での分科会は教員・職員を一体としてグループ分けをしており、教職員が一堂に会して、学内の課題に関する情報を共有し、意見交換を行う土壌を築いている。

他に、聖学院大学付置の研究機関である総合研究所のアクティブ・ラーニング研究会が、全専任教員を対象に年 1 回アクティブ・ラーニングの研修を行い、実際の活用を図っている。

特に授業内容に関しては、教育課程編成に関する外部有識者検討会議において、自治体、

商工団体、福祉団体の関係者から意見を聴取し、カリキュラムや授業内容の改善につなげている。

⑩ 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制

ア 教育課程内の取組について

教員免許状を卒業要件とはしていないものの、幼稚園教諭・小学校教諭の目的養成学科であることから、教師・保育者・対人援助職として社会的・職業的に自立をはかることをねらいとした「言葉の基礎」を必修科目として置いている。専門職として人に向き合うことを想定した言葉をめぐる学修は、自ずと、社会人としての職業的コミュニケーション力の習得させるものである。

これに加えて、教職必修として「教師論」「学校インターンシップ（基礎）」等を置き、専門職として勤務することの意味を理論と実践から学べるようになっている。

教師等の専門職以外の職業に関しては、主として、先述した「⑦教育課程の編成の考え方及び特色」の教養科目の⑤キャリア科目に配置された各科目群において、社会的・職業的自立に関する指導がなされている。

イ 教育課程外の取組について

キャリアサポートプログラム

聖学院大学のキャリアサポートは、キャリアサポートセンターを中心に展開され、単なる就職活動の支援にとどまらず、一人ひとりの人生観、職業観を視野に入れた支援を行っている。下記の通り、働くことの真の意味を理解し、社会人としての心構えを身につけられるように配慮された、4年間を通したプログラム構成となっている。

○1年次：大学生基礎力調査

入学時のガイダンスで、自己を見つめることをねらいとして自己診断テストを新入生全員に実施している。この調査を通して自分の性格、能力の強み、興味のある職業、学習スタイルを知り、標準的なデータなどと照らし合わせることで、自分のやりたいことに気づき、そのために今何を学ぶべきかを明確にすることができる。

○1・2年次：オンリーワン発見ゼミナール

自分の長所に気づき、その長所を最大限に活かして、充実した学生生活を過ごすことが、結果的にはより良い就職につながるという考えに基づき、誰もが持つその人だけの「オンリーワン（強み）」を引き出す就職活動支援講座である。

○3年次：キャリアアプローチ

自己診断テスト「キャリアアプローチ」を実施し、これまでのキャリア構築をかえりみながら、これからの長い人生に大きな意味のある「進路選択」を明確にし、就業先へのアプローチにつなげていく。

○3年次：キャリアデザイン（就職ガイダンス）

5月～6月に、キャリアアプローチの結果を参考に個人面談を実施し、その後に就職ガイダンスが毎週のように連続開催される。OB・OG講演会、採用試験対策、心構えからテクニック指導まで様々なプログラム内容の講座を実施している。

○内定GET講座

就職活動で一番のポイントとなる面接の対策を中心とした実践講座であり、企業の人事担当者の協力を得て、本番さながらの模擬面接が体験できる。

○学内会社説明会

聖学院大学への評価が高い優良企業の多数の参加を得て実施している。12月と2月には多数の企業が参加する合同会社説明会を開催している他、毎週水曜日に開催する水曜学内会社説明会がある。

○教員試験対策および公務員試験対策、資格取得に向けた講座も置かれている。

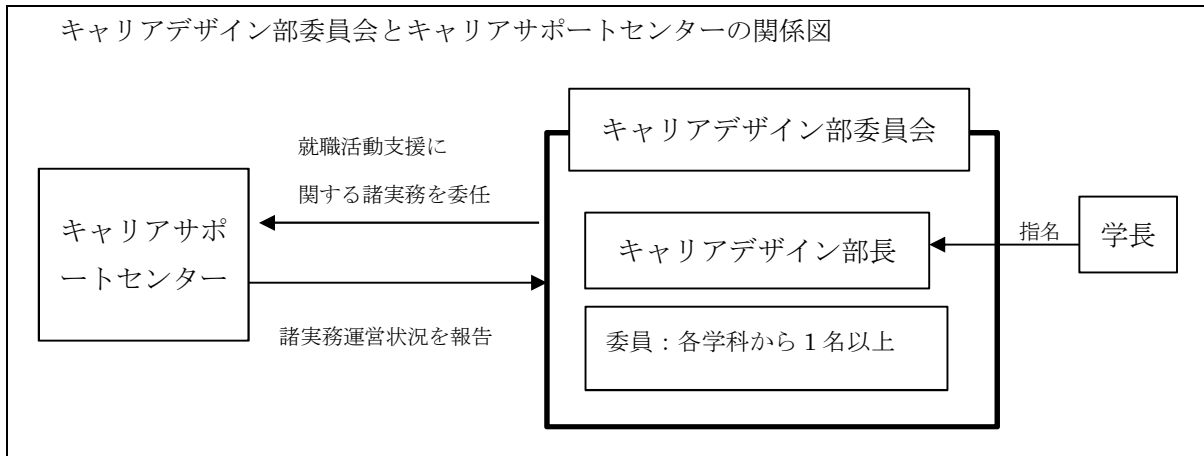
教職支援センター

小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の採用試験に臨む準備に取り組む学生を支援する場としては、小学校・特別支援学校の教育現場経験者を含む実務家教員が配置された教職支援センターが置かれている。教職支援センターの利用は学生主体であるが、そこでの学び合いは常に実務家教員の温かい配慮と見守りの中にある。実務家教員との身近な関わりに加えて、教員採用試験の「復元答案」綴をはじめとする上級生からの貴重な情報提供など、教職へ就くことを目指す協力体制が学修意欲自体を支える。同時に、教師として「チーム学校」の要となる将来に向けて、同僚や他の専門職と協働する実地演習の機会ともなっている。人の育ちを学科専門とする児童学科に小学校教職課程が置かれることで、学生相互や学生と教員との関係性の中で人の育ちが連鎖的に体験され、一人一人の学生が複層的に教師として育まれる教育環境が整備されている。

ウ 適切な体制の整備について

聖学院大学のキャリアサポートの中心は、キャリアサポート部キャリアサポート課所属の専門職員が常駐するキャリアサポートセンターが担うが、そこで実施されるキャリアサポート事業の企画・運営は、キャリアデザイン部委員会が統括する。

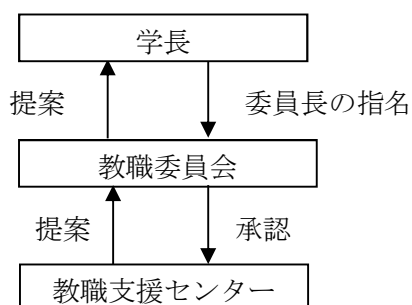
キャリアデザイン部とキャリアサポートセンターの関係



教職支援センターは、教職委員会と密接なかかわりを持ちながら、教職課程に学ぶ学生の学修を、特に「学校インターンシップ」「教育実習」と採用試験の実施・対策に取り組むことを通して支援する。

特に、採用試験をめぐる業務については、これを学生の社会的・職業的自立を図るための必要な能力の育成に向けた最終段階の事業と捉え、キャリアデザイン部と連絡をとりながら実施する。具体的には、教職支援センター長はキャリアデザイン副部長を兼務し、教職支援センターで行う採用試験対策をキャリア支援の一環と位置付け、聖学院大学のキャリア支援方針に適って進められるよう配慮する。

教職支援センターの学内組織に置ける位置づけ



別表1 幼稚園教諭コース 履修モデル

		1年		2年		3年		4年	
学びのねらい		「子どもが好き」という思いから、子どもを理解する学びに進む。		幼児教育を本格的に学び始め、子どもの前に立つ自分を見つめる。		幼児教育を具体的にイメージできるようになり、教育実習に向けて自分を磨く。		幼稚園教諭としての自己イメージをもてるようになる。	
学びの流れ		児童学の基礎科目を通して子どもについて学び始めると共に、音楽、図画工作、体育、教師論等の教職科目を通して幼児教育に関する基礎的な知識と技能を習得する。		学校インターンシップを通して子どもや教師の実際を知り、幼児教育の課程や方法論・支援のための知識と技能を学ぶと共に、児童学の専門的探究に着手する。		幼児理解の上に五領域に沿った保育内容と指導法を演習し、幼児教育の知識と技能を習得すると共に、児童学の専門的探究を深める。		幼稚園教育実習を軸に技能と実践力の向上を図ると共に、教職課程における学びを総括し、児童学の専門的探究の成果をまとめる。	
		春学期 科目名	秋学期 科目名	春学期 科目名	秋学期 科目名	春学期 科目名	秋学期 科目名	春学期 科目名	秋学期 科目名
基礎科目群	基礎科目	キリスト教概論A 2	キリスト教概論B 2						
	基礎科目	BCA(英語基礎表現) I 1	ECA(Speaking) I 2						
	基礎科目	ECA(Reading) I 1							
	基礎科目	【スポーツ科目】 1	【スポーツ科目】 1						
	基礎科目	日本国憲法 2							
教養科目群		【教養科目】 4	【教養科目】 4	【キリスト教関連科目】 2	【キリスト教関連科目】 2				
専門科目群	教育関連科目	児童学概論 2				キリスト教文化論A 2	キリスト教文化論B 2		
	教育関連科目	言葉の基礎 2							
	教育関連科目		児童文化論 2						
	教育関連科目		発達心理学 2	教育心理学 1	教育相談(カウンセリングを含む。) 2				
	教育関連科目	教育原理 2		教育社会学 2	学校と教育の歴史 2				
	教育関連科目	生活 2	児童文学 2	音楽・器楽A 1					
	教育関連科目	図画工作A 1	算数 2						
	教育関連科目	体育A 1	図画工作B 1						
	教育関連科目	音楽A 1	体育B 1						
	教育関連科目		音楽B 1						
	教育関連科目		音楽・器楽B 1						
	教育関連科目	教師論 2	保育内容総論 2	教育方法論 2	教育・保育課程論 2	保育内容の研究・環境 2	保育内容の研究・健康 2	幼稚園教育実習 5	教職実践演習(幼・小) 2
	教育関連科目			【協定校(単位)学校インターンシップ(基礎)】 1	【協定校(単位)学校インターンシップ(発展)】 1	保育内容の研究・言葉 2	保育内容の研究・人間関係 2		
	教育関連科目					保育内容の研究・表現A 2			
	教育関連科目					保育内容の研究・表現B 2			
	教育関連科目					幼児理解の理論と方法 2			
						学校インターンシップ 2			
						【専門演習Ⅰ】 1	【専門演習Ⅱ】 1	【卒業研究Ⅰ】 1	【卒業研究Ⅱ】 1
									4

太字

…卒業必修科目

…幼稚園教諭免許必修科目

太字 …幼稚園コース必修科目

…実習前提科目、または指導必修科目

※上記の必修科目を含め、専門科目群より76単位以上、学科課程より124単位以上修得すること。

※【】を付されている科目は、別紙に定める各科目グループより、記載単位を修得すること。

備考:

- (1) 「幼稚園教育実習」の履修には、「幼稚園教育実習」と「教職実践演習(幼・小)」以外の全ての幼稚園教職課程科目と「学校インターンシップ(基礎)」の単位を修得していることが必要である。

別表2 幼稚園教諭・保育士コース 履修モデル

		1年		2年		3年		4年		
学びのねらい		「子どもが好き」という思いから、子どもを理解する学びに進む。		幼児教育・保育・対人援助を本格的に学び始め、子どもの前に立つ自分を見つめる。		幼児教育・保育場面を具体的に想定できるようになり、保育者としての自己イメージをもてるようになる。		保育者としての自己イメージをもとに自分磨きを行えるようになる。		
学びの流れ		児童学の基礎科目を通して子どもについて学び始めると共に、音楽、図画工作、体育、教師論・保育原理等の教職・資格科目を通して幼児教育・保育に関する基礎的な知識と技能を習得する。		学校インターンシップを通して子どもや教師の実際を知り、保育士専門科目の学修を通して保育と子育て支援の知識と技能を深める。		幼児理解の上に五領域に沿った保育内容と指導法を演習し、幼児教育の知識と技能を習得し、保育実習（保育所と居住型施設）を通して技能と実践力を身につける。		幼稚園教育実習ならびに保育実習（保育所または通所型施設）を軸に技能と実践力の向上を図ると共に、教職課程における学びを総括する。		
		春学期 科目名	秋学期 科目名	春学期 科目名	秋学期 科目名	春学期 科目名	秋学期 科目名	春学期 科目名	秋学期 科目名	卒業 必修 単位
基礎科目群	基礎科目	キリスト教概論A 2	キリスト教概論B 2							6
		情報基礎 2								
		ECA(英語基礎表現) I 1	ECA(Speaking) I 2							5
		ECA(Reading) I 1								
		【スポーツ科目】 1	【スポーツ科目】 1							
基礎科目群	基礎科目	日本国憲法 2								
				【キリスト教関連科目】 2	【キリスト教関連科目】 2					4
		【教養科目】 4	【教養科目】 4							8
専門科目群	専門科目	児童学概論 2				キリスト教文化論A 2	キリスト教文化論B 2			8
		言葉の基礎 2								
			児童文化論 2							2
			発達心理学 2	教育心理学 1	教育相談(カウンセリングを含む。) 2					5
		教育原理 2		教育社会学 2						4
			学校と教育の歴史 2							
			社会福祉 2	児童家庭福祉 2	相談援助 2	家庭支援論 2				
			保育原理 2	社会的養護 2	社会的養護内容 1					
				乳児保育A 1	乳児保育B 1					
				障害児保育A 1	障害児保育B 1					
				子どもの保健A 2	子どもの保健B 2					
				保育相談支援 2	子どもの保健演習 1					
				子どもの食と栄養A 1	子どもの食と栄養B 1					
		生活 2	児童文学 2	音楽・器楽A 1		(通年4単位)保育実習 2	(通年4単位)保育実習 2	【保育実習AB】 2		
		図画工作A 1	算数 2			(通年2単位)保育実習指導 1	(通年2単位)保育実習指導 1	【保育実習指導AB】 1		
		体育A 1	図画工作B 1							
		音楽A 1	体育B 1							
専門科目群	専門科目		音楽B 1							
			音楽・器楽B 1							
		教師論 2	保育内容総論 2	教育方法論 2	教育・保育課程論 2	保育内容の研究・環境 2	保育内容の研究・健康 2	幼稚園教育実習 5	教職実践演習(幼・小) 2	22
				(通年2単位)学校インターンシップ(基礎) 1	(通年2単位)学校インターンシップ(高度) 1	保育内容の研究・言葉 2	保育内容の研究・人間関係 2			
専門科目群	専門科目					保育内容の研究・表現A 2				
						保育内容の研究・表現B 2				
						幼児理解の理論と方法 2				
						学校インターンシップ 2				
						【専門演習Ⅰ】 1	【専門演習Ⅱ】 1	【卒業研究Ⅰ】 1	【卒業研究Ⅱ】 1	4

太字 …卒業必修科目
 …幼稚園教諭免許必修科目(保育士必修科目を一部含む)
 太字 …幼保コース必修科目

…保育士科目必修科目
 …実習前提科目、または指導必修科目

※上記の必修科目を含め、専門科目群より76単位以上、学科課程より124単位以上修得すること。
 ※【】を付されている科目は、別紙に定める各科目グループより、記載単位を修得すること。

備考:

- 「保育実習」の履修には、1・2年次に配置されている保育士資格必修科目の全てと「学校インターンシップ(基礎)」の単位を修得していることが必要である。
- 「保育実習」の単位を修得した者は、「保育実習A/B」を履修することができる。
- 「幼稚園教育実習」の履修には、「幼稚園教育実習」と「教職実践演習(幼小)」以外の幼稚園教職課程科目の全ての単位と「学校インターンシップ(基礎)」を修得していることが必要である。

別表3 幼稚園教諭・小学校教諭コース 履修モデル

	1年		2年		3年		4年		
学びのねらい	「子どもが好き、子どもに教えてあげたい」という思いから、子どもを理解する学びに進む。		小学校教育・幼児教育を本格的に学び始め、子どもの前に立つ自分を見つめる。		初等教育・幼児教育場面を具体的に想定できるようになり、教師としての自己イメージをもてるようになる。		教師を目指す者としての自己を磨く。		
学びの流れ	児童学の基礎科目を通して子どもについて学び始めると共に、教職科目を通して教職に関する基本的な知識と教科専門の基礎と技能を習得する。		学校インターンシップを通して子どもや教師の実際を知り、教師を目指すものとしての自覚を得たうえで、教育課程や教育方法を理解し、各教科の指導法を演習する。		小学校教育実習を軸に技能と実践力の向上を図ると共に、幼児理解の上に五領域に沿った保育内容と指導法を演習し、幼児教育の知識と技能を習得する。		幼稚園教育実習を軸に技能と実践力の向上を図ると共に、教職課程における学びを総括する。		
	春学期 科目名	秋学期 科目名	春学期 科目名	秋学期 科目名	春学期 科目名	秋学期 科目名	春学期 科目名	秋学期 科目名	卒業 必修 単位
基礎科目群	キリスト教概論A 2	キリスト教概論B 2							6
	情報基礎 2								
	ECA(英語基礎表現)Ⅰ 1 ECA(Reading)Ⅰ 1	ECA(Speaking)Ⅰ 2							5
	【スポーツ科目】1	【スポーツ科目】1							
基礎科目群	日本国憲法 2								
				【キリスト教関連科目】2	【キリスト教関連科目】2				4
	【教養科目】4	【教養科目】4							8
専門科目群	児童学概論 2				キリスト教文化論A 2	キリスト教文化論B 2			8
	言葉の基礎 2								
		児童文化論 2							2
		発達心理学 2	教育心理学 1	教育概論(カウンセリングを含む。) 2					5
	教育原理 2		教育社会学 2						4
					学校と教育の歴史 2				
	理科 2	国語 2	外国語 2						
	生活 2	社会 2	音楽・器楽A 1	音楽・器楽B 1					
	図画工作A 1	算数 2							
	体育A 1	家庭 2							
	音楽A 1	図画工作B 1							
		体育B 1							
		音楽B 1							
	教師論 2	保育内容総論 2	初等国語科教育法 2	教育・保育課程論 2	音楽科教育法 2	小学校教育実習 5		教職実践演習(幼・小) 2	32
			初等社会科教育法 2	教育課程論 2	外国語活動指導法 2	保育内容の研究・健康 2		幼稚園教育実習(副) 3	
			算数科教育法 2	理科教育法 2	保育内容の研究・環境 2	保育内容の研究・人間関係 2			
			図画工作科教育法 2	生活科教育法 2	保育内容の研究・音楽 2				
			体育科教育法 2	家庭科教育法 2	保育内容の研究・表現A 2				
			特別活動指導法 2	道徳教育指導法 2	保育内容の研究・表現B 2				
			生徒指導・進路指導等を含む。) 2		幼児理解の理論と方法 2				
			教育方法論 2						
			初等・中学校の国語科教員及び国語科教員 1	初等・中学校の算数科教員及び算数科教員 1					
			初等・中学校の図画工作科教員及び図画工作科教員 1	初等・中学校の体育科教員及び体育科教員 1	学校インターンシップ 2				
			【専門演習Ⅰ】1	【専門演習Ⅱ】1	【卒業研究Ⅰ】1	【卒業研究Ⅱ】1			4

太字 ……卒業必修科目
 ……小学校教諭免許必修科目(幼稚園教諭必修科目を一部含む)
 太字 ……幼稚園教諭免許必修科目
 ……実習前提科目、または指導必修科目

※上記の必修科目を含め、専門科目群より76単位以上、学科課程より124単位以上修得すること。
 ※【】を付されている科目は、別紙に定める各科目グループより、記載単位を修得すること。

備考:

- (1) 「幼稚園教育実習」を履修する前年度までに「小学校教育実習」の単位を修得した者に限り、幼稚園免許を副免とする履修課程を選択することができる。
- (2) 小学校における教育実習は全科を担当するために特に基礎的学修の定着は必須であり、「小学校教育実習」を履修するためには、「小学校教育実習」と「教職実践演習(幼小)」以外の全ての小学校教職課程科目と「学校インターンシップ(基礎)」の単位を修得し、さらに、全ての学修内容の良好な定着が確認されることが条件となる。
- (3) 「幼稚園教育実習」の履修には、「幼稚園教育実習」と「教職実践演習(幼小)」以外の幼稚園教職課程科目の全ての単位を修得していることが必要である。

		1年		2年		3年		4年		
学びのねらい		「子どもが好き、障害をもつ子を支援したい」という思いから、子どもを理解する学びに進む。		小学校教育を本格的に学び始めて子どもの前に立つ自分を見つめ、一般発達理解の上に特別支援を考え始める。		教育場面を具体的に想定できるようになり、教師としての自己イメージの上に、特別支援の指導法を身につける。		特別支援教育の実践力を基盤に、教師を目指す者としての自己を磨く。		
	学びの流れ	児童学の基礎科目を通して子どもについて学び始めると共に、教職科目を通して教職に関する基礎的な知識と技能を習得する。		学校インターンシップを通して子どもや教師の実際を知り、教師を目指すものとしての自覚を得たうえで、教育課程や教育方法、特別支援教育の基礎を理解し、小学校各教科の指導法を演習する。		小学校教育実習を軸に技能と実践力の向上を図ると共に、特別支援教育の児童理解の上に指導法を演習し、特別支援教育の知識と技能を習得する。		特別支援教育実習を軸に技能と実践力の向上を図ると共に、教職課程における学びを総括する。		
		春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	卒業必修単位
		科目名	科目名	科目名	科目名	科目名	科目名	科目名	科目名	
基礎科目群	基礎科目	キリスト教概論A 2	キリスト教概論B 2							6
	基礎科目	情報基礎 2								
	基礎科目	ECA(英語基礎表現) I 1	ECA(Speaking) I 2							
	基礎科目	ECA(Reading) I 1								5
教養科目群	教養科目	【スポーツ科目】 1	【スポーツ科目】 1							
	教養科目	日本国憲法 2								
	教養科目					【キリスト教関連科目】 2	【キリスト教関連科目】 2			4
	教養科目	【教養科目】 4	【教養科目】 4							8
専門科目群	専門科目	児童学概論 2				キリスト教文化論A 2	キリスト教文化論B 2			8
	専門科目	言葉の基礎 2								
	専門科目		児童文化論 2							2
	専門科目		発達心理学 2	教育心理学 1	教育相談(カウンセリングを含む。) 2					5
	専門科目	教育原理 2		教育社会学 2						4
	専門科目					学校と教育の歴史 2				
	専門科目	理科 2	国語 2	外国語 2		音楽・器楽A 1	音楽・器楽B 1			
	専門科目	生活 2	社会 2							
	専門科目	図画工作A 1	算数 2							
	専門科目	体育A 1	家庭 2							
	専門科目	音楽A 1	図画工作B 1							
	専門科目		体育B 1							
	専門科目		音楽B 1							
	専門科目	教師論 2	保育内容総論 2	初等国語科教育法 2	教育・保育課程論 2	音楽科教育法 2	小学校教育実習 5		教職実践演習(幼・小) 2	32
	専門科目			初等社会科教育法 2	教育課程論 2	外国語活動指導法 2				
	専門科目			算数科教育法 2	理科教育法 2					
専門科目			図画工作科教育法 2	生活科教育法 2						
専門科目			体育科教育法 2	家庭科教育法 2						
専門科目			特別活動指導法 2	道徳教育指導法 2						
専門科目			全教科等論(道徳指導を含む。) 2							
専門科目			教育方法論 2							
専門科目			教育相談(カウンセリングを含む。) 1							
専門科目			初等外国語科教育法(インターンシップを含む。) 1		学校インターンシップ 2					
専門科目			障害児教育総論 2	障害幼児指導法 2	病弱児の心理・生理・病理 2	病弱児指導法 2		特別支援教育実習 2		
専門科目			知的障害児の心理・生理・病理 2	知的障害児の教育総論 2	重複障害児の教育総論 2	情緒障害児の心理 2				
専門科目			肢体不自由児の心理・生理・病理 2	知的障害児指導法 2	聴覚障害児の教育総論 2					
専門科目			発達障害児の教育総論 2							
専門科目			【専門演習Ⅰ】 1	【専門演習Ⅱ】 1	【卒業研究Ⅰ】 1	【卒業研究Ⅱ】 1			4	

※上記の必修科目を含め、専門科目群より76単位以上、学科課程より124単位以上修得すること。
※[]を付されている科目は、別紙に定める各科目グループより、記載単位を修得すること。

(1) 小学校における教育実習は全科を担当するために特に基礎的学修の定着は必須であり、「小学校教育実習」を履修するためには、「小学校教育実習」と「教職実践演習（幼小）」以外の全ての小学校教職課程科目と「学校インターンシップ（基礎）」の単位を修得し、さらに、全ての学修内容の良好な定着が確認されることが条件となる。

(2) 「特別支援教育実習」を履修するためには、「教職実践演習（幼・小）」以外の基礎免許状の修得に必要なすべての単位を修得し、「特別支援教育実習」以外の特別支援教職課程科目の全ての単位と卒業に必要な全ての単位を修得していることが必要である。

別紙 実習受け入れ園・校・施設一覧

実習名	実習園・校・施設名	受け入れ
保育実習	さいたま市(市立保育所)	122
保育実習	川口市(市立保育所)	60
保育実習	上尾市(市立保育所)	30
保育実習	東京都石神井学園	2
保育実習	東京都船形学園	2
保育実習	東京都七生福祉園	2
保育実習	東京都東村山福祉園	2
保育実習	心身障害児総合医療療育センター	4
保育実習	すわ緑風園	5
保育実習	青梅学園	10
保育実習	群馬県立しろがね学園	5
保育実習	野菊寮	10
保育実習	川口乳児院	5
保育実習	子どもの園	2
保育実習	埼玉県立埼玉学園	2
保育実習	社会福祉法人 ホザナ園	2
保育実習	愛泉寮	5
保育実習	久美愛園	15
保育実習	若竹ホーム	5
保育実習	泰山木のある家	2
保育実習	富士見乳児院	2
保育実習	はんな・さわらび療育園	2
保育実習	シャロームみなみ風	10
保育実習	神愛ホーム	2
保育実習	ケヤキホーム	3
保育実習	埼玉県社会福祉事業団	35
保育実習B	さいたま社会福祉事業団	105
幼稚園教育実習	学校法人 大宮親愛学園 大宮幼稚園	6
幼稚園教育実習	学校法人 大宮福島学園 植竹幼稚園	15
幼稚園教育実習	学校法人 愛仕学園 与野愛仕幼稚園	9
幼稚園教育実習	聖学院幼稚園	6
幼稚園教育実習	川口しらぎく幼稚園	12
幼稚園教育実習	西上尾しらぎく幼稚園	9
幼稚園教育実習	牛島幼稚園	11
幼稚園教育実習	川口さかえ幼稚園	10
幼稚園教育実習	上尾富士見幼稚園	4
幼稚園教育実習	川口文化幼稚園	9
幼稚園教育実習	宗教法人 日本キリスト教団目白教会附属 目白平和幼稚園	7
幼稚園教育実習	学校法人 菅原学園 江戸川双葉幼稚園	6
幼稚園教育実習	学校法人聖学院 聖学院大学附属みどり幼稚園	3

実習名	実習園・校・施設名	受け入れ
小学校教育実習	聖学院小学校	12
小学校教育実習	さいたま市教育委員会	103
小学校教育実習	上尾市教育委員会	22
小学校教育実習	川口市教育委員会	52
小学校教育実習	川越市教育委員会	32
特別支援教育実習	上尾市特別支援学校	6
特別支援教育実習	浦和特別支援学校	5
特別支援教育実習	川口特別支援学校	18
特別支援教育実習	川島ひばりが丘特別支援学校	30
特別支援教育実習	行田特別支援学校	3
特別支援教育実習	久喜特別支援学校	7
特別支援教育実習	越谷特別支援学校	3
特別支援教育実習	所沢おおぞら特別支援学校	24
特別支援教育実習	蓮田特別支援学校	3
特別支援教育実習	宮代特別支援学校	0
特別支援教育実習	和光特別支援学校	5
特別支援教育実習	和光南特別支援学校	22
特別支援教育実習	熊谷特別支援学校	10
特別支援教育実習	さいたま市教育委員会	2
特別支援教育実習	越谷西特別支援学校	8
特別支援教育実習	草加かがやき特別支援学校	5

保育実習・保育実習B	451
幼稚園教育実習	107
小学校教育実習	221
特別支援教育実習	151

聖学院大学人文学部児童学科 学生の確保の見通し等を記載した書類

(1) 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

①学生の確保の見通し

ア 定員充足の見込み

人文学部児童学科は、入学定員を 100 人と設定している。そのなかに、履修モデルコースとして「幼稚園教諭コース」「幼稚園教諭・保育士コース」「幼稚園教諭・小学校教諭コース」「小学校教諭・特別支援教諭コース」の 4 コースを設定して教育内容の幅を示しているが、これらには独自の入学定員は設けておらず、学生の自由な選択に応じる体制が整えられている。

このたび人文学部に新たに設置する児童学科は、改組前の人間福祉学部児童学科での教育及び研究における実績を継承し、キリスト教的人間理解と児童学を土台としながら人格として児童を理解する器量を備え、多様な教育課題・支援課題に臨み解決に向けた取り組みのできる教員・保育者を養成することを主たる目的とする学科である。したがって、改組前の人間福祉学部児童学科が 100 名の入学定員のなかで幼稚園教諭、小学校教諭、保育士の免許・資格課程を置き、学生の自由選択により希望があればこれらを履修する環境が整えられていたことを継受し、その入学定員数を継承する形で、人文学部児童学科の入学定員数を設定している。このことにより、これまで実践してきたきめ細やかな教職・資格課程の教育水準を保持すると共に、従来、学生に保障していた採用・就職を視野にいれた実質的な就職支援までも質的にも量的にも保持しつつ、旧来の指導上の経験と実績を十全に活かすことができるように配慮している。

改組学科である人文学部児童学科の学生確保の見通しを客観的に検証するため、本学では、学科開設時期（2018〔平成 30〕年 4 月）に大学入学を迎える、高校 2 年生（2017〔平成 29〕年 1 月現在）を対象に、一般財団法人日本開発構想研究所による新学部学科開設に関するアンケート調査を実施した。この調査の結果によると、144 人が本学の「人文学部児童学科への進学を希望する」と回答している。入学定員 100 人の 1.4 倍以上の生徒が進学意向を示しており、このことから入学定員の充足は十分に可能であると考えている（資料 1「聖学院大学における新学部学科開設に関するアンケート調査」）。

なお、改組前の人間福祉学部児童学科では過去 4 年間の定員充足率は 80%となっており、同じく人間福祉学部こども心理学科 56%、人間福祉学部人間福祉学科 74%となっている。人間福祉学部全体にわたる学生募集状況の不調は、全国的な社会福祉関連学科の志願者数の減少と無関係ではないとみられる。私立大学・短期大学等入学志願動向（資料 2「平成 27(2015)年度私立大学・短期大学等入学志願動向」資料 3「平成 28(2016)年度私立大学・短期大学等入学志願動向[日本私立学校振興・共済事業団]」によると、

人間福祉学部	入学定員充足率（％）		
	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
	100.82	92.71(前年比△8.11)	77.18(前年比△15.53)

となり、年々定員充足率（定員超過率）が低下している。

一方、本学キャンパスが位置する埼玉県上尾市は全国的に有数のターミナル駅である J R 大宮駅から

1 駅という交通機関の利便性の高い立地である。文部科学省が実施する「学校基本調査」(平成 28 年度)では、埼玉県の全日制・定時制高校を出身校とする大学(学部等)への入学者の数は 29,801 人であり、進学率は 52.1%と全国平均 49.2%を上回っている。

(資料 4「平成 28 年度 学校基本調査(出身高校の所在地 県別 入学人数)」文部科学省)。

また「平成 28 年度私立大学・短期大学等入学志願動向」によると、埼玉県内に所在する大学の入学定員充足率は 106.86%と依然として高いため、地域的要因については、埼玉県に所在する本学としても、大学進学者数は継続して期待できる。学問系統別の志願動向についても、人文科学系区分の入学定員充足率は 104.99%であり、加えて教職課程を重点化することから参考値になると見込まれる学部系統として教育学部区分の入学定員充足率は 102.42%であり、安定した需要が可能とみられる。

イ 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要

今回、平成 29 年 1 月から 2 月にかけて高等学校の協力を得て、「聖学院大学における新学部学科開設に関するアンケート調査」を実施した。埼玉県から 83 校、東京都から 37 校、茨城県から 10 校、群馬県から 5 校、千葉県から 5 校、栃木県から 3 校、神奈川県から 1 校、合計 144 校の高等学校を選定し、平成 28 年度の高校 2 年生を対象に実施した結果、有効回答数は 3,635 票(58 校回収)であった。調査対象の高等学校については、本学への入学者が多い高等学校に同一学校法人の高等学校を加えた。

調査は一般財団法人日本開発構想研究所との間に業務委託契約を締結して実施し、その結果は本学以外の第三者機関によって取りまとめられたものである。この調査は本申請に係る書類提出の直前に行われたものであり、調査の対象も平成 30 年 4 月に大学入学となる者(開設予定年度の入学予定者)に限定した。

調査にあたっては、調査用リーフレットを作成し、設置構想中の学科の名称として「人文学部児童学科」を掲げて、新設学科の設置の趣旨、学科の特色や養成しようとする人材像を明示した。このほかに立地とアクセス、学生納付金について説明した。調査票では、学科への興味を感じるかどうかについて回答を求めた。また学部への進学意向を尋ねる質問[問 6]において「進学を希望する」「進学を希望しない」という選択肢を用意して、進学の意味を問うた。以上のように、実施した聖学院大学における新学部学科開設に関するアンケート調査は、新設学科の入学定員充足の根拠として、客観性・適切性が担保されているものと考えられる。

この調査の結果、回答者の人文学部児童学科への興味について問う設問[問 5]において、「大変興味を感じる」が 147 人(4.9%)、「興味を感じる」が 337 人(11.3%)、「少し興味を感じる」が 530 人(17.7%)であって、合計 1,014 人(33.9%)の回答者が何らかの興味をもっていることが明らかとなった。学部への進学意向を問う設問[問 6]についても、人文学部児童学科に「進学を希望する」と回答した者は 144 人であった。これは学科入学定員(100 人)の 1.4 倍となっており、このことから本学科の入学定員の充足は十分に可能であると考えている。

さらに、進学したい分野を問う設問[問 3]において、進学希望分野の第 1 希望に関しては、「教育学・保育学関係」が 479 人(16.0%)と最も多く、次いで「その他」が 326 人(10.9%)、「商学・経済学・経営学関係」が 296 人(9.9%)であった。「その他」の中では、「美容・理容関係」が 85 人と最も多くなっている。また、第 2 希望に関しては、「教育学・保育学関係」が 261 人(8.7%)と最も多く、次いで「心理学関係」が 242 人(8.1%)、「文学関係(史学・哲学含む)」が 230 人(7.7%)となっている。「その他」の中では、「美容・理容関係」が 9 人と最も多くなっている。

この結果から、調査を実施した高校における教育・保育学関係のニーズは高く、今回のアンケートでは進学を希望しなかった生徒においても、潜在的な志願者が見込まれ、今後の入試広報の展開によって現在の数字をさらに好転させる可能性もある。

ウ 学生納付金の設定の考え方

学生納付金については、入学金を 280,000 円と設定しており、授業料 760,000 円、教育拡充費 30,000 円、施設費 240,000 円、後援会入会金 50,000 円、後援会費 24,000 円、学友会費 10,000 円、学研災保険及びガウン費 6,300 円と合わせて初年度学生納付金 1,400,300 円となっている。

学費設定にあたっては学納金収入見込みを踏まえ、教育研究経費、施設設備費、人件費、管理経費等を勘案し学部としての採算性、持続性を考慮して設定している。

「聖学院大学における新学部学科開設に関するアンケート調査」は、初年度学生納付金を明示した上で入学の意向を質問しており、調査結果のとおり、入学意向を示す者が一定数あったことから、本学が設定している学生納付金は妥当な範囲内にあると判断している。

②学生確保に向けた具体的な取組状況

高等学校関係者に対する広報活動

本学では例年、関東地方、甲信越地方、東北地方を中心にのべ 1800 校の高等学校の進路指導部を訪問し、教育内容や入学者選抜方法の変更点等の情報提供ならびに高大接続を念頭においた意見交換を行っている。このような訪問活動を行うことにより高校との信頼関係を構築し、本学の教育内容をふまえた上での進路指導を経て受験してくる高校生の確保に努めている。今年度は特に前半の訪問では、新設学部・学科の説明を中心とした訪問活動を予定している。比較的定員充足率の低い欧米文化学科については、欧米文化学科に在籍している学生の出身高校を重点的に訪問している。その際には留学制度を中心に国際化をキーワードに幅広い分野の学問が可能であることを伝え、併せて学内で実施される英語スピーチコンテストなどのイベントの案内を高校へご案内しながら、大学の取り組みとしての広報活動も行っている。

また、オープンキャンパスや入試に関する最新情報を提供するために、年に 4～5 回程度同一校への訪問活動を予定している。特に埼玉県内の高校は問い合わせ対応等に対応することでフットワークを活かし、大学案内や学科パンフレットのみならず、訪問する高校ごとに特化した資料（普通科と専門課程でPRする内容も異なるなど）も適宜作成して訪問活動を行っている。

受験生や保護者を対象とした広報活動

オープンキャンパスや学外進学相談会等のイベントや相談会参加のほか、①媒体誌広告、②インターネット広告、③新聞広告、④交通広告、⑤DM 広告、といった PR 活動を行っている。オープンキャンパスについては、通常のオープンキャンパスとは別に少人数でじっくりと大学を見てもらう「プレミアムオープンキャンパス」（定員制）と入試相談などに特化した「入試説明・相談会」を実施している。共に、学生が企画・立案の中心となることで受験生の意識に沿う開催を心がけている。

オープンキャンパスの内容についても、大学紹介や入試説明だけではなく、学科の学びを体験できる

ブースや展示も行っている。会場では受験生が在學生と直接コミュニケーションがとれ、良い雰囲気に繋がっている。新設学科となる児童学科と心理福祉学科についても同様にじっくりと丁寧に説明するオープンキャンパスを実施する予定である。

媒体誌広告については、新設学部・学科紹介の企画に出稿するほか、本学への進学者の多い高校所在地の沿線にも広告などを掲出する予定である。また、インターネット広告では Twitter や LINE などソーシャルメディアなどへの広報活動を積極的に行っていく。大学HPでは受験生特設ページを開設し、入試情報だけではなく、聖学院大学の普段の様子や受験生を対象としたイベント情報などを提供している。昨年度はインターネット出願を推進する広告を重点的に掲出しインターネット出願が増加した要因となるなど、これらの広告には一定の効果が期待される。

また、関東地方だけではなく、一般入試で地方会場を設置する地域（新潟・仙台他）については、地元新聞社の媒体などを活用して広報活動を行う。オープンキャンパスへの参加や資料請求を行った受験生は本学の受験を検討していると考えて定期的にDMを郵送し、最新の情報提供を行っている。

新設学部・学科の広報については、スケジュールを遵守しながら適切に広報活動を実施する。大学ホームページやSNSを通じての発信の他、埼玉県のリカレント聴講生制度の利用者など本学を訪れる幅広い層にも広報活動を行っていききたい。

（２）人材需要の動向等社会の要請

①人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）

子ども・子育て新制度が本格的に始動したことで、乳幼児の育ちに関する社会的関心はさらに高まり、また旧来の幼稚園、保育所に加えて新たに認定こども園が、保育者の働き場としてクローズアップされている。乳幼児の保育が社会的ニーズに応じて質量ともに増大するなかで、発達や保健・アレルギー等の食をめぐる課題等一人一人の乳幼児が抱えているニーズの拡大も、保護者の子育て支援の必要性の高まりも、保育者になる若者としては難題である。そのため、保育者を志望する場合に幼稚園教諭免許状と保育士の併有を目指して専門学校ではなく大学を選択し、それも幼免１種を取得できる四年制大学が選ばれる傾向が強まって久しい。幼稚園１種教職課程と保育士資格課程を合わせ備える四年制大学は、まさに時宜にかなったものである。

児童学科は、昭和50年に開設された女子聖学院短期大学児童教育学科初等教育専攻（小二種免許課程）、幼児教育専攻（幼二種免許課程）以来、幼い人たちの育ちを乳幼児期から学童期にかけて通して見守るまなざしのなかで、子どもの保育・教育を捉えようとする児童理解の姿勢をもつ。キリスト教的人間観を基盤に、その児童理解の伝統を踏まえ、児童文化、児童の心理、児童の福祉と特別支援を視野に入れた広範な領域を網羅する児童学の統合化を図る。幼児期から学童期にかけての児童の育ちを児童一人一人の側に立って支える教師・保育者の養成を目的とするところである。折しも、保育士不足は社会的な課題であり、厚生省では平成27年に「保育士確保プラン」を公表し、平成29年度末までに「新たに必要となる保育士」が6.9万人にのぼることを示し、「保育士に対する処遇改善の実施」を謳い、従来の保育士確保施策についても、〔1〕人材育成、〔2〕就業継続支援、〔3〕再就職支援、〔4〕働く職場の環境改善を4本の柱として確実に実施することとしている。四年制大学における保育士養成は、まさに社会的ニーズにかなない、学生の資格取得と就職のニーズにも応えることのできる領域である。

あわせて、インクルーシブ教育の提唱で、学校教育における障害のある幼児・児童への特別支援教育の実際もまた社会的な関心を呼んでいる。児童学科では旧来から保育士課程の学びに含まれる障害児保育・個別援助技術関連の学修により特別支援教育への問題関心が広がりやすい教育環境にあったが、その学生の学修ニーズに応えると同時に学校教育現場のニーズにも応える姿勢をもって特別支援学校課程を設置し、特別支援学校教諭はもちろん、通常学校での特別支援教育も担うことのできる教員を養成することを企図するものである。

人文学部児童学科では、ディプロマ・ポリシーに謳う通り、「人間学を基底においた児童学」を通じて培った他者理解の方法論を基にして、言葉・子どもの文化・人間関係に関する素養を身につけた人を育てる。また、発達理論や心理学の知識を土台にして子どもの「言葉にならない思い」を汲むことができるとともに、対人援助技術を身につけコミュニケーション力を活かして社会で活躍できる人を育てる。異文化を背景とした「子どもの育ち」を応援できる、グローバル化に対応できる人を育てる。さらに、資格取得を求める学生に対しては、責任感と倫理観を備えた子どもを育てる専門人として、子どもとその家族の良きパートナーになり、子どもが生きやすい環境づくりと社会全体の福祉に貢献できる小学校教諭、特別支援学校教諭、幼稚園教諭、保育士となるよう育成を図る。

②新設学部の教育研究上の目的が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

児童学科の教育課程は教員免許状や保育資格の取得を必須要件とはしていないが、これらを取得して卒業後に保育士、幼稚園教諭、小学校教諭、特別支援学校教諭等として就職する者は多いと考えている。

厚生省では平成 27 年に「保育士確保プラン」(資料 5)を公表し、平成 29 年度末までに「新たに必要となる保育士」が 6.9 万人であることを示した。厚生省の資料によれば、保育士の有効求人倍率は、毎年 1 月頃がピークとなっており、平成 26 年 12 月～平成 27 年 2 月では 2 倍を超え、年々高くなる傾向にある。今後も例年以上に高い水準となることが見込まれるとされており、保育士資格を取得した者は、確実に資格を用いた専門職に就ける社会的状況にある。

2016 年度卒業生にむけた求人件数(のべ数)は、保育所 588 件をはじめとする保育士職合計が 788 件、幼稚園 332 件をはじめとする幼稚園教諭職合計が 383 件であり、児童学科で就職を希望する卒業生が一般企業等就職希望者を含めて 91 名であり、求人票に応ずるほかに公務員保育士を志願して公務員試験に臨む者が少なからずいることに照らすと、十分な数である。特に、聖学院大学はキリスト教保育連盟に加入しているキリスト教主義の保育士施設からの求人が多いが、埼玉県内には他にミッションスクールの保育者養成大学がないことから、今後もこの傾向が続くことが見込まれる。

一方で、公立学校の教員の採用状況については、団塊の世代の多量退職の影響に加えて、少人数学級の実現やチーム・ティーチングの広がりにより、小学校教諭の需要は特に首都圏を中心に依然として高い傾向が続き、首都圏の各自治体では概ね採用試験の倍率が 3～4 倍と低めである。特別支援学校教諭についても、平成 20 年から採用数の大幅な増加に伴い、志望者数も順調に増加しているものの、採用倍率はやや低い傾向にある。

旧来、人間福祉学部児童学科では、採用数が拡大傾向にある首都圏各自治体を中心として小学校教員採用試験において順調に実績を重ねてきた。年度によるバラツキはあるものの、概ね 20 名弱が採用試験に臨み、卒業時採用のみで表のような実績を残しており、新たに開設される人文学部児童学科において

もこの伝統の上に同様の実績を継続的に重ねることが期待できる。

表 人間福祉学部児童学科小学校教員採用数

卒業年	平成22年			平成23年			平成24年			平成25年			平成26年			平成27年		
	本 採 用	臨 任 限 付	期 限 付	本 採 用	臨 任 限 付	期 限 付	本 採 用	臨 任 限 付	期 限 付	本 採 用	臨 任 限 付	期 限 付	本 採 用	臨 任 限 付	期 限 付	本 採 用	臨 任 限 付	期 限 付
人数	11	15	2	9	13	0	9	5	0	6	4	2	10	3	0	9	6	0
合計	28			22			14			12			13			15		

以上のことから、新たに人文学部に設置される児童学科の教育が社会的、地域的な人材需要の動向に合致していることが示され、客観的な根拠となるものであると判断している。

聖学院大学における新学部学科開設に関する
アンケート調査報告書

【高校生対象】

平成 29 年 3 月

一般財団法人 日本開発構想研究所

目 次

＜アンケート調査概要＞	1
＜聖学院大学新学部学科進学意向＞	2
＜アンケート回収表＞	7
＜アンケート集計結果＞	13
単純集計	15
男女別クロス集計	25
＜アンケート調査票＞	31

＜アンケート調査概要＞

1. アンケート実施の目的

本調査は、「聖学院大学における新学部学科開設に関するアンケート調査票」としてアンケート調査票を作成し、高校生に対して聖学院大学が設置を検討している新学部学科への進学希望について尋ね、学生の確保の見通しを測ることを目的とする。

2. 調査対象

埼玉県から 83 校、東京都から 37 校、茨城県から 10 校、群馬県から 5 校、千葉県から 5 校、栃木県から 3 校、神奈川県から 1 校、合計 144 の高等学校を大学側が選定。

平成 28 年度の高校 2 年生を対象に実施した。

3. 調査実施

平成 29 年 1 月～平成 29 年 2 月

4. 調査方法

各高等学校に郵送又は訪問による配布・回収

5. 回収状況

有効回答票 3,635 票（58 校回収）

回収率 40.3%（回答高校数 58 校÷実施高校数 144 校）

※小数点第二位を四捨五入

＜聖学院大学新学部学科進学意向＞

高校生を対象とした「聖学院大学における新学部学科開設に関するアンケート調査票」において、聖学院大学が設置を検討している心理福祉学部心理福祉学科及び人文学部児童学科への進学意向を問う問６の設問における進学希望者数は以下の通りである。

問６ あなたは聖学院大学が開設を計画している新学部学科への進学を希望しますか。次の答えの中から１つだけ選んでください。	回答者
１ 心理福祉学部心理福祉学科への進学を希望する	１２５人
２ 人文学部児童学科への進学を希望する	１４４人

※問６の設問は、高校卒業後の進路を問う問２の設問において「１、２、３」の高等教育機関への進学を選択した回答者（２,９８８人）を集計の対象とする。

問６の設問の結果、心理福祉学部心理福祉学科への進学希望者は１２５人となり、入学定員（１２０人）を上回る結果となった。

また、人文学部児童学科への進学希望者は１４４人となり、こちらも入学定員（１００人）を上回る結果となった。

〔調査高校ごとの結果〕

次に示すのは、心理福祉学部心理福祉学科及び人文学部児童学科への進学意向を問う問 6 の設問にて、進学意向を示した学生の、高校ごとの内訳となる。

※ 「－」（ハイフン）は回答のなかった高校

（単位：人）

高校名	1 心理福祉学部心理福祉学科への進学を希望する	2 人文学部児童学科への進学を希望する
合計	125	144
茨城県		
水戸第二高等学校	－	－
下妻第二高等学校	0	1
結城第一高等学校	－	－
結城第二高等学校	2	3
古河第二高等学校	－	－
牛久高等学校	－	－
波崎柳川高等学校	0	0
茨城キリスト教学園高等学校	－	－
つくば秀英高等学校	1	0
つくば国際大学東風高等学校	1	0
栃木県		
今市高等学校	－	－
佐野清澄高等学校	1	0
日々輝学園高等学校	－	－
群馬県		
高崎東高等学校	0	3
共愛学園高等学校	－	－
桐生第一高等学校	－	－
新島学園高等学校	2	1
明和県央高等学校	0	1
埼玉県		
筑波大学附属坂戸高等学校	－	－
松山高等学校	2	3
春日部女子高等学校	－	－
深谷第一高等学校	0	2
鴻巣女子高等学校	－	－
児玉高等学校	－	－
飯能高等学校	－	－
久喜高等学校	3	4
戸田翔陽高等学校	－	－
岩槻高等学校	2	2
大宮商業高等学校	－	－
熊谷商業高等学校	－	－
熊谷農業高等学校	－	－
鴻巣高等学校	1	1
上尾高等学校	－	－

高校名	1 心理福祉学部心理福祉 学科への進学を希望する	2 人文学部児童学科 への進学を希望する
桶川高等学校	-	-
八潮高等学校	2	1
志木高等学校	-	-
日高高等学校	-	-
深谷高等学校	-	-
いずみ高等学校	-	-
羽生高等学校	-	-
大宮武蔵野高等学校	0	0
富士見高等学校	-	-
羽生第一高等学校	-	-
上尾南高等学校	2	5
白岡高等学校	6	10
川口総合高等学校	-	-
大宮北高等学校	2	1
県陽高等学校	2	1
川口東高等学校	3	1
浦和北高等学校	-	-
鷺宮高等学校	1	2
川越西高等学校	4	5
越谷西高等学校	7	3
坂戸西高等学校	-	-
妻沼高等学校	-	-
大宮東高等学校	2	3
桶川西高等学校	4	2
三郷北高等学校	1	0
松伏高等学校	-	-
狭山清陵高等学校	-	-
越谷東高等学校	-	-
宮代高等学校	2	0
浦和東高等学校	2	5
上尾橘高等学校	3	2
新座総合技術高等学校	-	-
入間向陽高等学校	-	-
草加西高等学校	-	-
伊奈学園総合高等学校	-	-
大宮光陵高等学校	-	-
鳩ヶ谷高等学校	-	-
上尾鷹の台高等学校	6	1
誠和福祉高等学校	3	9
新座柳瀬高等学校	-	-
寄居城北高等学校	-	-
狭山緑陽高等学校	-	-
吹上秋桜高等学校	0	4
蓮田松韻高等学校	1	4
栗橋北彩高等学校	5	1
ふじみ野高等学校	1	2

高校名	1 心理福祉学部心理福祉学科への進学を希望する	2 人文学部児童学科への進学を希望する
吉川美南高等学校	1	4
聖望学園高等学校	－	－
叡明高等学校	－	－
本庄第一高等学校	0	2
正智深谷高等学校	2	2
武蔵越生高等学校	2	2
東京成徳大学深谷高等学校	1	11
浦和実業学園高等学校	2	4
浦和ルーテル学院高等学校	0	4
浦和学院高等学校	－	－
昌平高等学校	－	－
西武台高等学校	－	－
秀明英光高等学校	－	－
花咲徳栄高等学校	－	－
秋草学園高等学校	－	－
埼玉平成高等学校	6	5
東京農業大学第三高等学校	－	－
自由の森学園高等学校	－	－
東野高等学校	－	－
清和学園高等学校	－	－
大川学園高等学校	5	2
クラーク記念国際高等学校	14	3
千葉県		
松戸六実高等学校	－	－
流山南高等学校	1	3
関宿高等学校	0	1
二松学舎大学附属柏高等学校	－	－
西武台千葉高等学校	－	－
東京都		
足立西高等学校	－	－
葛飾野高等学校	－	－
蔵前工業高等学校	－	－
江東商業高等学校	－	－
忍岡高等学校	－	－
練馬高等学校	－	－
光丘高等学校	－	－
福生高等学校	0	0
足立新田高等学校	－	－
美原高等学校	－	－
大泉桜高等学校	－	－
東久留米総合高等学校	－	－
正則学園高等学校	－	－
東京女子学園高等学校	－	－
保善高等学校	－	－
京華商業高等学校	－	－

高校名	1 心理福祉学部心理福祉 学科への進学を希望する	2 人文学部児童学科 への進学を希望する
貞静学園高等学校	0	6
安部学院高等学校	2	0
順天高等学校	－	－
駿台学園高等学校	－	－
北豊島高等学校	0	1
日本大学第一高等学校	－	－
潤徳女子高等学校	－	－
愛国高等学校	－	－
自由ヶ丘学園高等学校	－	－
東京学園高等学校	2	0
聖学院高等学校	3	1
女子聖学院高等学校	1	4
日体体育大学荏原高等学校	4	3
科学技術学園高等学校	－	－
大東学園高等学校	－	－
玉川聖学院高等部	3	1
堀越高等学校	2	2
芝浦工業大学高等学校	－	－
自由学園高等科高等学校	－	－
白梅学園高等学校	－	－
日体桜華高等学校	－	－
神奈川県		
横浜清風高等学校	－	－

<アンケート回収表>

聖学院大学における新学部学科開設に関する

アンケート調査票 回収表

都道府県	高校 No	高校名	回収数	回収日
茨城県	1	水戸第二高等学校	—	—
茨城県	2	下妻第二高等学校	41	1. 30
茨城県	3	結城第一高等学校	—	—
茨城県	4	結城第二高等学校	31	2. 8
茨城県	5	古河第二高等学校	—	—
茨城県	6	牛久高等学校	—	—
茨城県	7	波崎柳川高等学校	37	1. 20
茨城県	8	茨城キリスト教学園高等学校	—	—
茨城県	9	つくば秀英高等学校	31	1. 26
茨城県	10	つくば国際大学東風高等学校	20	1. 27
栃木県	11	今市高等学校	—	—
栃木県	12	佐野清澄高等学校	35	2. 3
栃木県	13	日々輝学園高等学校	—	—
群馬県	14	高崎東高等学校	39	1. 25
群馬県	15	共愛学園高等学校	—	—
群馬県	16	桐生第一高等学校	—	—
群馬県	17	新島学園高等学校	32	1. 24
群馬県	18	明和県央高等学校	37	1. 31
埼玉県	19	筑波大学附属坂戸高等学校	—	—
埼玉県	20	松山高等学校	78	1. 24
埼玉県	21	春日部女子高等学校	—	—
埼玉県	22	深谷第一高等学校	37	1. 23
埼玉県	23	鴻巣女子高等学校	—	—
埼玉県	24	児玉高等学校	—	—
埼玉県	25	飯能高等学校	—	—
埼玉県	26	久喜高等学校	88	2. 1
埼玉県	27	戸田翔陽高等学校	—	—
埼玉県	28	岩槻高等学校	72	2. 6
埼玉県	29	大宮商業高等学校	—	—
埼玉県	30	熊谷商業高等学校	—	—
埼玉県	31	熊谷農業高等学校	—	—
埼玉県	32	鴻巣高等学校	76	2. 6
埼玉県	33	上尾高等学校	—	—
埼玉県	34	桶川高等学校	—	—
埼玉県	35	八潮高等学校	68	1. 24
埼玉県	36	志木高等学校	—	—
埼玉県	37	日高高等学校	—	—
埼玉県	38	深谷高等学校	—	—
埼玉県	39	いずみ高等学校	—	—
埼玉県	40	羽生高等学校	—	—
埼玉県	41	大宮武蔵野高等学校	30	2. 13
埼玉県	42	富士見高等学校	—	—
埼玉県	43	羽生第一高等学校	—	—
埼玉県	44	上尾南高等学校	68	1. 27
埼玉県	45	白岡高等学校	173	1. 23
埼玉県	46	川口総合高等学校	—	—

都道府県	高校 No	高校名	回収数	回収日
埼玉県	47	大宮北高等学校	71	2. 3
埼玉県	48	県陽高等学校	37	2. 13
埼玉県	49	川口東高等学校	76	2. 13
埼玉県	50	浦和北高等学校	—	—
埼玉県	51	鷺宮高等学校	68	1. 24
埼玉県	52	川越西高等学校	117	1. 23
埼玉県	53	越谷西高等学校	78	1. 19
埼玉県	54	坂戸西高等学校	—	—
埼玉県	55	妻沼高等学校	—	—
埼玉県	56	大宮東高等学校	79	2. 3
埼玉県	57	桶川西高等学校	79	2. 13
埼玉県	58	三郷北高等学校	32	2. 14
埼玉県	59	松伏高等学校	—	—
埼玉県	60	狭山清陵高等学校	—	—
埼玉県	61	越谷東高等学校	—	—
埼玉県	62	宮代高等学校	56	2. 6
埼玉県	63	浦和東高等学校	69	2. 2
埼玉県	64	上尾橘高等学校	109	2. 10
埼玉県	65	新座総合技術高等学校	—	—
埼玉県	66	入間向陽高等学校	—	—
埼玉県	67	草加西高等学校	—	—
埼玉県	68	伊奈学園総合高等学校	—	—
埼玉県	69	大宮光陵高等学校	—	—
埼玉県	70	鳩ヶ谷高等学校	—	—
埼玉県	71	上尾鷹の台高等学校	59	1. 25
埼玉県	72	誠和福祉高等学校	98	2. 8
埼玉県	73	新座柳瀬高等学校	—	—
埼玉県	74	寄居城北高等学校	—	—
埼玉県	75	狭山緑陽高等学校	—	—
埼玉県	76	吹上秋桜高等学校	59	2. 13
埼玉県	77	蓮田松韻高等学校	94	2. 6
埼玉県	78	栗橋北彩高等学校	47	1. 30
埼玉県	79	ふじみ野高等学校	64	1. 23
埼玉県	80	吉川美南高等学校	80	1. 24
埼玉県	81	聖望学園高等学校	—	—
埼玉県	82	叡明高等学校	—	—
埼玉県	83	本庄第一高等学校	75	1. 19
埼玉県	84	正智深谷高等学校	55	2. 10
埼玉県	85	武蔵越生高等学校	68	1. 20
埼玉県	86	東京成徳大学深谷高等学校	219	2. 7
埼玉県	87	浦和実業学園高等学校	96	2. 8
埼玉県	88	浦和ルーテル学院高等学校	43	1. 19
埼玉県	89	浦和学院高等学校	—	—
埼玉県	90	昌平高等学校	—	—
埼玉県	91	西武台高等学校	—	—
埼玉県	92	秀明英光高等学校	—	—
埼玉県	93	花咲徳栄高等学校	—	—
埼玉県	94	秋草学園高等学校	—	—
埼玉県	95	埼玉平成高等学校	101	1. 20
埼玉県	96	東京農業大学第三高等学校	—	—

都道府県	高校 No	高校名	回収数	回収日
埼玉県	97	自由の森学園高等学校	—	—
埼玉県	98	東野高等学校	—	—
埼玉県	99	清和学園高等学校	—	—
埼玉県	100	大川学園高等学校	54	2. 8
千葉県	101	松戸六実高等学校	—	—
千葉県	102	流山南高等学校	39	2. 1
千葉県	103	関宿高等学校	1	2. 8
千葉県	104	二松学舎大学附属柏高等学校	—	—
千葉県	105	西武台千葉高等学校	—	—
東京都	106	足立西高等学校	—	—
東京都	107	葛飾野高等学校	—	—
東京都	108	蔵前工業高等学校	—	—
東京都	109	江東商業高等学校	—	—
東京都	110	忍岡高等学校	—	—
東京都	111	練馬高等学校	—	—
東京都	112	光丘高等学校	—	—
東京都	113	福生高等学校	0	1. 19
東京都	114	足立新田高等学校	—	—
東京都	115	美原高等学校	—	—
東京都	116	大泉桜高等学校	—	—
東京都	117	東久留米総合高等学校	—	—
東京都	118	正則学園高等学校	—	—
東京都	119	東京女子学園高等学校	—	—
東京都	120	保善高等学校	—	—
東京都	121	京華商業高等学校	—	—
東京都	122	貞静学園高等学校	52	2. 3
東京都	123	安部学院高等学校	33	1. 27
東京都	124	順天高等学校	—	—
東京都	125	駿台学園高等学校	—	—
東京都	126	北豊島高等学校	36	1. 26
東京都	127	日本大学第一高等学校	—	—
東京都	128	潤徳女子高等学校	—	—
東京都	129	愛国高等学校	—	—
東京都	130	自由ヶ丘学園高等学校	—	—
東京都	131	東京学園高等学校	28	1. 20
東京都	132	聖学院高等学校	74	1. 23
東京都	133	女子聖学院高等学校	77	1. 30
東京都	134	日体体育大学荏原高等学校	37	2. 3
東京都	135	科学技術学園高等学校	—	—
東京都	136	大東学園高等学校	—	—
東京都	137	玉川聖学院高等部	40	1. 25
東京都	138	堀越高等学校	40	2. 2
東京都	139	芝浦工業大学高等学校	—	—
東京都	140	自由学園高等科高等学校	—	—
東京都	141	白梅学園高等学校	—	—
東京都	142	日体桜華高等学校	—	—
神奈川県	143	横浜清風高等学校	—	—
埼玉県	144	クラーク記念国際高等学校	102	1. 26
合計			3, 635 枚	58 校

※「—」（ハイフン）は回答のなかった高校

＜アンケート集計結果＞

聖学院大学における新学科設置に関する

アンケート調査票 単純集計

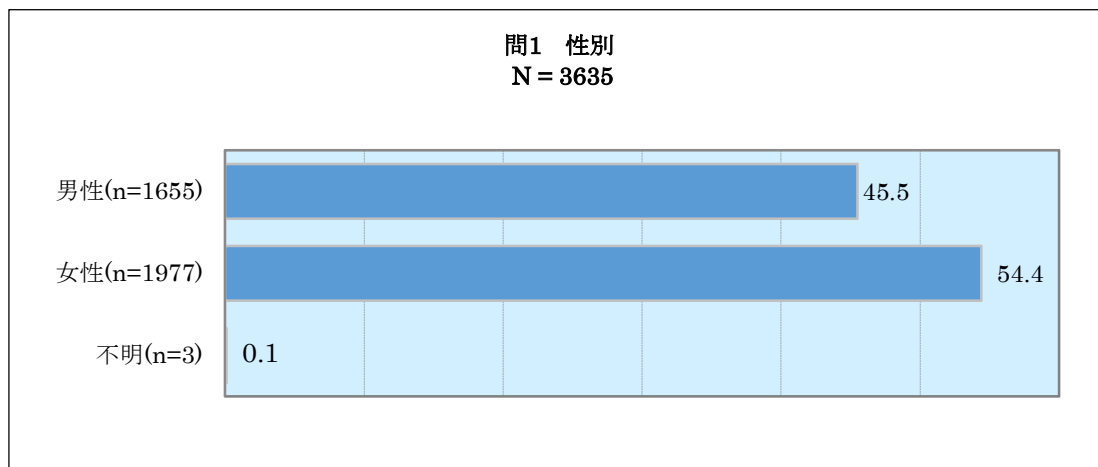
〔有効回答票：3,635 票〕

※「%」はいずれも小数点第二位を四捨五入

問1 あなたの性別についておたずねします。次の中から1つだけ選んでください。

回答者（3,635 人）の性別については、1,655 人（45.5%）が「男性」、1,977 人（54.4%）が「女性」である。

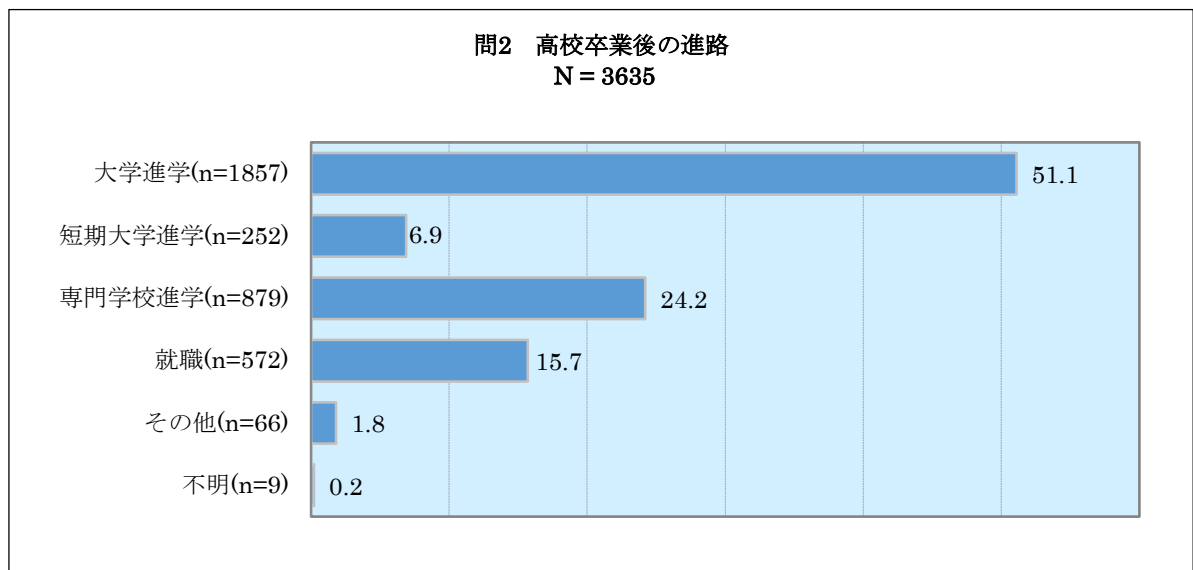
No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	男性	1,655	45.5
2	女性	1,977	54.4
	不明	3	0.1
	合計	3,635	100



問2 あなたの進路についておたずねします。あなたは高校卒業後どのような進路をお考えですか。次の中から1つだけ選んでください。

回答者の希望進路については、「大学進学」が1,857人（51.1%）と最も多く、次いで「専門学校進学」が879人（24.2%）、「就職」が572人（15.7%）、「短期大学進学」が252人（6.9%）の順に続いている。

No	カテゴリ	件数	(全体)%
1	大学進学	1,857	51.1
2	短期大学進学	252	6.9
3	専門学校進学	879	24.2
4	就職	572	15.7
5	その他	66	1.8
	不明	9	0.2
	合計	3,635	100



※「5 その他」の回答に関しては、具体的な記述はなかった。

【問3以降は、問2の「1 大学進学」「2 短期大学進学」「3 専門学校進学」の回答者を対象とする。】

問3 あなたが進学したい分野はどれですか。次の中から第2希望まで選んでください。

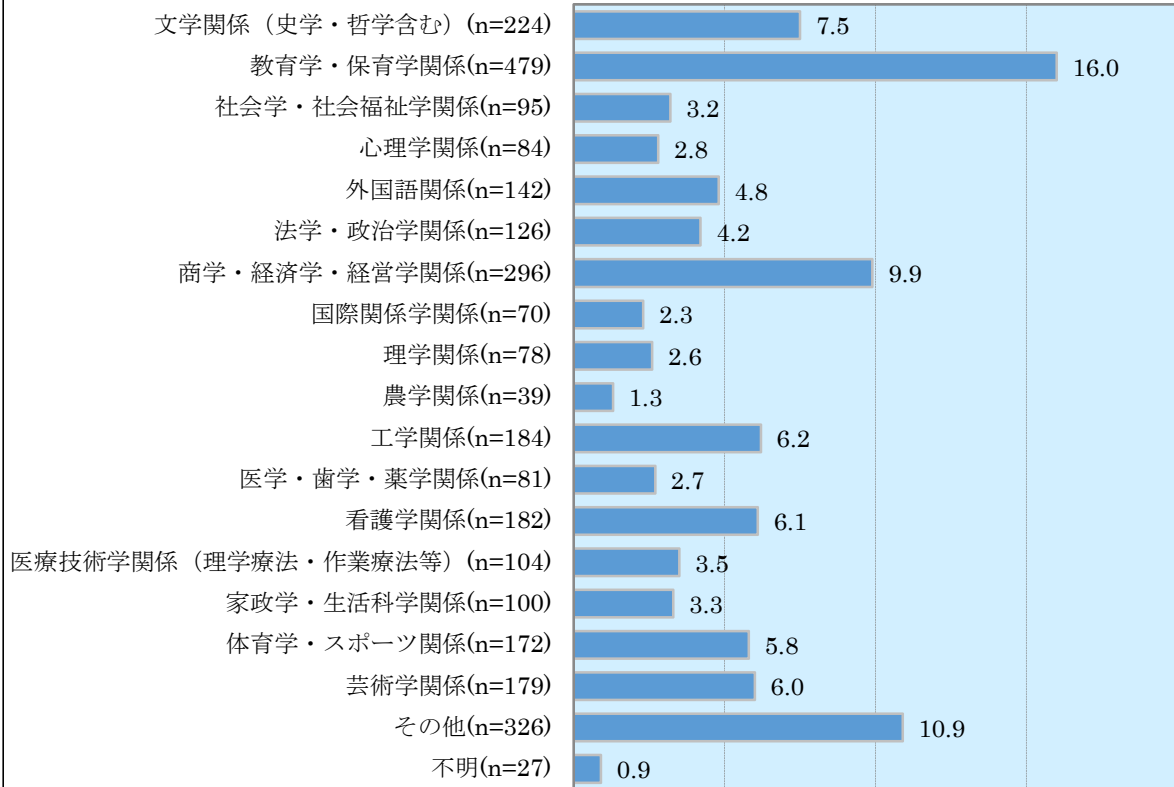
進学希望分野の第1希望に関しては、「教育学・保育学関係」が479人（16.0%）と最も多く、次いで「その他」が326人（10.9%）、「商学・経済学・経営学関係」が296人（9.9%）となっている。「その他」の中では、「美容・理容関係」が85人と最も多くなっている。

第2希望に関しては、「教育学・保育学関係」が261人（8.7%）と最も多く、次いで「心理学関係」が242人（8.1%）、「文学関係（史学・哲学含む）」が230人（7.7%）となっている。「その他」の中では、「美容・理容関係」が9人と最も多くなっている。

No.	カテゴリ	第1希望		第2希望	
		件数	(全体)%	件数	(全体)%
1	文学関係（史学・哲学含む）	224	7.5	230	7.7
2	教育学・保育学関係	479	16.0	261	8.7
3	社会学・社会福祉学関係	95	3.2	195	6.5
4	心理学関係	84	2.8	242	8.1
5	外国語関係	142	4.8	147	4.9
6	法学・政治学関係	126	4.2	113	3.8
7	商学・経済学・経営学関係	296	9.9	180	6.0
8	国際関係学関係	70	2.3	166	5.6
9	理学関係	78	2.6	118	3.9
10	農学関係	39	1.3	50	1.7
11	工学関係	184	6.2	93	3.1
12	医学・歯学・薬学関係	81	2.7	92	3.1
13	看護学関係	182	6.1	86	2.9
14	医療技術学関係（理学療法・作業療法等）	104	3.5	123	4.1
15	家政学・生活科学関係	100	3.3	132	4.4
16	体育学・スポーツ関係	172	5.8	226	7.6
17	芸術学関係	179	6.0	152	5.1
18	その他	326	10.9	91	3.0
	不明	27	0.9	291	9.7
	合計	2,988	100	2,988	100

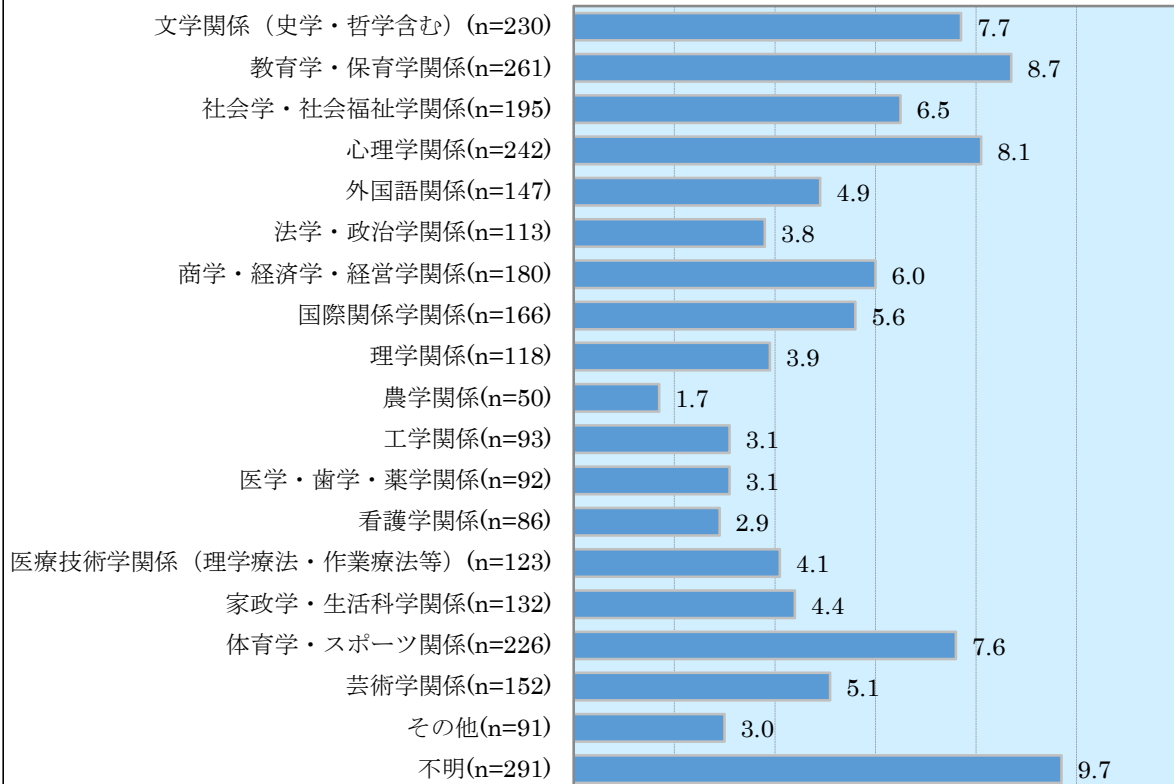
問3-1 進学希望分野（第1希望）

N = 2988



問3-2 進学希望分野（第2希望）

N = 2988



「18 その他」の回答（同系統の回答は合算して集計）

「第1希望」

回答	件数	回答	件数	回答	件数
美容・理容関係	85	ブライダル	4	デザイン関係	2
調理関係	22	料理関係	4	ビジネス関係	2
動物関係	20	運輸関係	3	放送関係	2
栄養関係	14	芸能系	3	インターネット関係	1
旅行・観光関係	12	コンピューター関係	3	環境関係	1
医療事務	11	自動車関係	3	救急救命士	1
製菓関係	10	動物看護	3	コミュニケーション	1
音楽・映像関係	8	トリマー	3	声楽、動物系	1
服飾関係	7	舞台関係	3	総合政策	1
情報関係	6	アニメ関係	2	地理学関係	1
ホテル	6	介護福祉士	2	美術系	1
未定	5	海洋関係	2	文化	1
ゲーム関係	4	建築関係	2	理工関係	1
公務員	4	水産関係	2	リペア	1
声優	4	ダンス	2		

「第2希望」

回答	件数	回答	件数	回答	件数
美容・理容関係	9	芸能系	1	デザイン	1
調理関係	4	自然工学科	1	動物関係	1
公務員	3	事務系	1	服飾関係	1
音楽・映像関係	2	柔道整復師	1	ブライダル	1
建築関係	2	情報関係	1	保育	1
就職	2	消防士・救助隊	1	放送関係	1
旅行・観光関係	2	製菓関係	1	ホテル	1
環境関係	1	声優	1	リベラルアーツ	1
危機管理	1				

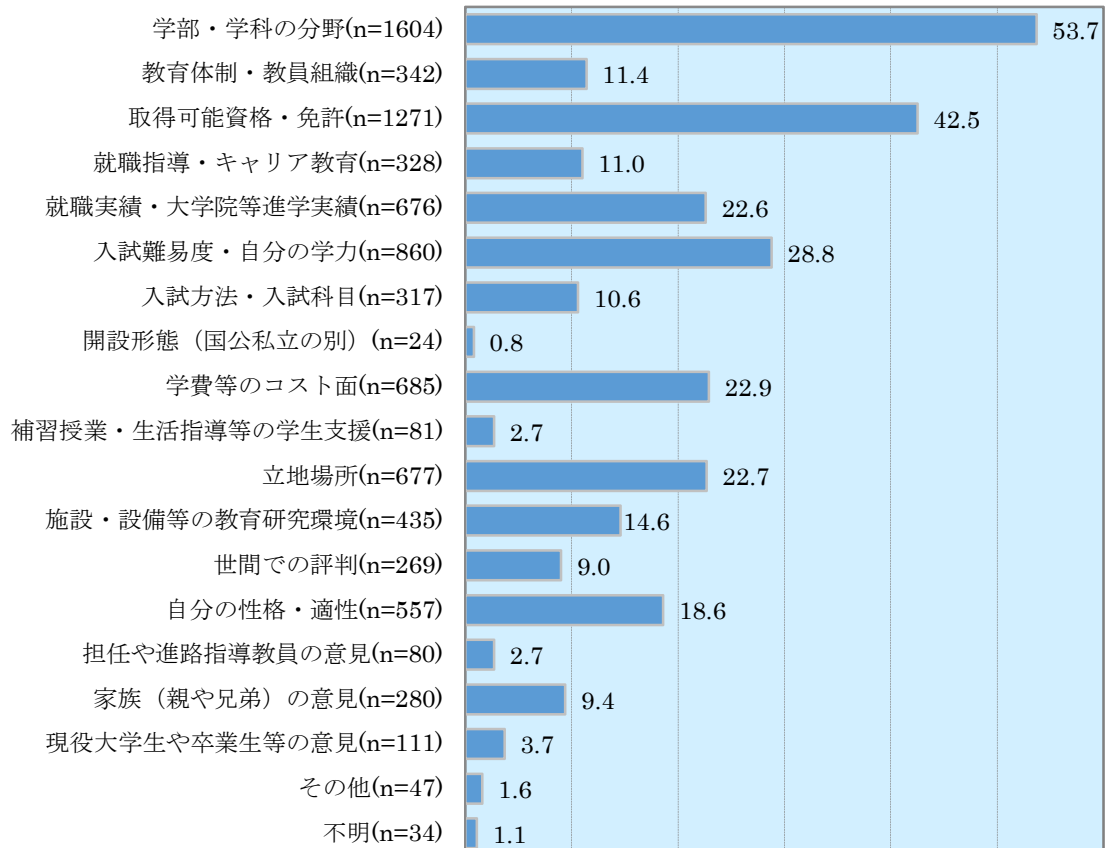
問4 あなたが進学先を決定する際に重視することはどれですか。次の中から3つまで選んでください。(複数回答)

回答者が進学先を決定する際に重視する事柄については、「学部・学科の分野」が1,604人と最も多く、次いで「取得可能資格・免許」が1,271人、「入試難易度・自分の学力」が860人の順に続いている。

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	学部・学科の分野	1,604	53.7
2	教育体制・教員組織	342	11.4
3	取得可能資格・免許	1,271	42.5
4	就職指導・キャリア教育	328	11.0
5	就職実績・大学院等進学実績	676	22.6
6	入試難易度・自分の学力	860	28.8
7	入試方法・入試科目	317	10.6
8	開設形態(国公立の別)	24	0.8
9	学費等のコスト面	685	22.9
10	補習授業・生活指導等の学生支援	81	2.7
11	立地場所	677	22.7
12	施設・設備等の教育研究環境	435	14.6
13	世間での評判	269	9.0
14	自分の性格・適性	557	18.6
15	担任や進路指導教員の意見	80	2.7
16	家族(親や兄弟)の意見	280	9.4
17	現役大学生や卒業生等の意見	111	3.7
18	その他	47	1.6
	不明	34	1.1

(複数回答のため合計=2,988、100%にならない)

問4 進学先決定の際に重視すること（複数回答）



「18 その他」の回答（同系統の回答は合算して集計）

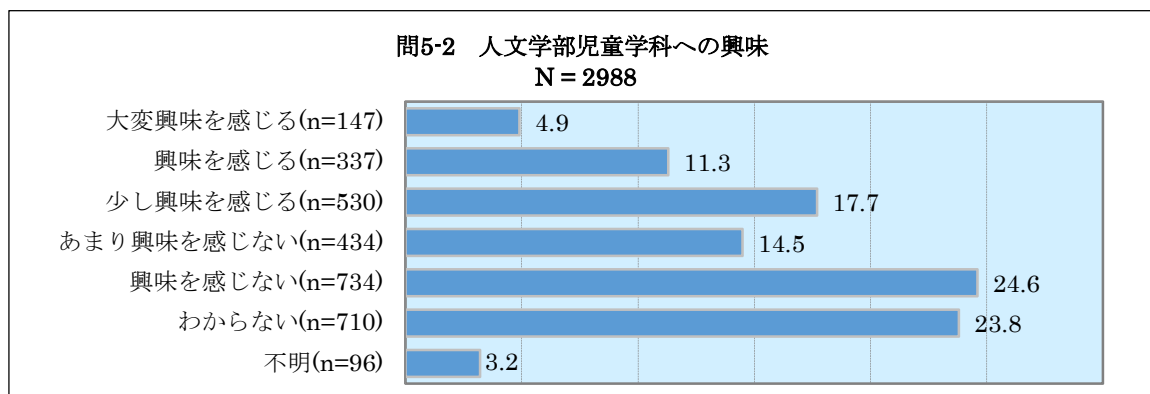
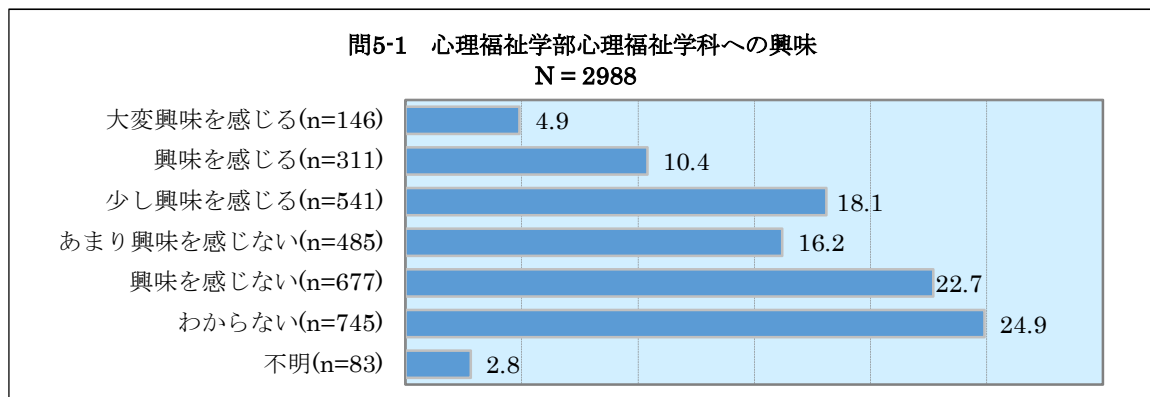
回答	件数	回答	件数
好きなこと、やりたいことであるか	3	ネームバリュー	1
アクセスのしやすさ	2	ピアノの先生	1
就職率	2	部活	1
夢に近づく	2	ボクシング部がある	1
お金	1	学ぶ内容	1
学費	1	名称国際教育学部のように学びたい内容が選べそう なところ。政治経済学部とかは名前が古い。	1
気になるから	1	野球部	1
決まっていない	1	留学制度について	1
合格率	1	寮があるか	1

問5 あなたは聖学院大学が開設を計画している新学部学科に興味を感じますか。学科ごとに次の答えの中から1つだけ選んでください。

回答者の心理福祉学部心理福祉学科への興味については、「大変興味を感じる」が146人(4.9%)、「興味を感じる」が311人(10.4%)、「少し興味を感じる」が541人(18.1%)となっており、合わせて998人(33.4%)の回答者が何らかの興味をもっていることが明らかとなった。

回答者の人文学部児童学科への興味については、「大変興味を感じる」が147人(4.9%)、「興味を感じる」が337人(11.3%)、「少し興味を感じる」が530人(17.7%)となっており、合わせて1,014人(33.9%)の回答者が何らかの興味をもっていることが明らかとなった。

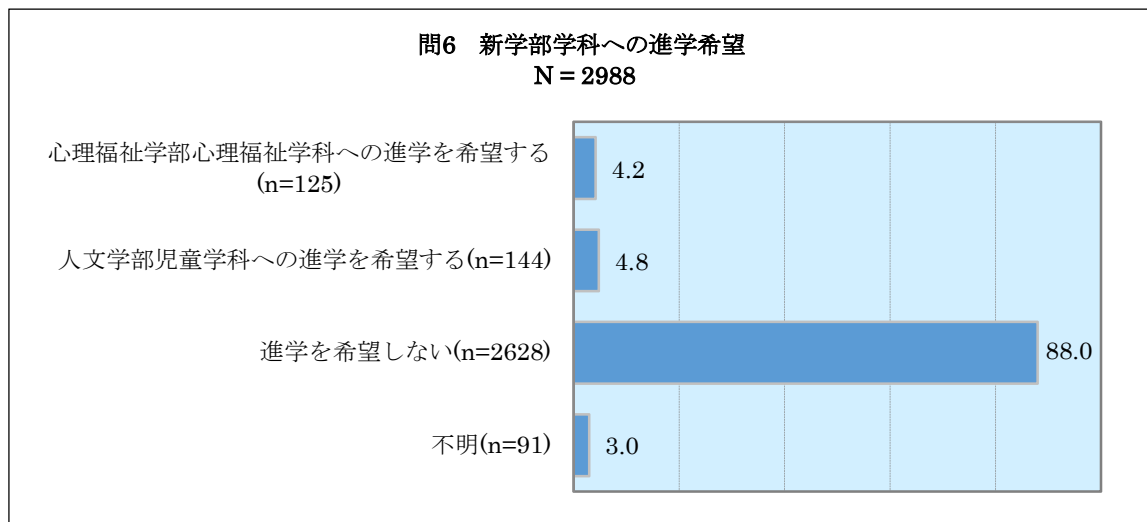
No.	カテゴリ	心理福祉学部心理福祉学科		人文学部児童学科	
		件数	(全体)%	件数	(全体)%
1	大変興味を感じる	146	4.9	147	4.9
2	興味を感じる	311	10.4	337	11.3
3	少し興味を感じる	541	18.1	530	17.7
4	あまり興味を感じない	485	16.2	434	14.5
5	興味を感じない	677	22.7	734	24.6
6	わからない	745	24.9	710	23.8
	不明	83	2.8	96	3.2
	合計	2,988	100	2,988	100



問6 あなたは聖学院大学が開設を計画している新学部学科への進学を希望しますか。次の答えの中から1つだけ選んでください。

回答者のうち、「心理福祉学部心理福祉学科への進学を希望する」を選択したのは125人（4.2%）、
「人文学部児童学科への進学を希望する」を選択したのは144人（4.8%）となっている。

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	心理福祉学部心理福祉学科への進学を希望する	125	4.2
2	人文学部児童学科への進学を希望する	144	4.8
3	進学を希望しない	2,628	88.0
	不明	91	3.0
	合計	2,988	100



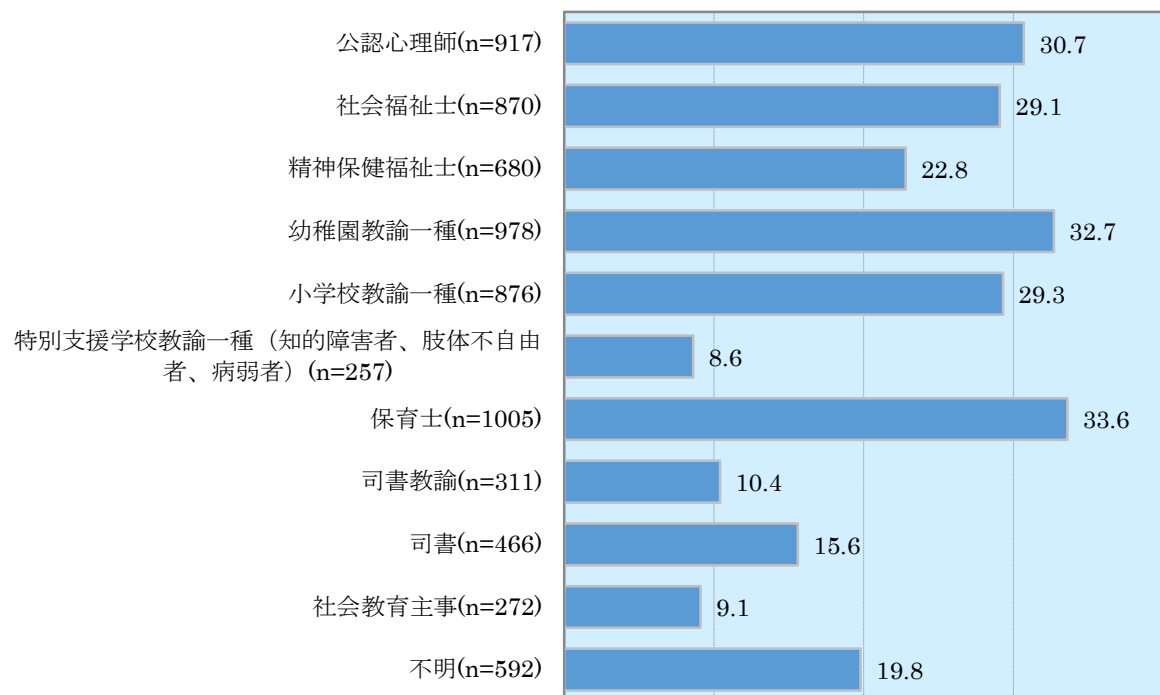
問7 聖学院大学が開設を計画している新学部学科では、以下の免許・資格を取得可能にすることを検討しています。あなたはどの免許・資格の取得を希望しますか。次の中から3つまで選んでください。(複数回答)

回答者が取得を希望する免許・資格は、「保育士」が1,005人と最も多く、次いで「幼稚園教諭一種」が978人、「公認心理師」が917人の順が続いている。

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	公認心理師	917	30.7
2	社会福祉士	870	29.1
3	精神保健福祉士	680	22.8
4	幼稚園教諭一種	978	32.7
5	小学校教諭一種	876	29.3
6	特別支援学校教諭一種(知的障害者、肢体不自由者、病弱者)	257	8.6
7	保育士	1,005	33.6
8	司書教諭	311	10.4
9	司書	466	15.6
10	社会教育主事	272	9.1
	不明	592	19.8

(複数回答のため合計=2,988、100%にならない)

問7 取得を希望する免許・資格（複数回答）



○男女別クロス集計

問1 性別 × 問2 高校卒業後の進路

	上段:度数	問1 性別			
	下段:%	合計	男性	女性	不明
問2 高校卒業後の 進路	全体	3,635	1,655	1,977	3
		100.0	100.0	100.0	100.0
	大学進学	1,857	1,030	825	2
		51.1	62.2	41.7	66.7
	短期大学進学	252	13	239	－
		6.9	0.8	12.1	－
	専門学校進学	879	292	586	1
		24.2	17.6	29.6	33.3
	就職	572	276	296	－
		15.7	16.7	15.0	－
	その他	66	40	26	－
		1.8	2.4	1.3	－
	不明	9	4	5	－
		0.2	0.2	0.3	－

問 1 性別 × 問 3-1 進学希望分野（第 1 希望）

	上段：度数	問 1 性別			
	下段：%	合計	男性	女性	不明
問 3-1 進学希望分野（第 1 希望）	全体	2,988	1,335	1,650	3
		100.0	100.0	100.0	100.0
	文学関係（史学・哲学含む）	224	118	106	—
		7.5	8.8	6.4	—
	教育学・保育学関係	479	100	378	1
		16.0	7.5	22.9	33.3
	社会学・社会福祉学関係	95	43	52	—
		3.2	3.2	3.2	—
	心理学関係	84	42	42	—
		2.8	3.1	2.5	—
	外国語関係	142	49	93	—
		4.8	3.7	5.6	—
	法学・政治学関係	126	103	23	—
		4.2	7.7	1.4	—
	商学・経済学・経営学関係	296	197	99	—
		9.9	14.8	6.0	—
	国際関係学関係	70	21	49	—
		2.3	1.6	3.0	—
	理学関係	78	65	13	—
		2.6	4.9	0.8	—
	農学関係	39	23	16	—
		1.3	1.7	1.0	—
	工学関係	184	166	17	1
		6.2	12.4	1.0	33.3
	医学・歯学・薬学関係	81	23	58	—
		2.7	1.7	3.5	—
	看護学関係	182	26	156	—
		6.1	1.9	9.5	—
	医療技術学関係（理学療法・作業療法等）	104	54	49	1
		3.5	4.0	3.0	33.3
	家政学・生活科学関係	100	13	87	—
		3.3	1.0	5.3	—
	体育学・スポーツ関係	172	122	50	—
		5.8	9.1	3.0	—
	芸術学関係	179	47	132	—
		6.0	3.5	8.0	—
	その他	326	110	216	—
		10.9	8.2	13.1	—
	不明	27	13	14	—
		0.9	1.0	0.8	—

問 1 性別 × 問 3-2 進学希望分野（第 2 希望）

	上段：度数	問 1 性別			
	下段：%	合計	男性	女性	不明
問 3-2 進学希望分野（第 2 希望）	全体	2,988	1,335	1,650	3
		100.0	100.0	100.0	100.0
	文学関係（史学・哲学含む）	230	119	111	－
		7.7	8.9	6.7	－
	教育学・保育学関係	261	117	144	－
		8.7	8.8	8.7	－
	社会学・社会福祉学関係	195	80	115	－
		6.5	6.0	7.0	－
	心理学関係	242	79	163	－
		8.1	5.9	9.9	－
	外国語関係	147	55	92	－
		4.9	4.1	5.6	－
	法学・政治学関係	113	75	37	1
		3.8	5.6	2.2	33.3
	商学・経済学・経営学関係	180	124	56	－
		6.0	9.3	3.4	－
	国際関係学関係	166	76	90	－
		5.6	5.7	5.5	－
	理学関係	118	97	21	－
		3.9	7.3	1.3	－
	農学関係	50	30	20	－
		1.7	2.2	1.2	－
	工学関係	93	75	18	－
		3.1	5.6	1.1	－
	医学・歯学・薬学関係	92	29	63	－
		3.1	2.2	3.8	－
	看護学関係	86	16	70	－
		2.9	1.2	4.2	－
	医療技術学関係（理学療法・作業療法等）	123	50	73	－
		4.1	3.7	4.4	－
	家政学・生活科学関係	132	17	115	－
		4.4	1.3	7.0	－
	体育学・スポーツ関係	226	120	106	－
		7.6	9.0	6.4	－
	芸術学関係	152	38	114	－
		5.1	2.8	6.9	－
	その他	91	36	55	－
		3.0	2.7	3.3	－
	不明	291	102	187	2
		9.7	7.6	11.3	66.7

問1 性別 × 問4 進学先決定の際に重視すること（複数回答）

	上段：度数	問1 性別			
	下段：%	合計	男性	女性	不明
問4 進学先決定 の際に重視 すること （複数回 答）	全体	2,988	1,335	1,650	3
		100.0	100.0	100.0	100.0
	学部・学科の分野	1,604	720	882	2
		53.7	53.9	53.5	66.7
	教育体制・教員組織	342	166	174	2
		11.4	12.4	10.5	66.7
	取得可能資格・免許	1,271	483	786	2
		42.5	36.2	47.6	66.7
	就職指導・キャリア教育	328	148	179	1
		11.0	11.1	10.8	33.3
	就職実績・大学院等進学実績	676	298	378	－
		22.6	22.3	22.9	－
	入試難易度・自分の学力	860	437	423	－
		28.8	32.7	25.6	－
	入試方法・入試科目	317	141	176	－
		10.6	10.6	10.7	－
	開設形態（国公立の別）	24	9	15	－
		0.8	0.7	0.9	－
	学費等のコスト面	685	273	411	1
		22.9	20.4	24.9	33.3
	補習授業・生活指導等の学生支援	81	33	48	－
		2.7	2.5	2.9	－
	立地場所	677	291	386	－
		22.7	21.8	23.4	－
	施設・設備等の教育研究環境	435	201	234	－
		14.6	15.1	14.2	－
	世間での評判	269	134	135	－
		9.0	10.0	8.2	－
	自分の性格・適性	557	255	302	－
		18.6	19.1	18.3	－
	担任や進路指導教員の意見	80	43	37	－
		2.7	3.2	2.2	－
	家族（親や兄弟）の意見	280	132	148	－
		9.4	9.9	9.0	－
	現役大学生や卒業生等の意見	111	42	69	－
		3.7	3.1	4.2	－
	その他	47	24	22	1
		1.6	1.8	1.3	33.3
	不明	34	20	14	－
		1.1	1.5	0.8	－

（複数回答のため合計＝2,988、100%にならない）

問 1 性別 × 問 5-1 心理福祉学部心理福祉学科への興味

	上段:度数	問 1 性別			
	下段:%	合計	男性	女性	不明
問 5-1 心理福祉学 部心理福祉 学科への興 味	全体	2,988	1,335	1,650	3
		100.0	100.0	100.0	100.0
	大変興味を感じる	146	79	67	－
		4.9	5.9	4.1	－
	興味を感じる	311	107	204	－
		10.4	8.0	12.4	－
	少し興味を感じる	541	179	362	－
		18.1	13.4	21.9	－
	あまり興味を感じない	485	201	282	2
		16.2	15.1	17.1	66.7
	興味を感じない	677	366	310	1
		22.7	27.4	18.8	33.3
	わからない	745	363	382	－
		24.9	27.2	23.2	－
	不明	83	40	43	－
		2.8	3.0	2.6	－

問 1 性別 × 問 5-2 人文学部児童学科への興味

	上段:度数	問 1 性別			
	下段:%	合計	男性	女性	不明
問 5-2 人文学部児 童学科への 興味	全体	2,988	1,335	1,650	3
		100.0	100.0	100.0	100.0
	大変興味を感じる	147	43	104	－
		4.9	3.2	6.3	－
	興味を感じる	337	103	234	－
		11.3	7.7	14.2	－
	少し興味を感じる	530	175	355	－
		17.7	13.1	21.5	－
	あまり興味を感じない	434	197	235	2
		14.5	14.8	14.2	66.7
	興味を感じない	734	406	327	1
		24.6	30.4	19.8	33.3
	わからない	710	364	346	－
		23.8	27.3	21.0	－
	不明	96	47	49	－
		3.2	3.5	3.0	－

問1 性別 × 問6 新学部学科への進学希望

	上段:度数	問1 性別			
	下段:%	合計	男性	女性	不明
問6 新学部学科 への進学希 望	全体	2,988	1,335	1,650	3
		100.0	100.0	100.0	100.0
	心理福祉学部心理福祉学科 への進学を希望する	125	64	61	-
		4.2	4.8	3.7	-
	人文学部児童学科への進学 を希望する	144	45	99	-
		4.8	3.4	6.0	-
	進学を希望しない	2,628	1,185	1,440	3
		88.0	88.8	87.3	100.0
	不明	91	41	50	-
		3.0	3.1	3.0	-

問1 性別 × 問7 取得を希望する免許・資格（複数回答）

	上段:度数	問1 性別			
	下段:%	合計	男性	女性	不明
問7 取得を希望 する免許・ 資格（複数 回答）	全体	2,988	1,335	1,650	3
		100.0	100.0	100.0	100.0
	公認心理師	917	492	423	2
		30.7	36.9	25.6	66.7
	社会福祉士	870	475	395	-
		29.1	35.6	23.9	-
	精神保健福祉士	680	358	322	-
		22.8	26.8	19.5	-
	幼稚園教諭一種	978	254	723	1
		32.7	19.0	43.8	33.3
	小学校教諭一種	876	390	485	1
		29.3	29.2	29.4	33.3
	特別支援学校教諭一種（知的障害 者、肢体不自由者、病弱者）	257	99	158	-
		8.6	7.4	9.6	-
	保育士	1,005	259	745	1
		33.6	19.4	45.2	33.3
	司書教諭	311	139	171	1
		10.4	10.4	10.4	33.3
	司書	466	208	258	-
		15.6	15.6	15.6	-
	社会教育主事	272	180	92	-
		9.1	13.5	5.6	-
	不明	592	308	283	1
		19.8	23.1	17.2	33.3

（複数回答のため合計＝2,988、100%にならない）

<アンケート調査票>

聖学院大学における新学部学科開設に関する
アンケート調査票（無記名式）

聖学院大学では、2018年4月の開設を目標に、心理福祉学部心理福祉学科（仮称）及び人文学部児童学科（仮称）開設の準備を進めています。

このアンケート調査は、高校生の皆様の高校卒業後の進路に関する意向や興味・関心等についてお聞きし、新学部学科開設のための基礎資料とするものです。皆様のご協力をお願いいたします。

なお、この調査票は無記名方式です。また、アンケートの結果は統計資料としてのみ使い、個々の回答を外部に公表したり他の目的のために使用することはありません。

【新学部学科の概要】 ※新学部学科の概要については予定であり、変更される場合があります。

開設学部学科	心理福祉学部心理福祉学科（仮称）	人文学部児童学科（仮称）
入学定員	120 名（3 年次入学定員 20 名）	100 名
入学金	28 万円（1 年次のみ）	28 万円（1 年次のみ）
授業料等	112 万円（1 年次） 441 万円（4 年間合計）	112 万円（1 年次） 441 万円（4 年間計）
取得可能資格	公認心理師（学部段階）、社会福祉士（国家試験受験資格）、精神保健福祉士（国家試験受験資格） 司書、社会教育主事、など	幼稚園教諭一種、小学校教諭一種 特別支援学校教諭一種（知的障害者、肢体不自由者、病弱者）、保育士 司書、司書教諭、社会教育主事、など
開設時期	2018 年 4 月（予定）	
立地場所	埼玉県上尾市戸崎 1 - 1 JR 高崎線宮原駅からスクールバス約 5 分／徒歩 15 分 JR 埼京線（川越線）日進駅から徒歩約 15 分／西大宮駅からスクールバス約 10 分	
学部学科の理念 養成する人物像	心理福祉学部心理福祉学科（仮称）	人文学部児童学科（仮称）
	現代人の心の問題と現代社会の福祉的課題について専門的な知識を修め、共感性・実践力を高めて福祉社会の実現に寄与する人、心理学と福祉の専門職を養成します。	人格として児童を理解する力量と個々が必要とする支援に応ずる実践力を修得し、倫理観ある専門性を備えた幼稚園、小学校、特別支援学校教諭、保育士を養成します。

参考：近隣の大学の初年度入学金・授業料等の比較（2016年度の例による）

所在地	大学・学部・学科	入学金	授業料等	
			1年次	4年間合計
埼玉県	十文字女子学園大学 人間生活学部児童教育学科	10万円	125万円	485万円
埼玉県	文京学院大学 人間学部心理学科	28万円	116万円	463万円

(回答は質問の順に、該当する答えの番号を回答欄に直接記入してください。)

【回答欄】

問1 あなたの性別についておたずねします。次の中から1つだけ選んでください。

- 1 男性 2 女性

5

問2 あなたの進路についておたずねします。

あなたは高校卒業後どのような進路をお考えですか。次の中から1つだけ選んでください。

- 1 大学進学
2 短期大学進学
3 専門学校進学
4 就職
5 その他（具体的に）
- } 問3以降へお進みください。

これでアンケートは終了です。
ご協力ありがとうございました。

10

(裏面に続く)

【問3以降は、問2で「1」「2」「3」のいずれかを選択した方におたずねします。】

問3 あなたが進学したい分野はどれですか。次の中から第2希望まで選んでください。

- | | | |
|-----------------|------------------------|------------------------------|
| 1 文学関係（史学・哲学含む） | 10 農学関係 | 第1希望
<input type="text"/> |
| 2 教育学・保育学関係 | 11 工学関係 | |
| 3 社会学・社会福祉学関係 | 12 医学・歯学・薬学関係 | 第2希望
<input type="text"/> |
| 4 心理学関係 | 13 看護学関係 | |
| 5 外国語関係 | 14 医療技術学関係（理学療法・作業療法等） | |
| 6 法学・政治学関係 | 15 家政学・生活科学関係 | |
| 7 商学・経済学・経営学関係 | 16 体育学・スポーツ関係 | |
| 8 国際関係学関係 | 17 芸術学関係 | |
| 9 理学関係 | 18 その他（具体的に） | |

問4 あなたが進学先を決定する際に重視することはどれですか。次の中から3つまで選んでください。

- | | | |
|-----------------|--------------------|----------------------|
| 1 学部・学科の分野 | 10 補習授業・生活指導等の学生支援 | <input type="text"/> |
| 2 教育体制・教員組織 | 11 立地場所 | |
| 3 取得可能資格・免許 | 12 施設・設備等の教育研究環境 | <input type="text"/> |
| 4 就職指導・キャリア教育 | 13 世間での評判 | |
| 5 就職実績・大学院等進学実績 | 14 自分の性格・適性 | <input type="text"/> |
| 6 入試難易度・自分の学力 | 15 担任や進路指導教員の意見 | |
| 7 入試方法・入試科目 | 16 家族（親や兄弟）の意見 | <input type="text"/> |
| 8 開設形態（国公私立の別） | 17 現役大学生や卒業生等の意見 | |
| 9 学費等のコスト面 | 18 その他（具体的に） | |

次の質問からは、リーフレットもあわせてご覧になって回答してください。

問5 あなたは聖学院大学が開設を計画している新学部学科に興味を感じますか。学科ごとに次の答えの中から1つだけ選んでください。

- | | | | |
|------------|--------------|--|--------------------------------------|
| 1 大変興味を感じる | 4 あまり興味を感じない | 心理福祉学部
心理福祉学科
<input type="text"/> | 人文学部
児童学科
<input type="text"/> |
| 2 興味を感じる | 5 興味を感じない | | |
| 3 少し興味を感じる | 6 わからない | | |

問6 あなたは聖学院大学が開設を計画している新学部学科への進学を希望しますか。次の答えの中から1つだけ選んでください。

- | | |
|-------------------------|----------------------|
| 1 心理福祉学部心理福祉学科への進学を希望する | <input type="text"/> |
| 2 人文学部児童学科への進学を希望する | |
| 3 どちらにも進学を希望しない | |

問7 聖学院大学が開設を計画している新学部学科では、以下の免許・資格を取得可能にすることを検討しています。あなたはどの免許・資格の取得を希望しますか。次の中から3つまで選んでください。

- | | | |
|-------------------|--|----------------------|
| 1 公認心理師〈心理福祉学科〉 | 6 特別支援学校教諭一種〈知的障害者、
肢体不自由者、病弱者〉〈児童学科〉 | <input type="text"/> |
| 2 社会福祉士〈心理福祉学科〉 | 7 保育士〈児童学科〉 | |
| 3 精神保健福祉士〈心理福祉学科〉 | 8 司書教諭〈児童学科〉 | <input type="text"/> |
| 4 幼稚園教諭一種〈児童学科〉 | 9 司書〈両学科共通〉 | |
| 5 小学校教諭一種〈児童学科〉 | 10 社会教育主事〈両学科共通〉 | <input type="text"/> |

*** これでアンケートは終わりです。ご協力ありがとうございました。 ***

「ともに生きる」社会の
実現を目指して学ぶ

心理福祉学部 心理福祉学科 2018年4月開設予定

[設置構想中]

2018年人間福祉学部→心理福祉学部に変わります。

現在の人間福祉学部の「人間福祉学科」と「こども心理学科」を統合して心理福祉学部心理福祉学科をつくります。
子どもから高齢者まで、健康な人もそうでない人も、ともに生きる社会の実現を目指し、それに貢献できる人材を育てる学科です。
そのため心理と福祉の両サイドから学び、トータルに人と社会について考えられる力をつけていきます。



→「ひとに寄り添い
支えるひと」

福祉の知識をもった有資格の
心理専門職
心理学の知識をもった有資格の
ソーシャルワーカー



Love God and Serve His People

聖学院大学

面倒見のよい大学。入って伸びる大学。

■政治経済学部 政治経済学科
■人文学部 欧米文化学科／日本文化学科
■人間福祉学部 児童学科／こども心理学科／人間福祉学科
<http://www.seigakuin.jp>
tel.048-725-6191
〒362-8585 埼玉県上尾市戸崎1番1号（アドミッションセンター）



大宮から1駅

JR高崎線「宮原駅」またはJR埼京線「西大宮駅」からスクールバスがあります。「宮原駅」「日進駅」から徒歩約15分

心理福祉学科とは

多様化、複雑化する現代社会を生き抜いていくこと、また、周囲の人びと、特に困難を感じている人びとに寄り添い支えることに役立つのは、心理学の素養とそれに支えられた福祉の知識・実践です。

心理学を学ぶことは自分自身を見つめ、他者を理解するとともに、**コミュニケーション力**を身につけ、人を深く理解できるようになるということでもあり、その知識や技術は学校や病院、一般企業など、さまざまな場面でも応用されています。

また、心理学の学びとともに社会福祉学を学ぶことにより、現代社会の課題を的確に見出し、誰もがともに幸せに生きる社会の実現をめざすための知識と技術を身につけることができます。そして、その学びが、やさしい街づくりや温かい人間関係の形成、将来の社会における様々な場面での、みなさんの活躍につながっていきます。

お互いの違いを認めあい、尊重しあい、なおかつ主体的に生きていく中で、一人ひとりが真に豊かに暮らしていける「**共生社会**」の意義を理解し、その実現をめざす学び。あるいは、「人がともに生きていくためには」「人間とは何か、幸せな社会とは何か」という問いに常に立ち返り学習と研究、体験をするような学び。心理福祉学科はそのような学びを通して、人をサポートできる人、**人の役に立つ人**、心理と福祉の学びを社会のさまざまな場面で活かす人材を育成します。

【人と社会を理解する主なカリキュラム】

- 心理学概論 ●健康心理学 ●カウンセリング心理学
- スクールソーシャルワーク論
- 現代社会と福祉 ●相談援助の基盤と専門職
- 高齢者に対する支援と介護保険制度 ●精神保健福祉援助演習(基礎)
- ヘルス・プロモーション ●健康と社会 ●こども学 ●ボランティア実践論

心理福祉学科の特徴

個々の学生の希望と適性に合った
きめ細かな学習指導

丁寧な**実習指導**と**実践力**の育成

実践的な**国家試験対策**

こういう人に向いています

喜びや怒り、苦しみや悲しみなど、その時々で状況で変化する人の「**こころ**」に共感しながら、なぜそのような「**こころ**」が生じるのかに強い関心と興味を抱く人。

人と社会との関わりに関心があり、多くの人と関わるのが楽しいと感じ、今よりさらに良い人間関係を築いていこうとする人。

こういう人材を育てます

現代人の心理と現代社会の福祉的課題について専門的に学び、行き悩む人の「**良き隣人**」になれる人。

現代社会のさまざまな課題に立ち向かい、福祉社会の実現に寄与する人、福祉文化の担い手となる人。

心理学および福祉学の**専門知識**をもって総合的に支援する専門職。**福祉の知識**をもった**有資格の心理専門職**、**心理学の知識**をもった**有資格のソーシャルワーカー**。

●取得可能資格

社会福祉士(国家試験受験資格)
精神保健福祉士(国家試験受験資格)
公認心理士(学部段階)
認定心理士(日本心理学会が認定する資格)
社会福祉主事任用資格
社会教育主事任用資格
児童指導員任用資格
児童福祉司任用資格(一年以上の実務経験)
図書館司書資格

●将来活躍が期待できる分野

地方自治体(公務員)
病院(カウンセラー、医療ソーシャルワーカー事務)
学校(スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー)
福祉施設・福祉機関(相談員、支援員など)
一般企業・福祉関連企業(企画、人事、営業、事務など)
NPO・NGO
大学院進学

1.(書類等の題名)

- ① 5.主な学部等別の志願者・入学者動向(大学)【資料2】(49-50 ページ)

2.(出典)

日本私立学校振興・共済事業団 私学経営情報センター

3.(引用範囲)

『平成 27 年(2015)年度 私立大学・短期大学等入学志願動向』(22-23 ページ)

<http://www.shigaku.go.jp/files/shigandoukou271.pdf>

1.(書類等の題名)

3.地域別の動向(大学・学部別)

5.主な学部等別の志願者・入学者動向(大学)【資料3】(55-57 ページ)

2.(出典)

日本私立学校振興・共済事業団 私学経営情報センター

3.(引用範囲)

『平成 28 年(2016)年度 私立大学・短期大学等入学志願動向』(16,20-21 ページ)

<http://www.shigaku.go.jp/files/shigandoukou283.pdf>

平成28年12月22日

平成28年度学校基本調査（確定値）の公表について

文部科学省は、学校教育行政に必要な学校に関する基本的事項を明らかにすることを目的として、標記調査を昭和23年度より毎年実施しています。

今般、平成28年度の確定値をとりまとめたので、公表します。

1 調査内容

(1) 調査期日：平成28年5月1日現在

(2) 調査対象：幼稚園、幼保連携型認定こども園、小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校、大学、短期大学、高等専門学校、専修学校及び各種学校並びに市町村教育委員会

(3) 調査項目：学校数、在学者数、教員数、卒業者数、進学者数、就職者数等

※ 理由別長期欠席児童生徒数は、「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」に統合したため、特別支援学校を除き廃止

2 調査結果の主な概要（カッコ書きのカタカナは次ページ以降の図表とリンク。）

(1) **在学者数**（P.1の表1、P.2の表2及びP.3の図1を参照。）

①大学が287万4千人で、前年度より1万3千人増加（ア）。それ以外の学校では、一部の学校種を除き、少子化の影響により全体的に減少傾向。

②幼保連携型認定こども園は39万8千人で、前年度より11万6千人増加（イ）。

③本年度より創設された義務教育学校は22校で、1万3千人（ウ）。

(2) **高等学校卒業者（中等教育学校後期課程卒業者を含む）の進学率**

（P.4の表3及びP.5の図3を参照。）

—大学進学率が前年度より上昇—

①大学・短大進学率（現役）は54.8%（エ）（前年度より0.2ポイント上昇）で過去最高。

②大学（学部）進学率（現役）は49.3%（オ）（前年度より0.4ポイント上昇）で過去最高。

③専門学校進学率（現役）は16.3%（カ）（前年度より0.4ポイント低下）。また、過年度卒業者を含む進学率（就学率）についても前年度より上昇。

④大学・短大進学率（過年度卒含む）は56.8%（前年度より0.3ポイント上昇）で過去最高（平成22年度と同率）。

⑤大学（学部）進学率（過年度卒含む）は52.0%（前年度より0.5ポイント上昇）で過去最高。

⑥専門学校進学率（過年度卒含む）は22.3%（前年度より0.1ポイント低下）。

⑦高等教育機関進学率（過年度卒含む）は80.0%（前年度より0.2ポイント上昇）で過去最高（平成26年度と同率）。

(3) 卒業者に占める就職者の割合 (P.4 の表 3, P.7 の表 4 を参照。)

ー就職者の割合が前年度より上昇ー

- ①高校卒業者 17.8% (キ) (前年度より0.1ポイント上昇)
このうち、正規雇用 17.7% (ク) (前年度より0.1ポイント上昇)
- ②大学卒業者 (学部) 74.7% (ケ) (前年度より2.1ポイント上昇)
このうち、正規雇用 71.3% (コ) (前年度より2.4ポイント上昇)

(4) 一時的な職に就いた者、進学も就職もしていない者の占める割合

(P.4 の表 3 及び P.7 の表 4 を参照。)

- ①高校卒業者
一時的な職に就いた者の割合 0.8% (前年度より0.1ポイント低下)
進学も就職もしていない者の割合 4.3% (前年度より0.1ポイント低下)
- ②大学卒業者
一時的な職に就いた者の割合 1.8% (前年度より0.3ポイント低下)
進学も就職もしていない者の割合 8.7% (前年度より1.6ポイント低下)

(5) 女性教員の割合

- ①女性教員の割合 51.4% (前年度より0.8ポイント上昇) で過去最高。
- ②女性管理職の割合 25.8% (前年度より0.9ポイント上昇) で過去最高。

(6) 1年以上居所不明者数

1年以上居所不明者数は104人 (前年度より14人減少) で、5年連続減少傾向。

その他の主な結果は、別紙のとおり。

なお、詳細集計表は「政府統計の総合窓口 (e-Stat)」のホームページに掲載。

(<http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/NewList.do?tid=000001011528>)

<担当> 生涯学習政策局政策課調査統計企画室

室 長 高 橋 憲一郎 (内線3476)

分析調査官 林 潤一郎 (内線3238)

学校基本調査係長 桐 原 佳 代 (内線2264)

電話：03-5253-4111 (代表) 03-6734-2264 (直通)

表 3 2 状況別卒業生数（高等学校〔全日制課程・定時制課程〕）

区 分	卒業者数	A 大学等進学者		B 専修学校 (専門課程) 進 学 者	C 専修学校 (一般課程) 等入学者	D 公共職業能力 開発施設等 入学者	就職者 (左記A～Dを除く)		一時的な 仕事に就 いた者	左記以外 の 者	不詳・ 死亡の 者	(再掲)左記「A」,「B」,「C」,「D」 のうち就職している者		
		うち通信教 育部を除く	うち大学 (学部)				うち正規 の職員等 でない者					うち正規 の職員等 でない者		
平成 18 年度	1, 171, 501	578, 094	577, 511	489, 821	213, 096	77, 883	7, 878	208, 815	19, 231	66, 364	140	1, 624		
23	1, 061, 564	571, 797	571, 339	505, 702	172, 032	66, 328	6, 897	172, 323	14, 994	56, 824	369	1, 195		
24	1, 053, 180	563, 450	563, 027	501, 305	177, 207	63, 935	6, 788	175, 866	13, 883	51, 768	283	1, 007		
25	1, 088, 124	578, 554	578, 153	514, 905	185, 378	66, 000	6, 851	183, 619	13, 621	53, 812	289	984		
26	1, 047, 392	563, 268	562, 892	502, 279	178, 530	56, 638	6, 408	182, 706	11, 956	47, 661	225	878		
27	1, 064, 376	579, 938	579, 540	519, 132	177, 827	54, 990	6, 376	188, 905	1, 945	9, 615	46, 496	229	774	116
28	1, 059, 266	579, 738	579, 382	521, 320	173, 396	56, 458	6, 159	189, 130	1, 726	8, 397	45, 783	205	678	89

つづき

(単位:人)

区 分	大学等進学率 (%)			専修学校 (専門課程) 進学率 (%)	卒業生 に占める 就職者の 割合 (%)
	うち通信教 育部を除く	うち大学 (学部)			
平成 18 年度	49.3	49.3	41.8	18.2	18.0
23	53.9	53.8	47.6	16.2	16.3
24	53.5	53.5	47.6	16.8	16.8
25	53.2	53.1	47.3	17.0	17.0
26	53.8	53.7	48.0	17.0	17.5
27	54.5	54.4	48.8	16.7	17.8
28	54.7	54.7	49.2	16.4	17.9

- (注) 1 「大学等進学者」とは、大学の学部・通信教育部・別科、短期大学の本科・通信教育部・別科、高等学校・特別支援学校高等部の専攻科への進学者である。また、進学しかつ就職した者を含む。
- 2 「専修学校(一般課程)等入学者」とは、専修学校(一般課程)及び各種学校へ入学した者である。
- 3 「就職者」のうち、「うち正規の職員等でない者」とは、雇用の期間が1年以上の機関の定めがある者で、かつ1週間の所定労働時間が40～30時間の者をいう。
- 4 「卒業生に占める就職者の割合」とは、卒業者のうち「就職者(左記A～Dを除く)」及び「左記A, B, C, Dのうち就職している者(再掲)」の占める割合である。
- 5 「左記以外の者」とは、進学も就職もしていない者である(外国の大学等に入学した者、家事手伝いなど)。

(3)進路状況(表33, 図11)

ア. 大学等進学者

大学等進学者数は579,738人(男子277,815人, 女子301,923人)で, 前年度より200人減少している。
このうち大学・短期大学の通信教育部へ進学した者を除いた進学者数は579,382人(男子277,661人, 女子301,721人)で前年度より158人減少している。

- ①大学等進学率(全卒業生数のうち大学等進学者の占める比率)は54.7%(男子52.2%, 女子57.2%)で, 前年度より0.2ポイント上昇している。
- ②大学・短期大学の通信教育部へ進学した者を除いた大学等進学率は54.7%(男子52.2%, 女子57.2%)で, 前年度より0.3ポイント上昇している。
- ③大学(学部)進学率は49.2%で, 前年度より0.4ポイント上昇している。

イ. 専修学校(専門課程)進学者

専修学校(専門課程)進学者数は173,396人(男子67,248人, 女子106,148人)で, 前年度より4,431人減少している。

専修学校(専門課程)進学率(全卒業生数のうち専修学校(専門課程)進学者の占める比率)は16.4%(男子12.6%, 女子20.1%)で, 前年度より0.3ポイント低下している。

(4)就職状況(表33, 図11, 図12, 図13)

就職者総数(「大学等進学者」, 「専修学校(専門課程)進学者」, 「専修学校(一般課程)等入学者」, 「公共職業能力開発施設等入学者」のうち就職している者を加えた全就職者数。以下同じ。)は189,808人(男子115,200人, 女子74,608人)で, 前年度より129人増加している。

- ①卒業生に占める就職者の割合(全卒業生数のうち就職者総数の占める比率)は17.9%(男子21.7%, 女子14.1%)で, 前年度より0.1ポイント上昇している。
- ②就職者総数を産業別にみると, 「製造業」が72,865人(就職者総数の38.4%)で最も多く, 次いで

「卸売業、小売業」22,252人（同11.7％）,「建設業」15,902人（同8.4％）等である。

③就職者総数を職業別にみると,「生産工程従事者」が72,051人（就職者総数の38.0％）で最も多く,次いで「サービス職業従事者」31,353人（同16.5％）,「事務従事者」19,721人（同10.4％）,「販売従事者」18,311人（同9.6％）,等である。

④就職者総数のうち,県外（出身高等学校が所在する県以外の県）へ就職した者は35,502人で,就職者総数の18.7％を占めており,前年度より0.3ポイント上昇している。

表3-3 高等学校卒業者の都道府県別進学率及び卒業者に占める就職者の割合

区 分	大学等 進学率 (%)	大 学 (学 部) 進学率(%)	専修学校 (専門課程) 進学率(%)	卒業者に占める 就職者の割合 (%)	区 分	大学等 進学率 (%)	大 学 (学 部) 進学率(%)	専修学校 (専門課程) 進学率(%)	卒業者に占める 就職者の割合 (%)
北海道	43.3	37.7	22.4	23.8	京 都	66.5	60.7	13.7	8.5
青 森	43.7	37.0	15.3	33.0	大 阪	60.5	54.4	14.7	11.6
岩 手	44.2	37.5	19.0	28.9	兵 庫	60.6	55.5	13.9	14.2
宮 城	49.5	45.4	15.4	24.4	奈 良	58.9	52.8	14.1	12.0
秋 田	44.6	37.3	18.0	29.8	和歌山	49.5	43.3	18.2	21.7
山 形	44.9	37.9	18.7	29.8	鳥 取	43.5	34.5	18.9	24.8
福 島	45.7	39.4	18.5	29.1	島 根	47.1	39.2	21.1	22.7
茨 城	50.6	47.1	18.1	21.5	岡 山	50.5	44.6	16.9	23.3
栃 木	52.1	47.4	17.3	22.8	広 島	59.9	55.5	13.0	15.4
群 馬	52.6	47.2	17.4	19.7	山 口	42.7	36.6	17.0	30.8
埼 玉	56.9	52.1	17.1	14.6	徳 島	51.7	46.5	17.4	23.3
千 葉	56.1	51.9	17.8	13.8	香 川	50.6	44.1	16.6	19.0
東 京	66.5	63.9	12.3	6.8	愛 媛	52.2	45.2	19.5	22.7
神奈川	61.5	57.1	16.0	8.5	高 知	47.4	38.6	17.9	17.3
新 潟	46.7	41.4	25.7	19.7	福 岡	54.4	47.2	14.7	18.1
富 山	52.0	43.8	16.5	22.8	佐 賀	43.0	37.0	16.8	32.0
石 川	54.7	46.7	13.8	22.1	長 崎	44.6	38.2	16.2	30.5
福 井	56.1	47.2	14.4	22.9	熊 本	46.2	40.4	18.6	25.8
山 梨	56.4	50.5	18.2	17.1	大 分	46.4	36.1	20.5	26.8
長 野	48.9	40.0	21.4	18.4	宮 崎	45.2	37.2	17.2	29.1
岐 阜	55.1	47.3	13.3	24.2	鹿 児 島	42.7	30.6	19.6	26.9
静 岡	53.1	48.4	16.8	22.2	沖 縄	39.2	34.9	26.7	16.6
愛 知	58.7	53.7	12.9	19.2	全国	54.7	49.2	16.4	17.9
三 重	50.5	44.5	14.9	26.6	男	52.2	51.1	12.6	21.7
滋 賀	55.0	48.7	16.7	18.0	女	57.2	47.3	20.1	14.1

(注) 大学進学率とは, 大学・短期大学の通信教育部への進学者を含む。

276 都道府県別大学・短期 大学等への進学者数

区 分	計			大 学 (学 部)			短 期 大 学 (本 科)			大学・短期大学の 通 信 教 育 部			大学・短期大学 (別科)			高等学校 (専攻科)			特別支援学校高等部 (専 攻 科)			区 分
	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	
平成27年3月	579,938	278,850	301,088	519,132	272,585	246,547	55,620	5,253	50,367	398	168	230	139	63	76	4,565	768	3,797	84	13	71	平成27年3月
平成28年3月	579,738	277,815	301,923	521,320	271,877	249,443	53,273	4,951	48,322	356	154	202	122	50	72	4,600	766	3,834	67	17	50	平成28年3月
国 立	1,879	901	978	1,858	901	957	21	—	21	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	国 立
公 立	362,371	170,530	191,841	323,045	166,697	156,348	37,475	3,229	34,246	270	112	158	82	26	56	1,480	451	1,029	19	15	4	公 立
私 立	215,488	106,384	109,104	196,417	104,279	92,138	15,777	1,722	14,055	86	42	44	40	24	16	3,120	315	2,805	48	2	46	私 立
計 の 内 訳																						計 の 内 訳
北 海 道	18,567	9,374	9,193	16,156	9,076	7,080	2,254	263	1,991	6	3	3	10	8	2	141	24	117	—	—	—	北 海 道
青 森 県	5,344	2,480	2,864	4,525	2,356	2,169	678	69	609	2	1	1	—	—	—	139	54	85	—	—	—	青 森 県
岩 手 県	5,033	2,396	2,637	4,266	2,229	2,037	658	131	527	1	—	1	1	—	—	106	34	72	1	1	—	岩 手 県
宮 城 県	9,693	4,748	4,945	8,884	4,654	4,230	753	78	675	6	1	5	—	—	—	50	15	35	—	—	—	宮 城 県
秋 田 県	3,879	1,788	2,091	3,245	1,718	1,527	620	67	553	3	—	3	3	1	2	8	2	6	—	—	—	秋 田 県
山 形 県	4,577	2,141	2,436	3,864	2,040	1,824	639	66	573	1	—	1	—	—	—	73	35	38	—	—	—	山 形 県
福 島 県	7,950	3,808	4,142	6,848	3,703	3,145	1,008	80	928	2	1	1	—	—	—	92	24	68	—	—	—	福 島 県
茨 城 県	12,888	6,284	6,604	12,000	6,226	5,774	785	43	742	21	12	9	—	—	—	82	3	79	—	—	—	茨 城 県
栃 木 県	9,137	4,427	4,710	8,319	4,369	3,950	810	56	754	4	1	3	3	1	2	1	—	1	—	—	—	栃 木 県
群 馬 県	8,980	4,230	4,750	8,050	4,166	3,884	926	62	864	2	—	2	2	2	—	—	—	—	—	—	—	群 馬 県
埼 玉 県	32,513	16,351	16,162	29,801	16,197	13,604	2,599	136	2,463	20	10	10	—	—	—	93	8	85	—	—	—	埼 玉 県
千 葉 県	27,451	13,792	13,659	25,390	13,624	11,766	1,982	145	1,837	18	7	11	19	13	6	42	3	39	—	—	—	千 葉 県
東 京 都	66,778	30,786	35,992	64,161	30,535	33,626	2,532	225	2,307	37	16	21	13	7	6	35	3	32	—	—	—	東 京 都
神 奈 川 県	40,157	19,836	20,321	37,324	19,663	17,661	2,781	137	2,644	18	7	11	3	—	3	30	28	2	1	1	—	神 奈 川 県
新 潟 県	9,091	4,497	4,594	8,071	4,324	3,747	899	138	761	86	32	54	1	1	—	34	2	32	—	—	—	新 潟 県
富 山 県	4,762	2,267	2,495	4,017	2,147	1,870	655	90	565	1	—	1	—	—	—	89	30	59	—	—	—	富 山 県
石 川 県	5,578	2,606	2,972	4,765	2,517	2,248	773	85	688	1	1	—	—	—	—	39	3	36	—	—	—	石 川 県
福 井 県	4,119	1,939	2,180	3,469	1,854	1,615	609	83	526	1	1	—	—	—	—	40	1	39	—	—	—	福 井 県
山 梨 県	4,844	2,554	2,290	4,337	2,495	1,842	502	56	446	1	—	1	1	—	1	1	1	—	2	2	—	山 梨 県
山 梨 県	9,245	4,314	4,931	7,565	4,113	3,452	1,673	199	1,474	3	—	3	4	2	2	—	—	—	—	—	—	山 梨 県
岐 阜 県	9,941	4,753	5,188	8,534	4,560	3,974	1,405	192	1,213	2	1	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	岐 阜 県
静 岡 県	17,007	8,473	8,534	15,521	8,352	7,169	1,462	103	1,359	9	4	5	1	—	1	14	14	—	—	—	—	静 岡 県
愛 知 県	37,350	17,982	19,368	34,127	17,671	16,456	3,064	247	2,817	10	7	3	1	1	—	148	56	92	—	—	—	愛 知 県
三 重 県	8,057	3,849	4,208	7,095	3,753	3,342	898	79	819	5	1	4	5	1	4	54	15	39	—	—	—	三 重 県
滋 賀 県	6,958	3,456	3,502	6,168	3,374	2,794	787	81	706	3	1	2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	滋 賀 県
京 都 府	15,161	7,333	7,828	13,846	7,171	6,675	1,231	154	1,077	10	4	6	—	—	—	74	4	70	—	—	—	京 都 府
大 阪 府	45,013	21,708	23,305	40,461	21,322	19,139	4,382	358	4,024	21	11	10	2	1	1	98	15	83	49	1	48	大 阪 府
兵 庫 県	28,026	13,200	14,826	25,641	12,952	12,689	2,290	234	2,056	11	7	4	—	—	—	79	3	76	5	4	1	兵 庫 県
奈 良 県	7,046	3,353	3,693	6,311	3,300	3,011	658	52	606	2	1	1	—	—	—	75	—	75	—	—	—	奈 良 県
和 歌 山 県	4,410	2,034	2,376	3,853	2,005	1,848	518	20	498	2	—	2	1	1	—	36	8	28	—	—	—	和 歌 山 県
鳥 取 県	2,130	925	1,205	1,692	848	844	387	73	314	—	—	—	5	1	4	44	1	43	2	2	—	鳥 取 県
島 根 県	2,780	1,253	1,527	2,315	1,205	1,110	457	42	415	2	1	1	—	—	—	6	5	1	—	—	—	島 根 県
岡 山 県	8,863	4,088	4,775	7,819	3,993	3,826	844	87	757	2	—	2	—	—	—	198	8	190	—	—	—	岡 山 県
広 島 県	14,069	6,722	7,347	13,031	6,642	6,389	985	78	907	4	1	3	9	—	9	40	1	39	—	—	—	広 島 県
山 口 県	4,821	2,133	2,688	4,130	2,083	2,047	574	39	535	2	2	—	2	—	2	113	9	104	—	—	—	山 口 県
徳 島 県	3,272	1,436	1,836	2,946	1,381	1,565	287	55	232	1	—	1	—	—	—	38	—	38	—	—	—	徳 島 県
香 川 県	4,317	1,980	2,337	3,763	1,927	1,836	445	35	410	—	—	—	—	—	—	109	18	91	—	—	—	香 川 県
愛 媛 県	6,049	2,933	3,116	5,240	2,808	2,432	684	100	584	3	1	2	6	2	4	115	22	93	1	—	1	愛 媛 県
高 知 県	2,929	1,246	1,683	2,383	1,184	1,199	363	34	329	2	1	1	2	—	2	179	27	152	—	—	—	高 知 県
福 岡 県	22,836	10,783	12,053	19,827	10,449	9,378	2,490	260	2,230	9	5	4	3	—	3	507	69	438	—	—	—	福 岡 県
佐 賀 県	3,552	1,680	1,872	3,051	1,644	1,407	431	36	395	—	—	—	—	—	—	70	—	70	—	—	—	佐 賀 県
長 崎 県	5,757	2,671	3,086	4,938	2,602	2,336	666	42	624	1	1	—	4	4	—	147	21	126	1	1	—	長 崎 県
熊 本 県	7,256	3,441	3,815	6,355	3,332	3,023	593	82	511	3	1	2	21	3	18	284	23	261	—	—	—	熊 本 県
大 分 県	4,798	2,196	2,602	3,730	2,063	1,667	859	105	754	1	1	—	—	—	—	203	22	181	5	5	—	大 分 県
宮 崎 県	4,804	2,203	2,601	3,955	2,134	1,821	567	37	530	12	8	4	—	—	—	270	24	246	—	—	—	宮 崎 県
鹿 児 島 県	6,370	2,682	3,688	4,562	2,516	2,046	1,229	62	1,167	3	1	2	—	—	—	576	103	473	—	—	—	鹿 児 島 県
沖 縄 県	5,580	2,684	2,896	4,969	2,600	2,369	581	55	526	2	1	1	—	—	—	28	28	—	—	—	—	沖 縄 県

保育士確保プラン

平成29年度末までに国全体として新たに確保が必要となる保育士数 **6.9万人**

子ども・子育て支援新制度における市町村計画のサービス量の見込みを踏まえ、地域の実情や子ども・子育て支援新制度施行後における更なる保育の質の拡充のための取組等を基に、国全体で新たに確保が必要となる保育士の数を推計。

- ▶ 「待機児童解消加速化プラン」の確実な実施に向け、国において保育士確保のための様々な方策を図るとともに、地方自治体に対し、できる限りの支援策を講じる。
- ▶ 平成29年度末までに必要となる保育士の確保を目指す。
- ▶ 平成30年度以降も保育士が充足されるよう、継続的に保育士確保に取り組む。

- ☆保育士試験の年2回実施の推進【人材育成】
- ☆保育士に対する処遇改善の実施【就業継続支援、働く職場の環境改善】
- ☆保育士養成施設で実施する学生に対する保育所への就職促進を支援【人材育成】
- ☆保育士試験を受験する者に対する受験のための学習費用を支援【人材育成】
- ☆保育士・保育所支援センターにおける離職保育士に対する再就職支援の強化【再就職支援】
- ☆福祉系国家資格を有する者に対する保育士試験科目等の一部免除の検討【人材育成】
- ☆保育士確保施策の基本となる「4本の柱」の確実な実施

4本の柱

I 人材育成

- ・保育士資格を取得しやすくなるための取組の実施
- ・保育士の魅力を伝え、保育士を目指す機運を醸成
- ・国家資格としての保育士の専門性の向上

II 就業継続支援

- ・離職防止のための研修支援
- ・就業継続を図るための各種助成金の活用促進

III 再就職支援

- ・保育士・保育所支援センターの積極的な活用
- ・保育士マッチング強化プロジェクト

IV 働く職場の環境改善

- ・処遇改善
- ・雇用管理改善を図るための取組の実施
- ・保育所等と保育士・保育所支援センターとの連携強化

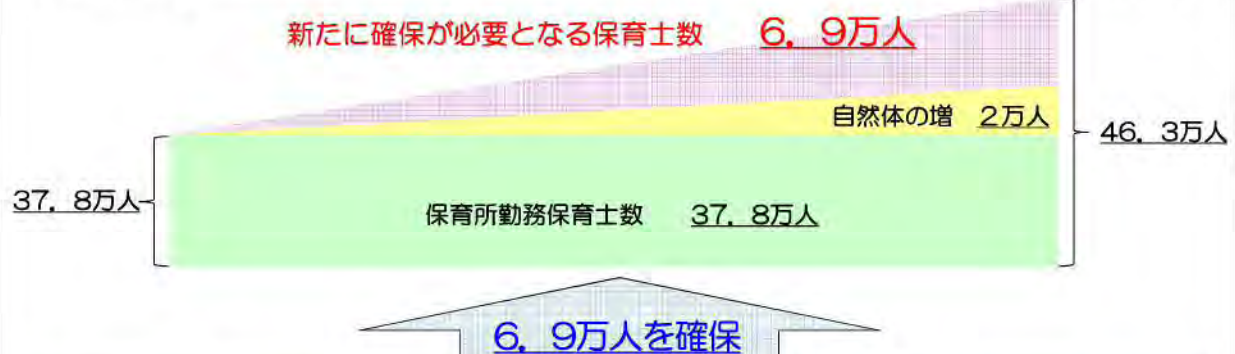
新たに「保育士確保対策検討会」を設置し、継続的な保育士確保施策の検討等を行うとともに、一部の自治体等において効果の検証を実施

1

保育士確保プランによる保育士確保のための取組

【平成25年度】

【平成29年度】



加速化プランに基づく保育士確保施策(H25～)

4.9万人

幼稚園教諭の特例制度の活用や保育士資格取得支援、修学資金貸付等により、新たな保育人材を輩出 **2.5万人**

処遇改善をはじめ、保育事業者への研修、保育所の雇用管理改善など、離職防止施策を推進 **1.5万人**

保育士・保育所支援センターによる就職支援や、ハローワークにおけるマッチング強化プロジェクトの実施など、潜在保育士の掘り起こしを強化 **0.9万人**

保育士確保プランの新たな取組

2.0万人

○保育士試験の年2回実施の推進 **0.8万人**

○保育士に対する処遇改善の実施
○保育士養成施設で実施する学生に対する保育所への就職促進の支援
○保育士試験を受験する者に対する受験のための学習費用を支援 **1.2万人**

○保育士・保育所支援センターにおける離職保育士に対する再就職支援の強化

2